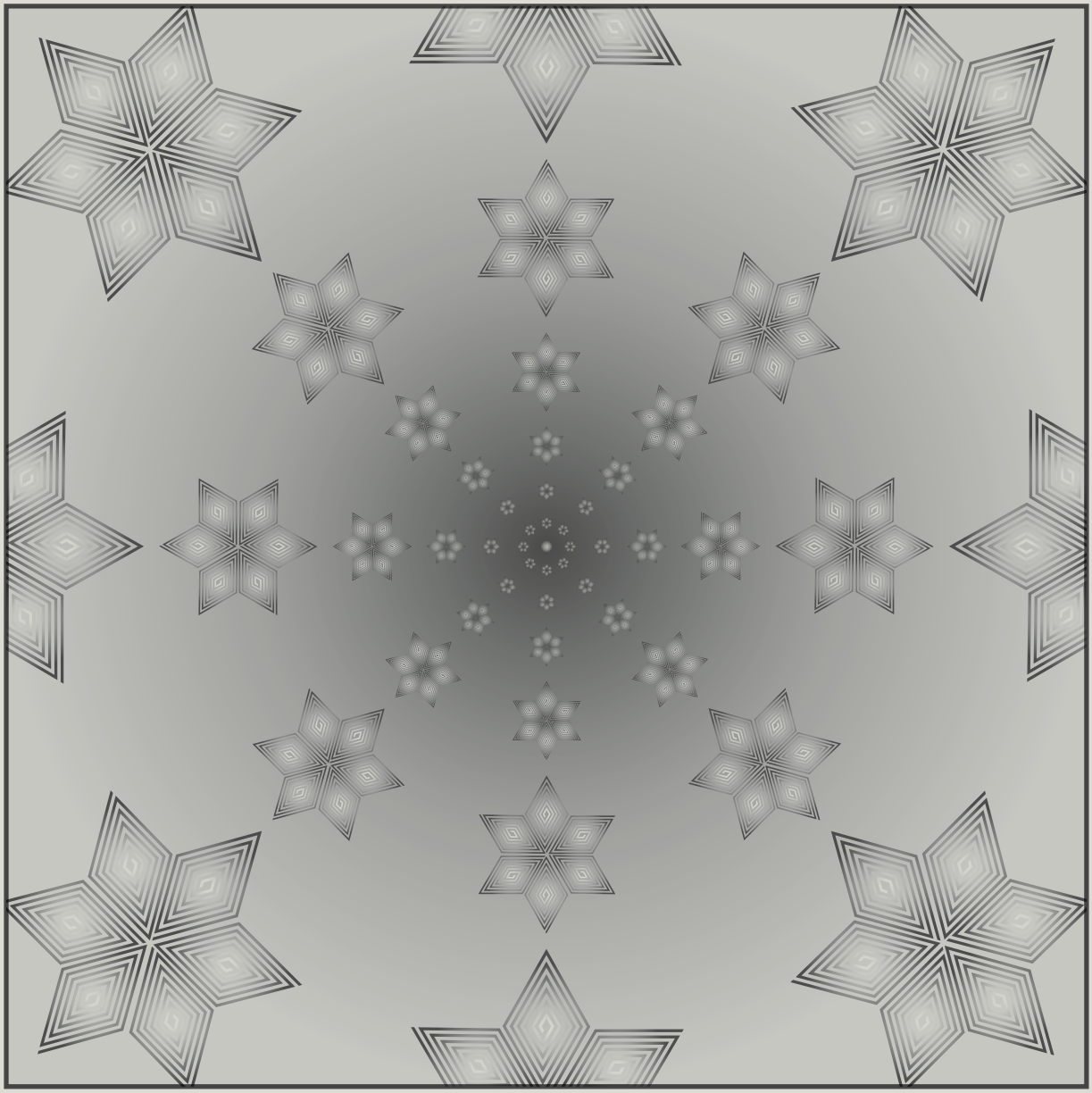
2013年度

シラバス

全学共通授業科目



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

【シラバスの見方】

1．目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。
目次の科目は、授業科目表（学則別表）と同じ順序で掲載しています。
※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外： 外国語学部
独： ドイツ語学科
英： 英語学科
仏： フランス語学科
交： 交流文化学科
言： 言語文化学科
言（＊1）： 言語文化学科、スペイン語履修者
言（＊2）： 言語文化学科、中国語履修者

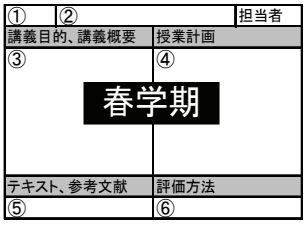
養： 国際教養学部
養（＊1）： 国際教養学部、スペイン語履修者
養（＊2）： 国際教養学部、中国語履修者
養（＊3）： 国際教養学部、韓国語履修者

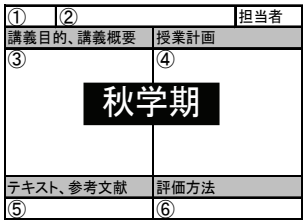
経： 経済学部
済： 経済学科
営： 経営学科
環： 国際環境経済学科
法： 法学部
律： 法律学科
国： 国際関係法学科
総： 総合政策学科

13以降入学： 2013年度以降入学者（全学部）
13以降入学養： 2013年度以降入学者（国際教養学部）
13以降入学経： 2013年度以降入学者（経済学部）

12以前入学： 2012年度以前入学者（全学部）
12以前入学養： 2012年度以前入学者（国際教養学部）
12以前入学経： 2012年度以前入学者（経済学部）

2．シラバスページの見方（右図参照）





①入学年度

08～13年度……2008～2013年度入学者
03～07年度……2003～2007年度入学者
07年度以前……2007年度以前入学者
08年度以降……2008年度以降入学者

②入学年度に対応した科目名
③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望
④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。
授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤授業で使用するテキスト、参考文献
⑥評価方法

※「全学総合講座」および一部の科目は、記載方法が異なる場合があります。

3．注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

「全学共通授業科目」は定員を設けています。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

③集中講義

集中講義を伴うスポーツ・レクリエーション科目は上・下両段に記載してあります。
開講学期に注意してください。

全学共通授業科目　目次（2008年度～2013年度入学者用）

全学総合講座

春　科目名	春　副題	秋　科目名	秋　副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
全学総合講座	（芸術と社会－芸術が社会の中で果たす役割りについて）			阿部　明日香	木4	1	－	14
全学総合講座	（社会を生き抜くセルフブランディングⅠ）			**有吉　秀樹**	木2	1	－	15
		全学総合講座	（社会を生き抜くセルフブランディングⅡ）	**有吉　秀樹**	木2	1	－	16
		全学総合講座	（ジェンダーで眺めてみれば）	上野　直子	水3	1	－	17
		全学総合講座	（メディア社会とロック）	岡村　圭子	火3	1	－	18
全学総合講座	（経営者が語る現代企業論1）			上坂　卓郎	火2	1	－	19
		全学総合講座	（経営者が語る現代企業論2）	上坂　卓郎	火2	1	－	20
全学総合講座	（獨協学）			川村　肇	木3	1	－	21
全学総合講座	（教えるという仕事）			川村　肇	木5	1	－	22
全学総合講座	（NPO論 人を変える・地域を変える・世界を変える）			高松　和幸	金4	1	－	23
		全学総合講座	（地域活性化システム論―これからの「まちづくり」のヒントを探る）	高松　和幸	金4	1	－	24
		全学総合講座	（情報社会とルール）	夛賀谷　一照	水3	1	－	25
全学総合講座	（Art（技術／芸術）の舞台裏）			谷口　亜沙子	水3	1	－	26
全学総合講座	（環境学1)(環境基礎学−自然を見つめる）			中村　健治	火4	1	－	27
		全学総合講座	（環境学2)(環境応用学－環境と社会）	中村　健治	火4	1	－	28
全学総合講座	（働くための基礎知識－知って得する労働問題）			野村　容康	水2	1	－	29
全学総合講座	（ポピュラー文化と社会）			平田　由紀江	水2	1	－	30
全学総合講座	（現代日本論）			本田　浩邦	月3	1	－	31
		全学総合講座	（現代社会論）	本田　浩邦	月3	1	－	32
全学総合講座	（健康をスポーツを世界を考える）	全学総合講座	（健康をスポーツを世界を考える）	松原　裕	火4	1	－	33
		全学総合講座	（童話（メルヒェン）の可能性をめぐって）	矢羽々　崇	金3	1	－	34
全学総合講座	（キャンパスライフと仕事）	全学総合講座	（キャンパスライフと仕事）	山越　徳	木2	1	－	35
		全学総合講座	（食文化と人間生活「気候と風土と食文化」）	和田　智	火4	1	－	36
		全学総合講座	（自由時間の達人）	和田　智	金4	1	－	37

全学共通講義科目部門

春　科目名	春　副題	秋　科目名	秋　副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想1	（英語学a）	ことばと思想1	（英語学b）	安間　一雄	金2	1	養・13以降入学	38
ことばと思想1	（言語学概論）			安間　一雄	火3	1	養・12以前入学	39
ことばと思想1	（日本語教育概説）			石塚　京子	月2	1	養	40
ことばと思想1	（倫理の基本について考える）	ことばと思想1	（環境と生命の倫理）	市川　達人	火3	1	養	41
ことばと思想1	（社会思想史1)(市民的社会像の黎明期）	ことばと思想1	（社会思想史2)(市民的社会像の確立期）	市川　達人	火4	1	－	42
ことばと思想1	（応用言語学）	ことばと思想1	（第二言語習得）	臼井　芳子	水1	2	養	43
		ことばと思想1	（多言語環境と英語）	臼井　芳子	火4	2	養	44
ことばと思想1	（倫理学a）	ことばと思想1	（倫理学b）	川口　茂雄	月3/月4	1	養	45
ことばと思想1	（フランス・ドイツ哲学入門1）	ことばと思想1	（フランス・ドイツ哲学入門2）	川口　茂雄	月5/金4	1	－	46
ことばと思想1	（心理学)(人間の行動・認知・動機の一般法則）	ことばと思想1	（心理学)(人間の個性・多様性理解）	杉山　憲司	木1	1	－	47
ことばと思想1	（心理学)(人間の行動・認知・動機の一般法則）	ことばと思想1	（心理学)(人間の個性・多様性理解）	杉山　憲司	木2	1	－	47
ことばと思想1	（こころの世界）			田口　雅徳	木2	1	養	48
ことばと思想1	（日本語文法形態論）	ことばと思想1	（日本語文法統語論）	武田　明子	火3	1	養	49
ことばと思想1	（通訳・翻訳論）			永田　小絵	木5	2	－	50
ことばと思想1	（英語圏の社会と思想a）	ことばと思想1	（英語圏の社会と思想b）	福井　嘉彦	火2	2	英	51
歴史と文化1	（ドイツ語圏のメディア文化a）	歴史と文化1	（ドイツ語圏のメディア文化b）	秋野　有紀	木3	2	独	52
		歴史と文化1	（日本研究概論Ⅱ）	浅山　佳郎	金1	1	13以降入学養	53
歴史と文化1	（歴史学1)(中世の仏教と社会）	歴史と文化1	（歴史学2)(中世の「悪党」と民衆）	新井　孝重	木4	1	13以降入学経	54
		歴史と文化1	（日本文学論・中世Ⅱ）	飯島　一彦	木3	1	13以降入学養	55
歴史と文化1	（文化人類学a）	歴史と文化1	（文化人類学b）	井上　兼行	月3	1	養	56
		歴史と文化1	（異文化社会の認識と世界観b）	井上　兼行	火3	2	養	57
歴史と文化1	（英語圏の小説a）	歴史と文化1	（英語圏の小説b）	上野　直子/島田　啓一	水2/木2	2	英・養	58
		歴史と文化1	（日本事情とコミュニケーション教育）	宇津木　言行	火4	1	養	59
歴史と文化1	（日本文化論）			宇津木　言行	火3	1	養・法	60

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
歴史と文化1	(日本文学論・中世Ⅰ)			宇津木 言行	火4	1	13以降入学養	55
歴史と文化1	(日本思想史1)	歴史と文化1	(日本思想史2)	川村 肇	水3	2	養	61
		歴史と文化1	(日韓交流史)	金 熙淑	月3	2	養	62
歴史と文化1	(大衆文化論)			木本 玲一	月5	2	養	63
歴史と文化1	(歴史学1)(イスラーム世界の成立と拡大)	歴史と文化1	(歴史学2)(イスラーム世界の近代化とその後)	熊谷 哲也	木3	1	−	64
歴史と文化1	(東西の文化を結ぶもの)	歴史と文化1	(東西文化と近代化)	熊谷 哲也	木4	2	−	65
		歴史と文化1	(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	兒島 峰	火5	2	養	66
歴史と文化1	(歴史学1)(文明史研究a)	歴史と文化1	(歴史学2)(文明史研究b)	櫻井 悠美	月2	1	養	67
歴史と文化1	(韓国文化各論c)			佐藤 厚	火2	2	養	68
		歴史と文化1	(ラテンアメリカ研究入門)	佐藤 勘治	月5	1	養	69
歴史と文化1	(恐怖の日本文学)			佐藤 毅	木1	1	13以降入学養	70
		歴史と文化1	(日本文学現代)	佐藤 毅	木1	1	養	70
歴史と文化1	(歴史学2)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	歴史と文化1	(歴史学1)(アメリカのエスニック・ヒストリー)	佐藤 唯行	金3	1	−	71
歴史と文化1	(韓国文学史)			沈 元燮	火3	2	13以降入学養	72
歴史と文化1	(都市と建築1)	歴史と文化1	(都市と建築2)	鈴木 隆	火2	1	−	73
歴史と文化1	(中国史a)	歴史と文化1	(中国史b)	張 士陽	木4	2	養	74
歴史と文化1	(スペイン研究入門)			二宮 哲	月5	1	養	69
歴史と文化1	(民俗学)			林 英一	木1	1	養	75
		歴史と文化1	(地域文化)	林 英一	木1	2	養・法	75
歴史と文化1	(日本文学古典)			福沢 健	月2	1	養	76
		歴史と文化1	(平安時代の文学を読む)	福沢 健	月2	1	13以降入学養	76
歴史と文化1	(文化史入門)			古川 堅治	水2	1	養	77
歴史と文化1	(歴史学1)(ヨーロッパ史1)	歴史と文化1	(歴史学2)(ヨーロッパ史2)	増谷 英樹	水3	1	−	78
歴史と文化1	(英語圏の文学)	歴史と文化1	(英語圏の文学Ⅱ)	未定	未定	1	養	79
歴史と文化1	(歴史学1)(「15年戦争」をどうとらえるか)	歴史と文化1	(歴史学2)(戦後史の中の「15年戦争」)	丸浜 昭	水2	2	養	80
歴史と文化1	(移民・交易に見る文化変容)	歴史と文化1	(グローバル化と情報・通信の文化史)	水口 章	月4	1	−	81
歴史と文化1	(アラブ文化・芸術a)	歴史と文化1	(アラブ文化・芸術b)	師岡カリーマ・エルサムニー	月2	2	養	82
		歴史と文化1	(異文化間コミュニケーションb)	山本 英政	月2	1	英・養	83
歴史と文化1	(英語圏の文化)	歴史と文化1	(英語圏事情)	山本 英政	月2/水2	2	英・養	84
現代社会1	(ブラジル研究)			E. ウラノ	火2	2	養	85
現代社会1	(地理学1)(自然環境と文化)	現代社会1	(地理学2)(自然環境と文化)	秋本 弘章	水2	1	−	86
現代社会1	(地誌学1)(ヨーロッパ地域論)	現代社会1	(地誌学2)(ドイツ地域論)	飯嶋 曜子	木3	1	独 13以降入学経	87
現代社会1	(教育法1)	現代社会1	(教育法2)	市川 須美子	木2	2	法	88
現代社会1	(国際法1)(国際社会と私たち)	現代社会1	(国際法2)(国際紛争を考える)	一之瀬 高博	月1	1	−	89
現代社会1	(会社と社員の関係)	現代社会1	(非正規雇用を考える)	市原 博	木4	1	−	90
現代社会1	(国際関係の構造と展開)	現代社会1	(近現代の国際関係史)	伊藤 兵馬	木5	1	−	91
		現代社会1	(地域メディア論)	岡村 圭子	水2	2	養	92
現代社会1	(民法1)	現代社会1	(民法2)	小川 佳子	月2	1	法	93
現代社会1	(社会科学概論1)	現代社会1	(社会科学概論2)	堅田 剛	火2	1	法	94
現代社会1	(ジェンダーと生活世界)			片山 亜紀	木4	1	−	95
現代社会1	(日本国憲法)	現代社会1	(日本国憲法)	加藤 一彦	火2	1	法	96
現代社会1	(現代の企業経営)	現代社会1	(基礎から学ぶマネジメント)	上坂 卓郎/高松 和幸	水1	1	経	97
現代社会1	(地理学1)(世界の自然環境と文化)	現代社会1	(地理学2)(世界の自然環境と文化)	北﨑 幸之助	金4	1	養	98
現代社会1	(社会学a)	現代社会1	(社会学b)	木本 玲一/岡村 圭子	月4/土1	1	養	99
現代社会1	(経済学1)(はじめての経済学)	現代社会1	(経済学2)(はじめての経済学)	黒木 亮	月1	1	経	100
現代社会1	(日本国憲法)			古関 彰一	火1	1	法	101
現代社会1	(グローバリゼーションを巡って)	現代社会1	(日本の表象と世界)	柴崎 信三	木2	1	12以前入学経	102
現代社会1	(歴史の中のメディア)	現代社会1	(メディアと現代社会)	柴崎 信三	水2	1	−	103
		現代社会1	(NGO論)	清水 俊弘	水4	1	養	104
現代社会1	(コトバと社会)	現代社会1	(コトバと社会)	下川 浩	火5	1	−	105
現代社会1	(政治システムの構成要素)	現代社会1	(現代の民主主義)	鈴木 宏尚	火4	1	−	106
現代社会1	(韓国社会各論b)			全 載旭	木2	2	養	107
		現代社会1	(ジェンダーとメディア表象)	西山 千恵子	月4	1	ー	108
現代社会1	(経済学1)(ミクロの視点で考える)	現代社会1	(経済学2)(マクロの視点で考える)	浜本 光紹	水2	1	経	109

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
現代社会1	(中東の社会空間)	現代社会1	(中東政治と市民社会)	水口 章	月5	1	−	110
自然・環境・人間1	(数学a)	自然・環境・人間1	(数学b)	東 孝博	月2	1	養	111
自然・環境・人間1	(物理学Ⅰ)	自然・環境・人間1	(物理学Ⅱ)	東 孝博	月4	1	13以降入学養	112
自然・環境・人間1	(宇宙論a)	自然・環境・人間1	(宇宙論b)	東 孝博	火1	1	養	113
自然・環境・人間1	(歴史における科学技術1：西洋近代科学技術の起源)	自然・環境・人間1	(歴史における科学技術2：日本の近代化と科学技術)	内田 正夫	木3	1	−	114
自然・環境・人間1	(自然観察a)	自然・環境・人間1	(自然観察b)	加藤 僖重	火2	2	養	115
自然・環境・人間1	(地球環境の変化とその要因)	自然・環境・人間1	(地球環境問題と環境保全)	鈴木 滋	火2	1	−	116
自然・環境・人間1	(科学史a)	自然・環境・人間1	(科学史b)	野澤 聡	金4	1	養	117
		自然・環境・人間1	(スポーツ科学概論)	依田 珠江	木4	1	13以降入学養	118
自然・環境・人間1	(私の自由時間設計)			和田 智	金4	1	13以降入学養	119

全学共通実践科目部門

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想2	(碑文を読む)			飯島 一彦	木3	2	養	120
ことばと思想2	(写本を読む)			宇津木 言行	木4	2	養	121
		ことばと思想2	(日本文学作品研究e)	宇津木 言行	木3	2	13以降入学養	122
ことばと思想2	(日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	ことばと思想2	(日本語音声表現のトレーニング表現篇)	梅津 正樹	土2	1	−	123
ことばと思想2	(ラテン語Ⅰa)	ことばと思想2	(ラテン語Ⅰb)	小倉 博行	金3	1	−	124
ことばと思想2	(ラテン語Ⅱa)	ことばと思想2	(ラテン語Ⅱb)	小倉 博行	金2	2	−	125
ことばと思想2	(古典ギリシア語Ⅰa)	ことばと思想2	(古典ギリシア語Ⅰb)	櫻井 悠美	月3	1	−	126
ことばと思想2	(書き言葉の問題)	ことばと思想2	(話し言葉の問題)	佐藤 毅	木2	1	−	127
ことばと思想2	(ロマンス語研究入門1)	ことばと思想2	(ロマンス語研究入門2)	島津 寛	木1	2	−	128
ことばと思想2	(プレゼンテーション実習)	ことばと思想2	(プレゼンテーション実習)	清水 絹代	月3	1	−	129
ことばと思想2	(プレゼンテーション実習)	ことばと思想2	(プレゼンテーション実習)	清水 絹代	月2	1	−	129
ことばと思想2	(生きたコトバづかい・文章編)	ことばと思想2	(生きたコトバづかい・文章編)	下川 浩	金3	1	−	130
		ことばと思想2	(心理検査法と自己理解)	田口 雅徳	木4	2	養	131
ことばと思想2	(反＝コミュニケーション論)	ことばと思想2	(反＝コミュニケーション論2)	谷口 亜沙子	水1	1	−	132
ことばと思想2	(英語通訳)(英語通訳の仕事)	ことばと思想2	(英語通訳)(英語通訳の仕事)	中島 直美	土2	1	−	133
ことばと思想2	(生活文化の発見)	ことばと思想2	(生活文化の記述)	林 英一	木2	1	−	134
ことばと思想2	(論文を書く)	ことばと思想2	(口頭発表を行なう)	福沢 健	月3	1	−	135
ことばと思想2	(古典ギリシア語Ⅱa)	ことばと思想2	(古典ギリシア語Ⅱb)	古川 堅治	木3	2	−	136
歴史と文化2	(Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts: 1)	歴史と文化2	(Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts: 2)	A.ゾーリンジャー	月4	2	−	137
歴史と文化2	(西洋絵画の主題と様式1)	歴史と文化2	(西洋絵画の主題と様式2)	阿部 明日香	月3	1	−	138
歴史と文化2	(日本文化研究d)			飯島 一彦	木2	2	13以降入学養	139
		歴史と文化2	(日本文化研究b)	宇津木 言行	木4	2	13以降入学養	140
歴史と文化2	(日韓比較文化論b)	歴史と文化2	(日韓比較文化論a)	金 熙淑	火3	2	養	141
歴史と文化2	(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)			倉田 量介	火3	2	養	142
歴史と文化2	(おもしろまじめな芝居のミカタa)	歴史と文化2	(おもしろまじめな芝居のミカタb)	児嶋 一男	月3	2	英・養	143
歴史と文化2	(能楽論)	歴史と文化2	(能楽における中世武士の諸像)	瀬尾 菊次	火2	2	−	144
歴史と文化2	(イタリアの音楽史)	歴史と文化2	(イタリアの声楽曲)	園田 みどり	水3	1	−	145
歴史と文化2	(詩と音楽5)	歴史と文化2	(詩と音楽6)	園田 みどり	木2	1	−	146
歴史と文化2	(イギリス詩入門)	歴史と文化2	(アメリカ詩入門)	田村 斉敏/原 成吉	金3/火1	2	英・養	147
歴史と文化2	(近代パリと文学1)	歴史と文化2	(近代パリと文学2)	福田 美雪	月3	1	−	148
歴史と文化2	(日本事情1)	歴史と文化2	(日本事情2)	守田 逸人	火5	1	13以降入学養	149
		現代社会2	(英語で学ぶ比較政治入門：その理論と実践)	C.デーリヒス	未定	1	−	150
現代社会2	(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	現代社会2	(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	上村 敏郎	金4	1	独	151
現代社会2	(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』1)	現代社会2	(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』2)	大井 正博	金2	1	−	152
現代社会2	(経理入門1)	現代社会2	(経理入門2)	大坪 史治	木3	1	経	153
現代社会2	(英文会計入門1)	現代社会2	(英文会計入門2)	大坪 史治	木4	1	−	154
現代社会2	(教育の現場：教師と語るa)			川村 肇	水1	1	−	155
		現代社会2	(教育の現場：教師と語るb)	川村 肇	金3	1	養	155
現代社会2	(異文化理解教育)			小島 優生	金3	2	養	156
現代社会2	(生きたコトバづかい・話し合い編)	現代社会2	(生きたコトバづかい・話し合い編)	下川 浩	金4	1	−	157
		現代社会2	(韓国社会論)	平田 由紀江	水3	2	養	158
		現代社会2	(ポストコロニアル研究入門)	平田 由紀江	水2	2	13以降入学養	159

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
現代社会2	（新聞を読む1）	現代社会2	（新聞を読む2）	細野 徳治	金4	1	－	160
現代社会2	（インターンシップ）			森永 卓郎	木2	2	－	161
現代社会2	（コンピュータ入門a）	現代社会2	（コンピュータ入門b）	久東 義典	火3	1	外・養・経	162
現代社会2	（コンピュータ入門a）	現代社会2	（コンピュータ入門b）	黄 海湘	金3	1	外・養・経	162
現代社会2	（コンピュータ入門a）	現代社会2	（コンピュータ入門b）	黄 海湘	金4	1	外・養・経	162
現代社会2	（コンピュータ入門a）	現代社会2	（コンピュータ入門b）	杉村 和枝	金3	1	外・養・経	162
現代社会2	（ホームページ作成）	現代社会2	（ホームページ作成）	和泉 順子	金2	1	養	163
現代社会2	（ホームページ作成）	現代社会2	（ホームページ作成）	久東 義典	火5	1	養	164
自然・環境・人間2	（サイエンスライティングa）	自然・環境・人間2	（サイエンスライティングb）	東 孝博	火4	2	13以降入学養	165
		自然・環境・人間2	（統計と調査法）	安間 一雄	水3	2	養	166
自然・環境・人間2	（観察と実験生物学a）	自然・環境・人間2	（観察と実験生物学b）	加藤 僖重	木3	2	養	167
自然・環境・人間2	（観察と実験生物学a）	自然・環境・人間2	（観察と実験生物学b）	加藤 僖重	木2	2	養	167
自然・環境・人間2	（生物学Ⅰ）			加藤 僖重	火1	1	13以降入学養	168
自然・環境・人間2	（体育経営スポーツマネージメント）			川北 準人	月3	2	養	169
自然・環境・人間2	（コンピュータと言語）			呉 浩東	月2	1	外・養	170
自然・環境・人間2	（情報検索と加工）			黄 海湘	水4	2	養	171
自然・環境・人間2	（マルチメディア論）			田中 雅英	火4	2	養	172
		自然・環境・人間2	（人間活動の自然環境への影響のデータからの理解）	中村 健治	水1	1	－	173
		自然・環境・人間2	（スポーツコーチ学b）	松原 裕	木3	2	養	174
自然・環境・人間2	（スポーツコーチ学a）			依田 珠江	木2	2	養	174
		自然・環境・人間2	（生物学Ⅱ）	依田 珠江	金3	1	13以降入学養	168
自然・環境・人間2	（生理学Ⅰ）	自然・環境・人間2	（生理学Ⅱ）	依田 珠江	金4	1	13以降入学養	175
自然・環境・人間2	（リーダーシップ論）			和田 智	金2	2	養	176

外国語科目群

英語部門（English）

外国語学部英語学科・交流文化学科、国際教養学部の学生は、英語部門「English」を履修することはできません。

■クラス指定科目（再履修クラス含む）

対象・コース等	科目名		担当教員	曜 時	履修不可	ページ
独・仏・経・法のみ	English（リーディングI a,b）	/(Academic Reading Strategies I a,b)	各担当教員		－	214
指定された者のみ	English（リーディングI a,b）	/(Academic Reading Strategies I a,b)	岡田　圭子	月 5 火 5	－	215
環・国・総のみ	English（ライティングI a,b）	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	各担当教員		－	216
経のみ	English（スピーキングI a,b）	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	各担当教員		－	217
Sounds Good利用クラス	English（リスニング I a,b）	/(Academic Listening Strategies I a,b)	各担当教員		－	218
Quest Intro利用クラス	English（リスニング I a,b）	/(Academic Listening Strategies I a,b)	各担当教員		－	219
指定された者のみ	English（リスニング I a,b）	/(Academic Listening Strategies I a,b)	M. クロフォード	火5・木1 金5	－	220
独・仏・法のみ	English（リーディング II a,b）	/(Academic Reading Strategies II a,b)	各担当教員		－	221
指定された者のみ	English（リーディング II a,b）	/(Academic Reading Strategies II a,b)	辻田　麻里	火 5 木 5	－	222
国・総のみ	English（ライティング II a,b）	/(Academic Writing II a,b: Essay)	各担当教員		－	223
独・仏・法のみ	English（リスニング II a,b）	/(Academic Listening Strategies II a,b)	各担当教員		－	224
指定された者のみ	English（リスニング II a,b）	/(Academic Listening Strategies II a,b)	J. ラシーン	火 5 木 5	－	225
独・仏のみ	English（リーディング III a,b）	/(Academic Reading and Writing Strategies III a,b)	各担当教員		－	226
指定された者のみ	English（リーディング III a,b）	/(Academic Reading and Writing Strategies III a,b)	宇野沢　和子	月 3	－	227

■対象者指定科目

対象・コース等	科目名		担当教員	曜 時	履修不可	ページ
外国人学生・帰国学生	English（留学生I a,b）	/(Basic English Skills for International Students I a,b)	林　千賀	火 5	－	228
外国人学生・帰国学生	English（留学生II a,b）	/(Basic English Skills for International Students II a,b)	長坂　達彦	水 3	－	229

■選択科目

科目の種類	科目名		担当教員	曜 時	履修不可	ページ
Writing	English（ライティングI a,b）	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	松岡　昇	月 3	環・国・総	230
	English（ライティングI a,b）	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	a：飯島　優雅 b：林　千賀	火 4	環・国・総	231
	English（ライティングI a,b）	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	遠藤　朋之	木 2	環・国・総	232
	English（ライティングI a,b）	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	石月　正伸	金 3	環・国・総	233
	English（ライティングI a,b）	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	高畑　哲男	金 3	環・国・総	234
Speaking	English（スピーキングI a,b）	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	W. ヘイ	月 2	経	235
	English（スピーキングI a,b）	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	M. H. ウィキンズ	木 1	経	236
	English（スピーキングI a,b）	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	D. R. ギブソン	木 3	経	237
	English（スピーキングI a,b）	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	J. ハサウェイ	木 3	経	238
	English（スピーキングI a,b）	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	J. クレイグ	金 3	経	239
	English（スピーキングI a,b）	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	S. A. フルトン	金 4	経	240
	English（スピーキングII a,b）	/(Speaking in Academic Contexts II a,b: Presentation)	S. フォー	月 3	－	241
	English（スピーキングII a,b）	/(Speaking in Academic Contexts II a,b: Presentation)	J. ハサウェイ	木 2	－	242
Reading	English（リーディング II a,b）	/(Academic Reading Strategies II a,b)	履修希望者は教務課 経済学部係窓口へ		独・仏・法	221
	English（リーディング III a,b）	/(Academic Reading and Writing Strategies III a,b)	履修希望者は教務課 各学部係窓口へ		独・仏	226
Listening	English（リスニング II a,b）	/(Academic Listening Strategies II a,b)	履修希望者は教務課 経済学部係窓口へ		独・仏・法	224
e-learning	English(e-ラーニング)	/(Computer Assisted English Learning (CAEL))	岡田　圭子	月 3	1年生	243

科目の種類	科目名		担当教員	曜 時	履修不可	ページ
Content-based	English(コンテントⅲ)	/(English Explorations)	飯島　優雅	木 1	TOEIC450点未満	244
	English(コンテントⅱ)	/(English Explorations)	J. ラシーン	火 4	TOEIC450点未満	244
Test-taking	English(資格I)	/(Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	河原　伸一	金 4	TOEIC400点以上	245
	English(資格II)	/(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	松岡　昇	月 4	TOEIC400点未満	246
	English(資格III)	/(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	飯島　優雅	木 2	TOEIC450点未満	247
	English(資格IV)	/(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	M.クロフォード	火 4	TOEIC450点未満	247
Pronunciation	English(発音)	/(Special Topics: Pronunciation Workshop)	辻田　麻里	火 4	−	248
	English(発音)	/(Special Topics: Pronunciation Workshop)	三谷　裕美	金 4	−	248
Basic Grammar	English(基礎文法 a,b)	/(Special Topics: Grammar Refresher a,b)	垣下　圭子	火 3	−	249
	English(基礎文法 a,b)	/(Special Topics: Grammar Refresher a,b)	長坂　達彦	水 4	−	250
	English(基礎文法 a,b)	/(Special Topics: Grammar Refresher a,b)	菊池　武	金 4	−	251

外国語科目群

外国語部門（英語以外）

対象・コース等	科目名（副題）	担当教員	曜	時	履修不可	ページ
（基礎コース）	ドイツ語(Ia,b 基礎)	各担当教員			独	252
（総合コース）	ドイツ語(Ia,b 基礎)	各担当教員			独	253
（総合コース）	ドイツ語(Ia,b 会話)	各担当教員			独	254
（基礎コース）	ドイツ語(Ⅱa,b 基礎)	各担当教員			独	255
（総合コース）	ドイツ語(Ⅱa,b 基礎)	各担当教員			独	256
（総合コース）	ドイツ語(Ⅱa,b 会話)	各担当教員			独	257
	ドイツ語(IIIa,b 会話)	H.W.ラーデケ	木	1	独	258
（基礎コース）	フランス語(Ia,b 基礎)	各担当教員			仏	259
（総合コース）	フランス語(Ia,b 総合J)	各担当教員			仏	260
（総合コース）	フランス語(Ia,b 総合F)	各担当教員			仏	261
（基礎コース）	フランス語(Ⅱa,b 基礎)	C.ルメタ	金	2	仏	262
（総合コース）	フランス語(Ⅱa,b 総合J)	各担当教員			仏	263
（総合コース）	フランス語(Ⅱa,b 総合F)	各担当教員			仏	264
	フランス語(IIIa,b)	S.ジュンタ	火	3	仏	265
（基礎コース）	スペイン語(Ia,b 文法)	各担当教員			養(*1)	266
（総合コース）	スペイン語(Ia,b 文法)	各担当教員			養(*1)	267
（総合コース）	スペイン語(Ia,b 会話)	各担当教員			養(*1)	268
（基礎コース）	スペイン語(Ⅱa,b 文法)	各担当教員			養(*1)	269
（総合コース）	スペイン語(Ⅱa,b 文法)	各担当教員			養(*1)	270
（総合コース）	スペイン語(Ⅱa,b 会話)	各担当教員			養(*1)	271
	スペイン語(IIIa,b 講読)	各担当教員			養(*1)	272
	スペイン語(IIIa,b 会話)	各担当教員			養(*1)	273
（基礎コース）	中国語(Ia,b 会話)	各担当教員			養(*2)	274
（総合コース）	中国語(Ia,b 会話)	各担当教員			養(*2)	275
（総合コース）	中国語(Ia,b 講読・文法)	各担当教員			養(*2)	276
（基礎コース）	中国語(Ⅱa,b 会話)	各担当教員			養(*2)	277
（総合コース）	中国語(Ⅱa,b 会話)	各担当教員			養(*2)	278
（総合コース）	中国語(Ⅱa,b 講読・文法)	各担当教員			養(*2)	279
	中国語(IIIa,b 会話)	頼　明	月	2	養(*2)	280
	中国語(IIIa,b 講読・文法)	平野　佐和	火	1	養(*2)	281
（基礎コース）	韓国語(Ia,b 基礎)	金　泰植	火	3	養(*3)	282
（基礎コース）	韓国語(Ia,b 基礎)	金　鉉洙	火	3	養(*3)	283
（基礎コース）	韓国語(Ia,b 基礎)	沈　元燮	水	1	養(*3)	284
（基礎コース）	韓国語(Ia,b 基礎)	呉　吉煥	水	2	養(*3)	285
（基礎コース）	韓国語(Ia,b 基礎)	呉　吉煥	金	2	養(*3)	285
（基礎コース）	韓国語(Ia,b 基礎)	沈　民珪	金	3	養(*3)	286
（基礎コース）	韓国語(Ia,b 基礎)	呉　吉煥	金	5	養(*3)	285
（総合コース）	韓国語（Ia,b 総合1）	各担当教員			養(*3)	287
（総合コース）	韓国語（Ia,b 総合2）	各担当教員			養(*3)	288
（基礎コース）	韓国語(Ⅱa,b 講読・会話)	沈　民珪	金	4	養(*3)	289
	外国語(イタリア語Ia,b 基礎)	園田 みどり	水	4	－	290
	外国語(イタリア語Ia,b 基礎)	園田 みどり	木	3	－	290
	外国語(イタリア語Ia,b 基礎)	島津　寛	土	1	－	291
	外国語(イタリア語Ⅱa,b 基礎)	島津　寛	土	2	－	292
	外国語(ポルトガル語Ia,b 文法)	牧野　真也	金	3	－	293
	外国語(ポルトガル語Ⅱa,b 応用)	牧野　真也	金	4	－	294
	外国語(ロシア語Ia,b 総合)	齊藤　毅	水	4	－	295
	外国語(ロシア語Ia,b 会話)	小西　昌隆	月	4	－	296
	外国語(ロシア語Ⅱa,b 総合)	齊藤　毅	水	3	－	297
	外国語(ロシア語Ⅱa,b 会話)	小西　昌隆	月	3	－	298
	外国語(タイ語Ia,b 会話)	江藤　双恵	火	3	－	299
	外国語(タイ語Ⅱa,b 文字の読み書き)	江藤　双恵	火	2	－	300
	外国語(アラビア語Ia,b 会話と文化)	師岡カリーマ・エルサムニー	月	3	－	301
	外国語(アラビア語Ⅱa,b 読み書きと文法の基礎)	師岡カリーマ・エルサムニー	月	4	－	302
	外国語(現代ヘブライ語Ⅰa,b 基礎)	阿部　望	金	2	－	303
	外国語(トルコ語Ⅰa,b 総合)	未定（掲示で確認）	木	3	－	304
	外国語(トルコ語Ⅰa,b 会話)	未定（掲示で確認）	木	4	－	305

日本語部門

対象・コース等	科目名（副題）	担当教員	曜	時	履修不可	ページ
（外国人・帰国学生）	日本語(総合IAa,b/総合IBa,b/総合ICa,b)	各担当教員			－	306
（外国人・帰国学生）	日本語(総合Ⅱa,b)	江添　真紀子/石塚　京子	月	3	－	307
（外国人・帰国学生）	日本語(総合Ⅱa,b)	北村　淳子	水	1	－	308
（外国人・帰国学生）	日本語(総合Ⅱa,b)	桂　千佳子	水	4	－	309
（外国人・帰国学生）	日本語(総合Ⅱa,b)	石田　ゆり子	金	3	－	310

スポーツ・レクリエーション部門 ／ カテゴリーV　体育科目

科目名	（副題）	開講学期	担当教員	曜	時	開始学年	履修不可	ページ
スポーツ・レクリエーション								
	（インラインスケートb）	秋	和田　智	火	1	1		179
	（インラインスケートb）	秋	和田　智	土	1	1		179
	（ウェルネス入門a,b）	春・秋	依田　珠江	水	2	1		180
	（エアロビックダンスa,b）	春・秋	中村　恭子	土	1	1		181
	（エアロビックダンスa,b）	春・秋	中村　恭子	土	2	1		181
	（ゴルフa,b）	春・秋	小笠原　慶太	金	1	1		182
	（ゴルフa,b）	春・秋	小笠原　慶太	金	2	1		182
	（コンディショントレーニング）	秋	松原　裕	金	4	1		183
	（サッカーa,b）	春・秋	大森　一伸	火	3	1		184
	（サッカーa,b）	春・秋	西川　誠太	水	1	1		185
	（サッカーa,b）	春・秋	西川　誠太	水	2	1		185
	（スポーツ型デトックスa,b）	春・秋	齋藤　初恵	金	2	1		186
	（スポーツ型デトックスa,b）	春・秋	齋藤　初恵	金	3	1		186
	（ソフトボールa,b）	春・秋	萩野　元祐	木	1	1		187
	（ソフトボールa,b）	春・秋	萩野　元祐	木	2	1		187
	（卓球a,b）	春・秋	太田　朝博	金	2	1		188
	（卓球a,b）	春・秋	神宮司　親治	金	1	1		189
	（卓球a,b）	春・秋	山口　知恵	月	2	1		190
	（卓球a,b）	春・秋	大森　一伸	火	1	1		191
	（卓球a,b）	春・秋	松原　裕	火	2	1		192
	（トレーニング入門a,b）	春・秋	大森　一伸	火	4	1		193
	（ニュースポーツa,b）	春・秋	村山　光義	月	3	1		194
	（バスケットボールa,b）	春・秋	川北　準人	月	1	1		195
	（バスケットボールa,b）	春・秋	川北　準人	月	2	1		195
	（バスケットボールa,b）	春・秋	依田　珠江	木	1	1		196
	（バスケットボールb）	秋	依田　珠江	木	2	1		196
	（バドミントンa,b）	春・秋	藤野　和樹	水	1	1		197
	（バドミントンa,b）	春・秋	藤野　和樹	水	2	1		197
	（バドミントンa,b）	春・秋	梶野　克之	火	2	1		198
	（バドミントンa,b）	春・秋	梶野　克之	火	3	1		198
	（バドミントンa,b）	春・秋	田中　茂宏	木	3	1		199
	（バドミントンa,b）	春・秋	山口　知恵	月	3	1		200
	（バレーボールa,b）	春・秋	太田　朝博	金	3	1		201
	（バレーボールa,b）	春・秋	横矢　勇一	金	1	1		202
	（バレーボールa,b）	春・秋	横矢　勇一	金	2	1		202
	（フットサルa,b）	春・秋	神宮司　親治	金	3	1		203
	（フリスビーa,b）	春・秋	村山　光義	月	2	1		204
	（ボールルームダンスa,b）	春・秋	内堀　祐子	水	1	1		205
	（ボールルームダンスa,b）	春・秋	内堀　祐子	水	2	1		205
	（硬式テニスa,b）	春・秋	重藤　誠市郎	火	1	1		206
	（硬式テニスa,b）	春・秋	重藤　誠市郎	火	2	1		206
	（硬式テニスa,b）	春・秋	田中　茂宏	木	1	1		207
	（硬式テニスa）	春	松原　裕	水	2	1		208
	（硬式テニスa,b）	春・秋	松原　裕	水	3	1		208
	（硬式テニスb）	秋	松原　裕	金	2	1		208
	（アウトドア山岳）	春	和田　智	夏季集中		1		209
	（アウトドアレクリエーション）	春	和田　智	月	2	1		209
	（ウィンドサーフィン）	春	和田　智	夏季集中		1		210
	（アウトドアレクリエーション）	春	和田　智	水	2	1		210
	（アウトドア海浜）	春	和田　智	夏季集中		1		211
	（アウトドアレクリエーション）	春	和田　智	火	2	1		211
	（アイススポーツ）	秋	和田　智	冬季集中		1		212
	（スケートトレーニング）	秋	和田　智	土	2	1		212
	（スキー＆スノーボード）	秋	松原　裕	冬季集中		1		213
	（バランストレーニング）	秋	松原　裕	木	2	1		213
	（学生交流支援プログラム）	春	依田　珠江	土	1	1	外・経・法	＊
	（学生交流支援プログラム）	春	依田　珠江	土	2	1	外・経・法	＊
	（学生交流支援プログラム）	春	松原　裕	土	1	1	外・経・法	＊
	（学生交流支援プログラム）	春	松原　裕	土	2	1	外・経・法	＊
	（学生交流支援プログラム）	春	和田　智	土	1	1	外・経・法	＊
	（学生交流支援プログラム）	春	和田　智	土	2	1	外・経・法	＊

全学共通授業科目　目次（2003年度～2007年度入学者用）

カテゴリーⅠ　全学総合講座

春　科目名	春　副題	秋　科目名	秋　副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
全学総合講座	（芸術と社会－芸術が社会の中で果たす役割りについて）			阿部　明日香	木4	1	－	14
全学総合講座	（社会を生き抜くセルフブランディングⅠ）			**有吉　秀樹**	木2	1	－	15
		全学総合講座	（社会を生き抜くセルフブランディングⅡ）	**有吉　秀樹**	木2	1	－	16
		全学総合講座	（ジェンダーで眺めてみれば）	上野　直子	水3	1	－	17
		全学総合講座	（メディア社会とロック）	岡村　圭子	火3	1	－	18
全学総合講座	（経営者が語る現代企業論1）			上坂　卓郎	火2	1	－	19
		全学総合講座	（経営者が語る現代企業論2）	上坂　卓郎	火2	1	－	20
全学総合講座	（獨協学）			川村　肇	木3	1	－	21
全学総合講座	（教えるという仕事）			川村　肇	木5	1	－	22
全学総合講座	（NPO論 人を変える・地域を変える・世界を変える）			高松　和幸	金4	1	－	23
		全学総合講座	（地域活性化システム論―これからの「まちづくり」のヒントを探る）	高松　和幸	金4	1	－	24
		全学総合講座	（情報社会とルール）	夛賀谷　一照	水3	1	－	25
全学総合講座	（Art（技術／芸術）の舞台裏）			谷口　亜沙子	水3	1	－	26
全学総合講座	（環境学1)(環境基礎学-自然を見つめる）			中村　健治	火4	1	－	27
		全学総合講座	（環境学2)(環境応用学－環境と社会）	中村　健治	火4	1	－	28
全学総合講座	（働くための基礎知識－知って得する労働問題）			野村　容康	水2	1	－	29
全学総合講座	（ポピュラー文化と社会）			平田　由紀江	水2	1	－	30
全学総合講座	（現代日本論）			本田　浩邦	月3	1	－	31
		全学総合講座	（現代社会論）	本田　浩邦	月3	1	－	32
全学総合講座	（健康をスポーツを世界を考える）	全学総合講座	（健康をスポーツを世界を考える）	松原　裕	火4	1	－	33
		全学総合講座	（童話（メルヒェン）の可能性をめぐって）	矢羽々　崇	金3	1	－	34
全学総合講座	（キャンパスライフと仕事）	全学総合講座	（キャンパスライフと仕事）	山越　徳	木2	1	－	35
		全学総合講座	（食文化と人間生活「気候と風土と食文化」）	和田　智	火4	1	－	36
		全学総合講座	（自由時間の達人）	和田　智	金4	1	－	37

カテゴリーⅡ　概論科目

春　科目名	春　副題	秋　科目名	秋　副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
倫理学a	（倫理の基本について考える）	倫理学b	（環境と生命の倫理）	市川　達人	火3	1	養	41
倫理学a	（倫理学と人間性）	倫理学b	（現代倫理学の諸問題）	川口　茂雄	月3/月4	1	養	45
社会思想史a	（市民的社会像の黎明期）	社会思想史b	（市民的社会像の確立期）	市川　達人	火4	1	－	42
心理学a	（人間の行動・認知・動機の一般法則）	心理学b	（人間の個性・多様性理解）	杉山　憲司	木1	1	－	47
心理学a	（人間の行動・認知・動機の一般法則）	心理学b	（人間の個性・多様性理解）	杉山　憲司	木2	1	－	47
言語学a	（個別言語学-英語）	言語学b	（個別言語学-英語）	安間　一雄	金2	1	養	38
言語学a	（応用言語学）	言語学b	（第二言語習得）	臼井　芳子	水1	2	養	43
文学a	（日本文学－奈良時代の文学を読む）	文学b	（日本文学－平安時代の文学を読む）	福沢　健	月2	1	春のみ養	76
文学a	（恐怖の日本文学）	文学b	（癒しの日本文学）	佐藤　毅	木1	1	秋のみ養	70
歴史学a	（イスラーム世界の成立と拡大）	歴史学b	（イスラーム世界の近代化とその後）	熊谷　哲也	木3	1	－	64
歴史学b	（アメリカのエスニック・ヒストリー）	歴史学a	（アメリカのエスニック・ヒストリー）	佐藤　唯行	金3	1	－	71
歴史学a	（中国近代史概説－清朝国家の黄昏）	歴史学b	（中国近代史概説－近代国家創成の試み）	張　士陽	木4	2	養	74
歴史学a	（中世の仏教と社会）	歴史学b	（中世の「悪党」と民衆）	新井　孝重	木4	1	－	54
歴史学a	（「15年戦争」をどうとらえるか）	歴史学b	（戦後史の中の「15年戦争」）	丸浜　昭	水2	2	言・養	80
歴史学a	（ヨーロッパ史1）	歴史学b	（ヨーロッパ史2）	増谷　英樹	水3	1	－	78
文化人類学a	（未開文化の理解へ）	文化人類学b	（未開文化の理解へ）	井上　兼行	月3	1	養	56
現代文化論a	（グローバリゼーションを巡って）	現代文化論b	（日本の表象と世界）	柴崎　信三	木2	1	経	102
		比較文化論b	（地域メディア論）	岡村　圭子	水2	2	言・養	92
比較文化論a	（東西の文化を結ぶもの）	比較文化論b	（東西文化と近代化）	熊谷　哲也	木4	2	言	65
経済学a	（ミクロの視点で考える）	経済学b	（マクロの視点で考える）	浜本　光紹	水2	1	経	109
経済学a	（はじめての経済学）	経済学b	（はじめての経済学）	黒木　亮	月1	1	経	100
日本国憲法	（憲法と私たち）			古関　彰一	火1	1	法	101
日本国憲法	（憲法と私たち）	日本国憲法	（憲法と私たち）	加藤　一彦	火2	1	法	96

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
国際法a	（国際社会と私たち）	国際法b	（国際紛争を考える）	一之瀬 高博	月1	1	−	89
政治学a	（政治システムの構成要素）	政治学b	（現代の民主主義）	鈴木 宏尚	火4	1	−	106
社会学a	（他者と自己）	社会学b	（現代社会の諸問題）	木本 玲一/岡村 圭子	月4/土1	1	養	99
地理学a	（自然環境と文化）	地理学b	（自然環境と文化）	秋本 弘章	水2	1	−	86
地理学a	（世界の自然環境と文化）	地理学b	（世界の自然環境と文化）	北崎 幸之助	金4	1	言・養	98
女性学a	（ジェンダーと生活世界）			片山 亜紀	木4	1	−	95
		女性学b	（ジェンダーとメディア表象）	西山 千恵子	月4	1	ー	108
生物学a	（植物の特性と自然の仕組み）	生物学b	（植物の分布）	加藤 信重	火2	2	養	115
スポーツ・レクリエーション学a	（自由時間とクオリティオブライフを考えよう）			和田 智	金4	1	−	119

カテゴリーⅢ 各論科目

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想（Ⅲ）	（英語圏の社会と思想a）	ことばと思想（Ⅲ）	（英語圏の社会と思想b）	福井 嘉彦	火2	2	英	51
ことばと思想（Ⅲ）	（科学としての心理学とこころの世界）			田口 雅徳	木2	1	養	48
ことばと思想（Ⅲ）	（外国語としての日本語教育）			石塚 京子	月2	1	言・養	40
ことばと思想（Ⅲ）	（通訳・翻訳論）			永田 小絵	木5	2	言	50
		ことばと思想（Ⅲ）	（多言語環境と英語）	臼井 芳子	火4	2	養・言	44
		ことばと思想（Ⅲ）	（日本語の談話と日本語教育）	浅山 佳郎	月1	2	言・養	177
ことばと思想（Ⅲ）	（日本語教材における学習項目の扱い）			小山 慎治	木4	2	言・養	178
		歴史と文化（Ⅲ）	（日本事情とコミュニケーション教育）	宇津木 言行	火4	1	養	59
歴史と文化（Ⅲ）	（移民・交易に見る文化変容）	歴史と文化（Ⅲ）	（グローバル化と情報・通信の文化史）	水口 章	月4	1	−	81
		歴史と文化（Ⅲ）	（未開人の認識b）	井上 兼行	火3	2	養	57
歴史と文化（Ⅲ）	（英語圏の小説a）	歴史と文化（Ⅲ）	（英語圏の小説b）	上野 直子/島田 啓一	水2/木2	2	英・養	58
歴史と文化（Ⅲ）	（スペイン研究入門）			二宮 哲	月5	1	言・養・06以前入学	69
		歴史と文化（Ⅲ）	（ラテンアメリカ研究入門）	佐藤 勘治	月5	1	言・養・06以前入学	69
歴史と文化（Ⅲ）	（日本文化論）			宇津木 言行	火3	1	言・養・06以前入学	60
歴史と文化（Ⅲ）	（英語圏の文学文化）			未定	未定	1	養	79
		歴史と文化（Ⅲ）	（異人種共生の試練＜アメリカ編＞）	山本 英政	月2	1	英・言・養・06以前入学	83
歴史と文化（Ⅲ）	（文化史入門）			古川 堅治	水2	1	言・養	77
歴史と文化（Ⅲ）	（英語圏の文化）	歴史と文化（Ⅲ）	（英語圏事情）	山本 英政	月2/水2	2	英・言・養	84
歴史と文化（Ⅲ）	（韓国文化各論c）			佐藤 厚	火2	2	言・養	68
歴史と文化（Ⅲ）	（大衆文化論）			木本 玲一	月5	2	言・養	63
歴史と文化（Ⅲ）	（民俗学）			林 英一	木1	1	言・養	75
		歴史と文化（Ⅲ）	（地域文化）	林 英一	木1	2	言・養・法	75
		歴史と文化（Ⅲ）	（スペイン・ラテンアメリカの社会文化）	兒島 峰	火5	2	言・養	66
歴史と文化（Ⅲ）	（アラブ文化・芸術a）	歴史と文化（Ⅲ）	（アラブ文化・芸術b）	師岡カリーマ・エルサムニー	月2	2	言・養	82
		歴史と文化（Ⅲ）	（日韓交流史）	金 熙淑	月3	2	言・養	62
歴史と文化（Ⅲ）	（日本思想史a）	歴史と文化（Ⅲ）	（日本思想史b）	川村 肇	水3	2	言・養	61
歴史と文化（Ⅲ）	（都市と建築1）	歴史と文化（Ⅲ）	（都市と建築2）	鈴木 隆	火2	1	−	73
現代社会（Ⅲ）	（中東の社会空間）	現代社会（Ⅲ）	（中東政治と市民社会）	水口 章	月5	1	−	110
現代社会（Ⅲ）	（歴史の中のメディア）	現代社会（Ⅲ）	（メディアと現代社会）	柴崎 信三	水2	1	−	103
現代社会（Ⅲ）	（社会科学概論a）	現代社会（Ⅲ）	（社会科学概論b）	堅田 剛	火2	1	法	94
現代社会（Ⅲ）	（教育法a）	現代社会（Ⅲ）	（教育法b）	市川 須美子	木2	2	法	88
現代社会（Ⅲ）	（民法a）	現代社会（Ⅲ）	（民法b）	小川 佳子	月2	1	法	93
		現代社会（Ⅲ）	（NGO論）	清水 俊弘	水4	1	言・養	104
現代社会（Ⅲ）	（国際関係の構造と展開）	現代社会（Ⅲ）	（近現代の国際関係史）	伊藤 兵馬	木5	1	−	91
現代社会（Ⅲ）	（コトバと社会・言語文化概論）	現代社会（Ⅲ）	（コトバと社会・言語文化概論）	下川 浩	火5	1	言・06以前入学	105
現代社会（Ⅲ）	（ヨーロッパ地域論）	現代社会（Ⅲ）	（ドイツ地域論）	飯嶋 曜子	木3	1	独	87
現代社会（Ⅲ）	（韓国社会各論b）			全 載旭	木2	2	言・養	107
現代社会（Ⅲ）	（ブラジル研究）			E. ウラノ	火2	2	言・養	85
自然・環境・人間（Ⅲ）	（地球環境の変化とその要因）	自然・環境・人間（Ⅲ）	（地球環境問題と環境保全）	鈴木 滋	火2	1	−	116
自然・環境・人間（Ⅲ）	（宇宙論a）	自然・環境・人間（Ⅲ）	（宇宙論b）	東 孝博	火1	1	養	113

カテゴリーⅣ　実践実習科目

春　科目名	春　副題	秋　科目名	秋　副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想(Ⅳ)	(論文を書く)	ことばと思想(Ⅳ)	(口頭発表を行う)	福沢　健	月3	1	－	135
ことばと思想(Ⅳ)	(書き言葉の問題)	ことばと思想(Ⅳ)	(話し言葉の問題)	佐藤　毅	木2	1	－	127
ことばと思想(Ⅳ)	(日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	ことばと思想(Ⅳ)	(日本語音声表現のトレーニング表現篇)	梅津　正樹	土2	1	－	123
ことばと思想(Ⅳ)	(生きたコトバづかい・文章編)	ことばと思想(Ⅳ)	(生きたコトバづかい・文章編)	下川　浩	金3	1	－	130
ことばと思想(Ⅳ)	(反＝コミュニケーション論)	ことばと思想(Ⅳ)	(反＝コミュニケーション論2)	谷口　亜沙子	水1	1	－	132
ことばと思想(Ⅳ)	(生活文化の発見)	ことばと思想(Ⅳ)	(生活文化の記述)	林　英一	木2	1	－	134
ことばと思想(Ⅳ)	(英語通訳の仕事)	ことばと思想(Ⅳ)	(英語通訳の仕事)	中島　直美	土2	1	－	133
		ことばと思想(Ⅳ)	(心理検査法とこころの健康)	田口　雅徳	木4	2	養	131
ことばと思想(Ⅳ)	(プレゼンテーション実習)	ことばと思想(Ⅳ)	(プレゼンテーション実習)	清水　絹代	月3	1	－	129
ことばと思想(Ⅳ)	(プレゼンテーション実習)	ことばと思想(Ⅳ)	(プレゼンテーション実習)	清水　絹代	月2	1	－	129
ことばと思想(Ⅳ)	(写本を読む)			宇津木　言行	木4	2	言・養	121
ことばと思想(Ⅳ)	(碑文を読む)			飯島　一彦	木3	2	言・養	120
ことばと思想(Ⅳ)	(ロマンス語研究入門1)	ことばと思想(Ⅳ)	(ロマンス語研究入門2)	島津　寛	木1	2	－	128
歴史と文化(Ⅳ)	(近代パリと文学1)	歴史と文化(Ⅳ)	(近代パリと文学2)	福田　美雪	月3	1	－	148
歴史と文化(Ⅳ)	(イタリアの音楽史)	歴史と文化(Ⅳ)	(イタリアの声楽曲)	園田　みどり	水3	1	－	145
歴史と文化(Ⅳ)	(詩と音楽5)	歴史と文化(Ⅳ)	(詩と音楽6)	園田　みどり	木2	1	－	146
歴史と文化(Ⅳ)	(おもしろまじめな芝居のミカタa)	歴史と文化(Ⅳ)	(おもしろまじめな芝居のミカタb)	児嶋　一男	月3	2	英・養	143
歴史と文化(Ⅳ)	(イギリス詩入門)	歴史と文化(Ⅳ)	(アメリカ詩入門)	田村 斉敏/原 成吉	金3/火1	2	英・養	147
歴史と文化(Ⅳ)	(西洋絵画の主題と様式a)	歴史と文化(Ⅳ)	(西洋絵画の主題と様式b)	阿部　明日香	月3	1	－	138
現代社会(Ⅳ)	(教育の現場：教師と語るa)			川村　肇	水1	1	－	155
		現代社会(Ⅳ)	(教育の現場：教師と語るb)	川村　肇	金3	1	養	155
歴史と文化(Ⅳ)	(日韓比較文化論b)	歴史と文化(Ⅳ)	(日韓比較文化論a)	金　熙淑	火3	2	言・養	141
歴史と文化(Ⅳ)	(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)			倉田　量介	火3	2	言・養	142
歴史と文化(Ⅳ)	(能楽論)	歴史と文化(Ⅳ)	(能楽における中世武士の諸像)	瀬尾　菊次	火2	2	言	144
現代社会(Ⅳ)	(インターンシップ)			森永　卓郎	木2	2	－	161
現代社会(Ⅳ)	(新聞を読む1)	現代社会(Ⅳ)	(新聞を読む2)	細野　徳治	金4	1	－	160
現代社会(Ⅳ)	(経理入門a)	現代社会(Ⅳ)	(経理入門b)	大坪　史治	木3	1	経	153
現代社会(Ⅳ)	(英文会計入門a)	現代社会(Ⅳ)	(英文会計入門b)	大坪　史治	木4	1	－	154
現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門a)	現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門b)	黄　海湘	金3	1	外・養・経	162
現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門a)	現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門b)	黄　海湘	金4	1	外・養・経	162
現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門a)	現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門b)	久東　義典	火3	1	外・養・経	162
現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門a)	現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門b)	杉村　和枝	金3	1	外・養・経	162
現代社会(Ⅳ)	(ホームページ作成)	現代社会(Ⅳ)	(ホームページ作成)	和泉　順子	金2	1	養	163
現代社会(Ⅳ)	(ホームページ作成)	現代社会(Ⅳ)	(ホームページ作成)	久東　義典	火5	1	養	164
現代社会(Ⅳ)	(生きたコトバづかい・話し合い編)	現代社会(Ⅳ)	(生きたコトバづかい・話し合い編)	下川　浩	金4	1	－	157
現代社会(Ⅳ)	(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』1)	現代社会(Ⅳ)	(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』2)	大井　正博	金2	1	－	152
現代社会(Ⅳ)	(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	現代社会(Ⅳ)	(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	上村　敏郎	金4	1	独	151
現代社会(Ⅳ)	(異文化理解教育)			小島　優生	金3	2	養	156
		現代社会(Ⅳ)	(韓国社会論)	平田　由紀江	水3	2	言・養	158
		現代社会(Ⅳ)	(ポストコロニアル研究入門)	平田　由紀江	水2	2	－	159
自然・環境・人間(Ⅳ)	(身近な自然観察 春)	自然・環境・人間(Ⅳ)	(身近な自然観察 秋)	加藤　僖重	木3	2	養	167
自然・環境・人間(Ⅳ)	(身近な自然観察 春)	自然・環境・人間(Ⅳ)	(身近な自然観察 秋)	加藤　僖重	木2	2	養	167
		自然・環境・人間(Ⅳ)	(統計と調査法)	安間　一雄	水3	2	養	166
自然・環境・人間(Ⅳ)	(マルチメディア論)			田中　雅英	火4	2	養	172
自然・環境・人間(Ⅳ)	(情報検索と加工)			黄　海湘	水4	2	養	171
自然・環境・人間(Ⅳ)	(スポーツコーチ学a)			依田　珠江	木2	2	養	174
		自然・環境・人間(Ⅳ)	(スポーツコーチ学b)	松原　裕	木3	2	養	174
自然・環境・人間(Ⅳ)	(リーダーシップ論)			和田　智	金2	2	養	176
自然・環境・人間(Ⅳ)	(体育経営スポーツマネージメント)			川北　準人	月3	2	養	169

外国語科目

英語科目

外国語学部英語学科・言語文化学科、国際教養学部の学生は、下記の英語科目を履修することはできません。

■クラス指定科目（再履修クラス含む）

対象・コース等	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
再履修クラス	English 111-a,b Basic Reading Strategies	各担当教員		-	214
再履修クラス（国のみ）	English 121-a,b Basic Composition	各担当教員		-	216
再履修クラス	English 141-a,b Basic Listening Comprehension	各担当教員		-	218
再履修クラス	English 211-a,b Basic Reading Strategies	各担当教員		-	221
再履修クラス（国のみ）	English 221-a,b Basic Composition	各担当教員		-	223
再履修クラス	English 241-a,b Basic Listening Comprehension	各担当教員		-	224
独・仏のみ	English 311-a,b Reading English for Specific Purposes	各担当教員		-	226

■対象者指定科目

対象・コース等	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
外国人学生・帰国学生	English 110-a,b Introductory Reading Strategies	林　千賀	火 5	-	228
外国人学生・帰国学生	English 211-a,b Basic Reading Strategies	長坂　達彦	水 3	-	229

■選択科目

科目の種類	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
Writing	English 121-a,b Basic Composition	松岡　昇	月 3	国	230
	English 121-a,b Basic Composition	a：飯島　優雅 b：林　千賀	火 4 火 4	国	231
	English 121-a,b Basic Composition	遠藤　朋之	木 2	国	232
	English 121-a,b Basic Composition	石月　正伸	金 3	国	233
	English 121-a,b Basic Composition	高畑　哲男	金 3	国	234
Speaking	English 131-a,b Basic Communicative English	W. ヘイ	月 2	-	235
	English 131-a,b Basic Communicative English	M. H. ウィキンズ	木 1	-	236
	English 131-a,b Basic Communicative English	D. R. ギブソン	木 3	-	237
	English 131-a,b Basic Communicative English	J. ハサウェイ	木 3	-	238
	English 131-a,b Basic Communicative English	J. クレイグ	金 3	-	239
	English 131-a,b Basic Communicative English	S. A. フルトン	金 4	-	240
	English 231-a,b Basic Communicative English	S. フォー	月 3	-	241
	English 231-a,b Basic Communicative English	J. ハサウェイ	木 2	-	242
Reading	English 211-a,b Basic Reading Strategies	履修希望者は教務課 経済学部係窓口へ		独・仏・法	221
	English 311-a,b Reading English for Specific Purposes	履修希望者は教務課 各学部係窓口へ		独・仏	226
Listening	English 241-a,b Basic Listening Comprehension	履修希望者は教務課 経済学部係窓口へ		独・仏・法	224
e-learning	English 351 Computer-Assisted English Learning	岡田　圭子	月 3	-	243
Basic Grammar	English 121-a,b Basic Composition (Grammar Refresher)	垣下　圭子	火 3	-	249
	English 121-a,b Basic Composition (Grammar Refresher)	長坂　達彦	水 4	-	250
	English 121-a,b Basic Composition (Grammar Refresher)	菊池　武	金 4	-	251

英語以外の外国語科目

対象・コース等	科目名(副題)	担当教員	曜	時	履修不可	ページ
(基礎コース)	ドイツ語 Ia,b (基礎)	各担当教員			独	252
(総合コース)	ドイツ語 Ia,b (基礎)	各担当教員			独	253
(総合コース)	ドイツ語 Ia,b (会話)	各担当教員			独	254
(基礎コース)	ドイツ語 Ⅱa,b (基礎)	各担当教員			独	255
(総合コース)	ドイツ語 Ⅱa,b (基礎)	各担当教員			独	256
(総合コース)	ドイツ語 Ⅱa,b (会話)	各担当教員			独	257
	ドイツ語Ⅲa,b(会話)	H.W.ラーデケ	木	1	独	258
(基礎コース)	フランス語 Ia,b (基礎)	各担当教員			仏	259
(総合コース)	フランス語 Ia,b (総合J)	各担当教員			仏	260
(総合コース)	フランス語 Ia,b (総合F)	各担当教員			仏	261
(基礎コース)	フランス語Ⅱa,b (基礎)	C.ルメタ	金	2	仏	262
(総合コース)	フランス語Ⅱa,b (総合J)	各担当教員			仏	263
(総合コース)	フランス語Ⅱa,b (総合F)	各担当教員			仏	264
	フランス語Ⅲa,b	S.ジュンタ	火	3	仏	265
(基礎コース)	スペイン語Ⅰa,b (文法)	各担当教員			言(*1)養(*1)	266
(総合コース)	スペイン語Ⅰa,b (文法)	各担当教員			言(*1)養(*1)	267
(総合コース)	スペイン語Ⅰa,b (会話)	各担当教員			言(*1)養(*1)	268
(基礎コース)	スペイン語Ⅱa,b (文法)	各担当教員			言(*1)養(*1)	269
(総合コース)	スペイン語Ⅱa,b (文法)	各担当教員			言(*1)養(*1)	270
(総合コース)	スペイン語Ⅱa,b (会話)	各担当教員			言(*1)養(*1)	271
	スペイン語Ⅲa,b (講読)	各担当教員			言(*1)養(*1)	272
	スペイン語Ⅲa,b(会話)	各担当教員			言(*1)養(*1)	273
(基礎コース)	中国語Ⅰa,b(会話)	各担当教員			言(*2)養(*2)	274
(総合コース)	中国語Ⅰa,b(会話)	各担当教員			言(*2)養(*2)	275
(総合コース)	中国語Ⅰa,b(講読・文法)	各担当教員			言(*2)養(*2)	276
(基礎コース)	中国語Ⅱa,b(会話)	各担当教員			言(*2)養(*2)	277
(総合コース)	中国語Ⅱa,b(会話)	各担当教員			言(*2)養(*2)	278
(総合コース)	中国語Ⅱa,b(講読・文法)	各担当教員			言(*2)養(*2)	279
	中国語Ⅲa,b(会話)	頼 明	月	2	言(*2)養(*2)	280
	中国語Ⅲa,b(講読・文法)	平野 佐和	火	1	言(*2)養(*2)	281
基礎コース	朝鮮語Ⅰa,b (基礎)	金 泰植	火	3	養(*3)	282
基礎コース	朝鮮語Ⅰa,b (基礎)	金 鉉洙	火	3	養(*3)	283
基礎コース	朝鮮語Ⅰa,b (基礎)	沈 元燮	水	1	養(*3)	284
基礎コース	朝鮮語Ⅰa,b (基礎)	呉 吉煥	水	2	養(*3)	285
基礎コース	朝鮮語Ⅰa,b (基礎)	呉 吉煥	金	2	養(*3)	285
基礎コース	朝鮮語Ⅰa,b (基礎)	沈 民珪	金	3	養(*3)	286
基礎コース	朝鮮語Ⅰa,b (基礎)	呉 吉煥	金	5	養(*3)	285
総合コース	朝鮮語Ⅰa,b (総合1)	各担当教員			養(*3)	287
総合コース	朝鮮語Ⅰa,b (総合2)	各担当教員			養(*3)	288
基礎コース	朝鮮語Ⅱa,b (講読・会話)	沈 民珪	金	4	養(*3)	289
	イタリア語Ⅰa,b	園田 みどり	水	4	−	290
	イタリア語Ⅰa,b	園田 みどり	木	3	−	290
	イタリア語Ⅰa,b	島津 寛	土	1	−	291
	イタリア語Ⅱa,b	島津 寛	土	2	−	292
	ポルトガル語Ⅰa,b(文法)	牧野 真也	金	3	−	293
	ポルトガル語Ⅱa,b	牧野 真也	金	4	−	294
	ロシア語Ⅰa,b(総合)	齊藤 毅	水	4	−	295
	ロシア語Ⅰa,b(会話)	小西 昌隆	月	4	−	296
	ロシア語Ⅱa,b(総合)	齊藤 毅	水	3	−	297
	ロシア語Ⅱa,b(会話)	小西 昌隆	月	3	−	298
	タイ語Ⅰa,b(会話)	江藤 双恵	火	3	−	299
	タイ語Ⅱa,b(文字の読み書き)	江藤 双恵	火	2	−	300
	アラビア語Ⅰa,b(会話と文化)	師岡カリーマ・エルサムニー	月	3	−	301
	アラビア語Ⅱa,b(読み書きと文法の基礎)	師岡カリーマ・エルサムニー	月	4	−	302
	現代ヘブライ語Ⅰa,b	阿部 望	金	2	−	303
	古典ギリシア語Ⅰa,b	櫻井 悠美	月	3	−	126
	古典ギリシア語Ⅱa,b	古川 堅治	木	3	−	136
	ラテン語Ⅰa,b	小倉 博行	金	3	−	124
	ラテン語Ⅱa,b	小倉 博行	金	2	−	125

全学共通授業科目以外(外国人学生用科目)

対象・コース等	科目名(副題)	担当教員	曜	時	履修不可	ページ
(外国人・帰国学生)	日本語Ⅰa,b	各担当教員			−	306
(外国人・帰国学生)	日本語Ⅱa,b	江添 真紀子/石塚 京子	月	3	−	307
(外国人・帰国学生)	日本語Ⅱa,b	北村 淳子	水	1	−	308
(外国人・帰国学生)	日本語Ⅱa,b	桂 千佳子	水	4	−	309
(外国人・帰国学生)	日本語Ⅱa,b	石田 ゆり子	金	3	−	310
	日本事情a,b	守田 逸人	火	5	−	149

（春）	全学総合講座（芸術と社会–芸術が社会の中で果たす役割について）	担当者	阿部　明日香

講義目標

芸術とは一体何だと思いますか？そもそも芸術は、私たち人間にとって、社会にとって必要なものなのでしょうか？この講義では、地球上のさまざまな時代や地域において、芸術がどのように誕生し、社会の中でどのように機能してきた（／いる）のかを学びます。そのダイナミズムを感じながら芸術（の本質）について一緒に考えていきましょう。

講義概要

美術、映画、音楽など各分野の専門家が歴史的な観点をふまえ、さまざまな切り口から芸術と社会の多様なありかたについて講義します。

また、美術の展示やデザインをとおして、日々芸術と社会の接点に立つプロフェッショナルの方々にアクチュアルな主題についてお話いただきます。

皆さんが面白いことを発見したり、スリリングな出会いをする契機になればと思います。

受講生への要望

はじめのオリエンテーションで履修上の注意ならびに評価の方法を説明しますので、必ず出席してください。

評価方法

平常点と学期末試験による。

テキスト、参考文献

プリント

授業計画

1 オリエンテーション　阿部明日香 【4/11】

2 近代の萌芽—権力に所有される絵画から大衆に開かれた絵画へ
太田みき（美術史家・フランス 18 世紀美術）【4/18】

3 本学所蔵挿絵本に見るフランスのカリカチュア
伊藤幸次（本学名誉教授）【4/25】

4 近代絵画と社会—ピカソとブラックのキュビスム
近藤學（西洋近現代美術史）【5/9】

5 ヨーゼフ・ボイスの社会芸術
三本松倫代（神奈川県立近代美術館学芸員）【5/16】

6 ポーランドの映画と社会
加藤有子（東京大学 助教）【5/23】

7 音楽の周縁からたどる〈聞く／聴く〉ことの過去･現在･未来
福田貴成（慶應義塾大学ほか兼任講師）【5/30】

8 キャラクターの領域 ポピュラー／サブ・カルチャーの問いへ
石岡良治（批評家・表象文化論／大妻女子大学ほか非常勤講師）【6/6】

9 フランス現代美術と社会
青木美都（東海大学、日本大学講師）【6/13】

10 展覧会の企画・運営について
宮島綾子（国立新美術館主任研究員）【6/20】

11 新聞社の文化事業の今—展覧会を〈つくる〉側から
平野菜穂子（朝日新聞社文化事業部）【6/27】

12 美術鑑賞の未来　ルーヴル-DNP ミュージアムラボ
久永一郎（大日本印刷株式会社　Ｃ＆Ｉ事業部）【7/4】

13 本のはなし
日下潤一（ブックデザイナー）【7/11】

14 旧石器時代洞窟壁画：芸術を創造するホモ・サピエンス
五十嵐ジャンヌ（東京芸術大学非常勤講師）【7/18】

15 まとめ

（春）	全学総合講座（社会を生き抜くセルフブランディングⅠ）	担当者	有吉　秀樹

講義目標

本講座の目的は、さまざまな業界の第一線で活躍する社会人の方々の週替わりの講話を聴く中で、将来求められる社会人像を探り、そのために限られたキャンパスライフをどのように過ごすかを考えることにある。大学生活は高校までの延長ではない。社会への入り口であり、自ら問題を発見する力を養成する場でもある。厳しい就職戦線の様子がマスコミ等で伝えられているが、自らの軸を持ち、目的意識を持って学生生活に臨むか否かは、その後の人生を大きく分けることとなろう。この講座が、大学生活をいかにして送るべきかを考えるきっかけになってくれれば、これに勝る喜びはない。
尚、本講座は春と秋で内容が異なるため、春に受講した学生であっても、秋も登録することが可能である。

本講座は 2010 年度までの「キャンパスライフと仕事Ⅱ」が発展的に生まれ変わった講座である。「キャンパスライフと仕事Ⅱ」を受講済の学生でも登録は可能である。一部講師が重複しており、全く同じ講話はあり得ないが、類似する部分があることを了承願いたい。

講義概要

講師には講座趣旨を踏まえ、社会人の目線から将来をにらんでどのような学生生活を送るべきか、その心構えを中心に説いてもらう。学生生活を始めたばかりの 1 年生を中心的な受講対象として想定しているが、現在の自らの生活に方向性を見失いかけているのであれば、2 年生以上の受講も歓迎する。

受講生への要望

学外の方を迎えての講義である以上、出席こそが単位取得の最大の要件である。また、講義開始 10 分以降の入退室は一切できないので注意すること。

評価方法

評価は出欠と期末の小テスト。3 回欠席した時点で、単位取得は不可能となる。レポートや追試による救済は一切ない。欠席が 2 回以内の者に限り、期末の小テストの採点対象とする。出席カードにおいて不正を働いた者も単位を与えない。

テキスト、参考文献

各回の講師によっては適宜プリントを配布することもある。

授業計画

1. ガイダンスと受講上の注意

2～13. 外部講師による講話

14. 内定者による就職活動体験談（予定）

15. 確認テスト

（秋）	全学総合講座（社会を生き抜くセルフブランディングⅡ）	担当者	有吉　秀樹

講義目標

本講座の目的は、さまざまな業界の第一線で活躍する社会人の方々の週替わりの講話を聴く中で、将来求められる社会人像を探り、そのために限られたキャンパスライフをどのように過ごすかを考えることにある。大学生活は高校までの延長ではない。社会への入り口であり、自ら問題を発見する力を養成する場でもある。厳しい就職戦線の様子がマスコミ等で伝えられているが、自らの軸を持ち、目的意識を持って学生生活に臨むか否かは、その後の人生を大きく分けることとなろう。この講座が、大学生活をいかにして送るべきかを考えるきっかけになってくれれば、これに勝る喜びはない。
尚、本講座は春と秋で内容が異なるため、春に受講した学生であっても、秋も登録することが可能である。

本講座は 2010 年度までの「キャンパスライフと仕事Ⅱ」が発展的に生まれ変わった講座である。「キャンパスライフと仕事Ⅱ」を受講済の学生でも登録は可能である。一部講師が重複しており、全く同じ講話はあり得ないが、類似する部分があることを了承願いたい。

講義概要

講師には講座趣旨を踏まえ、社会人の目線から将来をにらんでどのような学生生活を送るべきか、その心構えを中心に説いてもらう。学生生活を始めたばかりの 1 年生を中心的な受講対象として想定しているが、現在の自らの生活に方向性を見失いかけているのであれば、2 年生以上の受講も歓迎する。

受講生への要望

学外の方を迎えての講義である以上、出席こそが単位取得の最大の要件である。また、講義開始 10 分以降の入退室は一切できないので注意すること。

評価方法

評価は出欠と期末の小テスト。3 回欠席した時点で、単位取得は不可能となる。レポートや追試による救済は一切ない。欠席が 2 回以内の者に限り、期末の小テストの採点対象とする。出席カードにおいて不正を働いた者も単位を与えない。

テキスト、参考文献

各回の講師によっては適宜プリントを配布することもある。

授業計画

1. ガイダンスと受講上の注意

2～12. 外部講師による講話

13. インターンシップ体験者による報告（予定）

14. 内定者による就職活動体験談（予定）

15. 確認テスト

（秋）	全学総合講座(ジェンダーで眺めてみれば)	担当者	上野　直子

講義目標

わたしたちは、オギャアと生まれて死ぬ日までジェンダーまみれ。望むと望まざるにかかわらず、人を「男女」という性別に二分する社会･文化装置のなかで暮らしています。

この講義では、自分自身と自分が暮らす社会をジェンダーの視点から分析的に眺める態度を見につけてもらうのが狙いです。自分が身を置いているジェンダー装置の姿を見通す、アタマの視力を獲得してください。その視力が、受講生のみなさんが、個々人にあった、そして他者の自由を妨げない、人生のフットワークを選びとるのに役立つことを願っています。

講義概要

講義は四つのセクションにわけられる。

まずはもっとも身近な話題、ニッポンの家庭と職場から見てみよう。第二次世界大戦後から現在までの流れを提示し、過去のうえにある現在を考える。その上で、男性学の入門、セクシャリティーについての考察と講義を展開する。ジェンダー問題とは、おもに女性の問題と思いがち、ジェンダーとは文化的・社会的性差であって、セックスはジェンダーの土台となるものと思いがち。しかしそうではないのだ、と講義が終わった後には納得がいくだろう。ニッポンの家庭と職場の考察から始まった講義の締めくくりには、グローバル化した世界における女性の問題を考えてみたい。

講義を通して、ジェンダーシステムとその中に生きる自分自身を複数の視点から問い直していただきたい。

受講生への要望

･出席は大前提です。理由なく三分の一以上欠席した場合は、単位は認定されません。また出席に値しない出席態度の場合は欠席とみなします。
・質問を歓迎します。

評価方法

秋学期開始に先立ち、講義支援システムに掲示する。

テキスト、参考文献

ハンドアウトを用意します。参考文献については、各講師が紹介します。

授業計画

1. 導入　――ジェンダーで眺めてみれば
(上野直子・獨協大学教授)

<u>ジェンダーで読むニッポンの家庭と職場</u>

2. 家庭と職場(1) ―(おとこ／おんな)は(つらい／たのしい)よ――サラリーマンと専業主婦の「豊かな」昭和
(天野和洋・電通プランニングディレクター＋上野直子)

3. 家庭と職場(2)―昭和から西暦ジャパンへ・変わりゆく社会・経済・女と男
(天野和洋・電通プランニングディレクター＋上野直子)

4. 家庭と職場がほころびたとき――法律の現場から
（平沢郁子・弁護士）

<u>男性学とは</u>

5-7. 男性学入門(1)--(3)
(加藤敦也・関東学院大学非常勤講師)

<u>セクシュアリティーを考える</u>

8--10. ジェンダーとセクシュアリティーを考える(1)--(3)
(中村美亜・東京芸術大学助教)

<u>ジェンダーって、セクシュアリティーって何？</u>
11. 講演　（講師未定）

<u>グローバリゼーションと女性</u>

12. 大日本帝国と女たち
（嶋田美子・アーティスト）

13. アジア女性のエンパワメント
（タニア・フセイン・早稲田大学准教授）

14. グローバル・ウーマン(1)
（上野直子・獨協大学教授）

15. グローバル・ウーマン(2)
（上野直子・獨協大学教授）

＊5 回-7 回の「男性学入門」、8 回-10 回の「セクシュアリティーを考える」の各回のタイトルは、秋学期登録に先立ち、授業支援システム等に掲示する。

＊講義内容の大きな変更はありませんが、実施日は講師の都合により変わることがあります。

（秋）	全学総合講座(メディア社会とロック)	担当者	岡村　圭子

講義目標

「ロック」という文化をとおして、わたしたちが生きる現代社会、メディア・音楽産業、グローバル化について考えることが本講義の主なねらいである。
かならずしも音楽についての専門的な知識／経験を持っている必要はなく、それぞれの講師の話を聴くなかから、自分なりに（自分の問題関心に応じて）話題を展開していってほしい。
たとえば、ロックが生まれた背景や、ロックが日本の音楽（J ポップやグループサウンズ）にどういったかたちで影響してきたのかを知ることによって、異文化受容のメカニズムや多文化共生を考える糸口が見つかるかもしれない。観光、ファッションとロック音楽の関連を知るなかから、文化変容の形態やメディアの影響力についての議論が展開できるかもしれない。あるいは、講師の方々のお仕事の内容をじかに聴くことによって、将来の方向性や、目指すべき職業があらたに見つかるかもしれない。いずれにせよ、貴重な経験を自分なりに活かしてほしい。

講義概要

初回のオリエンテーションでは、授業の進め方や評価方法についての説明、受講に当たっての注意、参考文献リストの配布など、受講にあたっての重要なインフォメーションがあるので必ず出席のこと。
講義の前半では、ロックについての基礎的な解説をし、後半は、日本における大衆音楽とメディアとの関係について、さらに、ロックとの関連からそれぞれのテーマについての各論を展開する。
講師にお招きする方は、それぞれ音楽業界での業績が多くあり、経験・知識ともに豊富な方々ばかりである。なかなか聴く機会のない貴重な話や、専門的な話も出てくるかもしれない。ぜひとも、しっかりと予習をしたうえで、積極的に質問をしてほしい。

受講生への要望

1）自分なりの問題関心を持ち、受講マナーを守って講義に参加できる学生を希望します。
2）初回オリエンテーションには必ず参加すること。

評価方法

出席と期末テスト
授業中の質問・発言なども考慮する

テキスト、参考文献

サエキけんぞう『ロックとメディア社会』新泉社

授業計画

1．　オリエンテーション
2．　メディアの発達とロックの進化１
　――ロック誕生の瞬間から現在まで
　　ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ・作詞家・ﾐｭｰｼﾞｼｬﾝ
　　サエキけんぞう
3．　メディアの発達とロックの進化２
　――ロックの変革者たち
　　同上
4．　アニメが飲み込むロック
　――世界を席巻するアニメ文化のグローバル性
　　音楽評論家　冨田明宏
5．　J ポップ論
　　音楽評論家 青木 優
6．　日本のロック・海外進出史
　　サエキけんぞう
7．　ロックフェスティバル考
　――ロックが生み出す消費の現場
　　サエキけんぞう
8．　ロックカルチャーとファッション
　　美術評論家　長澤　均
9．　ワールドクラブカルチャー論
　　音楽評論家　サラーム海上
10．　テクノ音楽と世界
　　音楽評論家　小暮秀夫
11．　グループサウンズ論
　――異形の和製ポップスがもたらしたもの
　　音楽評論家　中村俊夫
12．　ロックとアイドル文化
　　ミュージシャン 掟ポルシェ
13．　ヒップホップ論
　　ミュージシャン 高木 完
14．　越境する音楽
　　音楽評論家 北中正和
15．　まとめ

！注意！
上記の順番は、講師の都合により前後することがあります。

（春）	全学総合講座（経営者が語る現代企業論 1）	担当者	上坂　卓郎

講義目標

この講義は、企業のトップマネジメント経験者が企業経営の現場をやさしく講義するものである。広範な業種の企業に関する話題が取り上げられる。

講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考え、本学で専門知識を深く学ぶ契機となることを期待する。

なお、本科目は全学学生を対象としているので、企業や経営という言葉になじみの薄い外国語学部の学生にもわかるような平易な内容となっている。

春と秋学期は講師陣が異なるので、片方だけ受講しても支障ない。

講義概要

講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて、講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えて下さる。

１年生でも理解できるように平易な説明が行われる。講義と平行して企業について勉強し理解を深めることを期待する。

毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。

講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないように。

受講生への要望

・遅刻･途中退出等は厳禁（事情がある場合は除く）。
・授業の性格上独習はできない。５回以上の欠席は不可評価とする。特に４年生は注意すること。
・ノートを必ずとること。試験に不可欠である。
・真摯な態度で受講すること。

評価方法

出席状況（1/3）と定期試験（2/3）を総合して行う。追試、レポートはないので注意のこと。

テキスト、参考文献

講義の中でハンドアウトが配布される。テキストは特に定めない。企業経営の基本書を並行して読むことが講義の理解を深める。

授業計画

第 1 回 ガイダンス 経営者から学ぶべきこと

第 2 回 会社の仕組みとグローバル経営

第 3 回 ファッションビジネスとは

第 4 回 医薬品産業の難しさ・面白さ

第 5 回 食品産業の新製品開発とマーケティング

第 6 回 花王の成長戦略

第 7 回 日本の自動車メーカーの強み

第 8 回 半導体産業の世界

第 9 回 物流業界の現状と今後の進路

第 10 回 日本のバイオテクノロジー産業

第 11 回 保険ビジネスの現状と課題

第 12 回 総合商社は何を目指すのか

第 13 回 コンビニ業界の成長と今後の課題

第 14 回 リースと不動産の現状と課題

第 15 回 ゲームビジネスの現状と課題

※開講日程は前後する可能性がある。第 1 回ガイダンスで進め方、評価など説明するので必ず出席すること。

（秋）	全学総合講座（経営者が語る現代企業論 2）	担当者	上坂　卓郎

講義目標

経営者が語る現代企業論１に続く講義である。講師陣は春学期と異なる。秋学期から受講しても支障ない。

この講義は、企業のトップマネジメント経験者が企業経営の現場をやさしく講義するものである。広範な業種の企業に関する話題が取り上げられる。

講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考え、本学で専門知識を深く学ぶ契機となることを期待する。

なお、本科目は全学学生を対象としているので、企業や経営という言葉になじみの薄い外国語学部の学生にもわかるような平易な内容となっている。

講義概要

講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて、講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えて下さる。

１年生でも理解できるように平易な説明が行われる。講義と平行して企業について勉強し理解を深めることを期待する。

毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。

講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないように。

受講生への要望

・遅刻･途中退出等は厳禁（事情がある場合は除く）。
・授業の性格上独習はできない。５回以上の欠席は不可評価とする。特に４年生は注意すること。
・ノートを必ずとること。試験に不可欠である。
・真摯な態度で受講すること。

評価方法

出席状況（1/3）と定期試験（2/3）を総合して行う。追試、レポートはないので注意のこと。

テキスト、参考文献

講義の中でハンドアウトが配布される。テキストは特に定めない。企業経営の基本書を並行して読むことが講義の理解を深める。

授業計画

第１回 ガイダンス、会社で働くことについて

第 2 回 世界の３強ブリヂストンの強さの秘密

第 3 回 歴史的・文化的視点から見た日米中の経営比較

第 4 回 ＩＴ社会におけるリスクマネジメント

第 5 回 ツーリズムと航空ビジネスの課題

第 6 回 日本の映画産業とアメリカ発シネコン経営

第 7 回 出版業界の最近の動向

第 8 回 鉄鋼業界に今、何が起こっているか

第 9 回 食品業界から見たコンビニ・量販店の動向

第 10 回 エコ時代における電力業界の戦略

第 11 回 ＮＴＴの戦略

第 12 回 広告業界の役割と今後の動向

第 13 回 銀行ビジネスの現状と今後

第 14 回 業界動向と就職について

第 15 回 講義のまとめ

※開講日程､内容は変わる可能性がある｡第１ 回ガイダンスには必ず出席すること。

（春）	全学総合講座（獨協学）	担当者	川村　肇

講義目標

「獨協学」は獨協学園の歴史と現在そして未来を学ぶ講座です。
獨協学園は時代の変遷のなかで、幾多の試練に耐えて120 年余の歴史を重ね、総じて教育の大道を歩んできました。
この講座の聴講を通じ、学生の皆さんが自分たちの学ぶ学園の歴史とその社会的地位を把握し、それによって獨協大学で学ぶことの意味や、未来にむかう自己の可能性についての展望を得ることを願っています。

講義概要

1883（明治 16）年に創立された獨逸学協会学校は、ドイツ学の普及を好んだ政府から補助金を受け、初期に存在した専修科(法律学校)から、多数の司法官・行政官が輩出しました。
しかし、帝国大学の官僚養成体制が確立すると、政府の援助は打ち切られ、専修科は廃止され、医学への進学者が多いという特色はあるものの、一中等教育機関としての普通科（獨協中学・高等学校の前身）が残っただけでした。
やがて経営的に行きづまり、明治 30 年代と第一次世界大戦後には、東京府への経営移管も考えられるほどの困窮をみます。第二次世界大戦中は、ヒトラーユーゲント来校などにみられるドイツを友邦とする国際情勢もあって、勢いを盛り返しましたが、戦争は学園を荒廃させました。
戦後、獨逸学協会学校中学の卒業生天野貞祐が校長に就任、人間の尊重を掲げて学校再建をはかりました。そして1964（昭和 39）年、「大学は学問を通じての人間形成の場である」との理念のもとに、獨協大学が建学されたのでした。

受講生への要望

ゲスト・ティーチャーの講義の後に、積極的に質問・発言してください。
私語は厳に慎んでください。迷惑な場合には、退席を命じることがあります。

評価方法

まとめのレポートに、出席を加味します。出席は 6 割が必須で、毎回 20 行程度の感想文の提出を求め、評価します。ここまでで最高 B 評価とします。さらに最終レポートを提出すれば、最高 AA 評価とします。なお、授業中の質問や発言は高く評価します。

テキスト、参考文献

『目でみる獨協百年』(獨協学園)。
『獨協学園史 1881-2000』(獨協学園)。
堅田剛『獨逸学協会と明治法制』(木鐸社)。
新宮譲治『獨逸学協会学校の研究』(校倉書房)。
上記文献は図書館に所蔵されています。

授業計画

1　学長挨拶とガイダンス（犬井正：学長・川村肇）
2　「獨協」のはじまり――明治期の学校風景（川村肇）
3　初期の獨逸学協会学校――法律学校から医学進学学校へ（新宮譲治：本学元非常勤講師）
4　大村仁太郎校長の先駆的教育論（新井孝重：本学経済学部教授）
5　戦時期から戦後の獨協中学校――ヒトラーユーゲント来校と戦後のスタート（川村肇）
6　天野貞祐の人と思想（1）――「大学は学問を通じての人間形成の場である」の人間形成とは何をめざすことなのか（雪山伸一：元朝日新聞ボン支局長）
7　天野貞祐の人と思想（2）――カント哲学と天野貞祐（渡部重美：本学外国語学部教授）
8　天野貞祐の人と思想（3）――『道理の感覚』を読む（渡部重美）
9　獨協大学の創設と発展――開学から 80 年代まで（下川浩：本学名誉教授、非常勤講師）
10　大学改革の 15 年――学部・学科増設と全学共通カリキュラム（金井満：本学外国語学部教授・川村肇）
11　松原団地駅前開発と獨協大学――地域の中の大学を考える（石井純司：本学施設事業部長）
12　獨協大学とキャリア形成（大曲敏之：本学同窓会前会長・関口武司：キャリアセンター次長）
13　大学史の中の獨協大学（寺﨑昌男：立教学院本部調査役・東京大学名誉教授）
14.15　まとめ（川村肇）

上記の日程と内容は、講師の都合で変更することがありますので、あらかじめ了承しておいてください。

（春）	全学総合講座(教えるという仕事)	担当者	川村　肇

講義目標

教職課程で学ぶ諸科目の入門として、教職の意義と教職に就く心構えを学ぶとともに、教えるということはどういうことか、子ども（あるいは人間）というものをどう見るのか、学校とは何か、学校という職場にはどういう問題があるのかなど、さまざまな角度から教育に対する見方を鍛えることを目標とします。

特に国連子どもの権利委員会から勧告されている体罰の問題については、その問題を正しく把握することが必要です。

併せて「教えるという仕事」の実態を学ぶことを通じて、働くということの持つ意味を深める機会を提供します。

講義概要

１．主として埼玉県の教育現場の先生方、全体で 10 人程度を招いて、学校での様々な取り組みについて講義して戴きます。これを通して、教職の意義及び教員の役割および教員の職務内容を学びます。それぞれ、右の授業計画にあるようなテーマ（仮題）でお話しいただく予定です。模擬授業や、ビデオ観賞なども予定しています（ただし、先生方の都合で、順番や内容が変わることがあります。ご了承ください)。

２．進路選択に資する各種の機会の提供を行ないます。

３．諸問題が教育や社会に投げかけている問題を認識し、教職の役割を明確にすることで、今後の学習につなげていく道筋を理解していきます。特に体罰については、その問題点をきちんと理解することを求めます。

また、これを通じて、広く社会の問題にも目を向け、考えていくきっかけを作ってほしいと思っています。

受講生への要望

教職課程に登録している学生を優先しますが、履修登録に空きがあれば、教職課程に登録していない学生の参加も歓迎します。
積極的、意欲的に参加してください。

評価方法

毎回の授業レポート（学んだこと、20 行程度）の提出をもって出席点とし、最終レポート（A4 判用紙で 3～4 枚）と併せて評価します。出席は 6 割が必須です。

テキスト、参考文献

高橋陽一編『新しい生活指導と進路指導』（武蔵野美術大学出版部）
その他、配布プリント類によります。
参考文献は、授業中適宜紹介します

授業計画

1　ガイダンス
テレビ東京制作「星空の中学生とともに」

2　松崎運之助（元夜間中学教諭）
「学ぶとは何か――夜間中学校を中心に」

3　遠藤芳男（元定時制高校教諭）
「定時制高校の国語――詩の授業と教師の守秘義務」

4　白鳥勲（さいたま教育文化研究所）
「貧困社会の教育（1）子どもを支える」

5　窪岡文男（テレビ・ディレクター）
「貧困社会の教育（2）奨学金を考える」

6　岩田彦太郎（中学校教諭）
「教師の仕事――職掌と労働実態」

7　宮下与兵衛（元高校教諭）
「生徒の学校参加――三者協議会の取り組み」

8　関口武（小学校教諭）
「小学校の生活指導――一年間の実践構想」

9　嶋村純子（中学校教諭）
「中学校の教科指導（1）英語を教える」

10　小堀俊夫（元中学校教諭）
「中学校の教科指導（2）社会科を教える」

11　中村悌一（さいたま教育文化研究所）
「中学校の生活指導（1）子どもの自治」

12　中村悌一（さいたま教育文化研究所）
「中学校の生活指導（2）いじめと不登校」

13　川村
「体罰を考える」

14　川村
「教師という職業選択」

15　まとめ

（春）	全学総合講座（NPO 論　人を変える・地域を変える・世界を変える）	担当者	高松　和幸

講義目標

講義では、企業 CSR や NPO などの貢献活動に関する、さまざまな取り組みについて、現実の臨場感あふれる模様を紹介することに主眼を置く。問題意識は、次のような視点もある。

解題：「疲弊した地域を取り巻く環境は厳しくなるばかりで，その地域のために，今こそ，企業・行政・市民が共働して，課題解決をしなければならない」

企業は、自社のCSR活動がもっぱら戦略的な行為としてなされるべきではなく、公共的な空間（場）に根ざしたものとして追求される必要がある。企業・行政も市民社会の一員として、地域に責任を持つ時代に入った。

講義概要

ドラッカーは『非営利組織の経営』の中で、市民社会を構成するセクターとしてNPOは経営学的にも注目される対象であるとして、NPOの運営において、ミッションの重要性を指摘すると共に、マーケティング戦略、人材育成、成果測定といった企業並みのマネジメントの必要性を主張した。

その背景には、もはや旧来の慈善寄付に頼っては財政的に成り立たないという、米国をはじめとする先進国のNPOが直面する危機があったが、NPOが生き残りをかけて事業展開に力を入れるにつれ、あらたなパートナーとして企業に働きかけ、企業と共に地域の問題解決に向けて進む動きが見られるようになった。

企業にとってもCSRを果たすべきことが求められ、その流れの中で、NPOと共にコミュニティ支援活動に乗り出す事例が増えてきた。

もとよりNPOはその組織使命の遂行のために企業と協力するのであるが、NPOにとって不足しがちな経営資源（資金・人材など）を企業によって補えることから、企業への依存関係が発生するというリスクを抱えている。

企業への依存が強まると、資本拡大をめざす企業にとっては好都合で利用される可能性が増すことになるが、NPOは公共的な使命を遂行するために、NPOにとっての倫理的基盤が損なわれ得ることを覚悟した上で，協働することになる。

かくして、その真偽はいかにあるか。様々な活動を通しての社会との接点をみることで、これら諸問題に関して、本講義では正面から取り上げて展開する。

受講生への要望

- 積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。
- １５分以上の遅刻は認めない。
- ノートは必ずとること。

評価方法

平常点（出席・質問など）　７０％
レポート　　３０％

テキスト、参考文献

その都度、指示する。

授業計画

1. ガイダンス　高松和幸
2. 企業連携のｿｰｼｬﾙﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを企画して東北復興を支援する
   谷中修吾（復興支援ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ「道のｶﾌｪ」ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ）
3. 地域資源を活用！地域ｲﾉﾍﾞｰﾀｰを生み出すまちづくり
   市来広一郎（NPO 法人 atamista 代表理事）
4. テーマ未定
   吉田理映子（ハンズオン！埼玉副代表理事）
5. 防災分野で社会に、そして世界に挑む－NPO　法人プラス・アーツの軌跡
   永田宏和（NPO 法人プラス・アーツ理事長）
6. テーマ防災関連
   講師交渉中
7. アメリカのコミュニティ・ディベロップメント－貧困地域で活躍する非営利組織
   仁科伸子（コミュニティ・グロウス・カンパニー代表）
8. ふじみの国際交流センターの活動
   石井ナナエ（ふじみの国際交流センター理事長）
9. 環境 NPO とソーシャルビジネス
   平田裕之（エコアパートプロジェクトチーム　プロデューサー）
10. テーマ未定
    岡　冬彦（観光マーケティング研究所副所長）
11. 紙製飲料容器「カート缶」
    世木田大介（森を育む紙製飲料容器普及協議会チーフプロデューサー）
12. 異彩を放つ小さな町からのメッセージ－オペラ彩の 25 年
    和田タカ子（NPO 法人オペラ彩　理事長）
13. 社会的企業－ベンチャー企業としての NPO
    山本裕隆（NPO 法人とよあしはら事務局長）
14. 美しい川を取り戻すために－NPO による川のﾈｯﾄﾜｰｸ構築
    村田惠子（さいたま NPO センター専務理事）
15. まとめ　高松和幸

上記の授業計画は講師の都合などにより変更することがあります。

(秋)	全学総合講座（地域活性化システム論－これからの「まちづくり」のヒントを探る）	担当者	高松　和幸

講義目標

この講義は，地域活性化をキーワードに，地域の活性化とまちづくりなどを制度の面や人的な面，社会諸資源の面から考察するプログラムである。地域活性化システム論では，地域やまちの置かれている状況や潜在力とは何かについて考え，様々な取組事例を紹介するなど、分かりやすく講義するとともに，各都道府県の市町村毎，いずれも地域の創意工夫にあふれた取組みがあり、それが地域特性である。それを支援するという意味では共通しており，それぞれの地域が相対化されることで、支援枠組みを利用しての地域活性化が期待されている。

本講義では，こうした取組みについて，講師を招いて開催する。わが国の地域活性化の方向が学べるように工夫している。

講義概要

この科目は内閣府の協力を得て実施している講義である。具体的な施策や事例など、例示しながら講義する。

各講義の個別テーマは授業計画（最初の授業時に配布する）のとおりであるが，わが国の地域活性化の最先端の問題を中心に，テーマ設定を行っている。

この結果，地域の中で起きている様々な事例を通して，地域の実情が理解できると共に，地域の課題についての新たな認識と共に，自分が住んでいる地域や将来住むであろう地域の可能性に関して，示唆に富んだ内容が展開される。

この講義を通じて，地域で求められる人材に関する具体的な問題意識を得ることができであろう。

受講生への要望

- 積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。
- １５分以上の遅刻は認めない。
- ノートは必ずとること。

評価方法

平常点（出席・質問など）　７０％
レポート　　３０％

テキスト，参考文献

その都度，指示する。

授業計画

1．ガイダンス　　高松和幸

2．温泉から見た地域活性
岡　冬彦　観光マーケティング研究所　副所長

3．コミュニティカフェの現状と今後
田中尚輝公益社団法人長寿社会文化協会

4．やる気を起こせば必ず奇跡は起きる
行政に頼らない村おこし
豊重哲郎　鹿児島県鹿屋市柳谷自治公民館館長

5．地域活性化の動向
木村俊昭　元農林水産省大臣官房政策課　企画官

6．世界の食料事情と環境の関係
末松広行　林野庁林政部長

7．地域プロデューサーがつくる地域ブランド
廣川州伸　日本作家協会事務局長

8．市町村合併と心の合併
映画づくりの過程が地域の人々の心をつなぐ
林　弘樹（映画監督）　有限会社FireWorks

9．観光と地域活性
綿石隆人　㈱JTB法人東京　本社ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ部　部長

10．持続可能な“手法としての共通ポイント”サービス
斉川　満　㈱サイモンズ　代表取締役社長

11．地域活性化はなぜ必要か
尾羽沢信一　フォアサイトリサーチラボ代表

12．ローカル線は心の栄養剤
鳥塚　亮　いすみ鉄道㈱　代表取締役社長

13．都市の超高齢者と地方の健康資源を結ぶ 介護旅行システム
篠塚恭一　ＮＰＯ法人　日本トラベルヘルパー協会　理事長

14．新しい公共（まとめ）
舘　逸志　内閣府大臣官房審議

15．未定
内閣府

上記授業計画は講師等の都合により変更することがあります。

（秋）	全学総合講座（情報社会とルール）	担当者	夛賀谷　一照

講義目標

インターネットの普及、スマートフォンなどにより、今後の社会活動が物理的空間から情報空間に移っていく過程において、対面関係を前提としてきた社会ルールがどう変容していくか、新たな情報空間上の社会関係をどう形作っていったらよいかについて、学生諸君に問題意識を持ってもらうことを目標とする。

講義概要

情報社会、情報空間について、情報公開・個人情報保護などから始まって、インターネットや光ファイバーによるブロードバンドサービスによって、既存の通信・放送にかかるルールがどう変容したか、暗号技術などにより新たなルールをどう作っていくか。それぞれの分野の専門家により、オムニバス方式で講義してもらう。（講義の順番、内容について若干の変更の可能性がある）

受講生への要望

新聞やホームページなどに載っている最新動向にも注目すること。

評価方法

講義全体の中で、2 回程度レポート提出を求める。また、中間まとめでは、諸君か授業を理解しているかを確認するための小テストを行う可能性がある。これらに基づいて評価する。

テキスト、参考文献

各授業でレジメを配布する。

授業計画

第１回　総説
第２回　情報社会と違法有害通信
第３回　ウイキリークス、盗聴
第４回　著作権と情報（！）
第５回　著作権と情報（２）
第６回　－　第８回　通信システムと情報社会
　　通信システムとその変容
インターネット、プロバイダ、クラウド
　　電子商取引
　　サイバー空間のルール
第９回　－　第 11 回　放送と情報社会
　　放送と表現の自由
　　ブロードバンドサービス
　　コンテンツ流通とそのルール
第１２回　中間まとめ
第 13 回　個人情報保護
第 14 回―第 15 回情報セキュリティによるルール
　　公開鍵、量子暗号
　　電子署名
DRM

（春）	全学総合講座　（Art（技術／芸術）の舞台裏）	担当者	谷口 亜沙子

講義目標

現在の日本語で「アート Art」といえば、おもに美術、とりわけ造形芸術のことをさしますが、Art の語源であるラテン語の Ars は、もともと「技術」「わざ」を意味する語でした。そして、科学技術を含む「技術」もまた、「芸術」におとらぬほど、人類の感性にはかりしれない影響をあたえてきたものです。

この講座では、「芸術」と「技術」の双方を視野に入れながら、ひとりで作品を見ただけでは知ることのできない Art の「舞台裏」や、ふだんの生活のなかではあまり意識することのない「技術」の問題について考えてゆきます。

詩、小説、絵画、映画、写真、彫刻、建築などの「芸術 Art」において「わざ」の問題はどうなっているのか。創造の現場では、どんな問題があり、どんな解決策や工夫が生まれてきたのか。「技術」や「産業」が進歩したとき、「芸術」はどんな変化をこうむるのか。「わざ」なしの「芸術」はありうるのか。

「ホモ・ファーベル（作る人）」であり、「ホモ・ルーデンス（遊ぶ人）」でもある人間の創造活動について、まずは、多くの「問い」を持つことから始めてみてください。

講義概要

文系、理系、芸術系、さまざまな分野で活躍する講師陣に、毎回、独自の視点から「技術」と「芸術」、あるいはそのどちらかについての「舞台裏」についてのお話をしていただきます。

受講生への要望

遅刻をした場合には、中に入ることができなくなります。十分な余裕をもって教室に来てください。そのほかのことについては、第一回の授業でくわしく説明します。

評価方法

平常点と定期試験。

テキスト、参考文献

そのつど紹介があります。

授業計画

1. イントロダクション ―― 「学び」の技法
   谷口亜沙子（本学フランス語学科准教授）4/10
2. 対話の場をつくる ―― 科学とロシア文学と
   長谷川麻子（日本科学未来館科学コミュニケーター）4/17
3. 空中に絵を描く ―― 三次元描画による表現活動
   大崎章弘（日本科学未来館科学コミュニケーター）4/24
4. 火・道具・鐵 ―― 技術と文化を考える
   長谷川雅康（鹿児島大学名誉教授）5/1
5. チェコで創るということ
   ペトル・ホリー（前チェコセンター所長）5/8
6. 新聞小説の技法 ―― 人気作家になる秘訣
   一條由紀（早稲田大学非常勤講師）5/15
7. ヒーローのつくりかた ―― 19 世紀イタリア統一運動をめぐる絵画・挿絵・テクストの戦略
   尾崎有紀子（早稲田大学イタリア研究所招聘研究員）5/22
8. コマの間の愛と憎しみ
   真賀里文子（立体アニメーション作家）5/29
9. タタキツクルコト
   ―― 人型巨大ロボット「クラタス」の製作
   倉田光吾郎（鉄アーティスト）6/5
10. 絵画・写真・映画
    ―― モホイ＝ナジにおける視覚造形理論の形成
    山本敦（本学ドイツ語学科教授）6/12
11. 耳をすませば ―― 映画と音楽の幸せな関係
    柳下美恵（サイレント映画ピアニスト）
    ＊ ピアノ伴奏による上映あり　6/19
12. 建築における構造と美
    鈴木隆（本学フランス語学科教授）6/26
13. 能の面
    アダム・ゾーリンジャー（本学英語学科准教授）7/3
14. アルスとしての色彩知覚
    加藤有希子（埼玉大学教育機構教育企画室准教授）7/17
15. まとめ
    谷口亜沙子（本学フランス語学科准教授）7/10

（春）	全学総合講座（環境学 1） （環境基礎学－自然を見つめる）	担当者	環境共生研究所提供講座 中村　健治

講義目標

20 世紀中葉以降、地球の温暖化、オゾンホールの拡大、酸性雨、熱帯林の減少、砂漠化、大気や海洋の汚染など、多方面にわたる地球規模での環境破壊が深刻化した。さらに、都市・人口・食糧問題、南北格差の拡大、民族対立の激化など、政治・経済・社会問題も深刻の度を増しつつある。今ほど、地球環境を保全して人類の平和と安寧を促進し、われわれの子孫に負の財産を遺さないための叡知の結集と努力が求められている時代はない。「環境共生研究所」は、そのような時代の要請に応えるべく、地域環境問題や地球環境問題の解決に向けて調査・研究を進め、社会や大学教育においてその成果を還元することを目的として設立された。本講座は、「環境共生研究所」の設立趣旨にそって提供するものである。

本講座を通じて学生諸君が環境共生社会の基盤となる自然環境と社会のあり方についての基本概念を身につけることを目標とする。

講義概要

春学期は、環境問題を考える際の基礎となる「自然環境の成り立ち」および「自然と人間社会のかかわり」について検討する。

本講座は、環境共生研究所研究員・経済学部中村健治教授がコーディネーターとなり、環境共生研究所客員研究員加藤名誉教授および松本経済学部非常勤講師（元筑波大学地球科学系教授）ほかが担当する。

受講生への要望

環境は、学際的扱うべきテーマです。この講座を通じて広い視野を獲得するよう望みます。

評価方法

定期試験と出席状況を総合的に評価します。
なお、担当教員からレポート等が課された場合は、これも加味します。

テキスト、参考文献

各担当教員より指示されます。

授業計画

1．環境とは何か
2．最近の地質時代の環境変動
3．海水面変化と地盤運動
4．平野の形成
5．地表プロセスと災害
6．土壌の生成と人為的改変
7．地域の気候変化
8．地球温暖化
9．宇宙からみた地球（地球の観測）
10．データから見る地球環境の変動
11．植物とエネルギー循環
12．植物分布と地理的環境
13．人類と環境（1）
14．人類と環境（2）
15．まとめ

（秋）	全学総合講座（環境学２） （環境応用学－環境と社会）	担当者	環境共生研究所提供講座 中村　健治

講義目標

20 世紀中葉以降、地球の温暖化、オゾンホールの拡大、酸性雨、熱帯林の減少、砂漠化、大気や海洋の汚染など、多方面にわたる地球規模での環境破壊が深刻化した。さらに、都市・人口・食糧問題、南北格差の拡大、民族対立の激化など、政治・経済・社会問題も深刻の度を増しつつある。今ほど、地球環境を保全して人類の平和と安寧を促進し、われわれの子孫に負の財産を遺さないための叡知の結集と努力が求められている時代はない。「環境共生研究所」は、そのような時代の要請に応えるべく、地域環境問題や地球環境問題の解決に向けて調査・研究を進め、社会や大学教育においてその成果を還元することを目的として設立された。本講座は、「環境共生研究所」の設立趣旨にそって提供するものである。

本講座を通じて学生諸君が環境共生社会の基盤となる自然環境と社会のあり方についての基本概念を身につけることを目標とする。

講義概要

秋学期は、地球・地域環境問題の現状とそれに対するさまざまな主体の対応を具体的に検討するとともに、環境共生社会へ向けた具体的な取り組みについて検討する。

本講座は、環境共生研究所研究員経済学部中村健治教授がコーディネーターとする、環境共生研究所研究員および何人かの外部講師による連続講義である。

受講生への要望

環境は、学際的扱うべきテーマです。この講座を通じて広い視野を獲得するよう望みます。

評価方法

定期試験に出席状況を総合的に評価します。
なお、担当教員からレポート等が課された場合は、これも加味します。

テキスト、参考文献

各担当教員より指示されます。

授業計画

1　オリエンテーション
2　地球・地域環境問題の諸相（１）　人口と食料問題
3　地球・地域環境問題の諸相（２）　熱帯林の破壊１
4　地球・地域環境問題の諸相（３）　熱帯林の破壊２
5　地球・地域環境問題への対応　環境経済・政策（１）
6　地球・地域環境問題への対応　環境経済・政策（2）
7　地球・地域環境問題への対応　環境と法（1）
8　地球・地域環境問題への対応　環境と法（2）
9　地球・地域環境問題への対応　環境教育（1）
10　地球・地域環境問題への対応　環境教育（2）
11　地球・地域環境問題への取り組み（１）
12　地球・地域環境問題への取り組み（２）
13　地球・地域環境問題への取り組み（３）
14　地球・地域環境問題への取り組み（４）
15　まとめ

（春）	全学総合講座 （働くための基礎知識―知って得する労働問題）	担当者	野村　容康

講義目標

近年の金融危機は実体経済にも波及し、日本経済も低成長を余儀なくされている。このような経済状況およびグローバルゼーションの進展もあり、雇用をめぐる環境は厳しいものとなってきている。

大学生の就職状況も非常に厳しい状況が続いており、今年度においても大きな好転は望まない状況にある。ロスト・ジェネレーションといわれる世代の再出現が懸念されている。また、職場における労働環境も特に若年層において厳しいものがある。

本講義においては、「働くこと」をめぐる様々な問題について多様な切り口から接近し、私たちの暮らし・生き方と労働がどのように関わっているかについて考えていくことにする。

講義概要

講義は毎回ゲストスピーカーを招き行うことにする。労働組合関係者だけでなく、経営者団体・労働法学者・社会保障学者等の多様な一級の講師から「働くための基礎知識」を習得できるようにする。

受講生への要望

労働問題に関する新聞記事を読んだり、テレビニュースを見て、現在何が問題になっているかを自分なりに把握しておくこと。私語は厳に慎み、講師の方に失礼のないように真摯な態度で受講すること。

評価方法

原則として定期試験の成績により評価する。

テキスト、参考文献

各回の講義において紹介する。

授業計画

以下のようなスケジュールを予定しているが、論題や講義の順番は変更する場合がある。

1. ガイダンス
2. 社会保障法の基礎知識
3. 日本の社会保障制度―超高齢社会を迎えて
4. 少子化対策を考える―共働き社会の課題
5. 労働法の基礎知識（1）
6. 労働法の基礎知識（2）
7. 政策制度への取り組み―政府に対する要求
8. 労使関係論（1）労働側からみて
9. 労使関係論（2）経営側からみて
10. 職場における女性と男性
11. 労働安全衛生―メンタルヘルスを含む
12. 公務員の世界
13. 協同組合の役割―労働金庫、全労災、生協など
14. 諸外国の社会保障制度
15. まとめ

（春）	全学総合講座（ポピュラー文化と社会）	担当者	平田　由紀江

講義目標

受講生にとって身近だと思われるポピュラー文化をまじめに考えていく講座である。今年度はアニメーションとマンガをテーマとする。
社会を見つめるもうひとつの視点を知り、理解してもらうことが講義目標である。

講義概要

原則２回連続で同じ講師による講義を行う。ポピュラー文化から現代社会の様相を考えていく。

受講生への要望

初回講義には必ず出席のこと。

評価方法

出席
期末テスト

テキスト、参考文献

適宜紹介する。

授業計画

１イントロダクション

２グローバリゼーションとアニメーション：インドの場合

３グローバリゼーションとアニメーション：インドの場合

４アニメの製作にみるグローバル化と労働環境変化

５オタク的消費スタイルの誕生：1980 年代とアニメ文化

６わたしの中の韓 流、そして映画『はちみつ色のユン』
～ある 韓国系国際養子のアイデ ンティティ探し～
（アニメーション映画『はちみつ色のユン』上映）

７わたしの中の韓 流、そして映画『はちみつ色のユン』
～ある 韓国系国際養子のアイデ ンティティ探し～

８ロボット文化と日本社会①

９ロボット文化と日本社会②

１０－１１未定

１２マンガと社会

１３マンガと社会

１４まとめ

１５まとめと課題提出

（春）	全学総合講座（現代日本論）	担当者	本田　浩邦

講義目標

本講座では、現在の日本の政治・経済・社会の問題を様々な角度からとらえます。「政治や経済の問題はむずかしい」と考えている人も、学期をとおして聞いているうちに、問題を考えるヒントが見いだせるはずです。

新聞や雑誌を読むときなど、与えられた報道だけで判断せず、自分なりに考えてそれらに接することができる、そうした力を身につけることがこの講座の目的です。

講義概要

日本の政治構造を多角的に分析する今回の連続講座では、それぞれの分野で日本を代表する方々をお招きしています。

なお、講師の先生方のご都合などで予定が変更になる可能性がありますので、予定変更の掲示をよく見ておいて下さい。

受講生への要望

外部講師の方々のレクチャーでもあり、とりわけ受講態度には気をつけて下さい。私語などないようにお願いします。

評価方法

出席４０点、最終試験６０点、合計１００点で採点します。毎回出欠確認を行い、感想文を書いて頂きます。定期試験期間中の試験は行いませんので注意して下さい。

テキスト、参考文献

授業計画

1. はじめに・評価方法の説明・諸注意
2. 日本の安全保障Ⅰ―日本国憲法と安保条約
浅井基文氏（元外交官／広島平和研究所元所長）
3. 日本の安全保障Ⅱ―領土問題と沖縄を考える
浅井基文氏
4. 日本の安全保障Ⅲ―集団的自衛権と集団安全保障
浅井基文氏
5. 日本政治の構図Ⅰ―政党政治の戦後史
渡辺治氏（一橋大学名誉教授）
6. 日本政治の構図Ⅱ―ポスト３・１１の政治状況
渡辺治氏
7. 現代文明と思想
岩佐茂氏（一橋大学名誉教授）
8. 原発問題―発生から現在まで
蓮池透氏（元東京電力社員）
9. いま学校はどうなっているか？
山本由美氏（和光大学教授）
10. 地方自治を考えるⅠ―自治体の役割と人々のくらし
池上洋通氏（多摩住民自治研究所）
11. 地方自治を考えるⅡ
―原発マネーと地方自治体の財政
池上洋通氏
12. 日本経済の争点Ⅰ―消費税と日本の税金
武田知弘氏（元大蔵官僚、ライター）
13. 日本経済の争点Ⅱ―財政危機と社会保障
武田知弘氏
14. まとめ（本田浩邦）
15. 最終試験

（秋）	全学総合講座（現代社会論）	担当者	本田　浩邦

講義目標

本講座は、春学期の「現代日本論」の続編的な講座ですが、現在日本の政治・経済・社会の問題をあつかった春学期に加えて、グローバルな視点からの話題を比較的多く取り上げています。現在の国際社会で日本がどのような役割を果たすべきかを考えるための講座です。

講義概要

春学期に引き続き、今学期もそれぞれの分野でご活躍されている方々をお招きしています。

なお、講師の先生方のご都合などで予定が変更になる可能性がありますので、予定変更の掲示をよく見ておいて下さい。

受講生への要望

外部講師の方々のレクチャーでもあり、とりわけ受講態度には気をつけて下さい。私語などないようにお願いします。

評価方法

出席４０点、最終試験６０点、合計１００点で採点します。毎回出欠確認を行い、感想文を書いて頂きます。定期試験期間中の試験は行いませんので注意して下さい。

テキスト、参考文献

授業計画

1. はじめに・評価方法の説明・諸注意
2. 東アジアの平和と安定のために
E・パストリッチ氏（慶熙大学教授）
3. 現代の戦争と平和
前田朗氏（東京造形大学教授）
4. ファインダーをとおしてみる世界と日本
―スラムに生きる
佐藤慧氏（フォト・ジャーナリスト）
5. ファインダーをとおしてみる世界と日本
―大震災と日本
佐藤慧氏
6. ベーシックインカム―社会保障のラディカルな代替戦略
岡野内正氏（法政大学社会学部教授）
7. 財政危機をどうするか？―消費税・所得税・法人税
井上伸氏（国交労連）
8. はじめてのフェミニズム―「わたし」を生きるということ
米田佐代子氏（「らいてうの家」館長・元山梨県立女子短期大学教授）
9. 金融取引税とは何か？―国際的な所得再分配の構想
田中徹二氏（オルタモンド事務局）
10. 拉致問題をどう考える―解決の枠組みを探る
蓮池透氏（北朝鮮による拉致被害者家族連絡会元事務局長）
11. 沖縄問題
窪岡文雄氏（元日本テレビ・ディレクター）
12. 新しい経済社会―ヨーロッパ・モデルと日本
本田浩邦氏（本学経済学部）
13. 未定
14. まとめ　本田浩邦氏
15. 最終試験

（春）（秋）	全学総合講座(健康をスポーツを世界を考える)	担当者	松原　裕

講義目標

健康・スポーツ・世界という言葉がキーワードになりますが、それぞれの言葉を広く捉えられるように、また、今後の学生生活や生き方を各自が考える上でのヒントを各々が発見できるように、知的刺激を与えることが目標です。

講義概要

ゲストを招いて、講義を受ける形式になります。毎回の授業で感じたこと、考えたことを配布した用紙に各自が記入して提出してもらいます。その場での質疑応答も出来ます。
内容は、健康・スポーツ・世界というキーワードに関連して各ゲストがテーマを設定し、ゲストごとに完結したものになります。骨盤調整、応急処置、薬、栄養、バリアフリー、ヒッピー文化、総合型地域スポーツクラブ、戦争とテロ、パレスチナ、ユーゴスラビア、大震災、原子力発電などを切り口として概論を講義します。
救急法の実技、骨盤調整の紹介があります。

受講生への要望

顔写真付受講票の提出、三角巾の準備、また、毎回出席し聴くことのできる心身の準備をお願いします。

評価方法

毎回記入した用紙、最終レポート、受講態度を総合して評価します。

テキスト、参考文献

必要により紹介したり、プリントを配布します。

授業計画

第１回授業時、第２回授業時に提示します。
基本的なテーマは次の通りですが、ゲストの日程調整などの都合で前後します。

１　ガイダンス
２　心のバリアフリー
３　誰でも出来る応急処置（理論）
４　誰でも出来る応急処置（実技）
５　天職との出逢い
６　ヒッピー文化
７　ユーゴスラビア（祖国解体の過程とサッカーによるアイデンティティー
８　薬と健康
９　管理栄養士から
１０　総合型クラブの可能性①
１１　総合型クラブの可能性②
１２　テロと戦争
１３　パレスチナ
１４　骨盤調整
１５　大震災

（秋）	全学総合講座 （童話（メルヒェン）の可能性をめぐって）	担当者	矢羽々　崇

講義目標

皆さんにとって，昔話・メルヒェンとはどういうものでしょうか？　子供時代に読み聞かせてもらっただけの過去のものでしょうか？　これらの物語の形式は，その単純さのせいで軽視されたりもしますが，実は文学の根本にあるものです。文学ばかりではなく，テレビドラマや映画などの根底を支えているといっても過言ではありません。そしてそれ以上に，私たちの生活をも（私たちは意識していなくても）規定しているのです。女性であればシンデレラストーリーに自分を重ねてみたり，男性であれば自分の中の「おおかみ」を意識すること(?)もあるでしょう。そんなメルヒェン・民話の可能性をめぐって話を進めていきます。

講義概要

この講座が目標とするのは，皆さんに自分たちの中の昔話やメルヒェン，そして文学を意識し，できれば時代を「読む」可能性を見いだしてもらうことです。昔話・メルヒェンの中にある人間の原型的なもの。グリム童話ならその成立期である19 世紀という時代の考え方。グリムが盛んに書き換えられた 20 世紀の様相。さらに今の私たちが生きる 21 世紀の価値観。こうしたさまざまなベクトルを対比しながら，21 世紀初頭に日本で生きている自分たちを相対化できる視点を持ってもらえれば，この講座はその役割を果たすことになります。

講座は基本的に約 1 時間の講師による講義，残りの時間を講師とコーディネーターとの対話・参加者との質疑応答にあてます。「対話」は学問の土台です。ぜひ積極的に質疑にも参加してください。

受講生への要望

積極的に参加してくれることを望みます。

私語や遅刻など，他の学生や講師の方々に迷惑をかける行為は厳に慎むように。また，授業中の携帯使用は禁止とし，発見した場合には厳格に対処します。

評価方法

出席（20%）および学期末定期試験の成績（80%）によって決定します。欠席が 4 回以上の場合，評価の対象としません。遅刻・無断退出（出入り）も欠席とみなすことがあります。

テキスト、参考文献

第 1 回授業で指示します。参考文献はそれぞれの先生からも適宜指示があります。

授業計画

第 1 回授業時に提示します。

基本的な予定テーマは次のとおり。講師の日程調整などの都合で前後することがあります。

1　ガイダンス

2　メルヒェンとは何か

3　昔話の法則性

4　昔話のメッセージ

5　昔話を聞く

6　グリム・メルヒェンの舞台

7　グリム以前のヨーロッパのメルヒェン

8　グリム・メルヒェンの成立

9　メルヒェンの国際比較

10　グリム以後のメルヒェン 1

11　グリム以後のメルヒェン 2

12　20 世紀のメルヒェン

13　メルヒェンの映像化 1

14　メルヒェンの映像化 2

15　パネル・ディスカッション
（学生数名+矢羽々）

（春）（秋）	全学総合講座（キャンパスライフと仕事）	担当者	山越　徳

講義目標

４年間の学生生活を通して、人間形成をどのように進めるか、何を学ぶか、何をどの程度まで達成できるかなどを確認するための糧となる話を各分野の専門家からしてもらう。それにより２年次以降の目標と将来のライフスタイル、自分の夢を実現するためのキャリアデザインを明確に意識させることにより、生き生きとした学生生活を送れるようにする。

右のスケジュールは暫定的に示したもので、ほぼ確定した段階でスケジュール表を配布する。予定では第１回目もしくは第２回目の授業にて配布する予定。

講義概要

選択するのは「入りたい企業」ではなくて「自分がやりたい仕事」である。「就社」ではなくて「就職」であることを意識させる。自分の選択した生き方によって職業選択も変わることが理解できるようにする。そのため多様な職業の実態を知る機会を提供し必要な知識、技能を理解させる。本講義では様々な業種の現役で活躍中の社会人を迎えて「ありのままの仕事の様子」を語ってもらう。毎回質問の時間を確保し、学生の疑問に応えられるようにする。なお講師の都合により、授業計画の順序が変更される場合があることを留意されたい。

スケジュールについては上記のとおり。

受講生への要望

外部の方の話を聞くことを第一とするため、とにかく出席すること。礼儀正しく聴講すること。講義内容の更なる充実を図るためと講師への還元のため、毎回の感想をレポートすること。

評価方法

出席、レポート（期末）

テキスト、参考文献

必要な資料は授業で配布

授業計画

（春）
１.さまざまな仕事（進路）を考える　オリエンテーション
２企業で働く、企業が学生に求めるもの
３.自己理解、自己表現
４.公務員の仕事
５.男女共同参画社会
６.ベンチャー企業を起業する
７.社会の求める人材とは
８.今後の食糧事情における食品企業の役割
９仕事と適性
10 .人間力を高める
11.1 年生の今、すべきこと
12.活躍する OB
13 仕事と私事
14.内定者の体験談
15 まとめ

（秋）
春季の事業計画と内容は同じであるが順序は必ずしも同じではない。出来れば第１回目にスケジュール表を示す予定である。

上記授業計画は講師の都合により順序やテーマも変更することがある.

（秋）	全学総合講座（食文化と人間生活「気候と風土と食文化」）	担当者	和田 智

講義目標

「食」の歴史と共に、近年失われつつある「食文化」の意義と認識をすることは意味のある事といえる。その地域に根ざした伝統食とその歴史的変遷は、世界の歴史の影を多く落としており、その国々の食にまつわる拘りがその国の食文化を大きく成長させ、生活その物にも変化と進歩を与えた。また食への欲が世界の流通をも引き起こし、戦争や貿易という結果も生んだといえる。また一方では、食にまつわる副産物として、食を楽しむ為の、酒やお茶、調味料といったものへの拘りと、食を楽しむ為の、容器や食べ方に至る拘りが、陶器やマナーを生んだ。

日本の食、世界の食について食の世界のスペシャリスト達の話から食についての関心を高め、行動に移すことを目標とする。

講義概要

人間は日々折々の食事から、時代や風土に即した多用な文化を紡ぎだしている。食事は世界の各地で邂逅し、現在も変容の過程といえる。食にまつわる歴史、地域とのかかわりと文化として成長し継承されて現在に至っている。「食」の文化を開拓した人類にとって、その地域の旬の食材をどう食べるかは単に栄養を摂取する為だけの問題ではなく、食物の蓄積は富の象徴となり、味覚への拘泥は「食」の美学生み、教養や宗教とあいまって現在では謎に満ちた「タブー」をもつくり、時空を超えた「食」への夢は際限なく広がりを見せ、貴重な食材や調理法への旺盛な探求心はとどまることなく、人々を果てしない冒険へと駆り立てた。「食」はかっては国家や民族間の争いの引き金として、また政治の道具に利用される事も歴史上の事実として観る事が出来る。今日「食」を巡る問題は、国際化と科学技術の進歩と人々の様々な欲望とによって、複雑怪奇な様相を呈している。日々の食事の背景や、夢と欲望、謎と矛盾に満ちた不可思議な世界を検証し、他の動物ではあり得ない食文化とそれにまつわる生活文化を学びその世界的変容に、知識としてだけでなく学び、体験する。

受講生への要望

講義支援システムを利用するので利用できるようにしておくこと。質問、アンケート等で携帯電話を利用します。通信料が発生しますのでご理解の上協力願います。

評価方法

授業での小レポート、学期末レポート、出席状況等により総合的に評価する。

テキスト、参考文献

授業で紹介する。

授業計画

1 オリエンテーション
「食をめぐる話題」
和田 智 獨協大学教授
2 「食と茶の文化伝導」
磯淵 猛 ㈱ティー・イソブチカンパニー代表取締役社長
3 「食事作法の背景にあるもの」
後藤加寿子 料理研究家 武者小路千家長女
4 「栄養としての食」
和田 智 獨協大学教授
5 「カナダネイティブから学ぶ食」
田中知恵 本学卒業生 ネイチャーライター
6 「人はズルなしで生きられるか」
服部 文祥 東京新聞出版局・岳人編集部 サバイバル登山家
7 「中国の食文化」
辻 康吾 元国際教養学部言語文化学科教授
8 「パティシエから見るスイーツブーム」
羽鳥武夫 シュルプリーズ パティシエ
9 「ケケタン先生の考える子どもと食」
葛恵子（有）葛トータルフードプロデュース クッキングプロデューサー
10 「The 日本食」
柳原尚之 江戸懐石近茶流・柳原料理教室副主宰
11 「食のトレンド」
加藤真悟（本学卒業生）フードプロデューサー
12 「WFP の活動」
国連機関 WFP 広報官
13 「有機農業と食」
金子美登 埼玉県小川町有機農業実践家
霜里農場代表・小川町町会議員
14 「食を資源とした地域おこし」
金丸弘美 食環境ジャーナリスト
15 「私たちの食はこのままではいけない」
和田 智 獨協大学教授
講師の都合により、順番は変更されます。

（秋）	全学総合講座(自由時間の達人)	担当者	和田 智

講義目標

自由時間の大切さに気づいていない人が多い。

私たちの生涯は70万時間、労働時間は7万時間、自由時間は20万時間。これまでのあなたの目標といえば7万時間のためのものが多かったのではないでしょうか。自由時間をいかに充実させることができるかについてもっと考えて見ましょう。この授業ではいろいろと考えてきた人たちを紹介します。

「レジャー」の真の意味を知ることにより、個々の学生が現在を充実させ、将来の目標を立てる助けにすることを目標にしています。

春学期の理論編としての「自由時間設計」とこの授業を履修していただくと、より理解しやすく、あなたを行動へと向かわせてくれると思います。

講義概要

第1回目の授業では、私たちの自由時間の現状について把握し、これからの授業を理解するための基礎的な理解をしていただきます。

第2回目の授業から、それぞれの講師がどのような考え方、ライフスタイルを持ち、自由時間について実践しているかについて知っていただきます。

最後の授業では、これまでの講義で聞いてきたお話が「レジャー学」的にどのように理解できるのかを説明していきます。

受講生への要望

講義支援システムを利用するので利用できるようにしておくこと。質問、アンケート等で携帯電話を利用します。通信料が発生しますのでご理解の上協力願います。

評価方法

授業での小レポート、学期末レポート、出席状況等により総合的に評価する。

テキスト、参考文献

授業で紹介する。

授業計画

１オリエンテーション
「あなたの自由時間の現状」
和田 智 獨協大学教授
２自由時間の達人①
「農業から新しいライフスタイルを求めて」
島野忠夫　楽遊舎代表
３自由時間の達人②
「自由時間の巨大な消費先“テレビ”」
杉町昌子　本学卒業生イーストエンタテインメント
４自由時間の達人③
「私にとっての世界一周の旅」
下重健児　本学卒業生
５自由時間の達人④
「私がなぜ空を飛ぶようになったのか」
多胡光純　本学卒業生
エアーフォトグラファー
６自由時間の達人⑤
「生きることの証をもとめて」
服部 文祥　サバイバル登山家
７自由時間の達人⑥
「日本人の自由時間を貪るパチンコ産業」
若宮　健　ジャーナリスト
８自由時間の達人⑦
「バリアフリースクーバダイビングを推進する」
椎名克巳　株式会社東京ダイバーズ代表取締役
９自由時間の達人⑧
「高齢者のためのレジャー」
山崎律子（株）余暇問題研究所代表取締役
10自由時間の達人⑨
「好きなことを続けるということ」
山本幸治　プロボウラー
11自由時間の達人⑩
「なぜ人は旅に出るのか」
福井　善朗　近畿日本ツーリスト株式会社
12自由時間の達人⑪
「学生時代からつながる現在と未来」
田中勝之　本学卒業生
13自由時間の達人⑫
「仕事と趣味の考え方」
講師交渉中
14自由時間の達人⑬
「能力を高める喜びと自由の獲得」
講師交渉中
15自由時間を「自由時間をレジャーとするために」
和田　智　獨協大学教授
講師の都合により、予定が変わることがあります。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (英語学 a) 言語学 a(個別言語学－英語)	担当者	安間 一雄

講義目的、講義概要	授業計画
英語学の基礎的諸領域の広範な理解を目標とする．扱う領域としては発音・音声学・形態論・統語論・意味論・語用論・談話論などがある．随時，日本語との対照学習を取り入れ， 外国語としての英語学習が容易になるよう試みる．それぞれのテーマについて理論的研究を紹介した後，実際に当該項目が習得されるよう練習課題を行う．授業内外における練習課題の遂行と学習記録の継続が求められる．2014 年度は休講の予定． **参考文献** 高橋作太郎,『英語教師の文法研究』(大修館書店, 1983; ISBN: 4469141526) 高橋作太郎,『続・英語教師の文法研究』(大修館書店, 1985; ISBN: 4469141542) 橋内武,『ディスコース:談話の織りなす世界』(くろしお出版, 1999; ISBN: 4-87424-172-7) M. A. K. Halliday & R. Hasan, *Cohesion in English* (Longman, 1976; ISBN: 978-0582550414) http://home.eserver.org/danzico/Discourse/hallidaysummary.htm 1 高橋作太郎,『英語の演習　第2巻：文法』(大修館書店) 朝尾幸次郎,『英語の演習 第3巻：語彙・表現』(大修館書店) 西光義弘他,『日英語対照による英語学概論』(くろしお出版, 1999; ISBN: 4874241697) 竹林滋・桜井雅人,『英語の演習　第1巻：音韻・形態』(大修館書店)	1. 英語の文法理論（6 章） 2. 音声学（1）（7 章） 3. 音声学（2）（7 章） 4. 音韻論（1）（8 章） 5. 音韻論（2）（8 章） 6. 強勢・イントネーション（8 章） 7. 形態論・語形成（9 章） 8. 統語論（1）（10 章） 9. 統語論（2）（10 章） 10. 統語論（3）（10 章） 11. 意味論・語用論（1）（11 章） 12. 意味論・語用論（2）（11 章） 13. 談話分析（1） 14. 談話分析（2） 15. コーパス言語学
テキスト、参考文献	**評価方法**
石黒昭博他,『現代英語学要説』(南雲堂, 1987; ISBN: 4-523-30047-X)	定期試験 x 出席率 +平常授業における課題

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (英語学 b) 言語学 b(個別言語学－英語)	担当者	安間 一雄

講義目的、講義概要	授業計画
前半は英語の歴史の概観を通して，英語世界がいかに成立し，どのような言語・文化を発達させてきたかを学ぶ．視聴覚資料を補助的に用い，学習を支援する．また，英語史に関連する観光スポットを随時紹介する． 後半は英語を特徴づけ，他の言語と区別するいくつかの側面を取り上げ，現代社会における英語の位置づけを学ぶ． 参考資料の事前読了および講義支援システムの参照が求められる．2014 年度は休講の予定． **参考文献** David Crystal, *The Cambridge Encyclopedia of the English Language, 2nd ed.* (Cambridge University Press, 2003; ISBN: 0 521 82348 X / 0 521 53033 4) David Graddol, Dick Leith, & Joan Swann, *English: History, Diversity and Change* (Routledge, 1996; ISBN: 0 415 13118 9 / 0 415 13117 0) R. McCrum, W. Cran, & R. CacNeil, *The Story of English: Special Complete Edition* (マクミランランゲージハウス, 1989; ISBN: 4895850242) 石黒昭博他,『現代英語学要説』(南雲堂, 1987; ISBN: 4-523-30047-X) 宇賀治正朋,『英語史』(開拓社, 2000; ISBN: 4 7589 0218 6)	1. 英語の概要：ヨーロッパと世界の言語分布 2. 英語以前（1）：印欧語族の成立 3. 英語以前（2）：ゲルマン語族の成立 4. 英語の夜明け：古英語とその社会 5. 英語の変動期：ヴァイキングおよび政治的変動 6. 英語の夜明け：中世とは？そしてその英語 7. 英語の充実：初期近代英語とイギリス社会の発展 8. 英語の黄金期：近代英語とヴィクトリア朝文化 9. 英語の多様性:イギリスの英語から世界の英語へ(地理的変異) 10. 英語の現状：アメリカ英語・第 3 世界の英語・コックニー 11. 英語使用の現状（1）：公用語・第 2 言語・英語学習・辞書 12. 英語使用の現状（2）：社会・文化と英語使用 13. 英語の特徴（語彙・語源）：本来語・借入語・外来語・固有名詞・スラング,（発音と綴り）：大母音推移・発音・文字・正書法 14. 英語の特徴（文法）：語順・修飾・統御,（談話構造）：パラグラフ構造・新旧情報・含意・スキーマとスクリプト 15. 英語の特徴（社会的変異）：社会階層・レジスター・ジャンル
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時プリントを配布する．	定期試験 x 出席率 +平常授業における課題

08 年度以降	ことばと思想 1（言語学概論）	担当者	安間 一雄

講義目的、講義概要	授業計画
言葉の仕組みと役割を客観的に記述する学問である言語学とはどのような分野なのかを概観する．ここでは言語学の応用的領域を取り上げ，社会における言語の機能を理解すると共に，その背景にある基本的な考え方を学ぶ．主として英語を対象言語とするが，言語資料分析については必要に応じて他の言語も扱う．また，言語学の周辺領域における言語研究にも言及する． **参考文献** David Crystal, *The Cambridge Encyclopedia of Language* (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7) D. クリスタル／風間・長谷川訳『言語学百科事典』(大修館, 1992; ISBN: 4-469-01202-2) 町田健 『言語学が好きになる本』（研究社出版，1999; ISBN:4-327-37674-4）	1. 話し言葉と書き言葉 ー言葉は約束事：言語学の研究対象，記号論，ローマ字表記 2. 動物の言語と人間の言語 ーチンパンジーも言葉が話せる？：動物のコミュニケーション 3. 言語と脳 ー失われた言葉を取り戻す：心理言語学と大脳生理学 4. 子供の言葉の発達 ーどのようにして言語を習得するか？：第 1 言語の発達過程 5. 外国語の上達 ーどのようにしたらうまく話せるようになるか？：第 2 言語の習得理論 6. 音と音声 (1) ーカテゴリーができるまで：調音音声学と音韻論 7. 音と音声 (2) ー音声はどのように聞こえるか？：音響音声学と聴覚音声学 8. 統語論 ー「正しい」言葉の記述 vs 言葉の「正しい」記述：構造主義文法，生成文法，その他の文法 9. 形と意味 ー発話に意味を込める：意味論，語用論 10. 会話の原則 ー言葉の適切な使い方：談話分析 11. 言語と社会 ー言葉の多様性と普遍性：社会言語学 12. 世界の言語とその系統 ー言語の系統と分類：歴史言語学 13. 言語の進化 ー言語と人類の発達：言語考古学 14. コンピューターと言語 ー近未来の言語研究：人工知能，機械翻訳，コーパス言語学 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
G. ユール／今井・中島訳『現代言語学 20 章』(大修館, 1987; ISBN: 4-469-21145-1)	定期試験 x 出席率 + 平常授業における課題

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（日本語教育概説） ことばと思想（Ⅲ）（外国語としての日本語教育）	担当者	石塚 京子

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義概要＞ 「日本語教育」とは何か、「日本語教師」の仕事とはどのようなものか、といったことを概説します。 この講義は、将来、日本語教師を目指す学生に限定するものではありません。外国語としての日本語、日本語教育の歴史と現状、外国語教授法など、言語や教育に広く興味を持っている学生を対象とした講義内容となります。 なお、日本語教師養成課程を履修する学生にとっては、日本語教授法 1 の内容と多少の重なりがありますが、実践的な指導法を学ぶための前段階と位置づけて授業に臨んでください。 ＜講義の目的＞ 1．日本語教育と国語教育の違いを知る。 2．日本語教育の歴史と現状を知る。 3．さまざまな外国語教授法を概観する。 4．日本語を外国語として客観的に捉える。 5．外国語としての日本語の指導法を考える。 6．教師の役割を考える。	1．講義の概要説明、日本語教育の一例の紹介 2．日本語教育とは何か(1) 日本語教育と国語教育の違い 3．日本語教育とは何か(2) 日本語教育の歴史 4．外国語教授法の歴史 5．外国語教授法の紹介(1) 6．外国語教授法の紹介(2) 7．異文化接触と日本語教育 8．言語教育と学習観 9．コースデザインとシラバス 10. 日本語のしくみと指導のポイント(1) 11. 日本語のしくみと指導のポイント(2) 12. 教室活動の活動例 13. 教師の役割 14. 評価 15. 講義のまとめ ＊進捗状況によって内容が変更になる場合もあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜参考文献＞ 佐々木康子『ベーシック日本語教育』ひつじ書房、2007 中西家栄子『実践日本語教授法』バベル出版	期末定期試験に出席率を加味して評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（倫理の基本について考える） 倫理学 a（倫理の基本について考える）	担当者	市川 達人

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの社会には「して善いこと」と「して悪いこと」がある。私たちは普段、この二つを良識のレベルで割り切っており、それに対して「なぜ」などと問うことはあまりしない。しかし、この良識が揺らぎだしたり、この良識に対立する良識が出てきたりしたとき、この「なぜ」がでてくる。倫理に対する学問的問いかけが生まれるのである。近代という時代はこの倫理的問いかけを、敬(軽)して遠ざけてきた。しかし、倫理への問いは最近再び脚光を浴びてきている。良識が揺らいでいるのである。 講義では、倫理における「なぜ」を扱いたい。私たちが倫理的な判断を下すとき、そこにいかなる思考のメカニズム、あるいは論理が働いているかを考えるということである。最後に、これをふまえて現代倫理を代表する自由主義と功利主義を批判的に検討したい。	1)哲学と倫理学 2)非倫理の時代か倫理の時代か 3)「倫理」という言葉 4)倫理と道徳の違い 5)規範としての倫理(1)……習俗と倫理 6)規範としての倫理(2)……法と倫理 7)価値としての倫理(1)……欲求から善へ 8)価値としての倫理(2)……「事実・価値」問題 9)行為への問い(1)……行為の構造と近代的行為モデル 10)行為への問い(2)……他者からの問いかけ 11)行為への問い(3)……動機主義と結果主義 12)功利主義の倫理(1)……ベンサム 13)功利主義の倫理(2)……功利主義の今日的展開 14)自由主義の倫理(1)……カントとミル 15)自由主義の倫理(2)……リベラリズムの平等論
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わない。参考書は講義で指示。	期末の試験による。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（環境と生命の倫理） 倫理学 b（環境と生命の倫理）	担当者	市川 達人

講義目的、講義概要	授業計画
21 世紀は生命と環境の時代だといわれる。一方では人間を好きなように誕生させ、生きさせ、あるいはやさしく殺す技術が生まれてきている。他方で、地球規模での環境汚染、資源の枯渇が懸念され、人類の存続が危ぶまれている。内的自然支配の深まりと外的自然支配の限界ともいうべきこの両者を見据えながら、伝統的な生命観や自然観を考え直していくこと、これが講義の課題である。生命倫理学とか環境倫理学という新しい学問分野が関心を集めているが、そこでの議論を踏まえて進めていく。	1)「倫理問題」とは？……応用倫理について 2)生命をめぐる状況(1) ……「医療化社会」批判 3)生命をめぐる状況(2) ……所有的身体観と生命表象の微細化・局在化 4)生命倫理の前線(1) 医療倫理から生命倫理へ 5)生命倫理の前線(2) 中絶、生殖医療の問題 6)生命倫理の前線(3) 安楽死問題 7)生命倫理の前線(4) 臓器移植の問題 8)ケアの倫理……人のケアから自然のケアへ 9)環境倫理の世界(1) 環境保護とはどういうことか 10)環境倫理の世界(2) 生態系価値を中心にする思想 11)環境倫理の世界(3) 自然物の権利を中心とする思想 12)環境倫理の世界(4) 地球レベルでの構造的不正義 13)環境倫理の世界(5) 環境的不正義に関する倫理的言説 14)環境倫理の世界(6) 持続可能性と世代間倫理 15)生命と環境とをつなぐ倫理的課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わない。参考書は講義で指示。	期末の試験による。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（社会思想史 1）（市民的社会像の黎明期） 社会思想史 a（市民的社会像の黎明期）	担当者	市川 達人

講義目的、講義概要	授業計画
現代を生きる私たちの政治や経済に関する見方・考え方を支配している近代的社会観の形成を、西欧を舞台に歴史的にたどる。講義は通年で完結する形をとる。前期では、最近リアリティを失ってきたかにみえる「社会」という観念を改めて分析してみることから始め、その「社会」を学問的に対象化する動きがはじまったルネッサンスから宗教改革の時期を取り上げる。キリスト教的な世界観との対抗あるいはその変革のなかで、新しい価値観や生き方が模索され形成される時代である。 後期の講義へとつながる問題意識として、「国家というまとまり」と「市場というまとまり」への二重の視点が生まれてくる過程に目を向けたい。	1）授業の狙いについて 2）「社会」という思想問題 3）「市民社会」の原型と近代的再生 4）ルネッサンス思想と古典古代文化 5）マキャベリと『君主論』 6）マキャベリと近代政治理論 7）ユートピアという思想 8）トマス・モアと『ユートピア』 9）中世の教会改革運動、千年王国説、後期スコラ学派 10）ルターの改革運動と神学 11）ルターの政治思想 12）ルターの職業思想 13）カルヴィニズムの宗教思想 14）カルヴィニズムと近代的エートス 15）まとめ－主権国家と市場社会
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト 『社会思想の歴史』渋谷一郎 八千代出版 参考書 講義で指示	期末の試験による。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（社会思想史 2）（市民的社会像の確立期） 社会思想史 b（市民的社会像の確立期）	担当者	市川 達人

講義目的、講義概要	授業計画
西欧では 17 世紀から近代市民社会の見取り図を描く作業がはじまる。伝統的な自然法思想を手がかりに、個人が自分の自然権を守るため、契約という作為を通して国家を作るという社会契約思想が生みだされる。これと並んで、社会を担う「国民」が経済的主体として自覚され、国家と区別される市民社会という観念が生まれてくる。このあたりの展開をホッブズから初めて 19 世紀のマルクスまでたどってみる。ここでも「国家というまとまり」と「市場というまとまり」が隠れた主題となる。	1）授業の狙いについて 2）西欧自然法思想の源泉 3）自然法思想の近代的転回 4）社会をめぐる自然と作為(1)……ホッブズの利己心 5）社会をめぐる自然と作為(2)……ホッブズの国家観 6）個人を守ること(1)……ロックの所有的個人主義 7）個人を守ること(2)……ロックの政治的自由主義 8）文明化という課題……フランス啓蒙思想（ヴォルテール、ディドロ） 9）風土と社会……モンテスキューの権力論 10）個人と社会の一体化(1)……ルソーの歴史認識 11）個人と社会の一体化(2)……ルソーのデモクラシー 12）社会は自然に発生する(1)……ヒュームの道徳感情論と自然法批判 13）社会は自然に発生する(2)……スミスの市場的社会思想 14）社会的に生きる(1)……社会主義の思想 15）社会的に生きる(2)……マルクスの思想
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト 『社会思想の歴史』渋谷一郎 八千代出版 参考書 講義で指示	期末の試験による。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（応用言語学） 言語学 a(応用言語学)	担当者	臼井 芳子

講義目的、講義概要	授業計画
応用言語学は言語、言語習得そして言語運用に関する理論を応用し、言語に関わるあらゆる問題の解決策を模索する学問である（言語学の基礎・応用の応用ではなく、応用言語学という分野である）。本講義では、応用言語学にはどのような領域があるか、そしてそれぞれの領域が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。 言語習得、外国語教育、言語と社会、言語研究の 4 領域を中心に進めていく。各領域においてどのような研究がなされ、外国語教育に何を示唆しているかを中心にみていく。 出席を前提とする。 また、課題をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。	第 1 週：概論 第 2～3 週：言語習得 －言語習得 －言語維持 －言語喪失 第 4～6 週:　言語と社会 －バイリンガリズム・マルチリンガリズム　(個人・社会) －マイノリティ言語 第 7 週：言語と脳 第 8～12 週：外国語教育 －Second language vs. Foreign language －教室における第 2 言語習得（指導法） －言語政策（公用語化、小学校英語、教育方法など） 第 13～15 週：言語研究
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布資料等有り。	期末レポート＆課題(50%)、期末テスト（５０％）

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（第二言語習得） 言語学 b(第二言語習得)	担当者	臼井 芳子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、第二言語習得がいかにダイナミックなものであるかということを様々な理論をもとに考える。また、この分野における専門用語を日英の両言語で認識し、これらの理論をどのように言語教育に応用していくかを考える。 ことばと思想 1（応用言語学）（言語学 a（応用言語学））を履修していることが望ましい。 出席を前提とする。 また、課題をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。	第 1 週：概論 第 2～7 週：　SLA 理論・仮説 －普遍文法 －モニターモデル －認知プロセス －インプット・アウトプット・インターアクション仮説他 第 8～13 週：学習者要因 －年齢 －動機・態度(諸理論) －学習ストラテジー・学習スタイル －適正 －不安 －多重知能理論など 第 14・15 週：発表および総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布資料等有り。	期末レポート＆課題（50%）、期末テスト（50%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（多言語環境と英語） ことばと思想（Ⅲ）（多言語環境と英語）	担当者	臼井 芳子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、「多言語使用」の意義、「多言語共生」の可能性、および「言語政策」（教育、サービス含む）の役割について理解を高めることを目的とする。また英語が普遍語になっていくのか考える。 出席を前提とする。 また、課題（リーディングとフィールドワークなど）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。	第 1 週：概論 第 2～4 週：言語権、言語サービス、複言語主義、多言語主義など 第 5～8 週：世界の言語政策と英語の位置づけ －内部圏：アメリカ、オーストラリアなど －外部圏：インド、シンガポールなど －拡大圏：フランス、韓国など 第 9～13 週：日本の中の多言語と英語 －日本の中の多言語 －言語政策と教育 －各地方自治体の言語政策・言語サービス －言語意識教育など 第 14～15 週：発表と総括

テキスト、参考文献	評価方法
配布資料等有り。	フィールドワーク、期末レポートおよび他課題（50%）、期末テスト（50%）

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（倫理学 a） 倫理学 a（倫理学と人間性）	担当者	川口 茂雄

講義目的、講義概要	授業計画
西洋現代哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、思索されてきたかを、概説する。 教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。 この学期では現代の哲学的諸問題について扱っていく。もちろん古代～近代の哲学者たちの考察は参考にされる。 現代は画像・映像といったイメージがさまざまなメディアで飛びかい、そうしたイメージによる記録／記憶が人々の心を苦しめる時代でもある。これを〈記憶〉と〈歴史〉の問題として受けとめ、考察していきたい。 授業は教科書を中心にして進められる。教科書にまとめられている内容を要約ないし発展的にふくらませる補足説明を、毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。	１．　導入 （プレゼン担当者の募集・日程調整を含む） ２．　プラトンの記憶論「記憶は足跡か、絵画か？」 ３．　アリストテレスの記憶論 ４．　ベルクソンの記憶論「イマージュ - 想い出」 ５．　サルトルの記憶論「幻覚」 ６．　フッサールの記憶論「想像と記憶を区別する？」 ７．　個人的記憶と集合的記憶 ８．　〈心性史〉の歴史記述　〈長期持続〉の文化史 ９．　〈表象史〉の歴史記述　「交渉」の歴史学 １０．王の肖像 —— イマージュの魅惑 １１．裁判官と歴史家 —— 公正な第三者とは？ １２．ナチスのユダヤ人虐殺をめぐって（１） １３．ナチスのユダヤ人虐殺をめぐって（２） １４．「困難な赦し」 １５．まとめ
テキスト　（各自入手しておくこと）	**評価方法**
川口茂雄『表象とアルシーヴの解釈学 ——— リクールと「記憶、歴史、忘却」』（京都大学学術出版会）	学期末試験による。 ただし各授業回で教科書内容の要約・補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に約 20 点を加点する予定。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（倫理学 b） 倫理学 b（現代倫理学の諸問題）	担当者	川口 茂雄

講義目的、講義概要	授業計画
西洋哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、思索されてきたかを、概説する。 教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。 哲学の学習は「言葉を選ぶ」ことのできる社会人になるための訓練の場なのだ、というようにとらえてもいい。 哲学史の入門書をもとに授業を進行していく。 古代ギリシアから、近世のデカルト・パスカルなどを経て、近代のニーチェまでをこの学期で広く見ていく。 教科書はかなりコンパクトに各哲学者の思想をまとめたものだが、その圧縮された内容を発展的にふくらませる補足説明を毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。	１．　導入　（プレゼン担当者の募集・日程調整を含む） ２．　プラトン（１）「ソクラテスの死から」 ３．　プラトン（２）「イデアという理想」 ４．　アリストテレス「人間は知ることを欲する」 ５．　エピクロス派、ストア派 ６．　デカルト（１）「私は思考する、ゆえに私は在る」 ７．　デカルト（２）永遠真理創造説 ８．　デカルト（３）四つの暫定的道徳 ９．　パスカル「きみはどちらに賭ける？」 １０．ルソー（１）「人づきあいが人間を不幸にする」 １１．ルソー（２）「理想的な教育とは」 １２．ニーチェ（１）「きみは永遠回帰に耐えられるか」 １３．ニーチェ（２）「音楽と悲劇」 １４．ニーチェ（３）「ニヒリズムに面して」 １５．まとめ
テキスト　（各自入手しておくこと）	**評価方法**
ドミニク・フォルシェー 『西洋哲学史　パルメニデスからレヴィナスまで』 （白水社・文庫クセジュ）	学期末試験による。 ただし、各授業回で教科書内容への補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に約 20 点を加点する予定。

08 年度以降	ことばと思想１（フランス・ドイツ哲学入門１）	担当者	川口 茂雄

講義目的、講義概要	授業計画
近代のフランス哲学・ドイツ哲学を概観していく。 個人の「自己」。「自由」（内面的自由、政治的自由）。物質的事物と人間精神との差異。etc. こうした概念・発想はどれも、近代フランス・ドイツの哲学者たちの思想から、現代へと引き継がれてきたものである。そのいわば私たちのものの考え方の源泉になっている哲学について、各重要思想家の主著の内容を中心に、見ていくことにしたい。 フランス語やドイツ語の知識は必要としないが、たとえば「私は考える、ゆえに私は存在する」はもともとフランス語ではなんといったか、というくらいのことは授業で紹介し、テストでも少々きく、というような形を予定。 また各授業回の最初には、哲学者ないしその著作の内容について、希望者に簡単なプレゼンを行ってもらう。	１．イントロダクション、プレゼン担当の日程調整 ２．デカルト①　若き日の思索 ３．デカルト②　『省察』、方法的懐疑 ４．デカルト③　『情念論』と心身二元論 ５．スピノザ①　神とは自己原因である ６．スピノザ②　個物と永遠 ７．パスカル①　「考える葦」の偉大さと悲惨 ８．パスカル②　パスカルの賭け ９．　ルソー①　『人間不平等起源論』 １０．ルソー②　『エミール』 １１．カント①　『純粋理性批判』「感性論」 １２．カント②　『純粋理性批判』「分析論」 １３．カント③　『純粋理性批判』「弁証論」 １４．カント④　『実践理性批判』 １５．まとめ
テキスト	**評価方法**
ドミニク・フォルシェー 『西洋哲学史　パルメニデスからレヴィナスまで』 （白水社・文庫クセジュ）	期末試験による。 ただし各授業回のプレゼン担当者には、期末試験の点数に15～30 点を加算する予定。

08 年度以降	ことばと思想１（フランス・ドイツ哲学入門２）	担当者	川口 茂雄

講義目的、講義概要	授業計画
近現代のフランス哲学・ドイツ哲学を概観していく。 個人の「自己」。「自由」（内面的自由、政治的自由）。物質的事物と人間精神との差異。etc. こうした概念・発想はどれも、近代フランス・ドイツの哲学者たちの思想から、現代へと引き継がれてきたものである。そのいわば私たちのものの考え方の源泉になっている哲学について、各重要思想家の主著の内容を中心に、見ていくことにしたい。 今学期はニーチェとハイデガーという十九世紀後半から二〇世紀にかけての重要哲学者を中心に取り扱う。くわえて、最後にはひとつの哲学史的とらえ直しの試みとして、ドイツ・フランス哲学を幅広く摂取しつつ独自の哲学を形成した日本の西田幾多郎の思想も取り上げてみる。 各授業回の最初には、哲学者ないしその著作の内容について、希望者に簡単なプレゼンを行ってもらう。	１．イントロダクション、プレゼン担当の日程調整 ２．ニーチェ①　『悲劇の誕生』 ３．ニーチェ②　『悦ばしき知識』 ４．ニーチェ③　『ツァラトゥストラはこう語った』 ５．ベルクソン　「持続」と「自由」 ６．ハイデガー①　『存在と時間』　道具と世界性 ７．ハイデガー②　『存在と時間』　気遣い、頽落 ８．ハイデガー③　『存在と時間』　死への先駆 ９．ハイデガー④　『芸術作品の根源』 １０．ハイデガー⑤　『技術への問い』 １１．サルトル　「人間は自由の刑に処せられている」 １２．ヴィトゲンシュタイン　『論理哲学論考』 １３．西田幾多郎①　『善の研究』 １４．西田幾多郎②　「自覚における直観と反省」 １５．まとめ
テキスト	**評価方法**
ドミニク・フォルシェー 『西洋哲学史　パルメニデスからレヴィナスまで』 （白水社・文庫クセジュ）	期末試験による。 ただし各授業回のプレゼン担当者には、期末試験の点数に15～30 点を加算する予定。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想１(心理学)(人間の行動･認知･動機の一般法則) 心理学ａ(人間の行動･認知･動機の一般法則)	担当者	杉山 憲司

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、なるべく広範囲で、現代的なテーマを選び、１）心理学の研究成果、２）研究方法、３）日常生活との関わりについて紹介します。 心理学研究者として学生をみていると、1）自分と仲間の個性・価値を互いに認め、効力感（コンピテンシー）を持つ、２）友人や異質な人と、学びを通じてコミュニケーションを深めて欲しいと考えています。 自己を知ることは、心理学の研究目標の１つですが、他者を知り社会を知ることも重要で、感情や行動の制御と供にスキルや学習態度が重要になります。 教科書の構成は７章構成で、執筆時点でのトピックスを扱っています。各章は、「○○研究の生活・仕事への展開」の節で結ばれていますが、その後の変化があり、多くのテーマは 2013 年時点の課題に入れ替えます。 この授業の到達目標は、 １．自己の性格や対人関係について学び、日常使えるようになる。 ２．心理学の視点から、自己の専攻領域（所属する学科の学問）をとらえ直し、学問間の関わりを説明できる。 ３．卒業後の将来、例えば、27 歳の自分を想定し、広い意味での学力、ライフ・ワークバランスを考え、計画が立てられる。 春学期の「心理学ａ」では、教科書の前半に当たる、認知、行動、モティベーションの３側面から見た、人間に共通な法則を学ぶ予定です。	１．導入：ヒューマン・サイエンスとしての心理学 ２．感じる／考える（感覚と知覚・認知）：人間の感覚受容器と脳、感覚と知覚の仕組みと特徴 ３．感じる／考える：顔や原因の認知（原因帰属） ４．感じる／考える：記憶の情報処理モデル、潜在認知 ５．感じる／考える：アフォーダンス、都市のイメージ、ユニバーサル・デザインなど ６．動く／変わる（行動と行動獲得・変容）：条件づけ、強化随伴性、モデルによる観察学習 ７．動く／変わる：進化と人間行動、利他行動や協力、生物進化と文化のカップリング ８．動く／変わる：教わることと学ぶことの違い。自律・協同学習、学習環境デザイン ９．動く／変わる：大学における学びの内容と方法、卒業時に必要な力量（学士力、社会人基礎力とは） １０．動く／変わる：知識基盤社会と学び、社会的構成主義の学習観 １１．もえる／動かす（モティベーション）：動機づけの基礎 １２．もえる／動かす：達成動機と対人社会性動機、対人行動、 １３．もえる／動かす：欲求不満、葛藤、ストレス、無気力（学習性無力感） １４．もえる／動かす：内発的動機づけ、自己原因性、有能感 １５．まとめと課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチー』ナカニシヤ出版	リフレクションペーパー（20%）、レポート（30%）、試験（50%）で評価する予定です。出席は前提で、授業を聴かないことには始まらない。レポートは学問的レポートの書き方を学ぶため。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想１(心理学)(人間の個性･多様性理解) 心理学ｂ(人間の個性･多様性理解)	担当者	杉山 憲司

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、なるべく広範囲で、現代的なテーマを選び、１）心理学の研究成果、２）研究方法、３）日常生活との関わりについて紹介します。 心理学研究者として学生をみていると、1）自分と仲間の個性・価値を互いに認め、効力感（コンピテンシー）を持つ、２）友人や異質な人と、学びを通じてコミュニケーションを深めて欲しいと考えています。 自己を知ることは、心理学の研究目標の１つですが、他者を知り社会を知ることも重要で、感情や行動の制御と供にスキルや学習態度が重要になります。 教科書の構成は７章構成で、執筆時点でのトピックスを扱っています。各章は、「○○研究の生活・仕事への展開」の節で結ばれていますが、その後の変化があり、多くのテーマは 2013 年時点の課題に入れ替えます。 この授業の到達目標は、 １．自己の性格や対人関係について学び、日常使えるようになる。 ２．心理学の視点から、自己の専攻領域（所属する学科の学問）をとらえ直し、学問間の関わりを説明できる。 ３．卒業後の将来、例えば、27 歳の自分を想定し、広い意味での学力、ライフ・ワークバランスを考え、計画が立てられる。 秋学期の「心理学ｂ」では、教科書の後半に当たる、パーソナリティ、発達、社会心理学に焦点を当て、人間の多様性、可変性を軸に学ぶ予定です。	１．秋期の導入：春期のまとめと秋期の導入、秋期授業のガイダンス ２．きわだつ／できる（パーソナリティ）：性格検査から何が言えるか？　なぜそう言えるか？ ３．きわだつ／できる：パーソナリティ理論は多様な人間性のモデル ４．きわだつ／できる：Big Five、標準性格検査 ５．きわだつ／できる：知能とは？　創造性（課題解決）とは？対人関係の社会的スキルとは？ ６．育つ／育てる（発達）：big name の発達理論、生涯発達視点 ７．育つ／育てる：生育初期、アタッチメント、気質、インターナル・ワーキング・モデル ８．育つ／育てる：青年期のアイデンティティ、発達支援、世代間伝達 ９．育つ／育てる：高齢化社会、人生設計、生き甲斐と有能感 １０．かかわる／競う（社会）：自己概念、現実自己と理想的自己、自己制御 １１．かかわる／競う：社会心理学的自己、自己開示／自己提示（印象操作）とは？ １２．かかわる／競う：集団圧力、権威者への服従、印象形成 １３．かかわる／競う：態度と態度変容。説得的コミュニケーション １４．かかわる／競う：集団と個人、変革期のリーダーシップ １５．まとめ：各人の違いを認め、健康で、幸福なサクセスライフを生きる。今後の課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチー』ナカニシヤ出版	リフレクションペーパー（20%）、レポート（30%）、試験（50%）で評価する予定です。出席は前提で、授業を聴かないことには始まらない。レポートは学問的レポートの書き方を学ぶため。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（こころの世界） ことばと思想(Ⅲ)（科学としての心理学とこころの世界）	担当者	田口 雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では，まず，現代心理学の成立過程を概観する。その後，性格の形成，ストレス，生きがいと心の健康などのテーマについて，さまざまなデータを示しながら説明していく。 本講義を通して，心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また，心理学の基本的知識を習得し，同時に，社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。	以下のような計画で講義をおこなっていく予定である。 １．はじめに：科学としての心理学 ２．心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 ３．心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 ４．心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 ５．心理学のあゆみ④：精神分析理論 ６．性格とは？：自己の性格理解 ７．性格をとらえる枠組み：性格理論 ８．性格の形成：遺伝的要因と双生児研究 ９．性格の形成：環境的要因 10. ストレス①：ストレスと性格 11. ストレス②：ストレス・コーピング 12. ストレス③：ストレスの生理心理学 13. 現代社会とストレス 14. 現代社会とこころの病 15. 生きがいとこころの健康
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。	授業における小レポートと試験により総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降	ことばと思想１（日本語文法形態論）	担当者	武田 明子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　日本語文法のさまざまな事実を体系的に取り上げ、それらに対して興味をもつだけでなく、枠組みや基本概念が十分に理解でき、自分なりの分析もできるようにする。 講義概要 　理解できた基本概念が、日本語教育で役立つことを視野に入れる。日本語学習者の学習項目について、自分なりの文法分析が行えること、された質問に答えることができるようにすることを常に見据えて講義をすすめる。 　講義は授業計画のあらましのとおりであるが、必要だと思われるものに変更することもあり得る。変更がなくても、より詳細なシラバスは最初の講義時に配布し、その他の必要事項についても説明する。したがって、必ず第一回目に出席のこと。	1　文法とは 2　文の基本構造１ 3　文の基本構造２ 4　文法のカテゴリー１ 5　文法のカテゴリー２ 6　文の成分１ 7　文の成分２ 8　形態論の概観 9　品詞１ 10　品詞２ 11　活用１ 12　活用２ 13　語形成１ 14　語形成２ 15　形態論のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回プリントを配布する。 参考文献については随時案内する。	出席・授業参加度 15% 授業時の小課題・小テスト 30% 期末試験 55%

08 年度以降	ことばと思想１（日本語文法統語論）	担当者	武田 明子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　春学期と同じ。 講義概要 　春学期と同じ。秋学期は日本語における統語論について講義する。ただし、形態論と統語論は一本の綱のようであるから、できるだけ春学期から順に履修することが望ましい。	1　統語論とは 2　文の構成 3　動詞と名詞と格助詞１ 4　動詞と名詞と格助詞２ 5　名詞文と形容詞文 6　述語・用言１ 7　述語・用言２ 8　テンスとアスペクト１ 9　テンスとアスペクト２ 10　修飾１ 11　修飾２ 12　重文と複文１ 13　重文と複文２ 14　自動詞文と他動詞文 15　統語論のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回プリントを配布する。 参考文献については随時案内する。	出席・授業参加度 15% 授業時の小課題・小テスト 30% 期末試験 55%

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（通訳・翻訳論） ことばと思想（Ⅲ）（通訳・翻訳論）	担当者	永田 小絵

講義目的、講義概要	授業計画
通訳、翻訳についての知識を深めることを目的とします。 学期前半では通訳という職業について理解を深め、また外国語学習に役立つ通訳訓練法を紹介します。 学期後半では翻訳と通訳の発展の歴史、翻訳の規範などを通じて、翻訳・通訳の社会における役割と貢献について学びます。 授業ではビデオや DVD を多く利用しますので、欠席しないようにしてください。	第１回　全体ガイダンス、教授用資料の入手方法説明 第２回　通訳の実例研究（香港返還記念式典） 第３回　会議通訳の実際 第４回　司法通訳（外国人の人権を守る） 第５回　放送通訳とコミュニティ通訳 第６回　ガイド、芸能・スポーツの通訳 第７回　通訳訓練法　通訳の原理 第８回　学期前半のまとめ 第９回　日本における翻訳通訳の歴史（１） 第 10 回　日本における翻訳通訳の歴史（２） 第 11 回　日本における翻訳通訳の歴史（３） 第 12 回　翻訳と通訳の理論（１） 第 13 回　翻訳と通訳の理論（２） 第 14 回　通訳と翻訳の理論（３） 第 15 回　全体のまとめ、期末レポートに関する説明
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義資料は、大学ホームページにアクセスし、教員紹介から授業資料ダウンロードページに飛んでダウンロードしてください。	期末試験により評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想１（英語圏の社会と思想 a） ことばと思想（Ⅲ）（英語圏の社会と思想 a）	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
アングロ＝サクソンの文化がキリスト教化されていく過程の在り方を述べる。 なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。	１．ガイダンス（父性神と母性神） ２．ヘレニズムとヘブライズム ３．ローマン＝ブリテン：ケルト人とキリスト教 ４．ローマ帝国のキリスト教化の過程：ドナティスト論争 ５．イングランドのキリスト教化 ６．デーン人とアルフレッド大王 ７．カロリング王朝とイングランドのキリスト教 ８．グレゴリウス７世の教会改革 ９．イングランドの教会改革 １０．中世の異端 １１．地獄堕ちへの恐怖 １２．黒死病と農民一揆 １３．教皇権の栄光と下降 １４．中世末期：唯名論論争とイングランド宗教改革前史 １５．まとめ 以上の各項を述べる予定。 ただし、多少の変化はあり得る。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は必要とあれば授業中に示す。	出席の少ない者は不合格とする。 更に、出席合格者は試験の結果で評価する。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想１（英語圏の社会と思想 b） ことばと思想（Ⅲ）（英語圏の社会と思想 b）	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に準じる。	１．ルター：我ここに立つ ２．ジュネーブの人カルヴァンとイングランド人 ３．イングランドの宗教改革：ヘンリー８世 ４．エドワード王のプロテスタント化とメアリー女王のカトリック教皇主義復興 ５．エリザベス１世の宗教改革 ６．ピューリタンの反撃と英国国教会の樹立 ７．スチュワート王朝の国教会 ８．国王の処刑とピューリタニズム ９．ピルグリム＝ファーザーズ １０．王政復古から名誉革命以降 １１．啓蒙主義時代 １２．19 世紀以降現代 １３．アメリカの場合（1） １４．アメリカの場合（2） １５．まとめ 以上の各項を述べる予定。 ただし、多少の変化はあり得る。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。	春学期に準じる。

08 年度以降	歴史と文化 1（ドイツ語圏のメディア文化 a）	担当者	秋野 有紀

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、＜想像力×歴史・社会×制度＞をテーマとします。映画、演劇を通して、ドイツ社会の歴史的事象がどのように描き出されているのかを分析するのが目的です。たとえば歴史を扱った映画作品は、＜歴史＞そのものではないし、芸術家の＜想像力＞のみの賜物でもありません。制作された時代の＜制度＞=思想、経済、政策の枠組みの中で作り出されるものです。それゆえに、作品の背景を知ることは、その作品を生み出したドイツの社会を読み解くひとつの手がかりとなります。講義でとりあげる作品には、比較的よく知られたドイツの歴史的事象や社会事情が描かれています。映画や演劇作品をメインとしつつも、文献資料などでも情報を補っていくので、作品に描かれている美学化された「歴史」や「現代社会」を“疑って”みてください。そして作者が歴史や社会をそう描いた「意図」を理解し、受けとってあげて下さい。作品には必ず、制作者の意図・社会の影響・制度や技術の限界からくる制約があります。作品を楽しみつつも、メディアを通してドイツ社会を「読む」ための方法を考えていきましょう。	1. 講義の概要と評価、参考文献について 2. 現代ドイツの映画・コンテンツ産業の仕組み 3. 「ブラックブック」（蘭・2006） 4. 「ベルリン、僕らの革命」 （2004） 5. 「チェックポイント・チャーリーの女」（TV 映画 2007） 6. 「善き人のためのソナタ」（2006） 7. 「グッバイ、レーニン！」（2003） 8. 「善き人のためのソナタ」の成功と映画政策の転換 9. 政策転換後の作品①「白いリボン」（2009） 10. 政策転換後の作品②「東ベルリンから来た女」（2012） 11. 現代ドイツの演劇制度―演劇と社会 12. 学生運動、「新しい文化政策」から多文化共生政策へ 13. シュリンゲンジーフ、アキン、エアプラート 14. 現代ドイツ若者版「リア王」「群盗」「たくらみと恋」 15. ドイツのメディア文化と対外文化政策の課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。 参考文献：山口裕之（2012）『映画に学ぶドイツ語』東洋書店、他。	授業への参加度ならびに、学期末のレポートにより判断します。

08 年度以降	歴史と文化 1（ドイツ語圏のメディア文化 b）	担当者	秋野 有紀

講義目的、講義概要	授業計画
今学期は＜想像力×政治・社会×制度＞をテーマに、引き続き、現代ドイツ社会を「読む」ことを試みます。 この講義では、主にドイツのマス・メディアと政治文化をとりあげます。メディアに映し出されるドイツの代表的な政治家たちをとりあげ、政治とメディアの関係から、現代ドイツ社会を読み解くことが目的です。 マス・メディアを通じて広く有権者に訴えかける「劇場型政治」ということばを最近よく聞きますね。現代の政治は、多かれ少なかれ、メディアを通じたイメージ戦略という側面も持っています。 しかしドイツでは、政治家たちが「かっこよく」イメージを演出しようとすればするほど、マス・メディアによって嘲笑されてしまいます。それは、権力にメディアが踊らされないための「批判」的精神の表れかもしれません。あるいは、有権者たちをコントロールしようとするマス・メディアと政治家との権力をめぐる攻防戦なのかもしれません。 「媒介されたイメージ」であることを意識しながら、新聞、TV のトークショー、カリカチュア、選挙広告、演劇などを観察し、現在進行形の「ドイツ社会」を浮かび上がらせる方法を考えていきましょう。	1. 講義の概要と評価、参考文献について 2. ドイツ連邦議会総選挙を例に―新聞報道（日独英） 3. ドイツ連邦議会総選挙を例に―政治とイメージ 4. メディアと政治（理論と歴史　第一回） 5. メディアと政治（理論と歴史　第二回） 6. ジャマイカ，信号，ティーガーエンテとは？ 7. 被写体としてのメルケル 8. 若者向け TV ドラマとシュレーダー 9. メディア・コンテンツとしてのフィッシャー 10. トークショー 11. テレビ討論会 12. カリカチュア 13. シュリンゲンジーフ「チャンス 2000」 14. プロパガンダ・公共性・政治文化 15. 講義のまとめ ※ 受講者は、開講前に、ドイツ連邦議会総選挙（9 月下旬予定）の報道（日本の）について、少しだけ注目して見ておいてください（可能であれば）。政治にはいまいち興味がないなぁと思う人こそ、受講してみてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。 参考文献：A. Dörner (2001): „*Politainment*“, Suhrkamp 他。	授業への参加度ならびに、学期末のレポートにより判断します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降	歴史と文化 1（日本研究概論Ⅱ）	担当者	浅山 佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 日本語という言語とその文化を，現代という限定された時間における単体の言語として把握するのではなく，東部アジアにおける他言語との関係の中の歴史的な存在としてみることによって，日本という言語文化への視点を獲得することを目的とする。 〔講義概要〕 授業は，教員の用意する資料を使用してすすめられる。毎回の授業は，資料にもとづいた課題が提示されるので，履修者はそれに対して，解答を作成すること，またはグループで討議することが要求される。そのなかで日本語の言語文化または東部アジアの言語文化をとらえる各自なりの視点を形成していきたい。	1. ガイダンス　東アジアの言語文化 2. 古代中国語の世界 3. 漢文と日本語（中世） 4. 漢文と日本語（近世） 5. 中国語と東アジア 6. 漢字の問題 7. 共通語彙の問題 8. 前半のまとめ（東アジアと中国語） 9. 東アジアの言語分布(1) 10. 東アジアの言語分布(2) 11. アルイタイ仮説 12. 東南～南アジアの言語 13. 日本語と高句麗語 14. 日本語と韓国朝鮮語 15. 後半のまとめ（東アジアと日本語）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特定のテキストは使用しない。参考文献は開講後指示する。	試験(50%）とレポート(50%)を課し，その結果で評価する。なお，前提として出席をきびしく要求する。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(歴史学 1)(中世の仏教と社会) 歴史学 a(中世の仏教と社会)	担当者	新井 孝重

講義目的、講義概要	授業計画
◎中世の人々の暮らしの中に、宗教が色濃く影を落とした時代であったといわれている。この講座では、平安末期の源平争乱で焼け落ちた東大寺と、これを再建した勧進聖重源の活動を観ることによって、中世社会に果たした仏教の役割を考えたい。 （1） 東大寺を再建した男 （2） 重源の時代 （3） 信仰と経済	① 炎上する東大寺 ② 誰の力に頼るか ③ 重源の業績 ④ 木材をどこから運ぶか ⑤ 出現した大群衆 ⑥ 雨を突いて伊勢へ ⑦ 重源の記憶 ⑧ 法然と重源 ⑨ 合戦の中の黒田荘（くろだのしょう） ⑩ 天変地妖（てんぺんちよう）と飢餓・疫癘（えきれい） ⑪ 源平合戦の余燼 ⑫ 聖の社会事業 ⑬ 新しい経済社会の出現 ⑭ 後生の約束 ⑮ 「荘園」外の経済
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井孝重『黒田悪党たちの中世史』(NHK ブックス) （教科書を必ず携えて授業にのぞむこと）	試験成績による

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(歴史学 2)(中世の「悪党」と民衆)) 歴史学 b(中世の「悪党」と民衆)	担当者	新井 孝重

講義目的、講義概要	授業計画
◎ 中世は一揆の時代であるとも言われている。本講座では伊賀国の黒田荘に展開した中世後期の村の自治生活を、敵対する戦国大名の動きとの関係で観察する。地域自治とは何か、という問題を通じて民主主義の基礎を歴史的に考えたい。 （1） 戦乱の中の伊賀 （2） 自立する村 （3） 戦国のコンミューン	① 伊賀国の南北朝内乱 ② 錯綜する地侍の行動 ③ 大規模な合戦は続けられない ④ 国人領主の出現 ⑤ 自立する村 ⑥ 南都への志向 ⑦ 悪党たち、起請文を提出 ⑧ タテの力とヨコの力 ⑨ 惣国のコンミューン ⑩ 内部の規律と「平和」 ⑪ 織田信長軍、伊賀へ侵攻 ⑫ 崩れ去る惣国・中世の黄昏 ⑬ 兵農分離と石高制 ⑭ 中世民衆の共同体をどうみるか ⑮ 荘園史のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井孝重『黒田悪党たちの中世史』(NHK ブックス) （教科書を必ず携えて授業にのぞむこと）	試験成績による

08 年度以降	歴史と文化１（日本文学論・中世Ⅰ）	担当者	宇津木 言行

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、女房文学から隠者文学への交替を指標として区分することができる、古代より中世への和歌史を、各期を代表する歌人の和歌作品を取り上げて検討します。古典和歌文学の中心は、天皇の命によって編纂された勅撰集にあるが、女房と隠者の和歌についてみることは、周縁から和歌文学を眺め渡すことになります。 小野小町・和泉式部・西行の和歌作品を通して、古今集から新古今集までの和歌史を展望することにします。 近代短歌とは異なる古典和歌の表現の性格と、その読み方についての基礎的な理解も得られるようにしたいと考えます。	1.　講義の概要 2.　小野小町（1） 3.　小野小町（2）―移ろひ 4.　小野小町（3）―夢 5.　和泉式部（1） 6.　和泉式部（2）―帥宮挽歌１ 7.　和泉式部（3）―帥宮挽歌２ 8.　和泉式部（4）―帥宮挽歌３ 9.　女性仮託歌 10.　西行（1） 11.　西行（2）―たはぶれ歌１ 12.　西行（3）―たはぶれ歌２ 13.　西行（4）―たはぶれ歌３ 14.　講義のまとめ 15.　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いず、毎回プリントを配布する。	評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80%）と、出席（20%）によって評価する。

08 年度以降	歴史と文化１（日本文学論・中世Ⅱ）	担当者	飯島 一彦

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：お伽草子に見る中世日本人の想像力を味わう。 鎌倉時代以降、日本人の庶民の想像力が解放されて爆発的に様々な「お話」が記録されるようになった。それらを総称して「お伽草子」と呼ぶ。 現在「昔話」として語られる「お話」のほとんどは、「お伽草子」に淵源していると言って過言ではない。つまりそれは、現代日本人の発想の根源の大きな一つが「お伽草子」にあるということである。 今期は『一寸法師』『浦島太郎』等の、有名な作品を読み解いていくことでそれらを確認する作業を続ける。	１．オリエンテーション・導入 ２．概説（「お伽草子」とは何か？） ３．『一寸法師』を読む① ４．『一寸法師』を読む② ５．『一寸法師』を読む③ ６．『一寸法師』を読む④ ７．『一寸法師』を読む⑤ ８．『一寸法師』を読む⑥ ９．『浦島太郎』を読む① 10.『浦島太郎』を読む② 11.『浦島太郎』を読む③ 12『浦島太郎』を読む④. 13.『浦島太郎』を読む⑤ 14.『浦島太郎』を読む⑥ 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。	学期末試験の成績による。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（文化人類学 a） 文化人類学 a(未開文化の理解へ)	担当者	井上 兼行

講義目的、講義概要	授業計画
文化人類学は 19 世紀後半、当時の西欧社会によって‘primitive’と表現された（日本では、おおむね「未開」と表現されてきた）、極めて異なった文化をもつ社会の研究として始まった学問である。現在こうした文化は消滅しつつあるが、今までの資料によってこれを追求してゆくことは、文化の多様性を知る上で無駄ではないだろう。春学期は、この学問の誕生までの経緯、対象、視点、方法などを重点的に述べ、そのあと、こうした文化の事例を一つ、二つ取り上げ、その理解について説明する。 注：文化人類学の研究対象は上に述べたように「未開社会」、つまりわれわれの視点からすると、「遅れた」あるいは「非科学的」な社会です。またその文化は、現在の世界の画一化のなかでどんどん消滅しつつありますし、消滅してしまったものもたくさんあります。自分がそういうものに興味があるのか、よく考えて取るかどうか決めてください。	1 どんな学問か 2 概説書の紹介 3 文化人類学誕生まで（1） 4 同上　　（2） 5 研究対象としての「文化」の概念 6 分析の視点――歴史的視点 7 歴史的視点から現在的視点へ 8 方法としての実地調査（1） 9 同上　　（2） 10 この回以降は文化の事例とその理解について話すが、具体的に話に出す事例は、流れのなかで決めてゆく。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は随時紹介する。	定期試験期間中の試験による。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（文化人類学 b） 文化人類学 b(未開文化の理解へ)	担当者	井上 兼行

講義目的、講義概要	授業計画
a で話したことを基礎に、引き続いてこうした文化の事例を具体的に示し、それをどのように理解するかを明らかにする。また文化人類学はその理解の過程でわれわれ自身の文化について意識化し、批判を加える努力もしてきた。その点についても話ができればと思う。 注：強制はできませんが、なるべく春学期の a を受講した人が取ってくれることを望みます。そうしないと、話に出す事例に対して、なぜそんな馬鹿なことをするんだ、と思ってしまい、それだけで興味がもてなくなってしまうはずですから。	春学期に引き続いて、文化の事例とその理解、またそれを通して可能になる自文化の意識化について話をする。具体的に話す事例は、今のところ、「家族」「親族」「儀礼」「宗教」などを予定している。何の予備知識もなく、われわれのそれとは全く異なった、こうした文化の側面を理解するのは難しいので、左の注に記したように、希望者はぜひ春学期から取って欲しい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は随時紹介する。	定期試験期間中の試験による。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（異文化社会の認識と世界観 b） 歴史と文化（Ⅲ）（未開人の認識 b）	担当者	井上 兼行

講義目的、講義概要	授業計画
わたしの専門の文化人類学で「異文化」と言えば「未開の文化」を指すことをまずはっきり認識しておいてもらいたい。この文化では、世界観も、われわれ（文明）のそれとは全くちがったものをもっている。こうした「未開」文化の完全な理解などあり得ないが、われわれの認識の仕方を剥ぎ取りながら、その理解に迫ることは可能である。その一端を明らかにし、「異文化」としての「未開文化」の理解に供したい。 注：「未開」社会は、世界の画一化の中でどんどん消えつつあります。それを勉強して何の役に立つの、と考える人も沢山います。文化人類学の単位を取って、まあ面白くなくもないと思ったか、何らかのきっかけで「未開」の文化に興味をもっているかする人が受講するようにしてください。そうしないと、事例を挙げた途端に、どうしてそんなバカなことをやったり考えたりするんだ、と感じ、それだけでばかばかしく嫌になってしまいかねません。	世界観に重点を置いて話をする。詳細な内容も回数も明示できないが、「生活様式」「創世神話」「祖先崇拝」「象徴的二元論」に表れる世界観、といったテーマを考えている。こういう現象を通して「未開」社会の人々の、われわれとは「異なった」「世界観」を見ることができるようにしたい。またそうすることによってわれわれの世界観の特徴を少しは客観化して考えることができるようになるだろう。

テキスト、参考文献	評価方法
テキストはない。参考文献は随時紹介する。	受講者が多ければ（例えば 50 人以上なら）試験によるし、少なければ（例えば 30 人程度なら）レポートにすることもありうる。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(英語圏の小説a) 歷史と文化(Ⅲ)(英語圏の小説 a)	担当者	上野 直子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：次の三点を焦点に、world literature を視野におきながら英語圏の小説について考えます。 1. 小説というメディアが、異なる時代、異なる文化のなかでどのように産出され、受容されてきたか。 2. 英語圏拡大の歴史とポストコロニアルの文学地図。(言語についても考察します) 3. 歴史と世界のひろがりのなかで、テキスト同士が、あるいはテキストと現実とがいかに響きあっているか。 講義概要：小説という表現媒体が確立しはじめた17世紀末、18世紀はじめから現代まで、ほぼ時間軸にそって講義を進めますが、必要に応じて時代を行きつ戻りつすることがあります。講義で使用するテキストは、事前に配布しますので、必ずあらかじめ読んでおいてください。 注意事項：TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。	1. 新奇なるもの、小説？ (1) 2. 新奇なるもの、小説？ (2) 3. 英語圏の拡大　(1) 4. English Bestsellers of all time (1) 5. English Bestsellers of all time　(2) 6. 英語圏の拡大　(2) 7. 国民文学と政治的無意識 8. 小説の新たな挑戦　(1) 9. 小説の新たな挑戦　(2) 10. 語り返す言葉たちの登場、ポストコロニアルの文学地図(1) 11. ポストコロニアルの文学地図　(2) 12. ポストコロニアルの文学地図　(3) 13. ポストコロニアルの文学地図　(4) 14. テキストの思わぬ旅路　(1) 15. テキストの思わぬ旅路　(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
ハンドアウトを使用します。参考文献については、授業内で紹介します。	出席　30% 定期試験　70%

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(英語圏の小説b) 歷史と文化(Ⅲ)(英語圏の小説 b)	担当者	島田 啓一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　アメリカ小説の特徴・概略を知り、「主要な」作家たちの作品にできるだけ直接触れる（小説、短編小説などの抜粋を実際に読んでもらう）ことで学生諸君にアメリカ小説の魅力を発見してもらい、小説を通じてアメリカの文化を考える。 講義概要 　まず、アメリカ小説の歴史、概略を解説し、その後、リアリズム小説、モダニズム小説、現代の多文化共生を意識した黒人作家・ユダヤ系作家などの代表的な小説を取り上げ、鑑賞、解説を試みる。配布された作品(抜粋)の理解を深めることに重点を置く。 　講義形式が主であるが、希望があれば、学生諸君による作家や作品に関するプレゼン形式も採り入れる予定。 　なお、昨年度単位取得者の履修は許可しません。	1：　アメリカ小説の概略　(歴史・文化・社会) 2：　アメリカ小説の創生期 3：　アメリカン・ルネッサンス 4：　リアリズム小説１　(第一世代と第二世代のリアリズム作家たち) 5：　リアリズム小説２　(Mark Twain と *The Adventures of Huckleberry Finn*) 6：　リアリズム小説３　(Naturalism) 7：　モダニズム小説１(アメリカ小説のモダニストたち) 8：　モダニズム小説２(William Faulkner と"That Evening Sun”) 9：　モダニズム小説３("That Evening Sun”) 10：　モダニズム小説４(William Faulkner と *The Sound and the Fury*) 11：　多文化主義小説１(多文化主義とアメリカ小説) 12：　多文化主義小説２(黒人作家とユダヤ系作家) 13：　多文化主義小説３(Bernard Malamud と“The First Seven Years”) 14：　多文化主義小説４(“The First Seven Years”) 15：　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを使用 参考書：随時、授業にて紹介する	定期試験とメールによる作品理解のための複数回のミニレポート。定期試験を重視する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（日本事情とコミュニケーション教育） 歴史と文化(Ⅲ)（日本事情とコミュニケーション教育）	担当者	宇津木 言行

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、外国人の日本語学習者に日本語を教える日本語教師にとって必要なコミュニケーションスキルを理解し、修得したい学生の要望に応じることを目的として授業します。 常に異文化コミュニケーションの中にある日本語教師が、日本語教育の現場でどのように対応してゆけばよいのかを考え、異文化理解と様々なコミュニケーションスキルを紹介し、それを身につけるためのエクササイズを行います。	1. 異文化摩擦 2. 異文化理解とは（1） 3. 異文化理解とは（2） 4. コミュニケーション・スタイルを決めるもの（1） 5. コミュニケーション・スタイルを決めるもの（2） 6. 自分をふりかえる（1） 7. 自分をふりかえる（2） 8. 言語コミュニケーションの違い（1） 9. 言語コミュニケーションの違い（2） 10. 非言語コミュニケーションの違い（1） 11. 非言語コミュニケーションの違い（2） 12. 異文化コミュニケーションスキル（1） 13. 異文化コミュニケーションスキル（2） 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキストは八代京子・世良時子『日本語教師のための異文化理解とコミュニケーションスキル』（三終社）。	評価方法：期末試験の結果（80%）と、出席および随時行う課題（20%）によって評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（日本文化論） 歴史と文化（Ⅲ）（日本文化論）	担当者	宇津木 言行

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では日本研究の入門を目的とし、日本文化の各分野からトピックとなるような研究業績・課題を紹介します。 具体的には、歴史・民俗・宗教・美術・芸能・映画・マンガについて取り上げ、日本文化に関心を持つ学生が備えておきたい知識・教養を幅広く、かつ興味深く概観します。 授業を通して、日本文化の豊かさを様々な切り口から窺い知ることになります。	1. 網野義彦の歴史学（1） 2. 網野義彦の歴史学（2） 3. 柳田国男の民俗学（1） 4. 柳田国男の民俗学（2） 5. 折口信夫の民俗学 6. 仏教―法華経 7. 仏教と文学―宮澤賢治 8. 絵巻物の時空 9. 能 10. 民俗芸能 11. 黒澤明の映画 12. マンガの引用学 13. 戦後少女マンガ史 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いず、毎回プリントを配布。	評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80%）と、出席（20%）によって評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化 1（日本思想史 1） 歷史と文化(Ⅲ)（日本思想史 a）	担当者	川村 肇

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 思想に触れることの意味と、歴史を理解することの意味をつかみ、古代から近世に至る日本思想史の概略的な流れを理解することを第一の目的とします。そして現代の私たちを奥深く規定している日本の諸思想について考察することを第二の目的とします。それを通じて「日本」と「日本文化」について、様々な角度から客観的に考えることができるようになることを目指します。 【概要】 かなりの分量と数量の文献を読み、学期途中のレポート作成も数回あるので、意欲的に参加して下さい。古文や漢文を資料として用いるなど、かなり難解と思われるので、相当量の準備と復習を必要とすることをあらかじめ承知しておいて下さい。 なお、日本語を母語としない学生は、少なくとも「上級日本語Ⅱ」の単位を取得していること。受講にあたってはサポートの必要が出てくるので、初回の授業で必ず申し出てください。	1 回　講義の進め方の説明 2 回　古代から近世までの思想史の概略 3 回　『古事記』の思想 4～5 回　仏教の思想 6 回　日本の近世思想の概略／江戸という時代 7～8 回　儒学の思想 9 回　朱子学と日本 10 回　貝原益軒の思想 11 回　荻生徂徠の思想 12 回　水戸学の思想 13 回　武士道について 14 回　幕末維新期の思想／民衆の思想 15 回　日本文化の特質について
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義支援システムを利用して配布するプリント類による／参考文献は、適宜紹介する。	授業レポートシステムを利用して、毎回学んだことを記述してもらい、出席を管理する。その出席と中間レポート提出を 6 割以上クリアすれば、最高で B 評価だが、さらに最終レポートを提出すれば、最高 AA 評価とする。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化 1（日本思想史 2） 歷史と文化(Ⅲ)（日本思想史 b）	担当者	川村 肇

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 近代（明治時代ー敗戦・解放）の日本の思想の歴史について、その概略を理解することを第一の目的とします。また、自分の興味関心のある思想史の事象を探求する手段と方法を得ることを第二の目的とします。それを通じて、現代の私たちの立ち位置が確認できるようになることを目指します。 【概要】 本講義のテーマは､「近代日本の中国認識」です。中国認識を軸とした日本近代思想の概略を扱います。テキストと資料に基づいて思想家等が実際に書いたものを読んで、その今日的な意味を考えることを中心におきます。そのため、古文に近い日本語を読む力量が求められます。 なお、日本語を母語としない学生は、少なくとも「上級日本語Ⅱ」の単位を取得していること。受講にあたってはサポートの必要が出てくるので、初回の授業で必ず申し出てください。	1 回　講義の進め方の説明 2 回　近世日本の中国認識（1） 3 回　近世日本の中国認識（2） 4 回　近代日本の思想配置（戦前） 5 回　明治前半期の中国認識 6 回　福沢諭吉「脱亜論」を読む 7 回　中江兆民と中国 8 回　日清戦争と中国認識 9 回　辛亥革命と宮崎滔天 10 回　大正デモクラシーと中国（1） 11 回　大正デモクラシーと中国（2） 12 回　「東亜共同体」論 13 回　蔑視の思想 14 回　戦後の中国認識 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
松本三之介『近代日本の中国認識』（以文社）および講義支援システムを利用して配布するプリント類による／参考文献は、適宜紹介する。	授業レポートシステムを利用して、毎回学んだことを記述してもらい、出席を管理する。その出席と中間レポート提出を 6 割以上クリアすれば、最高で B 評価だが、さらに最終レポートを提出すれば、最高 AA 評価とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(日韓交流史) 歴史と文化(Ⅲ)(日韓交流史)	担当者	金(きむ)　熙淑(ひぃすく)(김 희숙)

講義目的、講義概要	授業計画
日本と朝鮮半島の間では、古くからさまざまな面での交流が行われてきており、両地域は政治・経済的にばかりでなく、社会・文化的にも密接な関係にあるといえる。本講座では、古代から近現代に至るまでの両地域間における交流の歴史を概観する。その際、抽象的な議論に終始しないよう、具体的な「出来事」を中心に講義を進めていく予定である。また、その過程における双方への「まなざし」(あるいは相互認識)のあり方やその変化についても焦点を当てていく。	１．ガイダンス ２．韓国の歴史の流れ ３．王仁博士と漢文 ４．日本の中の百済文化 ５．高麗時代の社会状況 ６．『三国史記』と『三国遺事』 ７．室町時代の朝鮮通信史 ８．江戸時代の朝鮮通信史 ９．豊臣秀吉と李舜臣 10．申叔舟と雨森芳洲 11．安重根と伊藤博文 12．日韓併合の政策 13．日韓併合(実施) 14．淺川巧と韓国 15．まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
レジュメを配布する。 参考文献：授業時に指示する。	・出席、課題レポート(講義内容から一つのテーマを選ぶ) ・日韓の交流と歴史を理解したか。 ・日韓の交流と歴史について相互認識ができるようになったか。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（大衆文化論） 歴史と文化（Ⅲ）（大衆文化論）	担当者	木本 玲一

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、現代の文化・芸術産業について理解を深めることを目的とする。各産業の成り立ち、市場の形成、関連する技術の変容、制度の確立、文化の動態などについて考えながら、私たちが日常的に接している文化・芸術について多角的に見る視点を養う。 特に音楽をはじめとするコンテンツや、それらの背景にあるサブカルチャー（音楽文化など）、さらにはそれらを取引する市場について、具体的な事例をもとに講義を進めていく。コンテンツを介したグローバル化についても、重点的に講義する。	第 1 回　イントロダクション 第 2 回　20 世紀のサブカルチャー1：ロックと対抗文化 第 3 回　20 世紀のサブカルチャー2：ロックの成熟化 第 4 回　20 世紀のサブカルチャー3：ヒップホップの時代 第 5 回　サブカルチャーとグローバライゼーション 1 第 6 回　サブカルチャーとグローバライゼーション 2 第 7 回　サブカルチャーとグローバライゼーション 3 第 8 回　サブカルチャーとグローバライゼーション 4 第 9 回　産業と文化 1 第 10 回　産業と文化 2 第 11 回　ヤンキー文化とオタク文化 1 第 12 回　ヤンキー文化とオタク文化 2 第 13 回　複合メディア社会とサブカルチャー1 第 14 回　複合メディア社会とサブカルチャー2 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時、指示する。	期末試験によって評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(歴史学1)(イスラーム世界の成立と拡大) 歴史学 a(イスラーム世界の成立と拡大)	担当者	熊谷 哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、人々が何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。 （講義概要） 7 世紀における預言者ムハンマドの出現から 16 世紀にいたる歴史を概観し、広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。	1 イスラームの基本を説明する。 2 イスラーム誕生以前の西アジア世界について。 3 預言者ムハンマド（マホメット）の出現と時代背景。 4 最初の４人のカリフ（正統カリフ）の時代について。 5 ウマイヤ朝の歴史。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味。 6 アッバース朝の歴史。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味。 7 聖典コーラン。預言者の言行録ハディースと解釈。 8 アッバース朝時代から発達したアラビア科学と、中世におけるイスラーム神秘主義。 9 アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現した軍事政権とその展開について。 10 マムルーク朝について。とくにイクター制が西欧の封建制と比較される点。 11 同その２ 12 ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係。レコンキスタ、十字軍、大航海時代など。 13 同その２ 14 イスラーム教徒の生活と社会 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくにさだめない。授業で指示する。	毎回出席をとる。期末にレポート。 レポートの表紙は授業で配布する。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(歴史学2)(イスラーム世界の近代化とその後) 歴史学 b(イスラーム世界の近代化とその後)	担当者	熊谷 哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。 （講義概要） 後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても，理解が深められるようにしたい。	1 オスマン朝の成立と発展について。「完成されたイスラーム国家」の定義も検討する。 2 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述する。 3 西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容。 4 さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフィズムなどの問題について考える。 5 エジプトの近代化とその過程について。考える。 6 トルコの近代化とその過程について。トルコナショナリズムとパン・イスラミズムの理解。 7 近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて考察する。 8 知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会について検討。 9 近・現代のアラブ世界の文化について考える。 10 今世紀のイスラーム世界について考える。 11 現在のアラブ諸国のかかえる問題，東西冷戦終結後における欧米諸国との関係を考える。 12 同その２ 13 旧ソ連におけるイスラーム。 14 イスラーム主義の主張と展開 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくにさだめない。授業で指示する。	毎回出席をとる。期末にレポート。 レポートの表紙は授業で配布する。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(東西の文化を結ぶもの) 比較文化論 a(東西の文化を結ぶもの)	担当者	熊谷 哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 西アジア地域，とくにイスラーム勃興以降の時代について，歴史と社会を考察しながら，「西洋」と「東洋」のつながりに目を向けたい 今日の「東洋」という概念は，西洋側の主観が生み出した産物だが，ひとまずそこに気付いていただくことが目的である。 （講義概要） 授業計画に示したように４つのテーマを設定し，それぞれ３回ずつ講義する。そのなかで必要に応じて，テーマの背景となる歴史，宗教，文化への説明を加えてゆく。みなさんには，どれかひとつを選んで知識を深めていただく。	1　Ａ；ユダヤ教世界とキリスト教のひろがり。その１ 2　同　その２ 3　同　その３ 4　Ｂ；イスラーム教の広がり。イスラーム世界におけるさまざまな文化の融合のあり方。その１ 5　同　その２ 6　同　その３ 7　Ｃ；キリスト教の歴史とその展開その１ 8　同　その２ 9　同　その３ 10　Ｄ；イスラエルの歴史からみた，ユダヤ教・キリスト教・イスラーム教。その１ 11　同　その２ 12　同　その３ 13　宗教の考え方　　神秘主義 14　仏教とヒンズー教 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
〔参考書〕高橋正男『物語イスラエルの歴史――アブラハムから中東戦争まで――』(中公新書)	レポートによる。 レポートの表紙は授業で配布する。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(東西文化と近代化) 比較文化論 b(東西文化と近代化)	担当者	熊谷 哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 春学期と同じ。秋学期ではとくに「西洋化」が東洋における近代化であった点，それが生み出すさまざまな問題点を検討していくことが目的である。 （講義概要） 授業計画に示したように４つのテーマを設定し，それぞれ３回ずつ講義する。そのなかでは必要に応じて，テーマの背景となる歴史，宗教，文化への説明を加えてゆく。みなさんには，どれかひとつを選んで知識を深めていただく。	1　Ｅ；大航海時代と世界の一体化。アジアとヨーロッパの出会い。その１ 2　同　その２ 3　同　その３ 4　Ｆ；アジアにおけるさまざまな近代化。その１ 5　同　その２ 6　同　その３ 7　Ｇ；帝国主義とイスラーム世界。イスラエルにおける中東問題。その１ 8　同　その２ 9　同　その３ 10　Ｈ；現在のイスラエル，旧ソ連諸国，旧ユーゴースラビア諸国における民族・宗教意識の関連。その１ 11　同　その２ 12　同　その３ 13　イスラーム法とその解釈 14　イスラーム主義とそのゆくえ 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
〔参考書〕高橋正男『物語イスラエルの歴史――アブラハムから中東戦争まで――』(中公新書)	レポートによる。 レポートの表紙は授業で配布する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(スペイン・ラテンアメリカの社会文化) 歴史と文化(Ⅲ)(スペイン･ラテンアメリカの社会文化)	担当者	兒島 峰

講義目的、講義概要	授業計画
(講義目的) この講義の目標は、ラテンアメリカの社会と文化の特徴を歴史的な形成過程と地理的状況とともに学び、現在におけるラテンアメリカ文化と社会との関係について理解することにある。 ラテンアメリカとは何か、今日のラテンアメリカの特徴はどのように形成されてきたのか、また、ラテンアメリカと呼ばれる地域の相違について理解を深めることを目標とする。 (講義概要) ラテンアメリカの社会と文化について、いくつかのトピックスに分けて、地域ごとの特徴を提示しながら説明する。 毎回、映像などの具体的な資料を提示し、その資料をもとに授業計画に沿って授業を進める。 (受講生への要望) スペイン語の知識は必ずしも必要としない。 ラテンアメリカの社会と文化に対する関心と学ぶ意欲が重要である。	1. オリエンテーション 受講上の注意 2. ラテンアメリカに関する基礎知識 3. 国際社会におけるラテンアメリカの位置づけ 4. ラテンアメリカの全体的特徴 5. ラテンアメリカの社会構造 その1 6. ラテンアメリカの社会構造 その2 7. ラテンアメリカにおける“人種”概念 8. ラテンアメリカにおける男と女 9. ラテンアメリカにおける男女観と“人種”概念 10. ラテンアメリカにおける男女観と“人種”、および社会構造 11. 先住民の文化と社会的地位 12. 国際社会における先住民の文化と社会的地位 13. ラテンアメリカの連帯意識 14. 今日のラテンアメリカと今後の展望 15. 論述試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献については授業中にその都度指示する。	学期末に行なう筆記試験を中心に評価する。

08 年度以降	歴史と文化１(歴史学 1)(文明史研究 a)	担当者	櫻井 悠美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 人間の諸活動の総体としての文明は、世界中に多様な形で存在しました。サミュエル・ハンチントンは、冷戦後の数々の国際紛争を文明の衝突としてとらえたのです。 しかし、本当に世界は文明単位で対立する状況なのでしょうか。現在ではむしろニーアル・ファーガソンが指摘するように、文明間で争われるよりもむしろ紛争の多くは同じ民族間同士での争いの様相を呈しています。こうした文明の概念の有効性を問い、これまでの研究史にふれながら、具体的な事例としてヨーロッパ文明の源流となったギリシア・ローマ文明に焦点を当て、考察を深めることを目的とします。 ＜講義概要＞ 古代にみられたそれぞれの文明について、戦争などの対立を契機に、また自然災害や気候変動といった要素が、それぞれの文明にどのように影響を与えたのかを論じます。特に民主主義発祥の地、ギリシアの経済危機がヨーロッパ全体に影響を及ぼしている現状を踏まえ、今後の民主主義の在り方についても考察します。また、図像資料やビデオ映像も使用し理解を深めます。	１、　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２、　クレタ文明 ３、　ミケーネ文明 ４、　トロイア戦争 ５、　ギリシア文明１ ６、　ギリシア文明２ ７、　ペルシア文明 ８、　ペルシア戦争 ９、　ペロポネソス戦争 １０、マケドニアとアレクサンドロス １１、ヘレニズム文明 １２、ローマの対内外戦争 １３、ローマ文明１ １４、ローマ文明２ １５、講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。	学期末のレポート及び中間での小レポート、さらに平常点を加えて総合的に評価します。

08 年度以降	歴史と文化１(歴史学 2)(文明史研究 b)	担当者	櫻井 悠美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 現代社会はヨーロッパにおけるＥＵの統合や多文化の共存、さらには経済活動のグローバル化とあいまって、これまでの歴史像を大きく変えてきました。本講義ではシュペングラーやトインビーの文明論を概観し、文明の世代交代としての範型として、ヨーロッパ文明について考察します。ギリシア・ローマ時代に体現された古典文明がその後どのように伝播されていったのかを辿りつつ、文明の崩壊を学ぶことによって今後私たちが歩もうとしている方向性を見直すヒントを考察したいと思います。 ＜講義概要＞ 文明論の一環としてのヨーロッパの歴史をとりあげたいと思います。 エウロペ神話からはじめ、ヨーロッパとは何かを論じます。ヨーロッパ文明が思想的にも物質的にもどのような形で世界の他地域へ伝播され、受容されていったかを検証します。特にアジアやアフリカ、そしてまた新大陸といわれた北米や南米等の視点からもヨーロッパがどのような存在であったかを検討し、平和的共存のためにヨーロッパに求められていることは何かについても考察します。また図像資料やビデオ映像を使用し理解を深めます。	１、　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２、　ヨーロッパとは何か ３、　ヨーロッパ文明の源、ギリシア文明 ４、　アレクサンドロス大王とヘレニズム文明 ５、　ローマ帝国の意味 ６、　中世フランク王国 ７、　イタリア・ルネサンス ８、　大航海時代 ９、　植民地を求めて １０、植民地の争奪 １１、第一次世界大戦 １２、大戦後のヨーロッパ １３、ヨーロッパ統合の思想 １４、講義のまとめ（１） １５、講義のまとめ（２）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。	学期末レポートと中間での小レポート、さらに平常点を加えて総合的に評価します。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（韓国文化各論 c） 歴史と文化(Ⅲ)（韓国文化各論 c）	担当者	佐藤 厚

講義目的、講義概要	授業計画
音楽とは、人間の感性に直結するものであり、それだけ文化の根底に根ざしているものです。本講義では韓国の音楽を講義することにより、韓国文化を理解することを目的とします。音楽といっても幅広いですが、本講義では民謡、伝統音楽といった古典から、トロット（ポップな演歌）、80-90年代のポップス、そして宗教音楽やアニメなどを取り扱います。 講義方法は、それぞれのジャンルの中の代表的な楽曲を取り上げて鑑賞した後、楽曲の構成や時代背景を解説し、理解を深めます。その後、講師と参加者が一緒に歌います。ここがメインです。これにより韓国文化の一端を直接体得できるでしょう。 この講義には、①韓国文化に関心があり、②歌を歌うことが好きな人、の参加を歓迎します。韓国語の知識は、あれば良いですが、韓国語を勉強したことがない人でも一緒に歌えるように配慮します。	1. 講義ガイダンス 2. 民謡（１） 3. 民謡（２） 4. 伝統音楽 5. 愛国歌 6. トロット（１） 7. トロット（２） 8. ポップス（１） 9. ポップス（２） 10. ポップス（３） 11. アニメ 12. 宗教音楽 13. 軍歌 14. 朝鮮民主主義人民共和国の音楽 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは無し。プリントを配布して授業を進めます。参考文献は授業で随時紹介します。	評価の基準は、１韓国の音楽に関する基本的知識を得ることができたか。２韓国の音楽と社会との関係を理解することができたか。 評価方法は、毎回の小レポート（30%）、期末試験（70%） ※参加人数によっては歌を試験に課す可能性もあります。 ※不定期でレポートを課す場合もあります。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(スペイン研究入門) 歷史と文化(Ⅲ)(スペイン研究入門)	担当者	二宮 哲

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン研究概論(スペイン・ラテンアメリカ研究入門I)では、主にスペインの言語・地理・文化・歴史に関する講義を行う。特にスペイン語を学ぶものにとっては最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。 講義は、スペインの歴史、地理、社会、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。 なお、秋学期に開講される「歴史と文化１（ラテンアメリカ研究入門)」と関連性・連続性が強いため、秋学期には左記授業を選択することが望ましい。	1. 世界のスペイン語 2. イベリア半島の地理・言語状況 3. カタルーニャの言語文化 1 4. カタルーニャの言語文化 2 5. バスク、ガリシアの言語文化 6. アンダルシーアの言語文化 7. イスラム・スペイン 8. 1492 9. フラメンコ・闘牛 10. スペイン黄金世紀 11. 18、19 世紀のスペイン 12. 18、19 世紀のスペイン 13. スペイン内戦とフランコ体制 14. スペインの民主化とヨーロッパ統合 15. 春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(ラテンアメリカ研究入門) 歷史と文化(Ⅲ)(ラテンアメリカ研究入門)	担当者	佐藤 勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、ラテンアメリカを対象とした地域研究入門の授業である。スペイン語履修者が知らなければならないラテンアメリカに関する基礎 知識を修得して、ラテンアメリカの特徴や魅力、抱えている課題についての理解を深めることを目的としている。 高校での地理、世界史などの授業においてラテンアメリカの項目は限定されているが、それでもいくつかの重要項目については教えられている。この授業では、それらの基礎知識を(再)確認するとともに、ラテンアメリカの人々の生活や社会の現状について歴史的背景を含めてより深く知る場としたい。 春学期授業とセットで履修することを希望する。 ラテンアメリカ研究を研究課題としたいと考えている人は必須である。	1 導入① ラテンアメリカとは 「二つのアメリカ」論を批判する 2 導入② ラテンアメリカの多様性 ベネズエラ：ハンモックの埋葬 3 ラテンアメリカの地理的・文化的多様性 各地域の音楽を通して 4 ラテンアメリカにおける人種・民族と言語① 先住民とメスティーソ indigenismo, indianismo 5 ラテンアメリカにおける人種・民族と言語② アフリカ系とヨーロッパ系 6 歴史① 先コロンブス期：インカ、アステカ、マヤ 7 歴史② コロンブスの到達の歴史的意味 8 歴史③ ラテンアメリカの独立と 19 世紀 9 歴史④ 米国と対峙する 20 世紀のラテンアメリカ 10 経済と社会① 経済政策とくらし 11 経済と社会② 政治体制とくらし 12 文化① 食文化、宗教と祭り 13 文化② 文学と造形芸術 14 米国ラティーノ：新しい民族集団の形成 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：増田義郎『物語 ラテンアメリカの歴史』(中公新書)	数回の小テストおよび期末テスト

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(恐怖の日本文学) 文学 a(恐怖の日本文学)	担当者	佐藤 毅

講義目的、講義概要	授業計画
(講義目標) 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。テーマに応じて日本の古典文学や文学思潮まで幅広く言及する。 (講義概要) 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。春学期は「恐怖の現代文学」と題して、恐怖や苦悩を扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。また、現代人と先人との相違まで考察する。 (受講生への要望) 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。	第１回　　恐怖の現代文学のアウトライン 第２回　①伝統的手法による恐怖の造形 第３回　②　同上 第４回　③　同上 荒俣宏「帝都物語」 京極夏彦「魍魎の匣」 坂東眞砂子「死国」 他 第５回　①超自然的事象の題材からの造形 第６回　②　同上 第７回　③　同上 梅原克文「二重螺旋の悪魔」 鈴木光司「リング」「らせん」 瀬名秀明「パラサイトイヴ」 他 第８回　①心理学的な題材からの造形 第９回　②　同上 第１０回③　同上 貴志祐介「黒い家」 桐野夏生「OUT」 他 第１１回①社会派ミステリーからの造形 第１２回②　同上 宮部みゆき「模倣犯」 東野圭吾「容疑者Ｘの献身」 他 第１３回　①原作を映像で見る 第１４回　②　同上 第１５回　まとめ（総集編）
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度、紹介する。	レポート（定期試験）

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(日本文学現代) 文学 b(癒しの日本文学)	担当者	佐藤 毅

講義目的、講義概要	授業計画
(講義目的) 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。 (講義概要) 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。秋学期は「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。 (受講生への要望) 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。	第１回　ガイダンス 第２回　①人間関係からの癒し 第３回　②　同上 第４回　③　同上 重松清「ビタミンＦ」 浅田次郎「鉄道員」 恩田陸「夜のピクニック」 佐藤多佳子「一瞬の風になれ」 他 第５回　①時間からの救い 第６回　②　同上 第７回　③　同上 浅田次郎「地下鉄に乗って」 北村薫「スキップ」「ターン」 佐藤正午「Ｙ」 他 第８回　①笑いの持つ救い 第９回　②　同上 奥田英朗「インザプール」 「空中ブランコ」 佐藤多佳子 「しゃべれどもしゃべれども」 第１０回①美しい生き方 第１１回②　同上 第１２回③　同上 藤沢周平、司馬遼太郎、池波正太郎 有川浩「阪急電車」 吉田修一「横道世之介」 天童荒太「悼む人」 他 第１３回①原作を映像で見る 第１４回②　同上 第１５回　まとめ（総集編）
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度、紹介する。	レポート（定期試験）

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化1（歴史学 2）(アメリカのエスニック・ヒストリー) 歴史学 b（アメリカのエスニック・ヒストリー）	担当者	佐藤 唯行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の前半ではユダヤ人たちがアメリカに渡る以前のヨーロッパでの「負け犬」時代を学ぶ。特にユダヤ人差別の発生メカニズムについて解明する。 後半では「負け犬」だったユダヤ人たちがアメリカで辿った苦難の歴史と、多数派からの抑圧をはねのけ共生の道を模索してきた姿を学ぶ。	1. 中世英国のユダヤ人金融 2. 西洋キリスト教世界初の一国規模のユダヤ人追放が行われた原因を探る —1290 年のイングランド— 3. 隠れユダヤ教徒の足跡、1290～1656 4. 千年王国思想とユダヤ人再入国 5. 17～18 世紀英国の外国貿易とユダヤ人 6. 英国人地主貴族社会への同化現象 7. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム 8. 英国ファシスト勢力との対決とナチス政権からの亡命ユダヤ人の受け入れ 9. 現代英国のユダヤ人社会 10. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 11. 植民地時代、建国初期における反ユダヤ主義の不在 12. 南北戦争期における反ユダヤ主義の出現 13. 公民権闘争期のユダヤ教会堂爆破 14. 1970 年代以後の反ユダヤ主義 15. 閉ざされた象牙の塔、高等教育におけるユダヤ人排斥
テキスト、参考文献	**評価方法**
『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年 集英社新書 680 円） 『英国ユダヤ人』佐藤唯行（1995 年 講談社選書 1600 円）	評価は筆記試験によって決定する。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストの持ち込み可。 5 択 20 問の Quiz 形式

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化1(歴史学1)(アメリカのエスニック・ヒストリー) 歴史学 a（アメリカのエスニック・ヒストリー）	担当者	佐藤 唯行

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期では世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。 各人種・民族集団間相互のあつれきを生み出したメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。 こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。 下記二冊のテキストにそってアメリカの人種関係史について学ぶ。	1. 先住民インディアン 2. 越境するヒスパニック 3. 今を生きる黒人 4. 歴史の中の黒人 5. 等身大のユダヤ人 6. 反ユダヤ主義とユダヤ系ギャングスター 7. アジア系－日系・中国系・韓国系－ 8. ホワイト・エスニック－アイルランド系・イタリア系－ 9. 異人種・異教徒間カップル 10. 大都市移民ゲットーのエスニック・コンフリクト 11. 自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン 12. 甦る儀式殺人告発、20世紀アメリカで復活した中世ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義 13. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 14. アメリカ南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年 集英社新書 680 円） 『映画で学ぶエスニックアメリカ』佐藤唯行（2008 年 NTT 選書 1600 円）	春学期と同じ。

08 年度以降	歴史と文化 1（韓国文学史）	担当者	沈 元燮

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 文学とは、歴史、宗教、芸術、言語、心理など、その国の文化のすべてを最も洗練された形で集約した言語芸術である。文学がその「文化の宝石」とよばれている理由がここにある。本講座では、古代から現代に至るまで、韓国文学史を代表している作品を、各時代の思想や世界観を中心に考察することを通して「韓国の心」へまっすぐ近づこうとする韓国研究企画の一つである。 **講義概要** 1）前近代：三国時代や高麗時代、朝鮮時代の詩や散文文学の流れを、当時の支配的な思想を中心に考察する。朝鮮時代は庶民階級が作り出した総合芸術である「パンソリ」文学を、映画「春香伝」の鑑賞とともに勉強する。 ２）近現代：近代国民国家作りが殖民地化とともに進行されるしかなかった韓国近代文学の特殊性を把握した上で、独立、朝鮮戦争、南北分断、軍事独裁時代を生き抜く韓国文学の流れを段階的に考察する。	第 1 週：オリエンテーション 第 2 週：この世と彼岸－古代歌謡と説話の世界 第 3 週：政治と愛欲と無常―朝鮮時代の詩歌文学 第 4 週：実学と庶民文学―朝鮮時代の小説とパンソリ 第 5 週：パンソリ映画「春香伝」鑑賞 第 6 週：亡国と近代―長編小説「無情」「万歳前」 第 7 週：「そなた」を待つ詩人たち 第 8 週：新しいリーダたち－プロレタリア文学 第 9 週：‘現代’都市の影とモダニズムの世界 第 10 週：遠い星への道－暗黒期の選択肢 第 11 週：廃墟の上から－戦争後の作家たち 第 12 週：「広場」にて－分断時代を生きる知識人と小市民 第 13 週：民主主義よ、万歳！－1970 年代の民主文学 第 14 週：建設期の共和国の文学、その後 第 15 週：エピローグ
テキスト、参考文献	**評価方法**
金東旭著 『朝鮮文学史 』（日本放送出版協会、1974） 『アジア理解講座 ： 「韓国文学を味わう」報告書』（国際交流基金アジアセンター、1997）など	出席、課題レポート、期末定期試験

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(都市と建築１) 歴史と文化(Ⅲ)(都市と建築１)	担当者	鈴木 隆

講義目的、講義概要	授業計画
木の文化に対して石の文化とも言われるように、西洋では我国の木造建築とは異なる石造建築の文化が広く発達してきた。本講義は、建築の歴史を通して西洋の文化の一面を知ることを目的とする。 西洋の建築の歴史は、過去の文化として記録されているのみでなく、現に存在する数多くの建築遺産を通して直接見ることもできる。本講義では、古代、中世および近世の西洋の建築の変遷を、それぞれの建築の意味を考えながら辿ってゆく。 なお、スクリーンに図面資料などを写しながら講義を進める必要から、受講生の定員を150名とする。	１．講義概要の説明 ２．古代エジプトの建築１ ３．古代エジプトの建築２ ４．古代オリエントの建築１ ５．古代オリエントの建築２ ６．エーゲ海建築 ７．中間のまとめ ８．古代ギリシャの建築１ ９．古代ギリシャの建築２ 10. 古代ギリシャの建築３ 11. 古代ローマの建築１ 12. 古代ローマの建築２ 13. 古代ローマの建築３ 14. 初期キリスト教建築 15. まとめ 以上の授業計画には多少の変更もありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。 参考文献は必要に応じて講義の中で紹介する。	試験の結果によって評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(都市と建築２) 歴史と文化(Ⅲ)(都市と建築２)	担当者	鈴木 隆

講義目的、講義概要	授業計画
木の文化に対して石の文化とも言われるように、西洋では我国の木造建築とは異なる石造建築の文化が広く発達してきた。本講義は、建築の歴史を通して西洋の文化の一面を知ることを目的とする。 西洋の建築の歴史は、過去の文化として記録されているのみでなく、現に存在する数多くの建築遺産を通して直接見ることもできる。本講義では、古代、中世および近世の西洋の建築の変遷を、それぞれの建築の意味を考えながら辿ってゆく。 なお、スクリーンに図面資料などを写しながら講義を進める必要から、受講生の定員を 150 名とする。	１．講義概要の説明 ２．ビザンチン建築 ３．イスラム建築 ４．プレ・ロマネスク建築 ５．ロマネスク建築１ ６．ロマネスク建築２ ７．ロマネスク建築３ ８．中間のまとめ ９．ゴシック建築１ 10. ゴシック建築２ 11. ゴシック建築３ 12. ゴシック建築４ 13. ルネサンス建築１ 14. ルネサンス建築２ 15. まとめ 以上の授業計画には多少の変更もありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。 参考文献は必要に応じて講義の中で紹介する。	試験の結果によって評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(中国史 a) 歷史学 a(中国近代史概説-清朝国家の黄昏)	担当者	張 士陽

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために，その成立の背景となる中国近代史について講義します。 19 世紀前半，中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000 年間，王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。 清朝国家は体制存続にために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して，当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思います。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが，伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。	第１回：講義の概要 第２回：清朝体制下の社会変動 第３回：アヘン戦争と冊封・朝貢体制の動揺 第４回：太平天国 第５回：体制の反撃 第６回：洋務運動 第７回；中体西用の諸相 第８回；開港場の社会と経済 第９回：農村社会の変容 第 10 回：周辺地域宗主権の喪失１ 第 11 回：周辺地域宗主権の喪失２ 第 12 回：琉球問題と台湾出兵 第 13 回：朝鮮をめぐる日中対立１ 第 14 回：朝鮮をめぐる日中対立２ 第 15 回：講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19　中華帝国の危機』（中公文庫Ｓ22－19）中央公論新社，2008 年。	出席状況と期末定期試験の結果による。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(中国史 b) 歷史学 b(中国近代史概説-近代国家創成の試み)	担当者	張 士陽

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために，その成立の背景となる中国近代史について講義します。 日清戦争の敗北によって清朝体制の存続は危機的状況に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々，さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し，また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどりながら，中華民国初期の近代国家建設の試みとその挫折を検証します。 またこの時期のモンゴル・チベットにおける独立運動についても検討します。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが，伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。	第１回：講義の概要 第２回：日清戦争 第３回：台湾の割譲と台湾住民の抵抗 第４回；変法改革 第５回：戊戌の政変 第６回：キリスト教布教と仇教運動 第７回：義和団の蜂起 第８回：纏足問題と天足運動 第９回：革命派の台頭 第 10 回：光諸新政と地方自治の試み 第 11 回：王朝体制の崩壊と中華民国の成立 第 12 回　第二革命と袁世凱政権の成立 第 13 回：モンゴルの独立運動 第 14 回：チベットの運動 第 15 回：講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19　中華帝国の危機』（中公文庫Ｓ22－19）中央公論新社，2008 年。	出席状況と期末定期試験の結果による。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(民俗学) 歴史と文化(Ⅲ)(民俗学)	担当者	林 英一

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの生活は、先祖から受け継がれてきたものである。継承されてきた先に現在があり、その受け継がれてきた心意や価値観を解明するのが民俗学である。そのため民俗学は過去の問題を研究するものではなく、継承されてきたものが、現在にどのようにつながり、現在の我々の生活の意味を探るものである。この研究は我々の現在の「存在」の在り方を探求する上でとても大事なことである。特にグローバル化された世界の中で、自分は何者であるのかを知ることが、相手を知ることに繋がるためである。 本講義では民俗学が研究対象とするものの概説、学問の誕生のいきさつから始め、具体的にいくつかの問題を取り出して、これまでの研究成果を学ぶ。本講義により自分たちの現在の生活世界の土台がどのようなものであり、それが現在にどのように受け継がれてきているのかということを理解してもらいたいと思っている。	1　ガイダンス 2　民俗学の研究対象（具体的に） 3　国学から民俗学へ（民俗学の成立） 4　日本の祭り１（祭りの映像記録を見る） 5　日本の祭り２ 6　異界の問題１（妖怪・幽霊とは何か） 7　異界の問題２（日本の幽霊観） 8　異界の問題３（妖怪と神の関係） 9　昔話にみる「日本」 10　日本の災害伝承 11　年中行事１（とくに正月をめぐって） 12　年中行事２（とくに盆をめぐって） 13　人生儀礼（人の一生における様々な儀礼） 14　日本人の死生観 15　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時にプリントを配布	試験による。ただし、４回以上の欠席は評価の対象としない。また出席表配布後の入室は遅刻として扱い、遅刻２回で欠席１回とする。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(地域文化) 歴史と文化(Ⅲ)(地域文化)	担当者	林 英一

講義目的、講義概要	授業計画
現在、特に都会では隣にどのような人が住んでいるのかわからない状況にある。しかし少なくとも江戸時代以降には、地縁的共同体が形成され、それにより個々の生活が支えられていた。その共同体を単位として生活様式などが受け継がれてきた。 阪神淡路大震災において、地縁的共同体が相互の助け合いに大きく役立ったという報道がなされている。また東日本大震災では「地域」移転の問題が大きく報じられている。 現在では都市化やネットの普及で、近隣との縁が薄くなった現実があり、従来の「地域」が崩壊しているといえる。その中での阪神淡路大震災での「地域」の役割は興味深いものがあるだけではなく、東日本大震災での「地域」移転による生活の変化、文化の変化を他人事のように捉えることはできない。 本講義では従来の「地域」がどのようなものであり、どのように機能してきたか、そして現在ではどのように機能しているか、祭りや実際の「地域」構造を例示しつつ説明するものである。本講義により、「地域」とは何か、また崩壊したといわれる地縁性をどのようにすればよいのか、「地域」の再生か、再生せずに別の在り方があるのか考えるきっかけになればと思う。人は一人では生きていけないのである。	1　ガイダンス 2　地名の成り立ちと地域（地域差の問題） 3　地域形成と生活構造 4　白川郷の「結」（ビデオと解説） 5　地域認識の問題（地名と地域の関係） 6　地域文化としての祭り１ 7　地域文化としての祭り２ 8　地域の重層的構成 9　内的他者とその機能 10　伝統的祭りの方向性１（過疎地域の問題、具体例を通して） 11　伝統的祭りの方向性２（都市地域の問題、具体例を通して） 12　文化圏としての地域文化（ビデオと解説） 13　地域文化とフォークロリズムの問題 14　地域文化と新興の祭り（伝統的「地域」を離れた祭り。ビデオと解説） 15　地域とボーダレス社会（現在にとって地域とは何か、シャッター商店街、子どもへの目の問題も含めて）
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時にプリント配布	試験による。ただし、４回以上の欠席は評価の対象としない。また出席表配布後の入室は遅刻として扱い、遅刻２回で欠席１回とする。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１（日本文学古典） 文学 a（日本文学－奈良時代の文学を読む）	担当者	福沢 健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテクストを取り扱うことは不可能なので、春学期は奈良時代の文学テクストについて講義する。 講義概要 奈良時代の文学テクストの代表的なものは、古事記・万葉集・風土記である。この中で、興味が持てそうなストーリーを持った、古事記・風土記に載せられている神話伝説を取り扱う。具体的には、古事記のヤマタノヲロチ神話を題材として、上代と現代の人々の自然観の違いについて話をしていきたい。それに際して、同一のテーマを扱った現代の作品として、宮崎駿の「もののけ姫」や「水爆大怪獣ゴジラ」(時間があれば…)についても扱うことを予定している。	1 神話とは何か 2 ヤマタノヲロチ神話を読む① 3 ヤマタノヲロチ神話を読む② 4 ヤマタノヲロチ神話を読む③ 5 ヤマタノヲロチ神話を読む④ 6 日本人遙かな旅を見る① 7 日本人遙かな旅を見る② 8 宮崎駿「もののけ姫」を見る① 9 宮崎駿「もののけ姫」を見る② 10 宮崎駿「もののけ姫」を見る③ 11 宮崎駿「もののけ姫」を見る④ 12 宮崎駿「もののけ姫」を見る⑤ 13「水爆大怪獣ゴジラ」を見る① 14「水爆大怪獣ゴジラ」を見る② 15 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　なし 参考文献　授業時に指示する	試験(持ち込み不可)・レポート・出席の総合点によって決める。

08 年度以降 07 年度以降	歴史と文化１（平安時代の文学を読む） 文学 b（日本文学―平安時代の文学を読む）	担当者	福沢 健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテクストを取り扱うことは不可能なので、秋学期は平安時代の文学テクストについて講義する。 講義概要 平安時代の文学テクストは数多く残されているが、この講義では「異郷訪問譚」というキーワードのもとに、『伊勢物語』『源氏物語』を取り扱う。また、同じ「異郷訪問譚」の構造を持つ現代のファンタジーである「千と千尋の物語」を取り扱うことによって、上代・中古と現代の人々との間の運命観の違いについて話をしていきたい。	1 異郷訪問譚とは何か① 2 異郷訪問端とは何か② 3 伊勢物語を読む① 4 伊勢物語を読む② 5 源氏物語を読む① 6 源氏物語を読む② 7 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る① 8 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る② 9 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る③ 10 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る④ 11 源氏物語を読む③ 12 源氏物語を読む④ 13 源氏物語を読む⑤ 14 源氏物語を読む⑥ 15 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　なし 参考文献　授業時に指示する	試験(持ち込み不可)・レポート・出席の総合点によって決める。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１（文化史入門） 歴史と文化（Ⅲ）（文化史入門）	担当者	古川 堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティーの確立の必要性を意識します。そのとき、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれら文化遺産や文化事象を包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式を意味し、そこに体現された社会や集団の個性や特質をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているかを古代ギリシア・ローマ世界を例にとりあげ、自己の帰属意識や自己認識にとっていかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的にしています。 ＜講義概要＞ 本講義では、古代地中海世界で体現された技術文化、造形芸術、文学・演劇などの個々の文化事象（狭義の文化）とそれらを生み出した社会との関係を示した後、宗教と祭祀、世界観、性愛、競争的人間類型などの生活や思考様式（広義の文化）がどのように歴史的に作り上げられていったかを見ます。	１　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２　技術文化（その１）：動力とエネルギー源 奴隷労働は生産的であったか？ ３　技術文化（その２）：水の供給・処理と農業・牧畜 水道橋にかけるローマ人の執念 ４　運送手段（その１）：船と海上輸送 古代の戦艦「三段櫂船」の脅威 ５　運送手段（その２）：陸上輸送 古代の「一般道」と「高速道路」 ６　造形芸術：建築と彫刻 アルカイック・スマイルの謎 ７　文学の世界：叙事詩と演劇 ギリシア文化の普遍性 ８　宗教と祭祀：神々と人間 ギリシア人は「神話」を信じていたか？ ９　性愛の諸相（男と女）（その１）：同性愛 １０　性愛の諸相（男と女）（その２）：異性愛 １１　競技的（アゴン）人間類型：理想的人間とは？ １２　クリエンテーラ・パトロネジ関係 １３　民主政の中の人間関係（１） １４　民主政の中の人間関係（２） １５　まとめ（総括と展望）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わず、プリントを配布します。また、初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。	学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、平常点を加味して総合的に評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化 1 (歴史学 1) (ヨーロッパ史 1) 歴史学 a(ヨーロッパ史 1)	担当者	増谷 英樹

講義目的、講義概要	授業計画
日本におけるユダヤないしユダヤ教のイメージは及びユダヤ概念は明治の時代以降から基本多岐にはヨーロッパのユダヤ像に依拠し，その影響を受けてきた．しかし日本に置けるヨーロッパ像そのものが，戦後の日本においては極めて肯定的にりかいされてきたので，戦争中のドイツのホロコーストなどが何故起こったのかという問いに客観的に答えを出すことが出来ず，ヒトラーの個人的思想や，ナチの極端な民族主義にそのげんいんを求めてしまってきた．しかしそのホロコーストは実は何世紀にも渡る長いヨーロッパの歴史そのものにその要因ないしげんいんをおっているのであって，ヒトラーの個人的思想だけにその原因を求めること亞は出来ない．ヨーロッパは長い歴史の中でどのようにしてホロコーストにつながるようなユダヤ像を形成し創り出してきたのか，その根源から史料に基づいて理解していくこと，そして日本のヨーロッパ理解を根底から改めてみたいというのが本講義の目標となる． 上に述べたように，ヨーロッパの成立からキリスト教が支配してきた中世，啓蒙主義の発生してきた近世，ナショナリズムが台頭する近代そしてヨーロッパがせかいを支配し，二度に渡る世界大戦を引き起こした現代にいたる歴史を，そのユダヤ像をじくにして読み直していく．	春学期 Ｉ）授業の意味と内容全体の説明 ２）ローマ帝国に置けるユダヤ像の転換 ３）ヨーロッパ時代の始まりの中でのユダヤ ４）十字軍時代における敵対的ユダヤ像 ５）ペストの流行時のユダヤ像 ６）第４回ラテラノ公会議におけるユダヤ規定 ７）「皇帝隷属蔵民」規定の成立と転換 ８）「東方ユダヤ」の成立とユダヤ像の転換 ９）イベリア半島におけるユダヤ像 １０）宗教改革期のユダヤ像 １１）啓蒙主義におけるユダヤの理解 １２）ユダヤ啓蒙主義の現れ １３）ヨーゼフ２世の「寛容令」の意味 １４）前半のまとめ １５）レポート課題の説明
テキスト、参考文献	**評価方法**
	レポート

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化 1 (歴史学 2) (ヨーロッパ史 2) 歴史学 b(ヨーロッパ史 2)	担当者	増谷 英樹

講義目的、講義概要	授業計画
日本におけるユダヤないしユダヤ教のイメージは及びユダヤ概念は明治の時代以降から基本多岐にはヨーロッパのユダヤ像に依拠し，その影響を受けてきた．しかし日本に置けるヨーロッパ像そのものが，戦後の日本においては極めて肯定的にりかいされてきたので，戦争中のドイツのホロコーストなどが何故起こったのかという問いに客観的に答えを出すことが出来ず，ヒトラーの個人的思想や，ナチの極端な民族主義にそのげんいんを求めてしまってきた．しかしそのホロコーストは実は何世紀にも渡る長いヨーロッパの歴史そのものにその要因ないしげんいんをおっているのであって，ヒトラーの個人的思想だけにその原因を求めること亞は出来ない．ヨーロッパは長い歴史の中でどのようにしてホロコーストにつながるようなユダヤ像を形成し創り出してきたのか，その根源から史料に基づいて理解していくこと，そして日本のヨーロッパ理解を根底から改めてみたいというのが本講義の目標となる． 上に述べたように，ヨーロッパの成立からキリスト教が支配してきた中世，啓蒙主義の発生してきた近世，ナショナリズムが台頭する近代そしてヨーロッパがせかいを支配し，二度に渡る世界大戦を引き起こした現代にいたる歴史を，そのユダヤ像をじくにして読み直していく．	秋学期 Ｉ）春学期のまとめ ２）フランス革命期前のユダヤ像 ３）人権宣言とユダヤの位置 ４）ナポレオンのユダヤ像 ５）プロイセン改革の中でのユダヤ議論 ６）ウィーン会議のユダヤ議論 ７）一九世紀前半の民族運動とユダヤ ８）１８４８年革命とユダヤの自己意識 ９）ユダヤのいわゆる「法的解放」の意味 １０）「近代社会」の中のユダヤ １１）人種主義の発展と反セム主義 １２）反セム主義とシオニズム １３）社会主義運動とユダヤ １４）第一次世界大戦とナチ党の成立 １５）まとめ「ホロコーストとヨーロッパ」
テキスト、参考文献	**評価方法**
	レポート

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１（英語圏の文学） 歴史と文化（Ⅲ）（英語圏の文学文化）	担当者	担当者未定

講義目的、講義概要	授業計画
春学期授業開始時までに掲示等にて告知する。	春学期授業開始時までに掲示等にて告知する。
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降	歴史と文化１（英語圏の文学Ⅱ）	担当者	担当者未定

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期授業開始時までに掲示等にて告知する。	秋学期授業開始時までに掲示等にて告知する。
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化 1 (歴史学 1) (「15 年戦争」をどうとらえるか) 歴史学 a(「15 年戦争」をどうとらえるか)	担当者	丸浜 昭

講義目的、講義概要	授業計画
1945 年に終わった戦争は普通には太平洋戦争と呼ばれ、相手はアメリカだったととらえられがちであるが、これを見直す必要がある。対米開戦前に泥沼の日中戦争が続いており、さかのぼれば 1931 年の満州事変にいきつく。足かけ 15 年の戦争で、日本が一番長く戦った国は中国である。 中高でのこの戦争の学習では、原爆や空襲などの被害を重点に学ぶことが多いようだが、被害面だけでなく、戦争全体の中での加害面にもしっかり目を向けたい。見るのがつらいところもあるかもしれないが、ビデオをかなり使う。そして、当時の教育や社会の状況、経済との関わりなども含めて、戦争の全体像を考えたい。中国や韓国をはじめアジア諸国との関わりがますます強まる中、この戦争はどういうものだったかの事実はしっかり知っておきたい。また、戦争の原因を日清・日露戦争にさかのぼって世界の中、アジアの中での日本の歩みを概観し、考察してみたい。なお、なるべく秋学期とあわせて受講して欲しい。	1　1945 年に終わった戦争の相手・呼称をめぐって 2　1941 年 12 月 8 日―真珠湾からかコタバルからか 3　被害の問題①―空襲は何を示すか 4　被害の問題②―原爆投下をどうとらえるか 5　日中戦争をとらえる①―満州事変から日中戦争へ 6　日中戦争ととらえる②―対米英戦争とのかかわり 7　加害の問題①―731 部隊とは何か 8　加害の問題②―南京事件をどうとらえるか 9　加害の問題③―三光作戦をめぐって 10　兵士と民衆①―日本軍隊の特徴をみる 11　兵士と民衆②―教育でどう兵士が育てられたか 12　戦時下の社会―天皇制と国家神道・戦争への動員 13　戦争と経済の関わりを考える 14　この戦争の原因をどうとらえるか① 15　この戦争の原因をどうとらえるか②
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、事前出題による論述形式で試験を実施する。出席カードによる出席点をいくらか加味する。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化 1 (歴史学 2) (戦後史の中の「15 年戦争」) 歴史学 b(戦後史の中の「15 年戦争」)	担当者	丸浜 昭

講義目的、講義概要	授業計画
なぜ沖縄には、たくさんの米軍基地があるのか…。それはどうつくられ、どう維持されてきたのか。戦後のアメリカとの関わりをふまえて日本と沖縄の歩み学ばなければ、今日の沖縄の問題をとらえることはできない。1945 年 8 月 15 日に敗戦を迎えた戦争（アジア太平洋戦争・15 年戦争）は、戦後 60 年を越えた今日でもさまざまな課題を残す。占領以来のアメリカとの関係が、講和や賠償問題等をとおしての今日の日本の在り方、また日本人の戦争認識にも大きな影響を与えてきた事実に目を向けたい。 中国や韓国をはじめとするアジアの国々は、この 2、30 年間で大きく変わってきた。民衆の声がそれぞれの国を動かすようになり、かつては不可能だった民衆同士の交流が大きく進んできた。戦後補償や戦争の認識をめぐる論議が今もおこることを、やっとそういう論議ができるようになったと捉える必要がある。そうしたことをきちんと論議ができる知識をもつ若者でいて欲しい。 2011 年の 3･11 を経て、原発がどのように導入されてきたかを知ることの不可欠になった。取り上げていきたい。 なお、なるべく春学期とあわせて受講して欲しい。	1　本土決戦と日本の戦争の終わり方 2　沖縄戦が私たちに投げかけたこと 3　日本国憲法はどう生まれたか 4　東京裁判をめぐって 5　サンフランシスコ講和のもった問題 6　原発の導入をめぐって①―ビキニ被曝の直後に 7　原発の導入をめぐって②―原子力共同体と安全神話 8　日本の国内での補償をめぐって 9　日本のアジアへの補償をめぐって 10　日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか 11　日中国交回復を考える 12　沖縄の復帰が「日本」に問いかけていること 13　アジアの民衆からの戦後補償要求 14　「731 部隊展」の取り組みが意味したこと 15　戦後 50 年の国会決議をめぐって
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、事前出題による論述形式で試験を実施する。出席カードによる出席点をいくらか加味する。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(移民・交易に見る文化変容) 歷史と文化(Ⅲ)(移民・交易に見る文化変容)	担当者	水口 章

講義目的、講義概要	授業計画
人間は古くから移住や交易を通し、物や情報を交換し、文化を形成してきた。本講義の目的は、歴史的な交易と文化圏のあり方を確認しながら国際移動について理解を深めることである。特に、商人ネットワークや商業ルートに注目し、文化変容についての理解を深める。 その上で、国際移民・交易と国民国家の経済発展のかかわり合いについて考察できる能力を養うことを到達目標とする。 授業の進め方は講義形式で、授業を３つに区分する。各区分の終了時には理解度を確認するためのグループ討議（ブレインストーミング）を行う。	１　ガイダンス（「移動」について考える） ２　朝貢貿易と東アジア交易 ３　市場経済と地中海交易圏 ４　イスラム商業とインド洋 ５　小まとめ：異文化間交易と文化圏 ６　ヨーロッパの台頭と商人・商品 ７　大航海時代と物・人の移動 ８　環大西洋世界と物・人の移動 ９　産業革命と物・人の移動 １０　小まとめ：国民国家体制と移動 １１　移民過程とエスニック・マイノリティ １２　第２次世界大戦までの移民と経済発展 １３　戦後の高度成長期の移民と経済発展 １４　グローバル化と移動 １５　まとめ：グローバル化される国際社会における文化変容
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜参考文献＞ S･カスルズ/M･J･ミラー『国際移民の時代』名古屋大学出版会 ウィリアム･バーンスタイン『華麗なる交易』日本経済新聞出版社	学習態度（10%）、課題（20%）、最終レポート（70%）で総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化１(グローバル化と情報・通信の文化史) 歷史と文化(Ⅲ)(グローバル化と情報・通信の文化史)	担当者	水口 章

講義目的、講義概要	授業計画
情報通信の発達は、交通の発達と合わせて、社会変化に重要な役割を果たしてきた。歴史的には、狼煙にはじまり、駅制、飛脚、郵便馬車、電信、電話、そしてインターネットなどの手段が挙げられる。 そこで、古代からの通信技術の発達史を振り返り、人類がどのような工夫をして情報を伝達してきたかについて学ぶ。 また、情報を取り扱うメディアについて概観することで、現代の経済活動や国民生活と情報がどのように関係しているのかについて、理解を深めることを目的とする。 到達目標は、グローバル化社会において情報をより活用できる能力を養成することである。 授業の進め方は講義形式で、授業を３つに区分する。各区分の終了時には理解度を確認するためのグループ討議（ブレインストーミング）を行う。	１　ガイダンス（情報化時代について考える） ２　情報伝送方法 ３　古代王国と駅制 ４　帝国の通信ネットワーク ５　小まとめ：一対一の通信と社会変化 ６　新聞の創業 ７　通信社の誕生 ８　ラジオ・テレビ時代 ９　グローバルメディア誕生 １０　小まとめ：一対多の通信と社会変化 １１　双方向・同時通信の社会 １２　情報資料の収集と分析 １３　情報とビジネス １４　情報と国家 １５　まとめ：グローバル化と情報の活用
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜参考文献＞ 星名定雄『情報と通信の文化史』法政大学出版局 柏倉康夫『情報化社会研究』放送大学大学院教材	学習態度（10%）、課題（20%）、最終レポート（70%）で総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（アラブ文化・芸術 a） 歴史と文化（Ⅲ）（アラブ文化・芸術 a）	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラブと聞いて、多くの人はまず何を思い浮かべるでしょうか？テレビのニュースで見る戦場やテロの報道、戒律が厳しいと言われるイスラーム教や女性の抑圧、そしてトンネルの先が見えないパレスチナ問題など、「怖い」「暗い」「分かりにくい」といったネガティブなイメージが強いのではないでしょうか。 しかし、テレビで報道されるアラブ像は、アラブ世界のほんの小さな一面でしかなく、しかも中には歪曲されたイメージも少なからず紛れ込んでいます。そういったイメージの蓄積によって作り上げられるステレオタイプを打破しようというのがこの講座の目的です。 アラブの芸術、芸能、文学、そして生活文化を通してアラブ人の心と表現世界に親しみ、皆さん独自のアラブ像を形成してもらいたいと思います。 アラブの芸術といえば，世界一有名なファンタジー，そしてSF の原点とも言われる「千夜一夜物語」がまず浮びますが，同時にアラブの文化は詩人の文化であり，また非常に洗練された音楽芸術を育んできました。近年ではノーベル文学賞に輝いたナギーブ・マハフーズやカンヌ映画祭で表彰された映画監督ヨーセフ・シャヒーンなど、国際的な評価を得ている芸術家も少なくありません。この講座ではまず誤解の多いイスラームの解説から始まり、宗教が今も深く根付いている生活文化を知ると同時に、音楽、映画、演劇、文学作品を味わいながら、楽しく真剣にアラブ人の社会やメンタリティーを探っていきます。 ディスカッションには積極的に参加し、反対意見を恐れずにどんどん自己主張してください。	1. イントロダクション：アラブ人とは？ 2. 「イスラム」と「イスラーム」 3. ムスリムにとって「クルアーン」とは 4. アラブ人の生活文化　1）食生活と祭 5. アラブ人の生活文化　2）家族・女性 6. アラブ音楽入門 I 7. アラブ音楽入門 II 8. パレスチナ問題と芸術　1）演劇 「アライブ・フロム・パレスチナ」鑑賞 9. 演劇鑑賞レポート提出・ディスカッション 10. パレスチナ問題と芸術　2）記録映画 11. パレスチナ問題と芸術　3）小説 作家ガッサーン・カナファーニの世界 中編「太陽の男たち」「ハイファに戻って」 読後レポート提出・ディスカッション 12. パレスチナ問題と芸術　4）詩人 「パレスチナの声」マハムード・ダルウィーシュ 13. パレスチナ問題と芸術　5）映画 14. イスラーム報道・アラブ報道を考える 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。 参考文献：『恋するアラブ人』『イスラームから考える』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）『アジア読本・アラブ』（大塚和夫編・河出書房新書）など。	出席回数、レポート、平常点（ディスカッション参加や発言の頻度）

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（アラブ文化・芸術 b） 歴史と文化（Ⅲ）（アラブ文化・芸術 b）	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラブと聞いて、多くの人はまず何を思い浮かべるでしょうか？テレビのニュースで見る戦場やテロの報道、戒律が厳しいと言われるイスラーム教や女性の抑圧、そしてトンネルの先が見えないパレスチナ問題など、「怖い」「暗い」「分かりにくい」といったネガティブなイメージが強いのではないでしょうか。 しかし、テレビで報道されるアラブ像は、アラブ世界のほんの小さな一面でしかなく、しかも中には歪曲されたイメージも少なからず紛れ込んでいます。そういったイメージの蓄積によって作り上げられるステレオタイプを打破しようというのがこの講座の目的です。 アラブの芸術、芸能、文学、そして生活文化を通してアラブ人の心と表現世界に親しみ、皆さん独自のアラブ像を形成してもらいたいと思います。 アラブの芸術といえば，世界一有名なファンタジー，そしてSF の原点とも言われる「千夜一夜物語」がまず浮びますが，同時にアラブの文化は詩人の文化であり，また非常に洗練された音楽芸術を育んできました。近年ではノーベル文学賞に輝いたナギーブ・マハフーズやカンヌ映画祭で表彰された映画監督ヨーセフ・シャヒーンなど、国際的な評価を得ている芸術家も少なくありません。この講座ではまず誤解の多いイスラームの解説から始まり、宗教が今も深く根付いている生活文化を知ると同時に、音楽、映画、演劇、文学作品を味わいながら、楽しく真剣にアラブ人の社会やメンタリティーを探っていきます。 ディスカッションには積極的に参加し、反対意見を恐れずにどんどん自己主張してください。	1. 後期イントロダクション―アラブの日常 2. レバノン映画「キャラメル」とアラブ女性 3. 映画鑑賞レポート提出・ディスカッション 4. 「アラブ革命の春」を考える 5. アラブ文化は詩の文化（1）：詩人変人今昔 6. アラブ文化は詩の文化（2）：中世ヒップホップ 7. アラブ文化は詩の文化（3）：現代のアイドル 8. アラビアンナイトは逆輸入？「千夜一夜物語」 9. ハリウッド映画になったアラブ旅行文学 10. アラブの芸能界　1）歌謡曲 11. ノーベル賞作家ナギーブ・マハフーズの世界 12. 小説「バイナルカスライン」レポート提出 13. 続き　（ディスカッション） 14. ヨルダン映画　「キャプテン・アブーラーイド」 15. 映画鑑賞ディスカッション・まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。 参考文献：『恋するアラブ人』『イスラームから考える』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）『アジア読本・アラブ』（大塚和夫編・河出書房新書）など。	出席回数、レポート、平常点（ディスカッション参加や発言の頻度）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（異文化間コミュニケーション b） 歴史と文化（Ⅲ）（異人種共生の試練＜アメリカ編＞）	担当者	山本 英政

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、アメリカにおける異文化間の闘争とハワイの多民族社会の形成について紹介する。 複数の民族を有する国の理想は異なる文化を認め合う社会の創造であろう。多民族社会アメリカでは、人種、民族間で生じる摩擦によって、ときに多大な犠牲が払われてきたのである。 10 週目までは、黒人による差別撤廃運動の過程を紹介する。公民権運動から半世紀以上が過ぎたが、どれだけ人種間の理解は進展を見たのだろうか。 そのあとの講義では、多民族共存のひとつのモデルともいわれるハワイ社会を取り上げる。日本人移民のハワイにおける体験を検証し、異民族共存の困難さを考えてみたい。	1. ガイダンス 2. モザイク国家アメリカ 3. ロス暴動に見る共生の現実 4. 奴隷制下の人種共存 5. 奴隷解放？現実は？ 6. 自由と平等への戦いのはじまり 7. 公民権運動の共生理念 8. 非暴力不服従　ガンジーとキング 9. 急進派ブラック・パワーとは 10. モハメッド・アリ 11. 多民族混合社会ハワイ 12. ハワイの経験－多民族の取り込み－ 13. 日本人移民の背景 14. 排斥事件 15. まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト:『ハワイの日本人移民』山本英政　明石書店 参考文献:『アメリカ黒人の歴史』本田創造　岩波新書 『キング牧師とマルコム X』上坂昇　講談社現代新書	学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(英語圏の文化) 歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の文化)	担当者	山本 英政

講義目的、講義概要	授業計画
年間、60 数万人もの移民を受け入れているアメリカ。白人々口の割合は減る一方で、今世紀の半ばには 5 割を切るという。 国家の黎明期、アメリカはイギリス文化を模したワスプ（WASP＜White Anglo-Saxon Protestant＞）社会を創造した。１９世紀末、工業化に伴い膨大な数の移民を受け入れたアメリカは多民族国家へと急速に変化していったが、ワスプ文化は依然として社会の根幹をなしていた。 冷戦下のベトナム戦争は既存の文化に対抗するカウンターカルチャーを生み、それまでのアメリカ的価値観に大きな揺らぎをもたらした。 近年、よく聞かれる多文化主義にいたるアメリカ文化の変遷を、社会の変化を捉えながらたどり、この国の文化の特徴を明らかにする。	1. ガイダンス 2. 国家建設とワスプ主義 3. 工業化と新移民の流入 4. 多民族社会の問題 5. 異文化と差別 6. メルティングポット論 7. ビートニックス 8. 冷戦とベトナム戦争 9. カウンターカルチャー 10. カウンターカルチャー 11. 映像 12. 文化多元論 13. アファーマティブアクション 14. 多文化主義 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：授業で紹介する	学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(英語圏事情) 歴史と文化(Ⅲ)(英語圏事情)	担当者	山本 英政

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化の理想は、世界の共生である。しかし、現状は欧米、とくに経済と軍事の強大な力をもつアメリカの影響力に圧倒されている。他方、世界はアメリカがつくるポップカルチャーの魅力の虜となっている。硬軟両方のアメリカのパワーを認識し、世界のあるべき姿を考える。 イスラム世界に対する軍事力の行使は、「力」を信望するアメリカの姿をわたしたちに再認識させた。アメリカはその歴史において自国の要求を受け入れない国に対し、ときに容赦なく武力を用いてきたのである。 反面、大衆文化という柔らかなイメージで世界に向け「アメリカ的なるもの」を発信しつづけ、それは「文化帝国主義」との非難を誘起するほどに、人びとの生活様式を単一化させている。 アメリカのハードとソフトの両面パワーを明らかにし、グローバル化がすすむ世界に与える影響を考える。	1. ガイダンス 2. 銃社会アメリカ 3. 〃 4. ９１１ 5. アメリカと戦争 6. ベトナム戦争 7. 湾岸戦争 8. イラク戦争 9. 〃 10. もう一つの９１１ 11. 映像 12. ソフト・パワー 13. アメリカンポップカルチャーの力 14. 〃 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：授業で紹介する	学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（ブラジル研究） 現代社会（Ⅲ）（ブラジル研究）	担当者	E. ウラノ

講義目的、講義概要	授業計画
ブラジルは、2014 年にワールドカップ、2016 年にはオリンピック開催を迎えており、世界で注目されている新興国の一つである。 この授業では、「未来の大国」ブラジルがもつ可能性を、社会･経済・政治面から解説する。例えば、最近の経済成長をどのようなファクターが支えているのか。これから持続可能な成長を成し遂げるためには、どのような改革や政策が必要なのか。これらの課題について、特に 1960 年代以降の歴史的経緯に言及しながら、ブラジルのグローバルプレーヤーとしての可能性について解説し、講義をすすめる。 近年目立つ出来事として、BRICs や G20 などを通じた多極的外交、経済成長、格差の是正による新中間層の形成、ブラジル企業の多国籍化、油田開発などがあげられる。こうした変貌はどのような基盤により実現されているのだろうか。また、日本とブラジルは、今後、経済・文化・外交面でどのように関係を強化していけるのか。 講義の目的は、受講生が積極的にこれらの内容について考え、ブラジルというテーマについて独自の視点を開発することにある。	1.イントロダクション：世界のなかのブラジル 2.政治経済：「失われた 80 年代」 3.政治経済：90 年代、インフレーション、経済安定化 4.政治経済：2000 年代、経済成長への道 5.格差社会の是正に向けて: Bolsa Família 6.格差社会の是正に向けて: 新中間層 7.映像から見たブラジル 8.映像から見たブラジル 9.持続可能な成長への課題: 教育・インフラ整備 10.持続可能な成長への課題:世界情勢 11.産業開発：農業、油田開発、代替エネルギー 12.ブラジル企業の多国籍化と世界経済 13.BRICs、南南関係：.多極的外交の展開 14.新たな路線: ブラジルの Third Way? 15.まとめ：「未来の大国」から「現在の大国」？ ※トピックごとに可能な限り映像資料もまじえて授業を進める予定である。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストとして特定の書籍を用いることはないが、必要に応じてレジュメ、資料を配付する。参考書籍としては、『現代ブラジル事典』（新評論、2005 年）を挙げておく。	基本的には学期末の筆記試験による評価を予定しているが、出席や授業内ペーパー、レポート等を加味した評価とする可能性もある。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（地理学 1）（自然環境と文化） 地理学 a（自然環境と文化）	担当者	秋本 弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。	1　オリエンテーション 2　自然と人間とのかかわり 3　環境の諸要素（1）　地球の特質 4　環境の諸要素（2）　地形環境 5　環境の諸要素（3）　気候環境 6　環境の諸要素（4）　植生と土壌　生態地域 7　熱帯地域（1）―自然的特質と伝統的農業 8　熱帯地域（2）―アジアの稲作 9　熱帯地域（3）―熱帯の開発と問題（1） 10 熱帯地域（4）―熱帯の開発と問題（2） 11 砂漠地域（1）―自然的特質と伝統的生業 12 砂漠地域（2）―イスラムの世界 13 砂漠地域（3）―石油資源と近代化 14 砂漠地域（4）―アラブとイスラエル 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三（他）著『自然環境と文化』原書房 参考文献は授業中に示す	定期試験および出席状況

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（地理学 2）（自然環境と文化） 地理学 b（自然環境と文化）	担当者	秋本 弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。	1　温帯地域（1）自然的特質 2　温帯地域（2）地中海森林地域 3　温帯地域（3）温帯混交林地域（ヨーロッパ） 4　温帯地域（4）温帯混交林地域（アジア） 5　温帯地域（5）北米の温帯地域（1） 6　温帯地域（6）北米の温帯地域（2） 7　温帯地域（7）そのほかの温帯地域 8　冷帯地域 9　寒帯地域 10 山地地域 11 世界の環境問題（1）人口 12 世界の環境問題（2）食料 13 世界の環境問題（3）酸性雨と公害問題 14 世界の環境問題（4）地球の温暖化 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三（他）著『自然環境と文化』原書房 参考文献は授業中に示す	定期試験および出席状況

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（地誌学 1）（ヨーロッパ地域論） 現代社会（Ⅲ）（ヨーロッパ地域論）	担当者	飯嶋 曜子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、統合が進展するヨーロッパにおける各地域の現状を把握することを目的とする。まず、ヨーロッパ地誌やＥＵの制度や歴史に関する基礎的な知識を習得する。そのうえで、特に EU の共通農業政策と、地域政策（構造政策）に焦点を当て、統合がヨーロッパの地域に与える影響や、ＥＵと各地域との関係について考察していく。 ＊注意 本講義は、ドイツ語学科の専門講義科目と、全学共通カリキュラムの全学総合科目との合併科目です。そのため、ドイツ語による資料を利用する場合もあります。	1. ヨーロッパとは何か 2. EU と地域 3. EU の制度 4. EU の機能 5. EU の政策 6. EU の形成・発展過程(1) 7. EU の形成・発展過程(2) 8. EU の形成・発展過程(3) 9. EU の東方拡大(1) 10. EU の東方拡大(2) 11. EU の農業政策(1) 12. EU の農業政策(2) 13. EU の構造政策(1) 14. EU の構造政策(2) 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
地図帳を毎回持参すること テキストは指定しない	レポートもしくは試験により評価

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（地誌学 2）（ドイツ地域論） 現代社会（Ⅲ）（ドイツ地域論）	担当者	飯嶋 曜子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、ドイツの地域や都市の構造とその変容を把握することを目的とする。特に、ドイツ再統一、ヨーロッパ統合の深化と拡大、地方分権型国家、という三つの側面に光を当てて具体的な事例をもとに明らかにしていく。 ＊注意 本講義は、ドイツ語学科の専門講義科目と、全学共通カリキュラムの全学総合科目との合併科目です。そのため、ドイツ語による資料を利用する場合もあります。	1. 導入：ドイツの地域・都市 2. ドイツ再統一（１）：ベルリンの地政学 3. ドイツ再統一（２）：社会主義的都市の構造 4. ドイツ再統一（３）：東ドイツの地方都市 5. ドイツ再統一（４）：冷戦後の旧東ドイツ都市 6. ドイツ再統一（５）：プレンツラウアー・ベルク 7. ドイツ再統一（６）：ポツダム広場 8. ヨーロッパ統合（１）：EU とドイツ 9. ヨーロッパ統合（２）：統合と地域間格差 10. ヨーロッパ統合（３）：EU の構造政策、都市政策 11. ヨーロッパ統合（４）：ユーロリージョン 12. 地方分権（１）：多極分散型国家 13. 地方分権（２）：空間整備政策 14. 地方分権（３）：都市計画 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
地図帳を毎回持参すること テキストは指定しない	レポートもしくは試験により評価

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（教育法 1） 現代社会（Ⅲ）（教育法 a）	担当者	市川 須美子

講義目的、講義概要	授業計画
教育法は、教育の場で生じるさまざまな問題を、法的視点から、つまり、権利・義務関係の視点から整理して、教育問題の分析･解決を提起してゆく法分野です。例えば、いじめを素材にする場合、いじめをなくす方法の考察、あるいは、いじめの構造分析をするのではなく、いじめ裁判の分析を通じて、学校・教師のいじめに対応する最低限の法的義務を明らかにするというアプローチです。現在、学校でも、家庭でも、子どもに対する人権侵害が多発しています。教師の体罰で子どもが心身に重大な被害を受ける事例もあとを絶たないし、統計的には減少しているとされていたいじめも、むしろ、学校では常態化しており、いじめ裁判は増加しています。この講義では、学校での子どもの人権侵害についての具体的な裁判事例を、体罰、いじめ、生活指導、校則、学校教育措置、教育情報に分類して、法的に分析し、教育法の考え方と現時点での理論的到達点を入門的に解説します。	1　学校における子どもの人権侵害――問題化の経緯と分類 2　学校事故裁判と学校教育裁判 3　体罰裁判とその特徴――体罰裁判の判例動向 4　体罰裁判の新しい展開 5　生活指導とその法的限界 6　いじめと裁判――中野富士見中事件といわき小川中事件 7　いじめ自殺と予見可能性―― 8　いじめ調査・報告義務訴訟 9　丸刈り校則裁判 10　修徳高校パーマ校則裁判 11　都立高校原級留置き訴訟 12　信教の自由と学校教育――エホバの証人退学事件 13　内申書･指導要録開示訴訟 14　教育情報公開訴訟―学力テスト結果公開請求事件 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しませんが、講義時に教育関係の小六法を携行してください。	試験

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（教育法 2） 現代社会（Ⅲ）（教育法 b）	担当者	市川 須美子

講義目的、講義概要	授業計画
教育法の現代的問題状況の把握(教育法 a)を前提に、教育法のより体系的な理解のために、自主性擁護的教育裁判を通じての教育法学形成と教育と国家との基本的な関係のあり方を検討します。次に、教育法の基礎概念である教育人権、子どもの学習権、親の教育権、教師の教育の自由、住民の教育権を、教育裁判を素材に解説します。最後に、2006 年教育基本法改正とその後の教育法状況を分析します。	1　戦後教育改革と憲法・教育基本法法制 2　逆コースの教育改革 3　教科書裁判（1） 4　教科書裁判（2） 5　最高裁学テ判決 6　障害児の学習権――特殊学級入級処分取消訴訟 7　子どもの市民的自由――内申書裁判 8　親の教育権――日曜日訴訟 9　親の教育権――七尾養護学校事件 10　教師の教育の自由――伝習館高校事件 11　教師の教育の自由と日の丸･君が代最高裁判決 12　新任教師と分限処分 13　住民の教育権――教育委員会制度と教育 14　教育基本法改正と教育法制 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しませんが、講義時に教育関係の小六法を携行してください	試験

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（国際法 1）（国際社会と私たち） 国際法 a（国際社会と私たち）	担当者	一之瀬 高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際社会における法の規律のしかたとその特徴を、国際法上の主たる行為主体である国家を中心とした観点から学ぶ。具体的には、国際法規範の構造、国際法主体としての国家、国家責任、外交関係法、海洋法などをとりあげる。	1 講義の概要 2 国際法の形成と発展 3 国際法の存在形態 4 条約のしくみ 5 慣習法およびその他の規範 6 国際法における国家 7 国家承認と政府承認 8 国家責任の成立要件 9 国家責任の追及 10 外交関係法 11 外交特権免除 12 国家領域としての海洋 13 沿岸国の海洋管轄権の拡大 14 国際公域としての海洋 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト： 横田洋三編『国際社会と法』有斐閣 2010 年	期末試験の成績を重視し、出席･小テスト･レポートも評価の対象にする。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（国際法 2）（国際紛争を考える） 国際法 b（国際紛争を考える）	担当者	一之瀬 高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際法が、国際社会のさまざまな分野にどのようなかたちで発展しつつあるのかを概観するとともに、そこに生じる紛争が、集団安全保障や裁判を通じてどのように解決が図られているかについて考察する。	1 講義の概要 2 国連の集団安全保障 3 平和的紛争解決と仲裁裁判 4 国際司法裁判所 5 国際機構・国際連合 6 国際機構の構造 7 国籍・外国人 8 難民・国際犯罪 9 国連による人権保障 10 人権条約 11 経済活動と国際法 12 WTO 体制 13 国際環境保全の諸原則と条約 14 国際法の将来 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト： 横田洋三編『国際社会と法』有斐閣 2010 年	期末試験の成績を重視し、出席･小テスト･レポートも評価の対象にする。

08 年度以降	現代社会 1（会社と社員の関係）	担当者	市原 博

講義目的、講義概要	授業計画
我々の人生にとって仕事は、ある意味でもっとも重要なものです。その人がどのような人であるかが、どのような仕事をしているかで決められることもごく普通に見られます。みなさんの多くは、その大事な仕事を企業の中に求めることになると思います。この授業では、日本企業とそこで働く社員（従業員）との関係がどのように変化してきて、現在どのようになっているのか、そこにどのような問題が生じているのかを、いくつかの側面から考察します。 具体的な内容は、①従業員は会社の中でどのような仕組みの下で働いているのか、また、どのような方法で評価されているのか、②従業員（特に大卒サラリーマン）の昇進はどのように行われてきたのか、③彼らの仕事の能力はどのように育成されてきたのか、④それらが最近どのように変化しているのか、といった事柄です。最近注目されている「ブラック企業」も取り上げます。 (私は新任教員です。みなさんとの出会いを楽しみにしています)	1、イントロダクション－日本企業の人事制度と評価制度 2、キャリア展開の理論 3、日本企業の伝統的昇進選抜の実態 1 4、日本企業の伝統的昇進選抜の実態 2 5、映像資料（能力主義・成果主義人事制度） 6、成果主義人事制度の生成 7、成果主義人事制度の仕組み 8、成果主義人事制度の問題点と対策 9、日本企業の能力開発の仕組み 10、営業職の能力開発の事例 11、幹部候補生の早期選抜・育成の取り組み 12、専門的能力の育成策 13、映像資料（能力開発） 14、「ブラック企業」の実態 15、「ブラック企業」に負けない方法
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定せず、資料をプリントして配ります。 参考文献はたくさんありますので、項目ごとに授業中に指示します。包括的な文献としては、小池和男『仕事の経済学　第 3 版』東洋経済新報社が挙げられます。	おおよそ、出席点 10%、小テスト・レポート 20%、定期試験 70%で評価します。

08 年度以降	現代社会 1（非正規雇用を考える）	担当者	市原 博

講義目的、講義概要	授業計画
近年仕事にかかわる問題としてもっとも注目を集めているのは、非正規で働く人々、特に若者が増えていることです。バブル崩壊偽の長期不況の中で、コスト削減のために非正規社員による正社員の置き換えが広く行われてきました。それが、大学・高校新卒者の就職難や貧困な若年層の増大の要因になってきました。この授業では、そうした事態がどのように生じたのか、その実態はどのようなものであり、企業は彼ら・彼女らをどのように使用しているのか、また、非正規雇用に対する法的規制はどのようになっており、どのような改正が求められているのかを考察します。非正規雇用として取り上げるのは、①パート労働、②フリーター、③派遣労働、を予定しています。また、非正規雇用につきやすい女性社員の働き方、働かせ方についても取り上げます。 非正規雇用をめぐる問題を正しく理解し、自らの働き方を考え直す機会を提供するのはこの授業の目的です。	1. イントロダクション－正社員と非正規とは何か 2. パート労働の増大と基幹パートの出現 3. 映像資料（基幹パート） 4. パート従業員の活用策とその問題点 5. パート労働法による規制とその変化 6. フリーターの増大 7. 映像資料（フリーター） 8. フリーターの実態 9. フリーターから正社員への移行の条件 10. 派遣労働の仕組みと法的規制の変化 11. 映像資料（派遣切り） 12. 派遣労働の実態 13. 女子社員の職務配分と均等処遇 14. 女子社員雇用への法的規制 15. 女子社員の活用策
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定せず、資料をプリントして配ります。 参考文献はたくさんありますので、項目ごとに授業中に指示します。	おおよそ、出席点 10%、小テスト・レポート 20%、定期試験 70%で評価します。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（国際関係の構造と展開） 現代社会（Ⅲ）（国際関係の構造と展開）	担当者	伊藤 兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、国際関係の構造と展開を検討することによって、国際関係に関する知識を身につけるとともに、現在の国際情勢への認識と理解を深めることにあります。 講義の内容としては、はじめに、現在の国際情勢に関する分析・解説を行い、そのような状況が如何にしてもたらされたかを、現代の国際関係を紐解くことによって解明していきます。	第 1 回　はじめに（講義内容などについて） 第 2 回　アメリカ時代の終焉 第 3 回　多元化する国際問題 第 4 回　多極化する国際社会 第 5 回　冷戦後の世界 第 6 回　冷戦の終結 第 7 回　中間のまとめ 第 8 回　中間テスト 第 9 回　冷戦の開始と二極化する世界 第 10 回　朝鮮戦争の勃発と国際社会 第 11 回　ヨーロッパにおける冷戦 第 12 回　中東における冷戦 第 13 回　ベトナム戦争の勃発と二極対立 第 14 回　南アジアと冷戦 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特定のテキストは使用しません。参考文献を適宜紹介します。	中間テストおよび学期末試験の成績に基づいて評価します。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（近現代の国際関係史） 現代社会（Ⅲ）（近現代の国際関係史）	担当者	伊藤 兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、国際関係の構造と展開を検討することによって、国際関係に関する知識を身につけるとともに、現在の国際情勢への認識と理解を深めることにあります。 講義の内容としては、主権国家の理念がヨーロッパで出現した 16 世紀から第二次世界大戦終結までの期間において発生した代表的な出来事や問題を時系列に沿って分析・解説することによって、現在の国際情勢に内包される諸問題の根幹を解明していきます。	第 1 回　はじめに（講義内容などについて） 第 2 回　主権国家理念の出現とヨーロッパの勢力拡大 第 3 回　各国における革命とウィーン体制の確立 第 4 回　パクス・ブリタニカとその時代 第 5 回　帝国主義の台頭 第 6 回　帝国主義と新たな同盟関係の成立 第 7 回　中間のまとめ 第 8 回　中間テスト 第 9 回　第一次世界大戦をめぐる国際政治の展開 第 10 回　第一次世界大戦後の国際社会 第 11 回　平和と安定の回復 第 12 回　第二次世界大戦をめぐる国際政治の展開 第 13 回　第二次世界大戦の勃発と経過 第 14 回　戦争の終結とその後の世界 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献： 有賀貞　『国際関係史　16 世紀から 1945 年まで』（東京大学出版会、2010 年）	中間テストおよび学期末試験の成績に基づいて評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（地域メディア論） 比較文化論 b(地域メディア論)	担当者	岡村 圭子

講義目的、講義概要	授業計画
Think Globally, Act locally というフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。そこに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには環境問題や福祉の問題を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。 本講義で扱う地域メディアは、ある特定のエリアにおける情報を伝える媒体、すなわち『Tokyo Walker』や『散歩の達人』などの地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌、クーポン付きのフリーペーパーなどの紙媒体、さらに FM、CATV、ウェブサイトも含む。さらに、各地のエスニック・コミュニティで発行されているエスニック・メディアもここでは地域メディアとしてとりあげたい。それらの地域メディアが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた／いる／いくのか、また将来的に、どういった機能がそのメディアに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。 学期のさいごは、身近な地域メディアについてのレポート、もしくは受講者自身が制作した地域メディアを提出・発表してもらう。	１．　イントロダクション ２．　グローバル化とローカルコミュニティ ３．　地域・地方文化の復権とメディア ４．　各地の地域メディア（１） ５．　各地の地域メディア（２） ６．　各地の地域メディア（３） ７．　メディアによる地域文化の創造（１） ８．　メディアによる地域文化の創造（２） ９．　多文化共生と地域メディア（１） １０．　多文化共生と地域メディア（２） １１．　多文化共生と地域メディア（３） １２．　受講者による発表（１） １３．　受講者による発表（２） １４．　受講者による発表（３） １５．　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
岡村圭子著 『ローカル・メディアと都市文化』ミネルヴァ書房	出席と発表（履修者多数の場合はレポート）

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（民法 1） 現代社会（Ⅲ）（民法 a）	担当者	小川 佳子

講義目的、講義概要	授業計画
法とは何か。私たちは、あらゆる法に囲まれ、法と密接なかかわりを持ちながら生きているが、そもそも法とは何か、何のためにあるのか。さらに、裁判とは何か。これらについて解説した後、民法についての講義を行う。後半では、今日的な民事事件について説明を行う。なお、講義を通し、との折々の法制度や民法にかかわるニュースについても解説を行う予定である。	1　法とは何か 2　法と裁判 3　生活関係と法 4　民法とはどのような法律か（1） 5　民法とはどのような法律か（2） 6　民法とはどのような法律か（3） 7　民事事件：金銭消費貸借（1） 8　民事事件：金銭消費貸借（2） 9　民事事件：建物賃貸借（1） 10 民事事件：建物賃貸借（2） 11 民事事件：不動産明渡（1） 12 民事事件：不動産明渡（2） 13 民事事件：損害賠償（1） 14 民事事件：損害賠償（2） 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
最新版の六法	原則として期末試験で評価する。ただし特段の事情のある場合はその他の方法で評価を行うことがある。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（民法 2） 現代社会(Ⅲ)(民法 b)	担当者	小川 佳子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に続き、民法についての解説を行う。秋学期では民事紛争の解決はどのように行われるのかについてまず解説し、その後、前期で触れられなかった類型の民事事件につき解説する。	1　民事紛争と民法 2　民事紛争の解決方法：裁判（1） 3　民事紛争の解決方法：裁判（2） 4　民事紛争の解決方法：裁判以外の方法（1） 5　民事紛争の解決方法：裁判以外の方法（2） 6　民事事件：離婚 7　民事事件：親子 8　民事事件：相続 9　民事事件：時効 10 民事事件：債権回収 11 民事事件：医療訴訟 12 民事事件：交通事故 13 民事事件：その他（1） 14 民事事件：その他（2） 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ	原則として期末試験で評価する。ただし特段の事情のある場合はその他の方法で評価を行うことがある。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（社会科学概論 1） 現代社会（Ⅲ）（社会科学概論 a）	担当者	堅田 剛

講義目的、講義概要	授業計画
「社会科学」は法学・政治学・経済学等の総称ですが、実は人間社会についての総合的・学際的な学問という性格を有しています。この意味での社会科学には人文科学も含まれます。法や政治や経済を、完成した制度としてではなく、生きた人間関係に引き戻して見直してみましょう。この授業をつうじて、学生諸君が主体的に考えるヒントを提示できればと思います。 春学期は、テキストとして佐伯啓思氏の『現代文明論講義』を用います。同氏の専門は経済思想史ですが、現代日本の政治状況についても、鋭い評論活動をおこなっています。同書では、政治不信、正義論、民主主義論、愛国心、憲法といった問題を扱っており、社会科学概論に相応しい書物といえるでしょう。こうした問題について、自分で考える経験をもつことは、けっして無駄ではありません。 講義では、テキストに即しながら、社会科学的諸問題を一人ひとりの生き方の問題として、批判的に捉え返してみます。単にテキストを解説するのではなく、私の考えを積極的に織り込むつもりです。学生諸君も、この授業では「覚える」よりも「考える」ことを目指してください。	1．授業の概要 2．現代文明の病――ニヒリズムとは何か 3．なぜ人を殺してはいけないのか――自由と規範Ⅰ 4．同上（続き） 5．沈みゆくボートで誰が犠牲になるべきか――自由と規範Ⅱ 6．同上（続き） 7．民主党政権はなぜ失敗したのか――民主主義Ⅰ 8．同上（続き） 9．政治家の嘘は許されるか――民主主義Ⅱ 10. 同上（続き） 11. 尖閣諸島は自衛できるか――「国を守ること」 12. 同上（続き） 13. 主権者とは誰か――憲法 14. 同条（続き） 15. ニヒリズムを乗り越える――日本思想のもつ可能性
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐伯啓思『現代文明論講義――ニヒリズムをめぐる京大生との対話――』（ちくま新書、2011 年） ※参考文献は、必要に応じて授業の中で紹介します。	「レポート点」＋「試験点」＋出席状況、で総合的に評価します。レポートについては、中間時点で提出してもらい、添削のうえ一旦返却したのち、再提出の機会を設けます。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（社会科学概論 2） 現代社会（Ⅲ）（社会科学概論 b）	担当者	堅田 剛

講義目的、講義概要	授業計画
「社会科学」は法学・政治学・経済学等の総称ですが、実は人間社会についての総合的・学際的な学問という性格を有しています。この意味での社会科学には人文科学も含まれます。法や政治や経済を、完成した制度としてではなく、生きた人間関係に引き戻して見直してみましょう。この授業をつうじて、学生諸君が主体的に考えるヒントを提示できればと思います。 秋学期は、テキストとして暉峻淑子氏の『社会人の生き方』を用います。同氏の専門は生活経済学ですが、女性らしい細やかな視点に立って、生活者の立場から社会を論じてきました。本書でも、「社会人」という思いがけない角度から生き方の問題を論じていますので、いわゆる社会科学の堅苦しさをあまり意識することなく、社会を自分自身の問題として考えていく恰好の素材を提供しています。 講義では、テキストに即しながら、社会科学的諸問題を一人ひとりの生き方の問題として、批判的に捉え返してみます。単にテキストを解説するのではなく、私の考えを積極的に織り込むつもりです。学生諸君も、この授業では「覚える」よりも「考える」ことを目指してください。	1．授業の概要 2．社会人とは何だろうか 3．社会人になれない人びと 4．同上（続き） 5．身近な社会とのかかわり 6．同上（続き） 7．社会人にとって働くとは何か 8．同上（続き） 9．格差社会に生きること 10. 同上（続き） 11. 社会人をどう育むか 12. 同上（続き） 13. 社会人のすすめ 14. まとめ 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
暉峻淑子『社会人の生き方』（岩波新書、2012 年） ※参考文献は、必要に応じて授業の中で紹介します。	「レポート点」＋「試験点」＋出席状況、で総合的に評価します。レポートについては、中間時点で提出してもらい、添削のうえ一旦返却したのち、再提出の機会を設けます。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会１(ジェンダーと生活世界) 女性学 a(ジェンダーと生活世界)	担当者	片山 亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
〈講義目的〉ジェンダーとは「女はこう」「男はこう」という考え方のことです。私たちの行動を、ときにはあからさまに、ときには気づかないうちに方向づけ、自分らしさをつくるものでもあれば、生き方の幅を狭めてしまうものでもあります。この講義では、日常的な場面でジェンダーがどんな作用をしているのか、現代日本を中心としつつ、海外と比較しながら考えます。ジェンダーはさまざまな場面に浸透している現象なので、この講義で学んだことを、日常生活はもちろん、みなさんの専門分野の勉強につなげてほしいと願っています。 〈講義概要〉毎回ひとつのトピックについて、データや映像などを使いながら解説します。受講者のみなさんにはノートを取りつつ議論の流れを理解してもらうほか、講義内容を受けてコメントを書いてもらいます。内容は講義で一部紹介します。 ＊2010-12年度に「現代社会１（職場と家庭のジェンダー）」の単位を取得した人は、この授業を履修できません。	1. イントロダクション 2. セックスとジェンダーの多様性 3. 家族はどう変わってきたか 4. 子育ては「孤育て」？ 5. 男にとっての子育て 6. パートナーシップ 7. ＤＶとデートＤＶ 8. セクシュアル・ハラスメント 9. キャンパス・セクハラ、ちかん、ちかん冤罪 10. セクシュアリティを再考する 11. セーファーセックス 12. 妊娠中絶 13. 出産 14. まとめ 15. まとめ （講義内容は一部変更することがあります。また講義の内容上、性的表現や性暴力表現が映像などに含まれることがあります。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布、参考文献は授業中に適宜紹介する。	毎回の小レポート　３割程度 定期試験　７割程度

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（日本国憲法） 日本国憲法(憲法と私たち)	担当者	加藤 一彦

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目標＞ 憲法の入門講義を行う。「教師」にとって不可欠な人権センスを磨くため、講義の多くを人権に関する判例分析にあてる。 問題意識を持って講義に参加されたい。 ＜講義概要＞ 憲法概念からはじめ、憲法 26 条までを講義範囲とする。人権侵犯事件（憲法の判例）をもとに、日本の人権状況を勉強する。 最初の講義で「予定表」を配布する。 ＜受講生への要望＞ 『六法』は、必ず毎回もってくること。	１．　オリエンテーション ２．　六法の使い方／憲法概念 ３．　人権総論 ４．　憲法制定略史 ５．　法の下の平等 ６．　精神的自由権／信教の自由 ７．　精神的自由権／政教分離 ８．　精神的自由権／学問の自由 ９．　精神的自由権／表現の自由（１） １０．　精神的自由権／表現の自由（２） １１．　人身の自由 １２．　社会権／生存権（１） １３．　社会権／生存権（２） １４．　社会権／教育権 １５．　復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
加藤一彦『教職教養憲法 15 話［改訂版］』（北樹出版） 柏崎・加藤編著『新憲法判例特選』（敬文堂） 学生用六法（出版社は問わない）	定期試験による。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（日本国憲法） 日本国憲法(憲法と私たち)	担当者	加藤 一彦

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目標＞ 憲法の入門講義を行う。「教師」にとって不可欠な人権センスを磨くため、講義の多くを人権に関する判例分析にあてる。 問題意識を持って講義に参加されたい。 ＜講義概要＞ 憲法概念からはじめ、憲法 26 条までを講義範囲とする。人権侵犯事件（憲法の判例）をもとに、日本の人権状況を勉強する。 最初の講義で「予定表」を配布する。 ＜受講生への要望＞ 『六法』は、必ず毎回もってくること。	１．　オリエンテーション ２．　六法の使い方／憲法概念 ３．　人権総論 ４．　憲法制定略史 ５．　法の下の平等 ６．　精神的自由権／信教の自由 ７．　精神的自由権／政教分離 ８．　精神的自由権／学問の自由 ９．　精神的自由権／表現の自由（１） １０．　精神的自由権／表現の自由（２） １１．　人身の自由 １２．　社会権／生存権（１） １３．　社会権／生存権（２） １４．　社会権／教育権 １５．　復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
加藤一彦『教職教養憲法 15 話［改訂版］』（北樹出版） 柏崎・加藤編著『新憲法判例特選』（敬文堂） 学生用六法（出版社は問わない）	定期試験による。

08 年度以降	現代社会 1（現代の企業経営）	担当者	上坂 卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は将来企業人として仕事をする上で必要となる「企業経営」に関する基礎的知識の習得をめざす。また諸君の企業に対する関心の惹起や見方を形成するための契機になるような講義を意図している。講義はテキスト、ハンドアウトをベースにして進める。なお講義と並行して日頃より新聞やニュース等で企業の動向に関心を持つことを勧める。 最近テキストは買わない、ノートもとらない学生が増えていますが、理解を確実にするため労をいとわずテキストを読み、ノートもとることを薦める。	1 ガイダンス、企業とは何か 2 変貌する現代のビジネス 3 企業の目的と成果 4 現代の会社制度と企業経営 5 経営戦略の策定 6 経営組織戦略 7 マーケティング戦略 8 人的資源戦略 9 財務戦略(1) 10 財務戦略(2) 11 グループ経営 12 グローバル経営 13 イノベーションとベンチャー 14 経営倫理、1-13 回までの授業の補足 15 学期のまとめ ※ 授業進捗にあわせて多少内容を変更する可能性がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：高橋宏幸・丹沢安治他『現代経営入門』有斐閣 2011 年刊。また参考資料を適宜配布する。	試験による。追試、レポートは行わない(4 年生は注意する事)。出席はとらないが、出席しないと単位はとれない。

08 年度以降	現代社会 1 （基礎から学ぶマネジメント）	担当者	高松 和幸

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：マネジメントの基礎概念を理解すること目的とする。概念レベルとしての企業や経営、管理と組織、経営効率性や事業等について、日常生活の中の事例を交えて明らかにする。そこから、マネジメント視点はどのようなものかを考えてみたい。 講義概要：現代社会１（基礎から学ぶマネジメント）は、マネジメントで明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報が大切だという。これらがマネジメント要素だからである。それを組み合わせる仕組みが組織や株式会社などの制度である。ものづくりの仕組みとしてのシステム、ヒトを動かす仕組みとしての人的資源管理など、カネの動きを統制する財務、社会における企業の新しい役割（ＣＳＲ）などの視点から学習の一助としたい。	1. オリエンテーション・・本講義の全体像を紹介する。 2. マネジメントとは何か 3. 株式会社の仕組みと組織 4. コーポレート・ガバナンス 5. 企業集団とグループ経営 6. ものづくりと生産システム 7. 企業の組織 8. 組織における人間行動 9. モチベーション 10. 賃金制度 11. 人的資源としての雇用管理 12. 企業の資金調達 13. グローバル経営 14. 良き「企業市民」としての企業 15. マネジメントのフロンティア・・この領域でこれまでに蓄積された知見は非営利組織をはじめ、より広い組織にも適用され、有用な分析用具として活用されている。その動向に注目して説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜、プリント配布 拙著『経営組織論の展開』創成社など	出席・レポート重視（授業中，クイズ等も行う）

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（地理学 1）（世界の自然環境と文化） 地理学 a（世界の自然環境と文化）	担当者	北﨑 幸之助

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、地中海森林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある、意欲的な学生を希望する。	1．オリエンテーション―地理学とは 2．環境の諸要素（1）気候環境 3．環境の諸要素（2）緯度帯別降水量・蒸発量・気温 4．環境の諸要素（3）地形・植生 5．熱帯地域（1）熱帯林と伝統的生活様式 6．熱帯地域（2）熱帯林の開発と環境問題 7．熱帯地域（3）熱帯林の保全 8．沙漠地域（1）自然的・文化的特色と伝統的経済活動 9．沙漠地域（2）石油資源と近代化、沙漠の開発 10．地中海森林地域の特性 11．地中海地域の生活様式―西欧文化の原点 12．地球環境問題に対する視点（1） 13．地球環境問題に対する視点（2） 14．まとめ（1） 15．まとめ（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三他著（2004）『自然環境と文化―世界の地理的展望　改訂版』原書房	期末定期試験の結果（90%）に、出席状況（10%）等を加味して、総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（地理学 2）（世界の自然環境と文化） 地理学 b（世界の自然環境と文化）	担当者	北﨑 幸之助

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。秋学期の講義は、まず地形環境を概観し、温帯草原地域、温帯混合林地域、亜寒帯森林地域、山地地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。そして最後に、深刻化する地球環境問題を取り上げ、今後の人間生活と自然環境との共生方法について理解を深める。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある、意欲的な学生を希望する。	1．環境の諸要素―地形環境 2．温帯草原地域の自然特性 3．温帯草原地域の開発と環境問題 4．温帯混合林地域（1）高密度都市化地域の特性 5．温帯混合林地域（2）産業革命と都市域の拡大 6．亜寒帯森林地域（1）タイガの中の生活 7．亜寒帯森林地域（2）タイガの開発と保全 8．山地地域（1）山地の自然環境と高度帯の利用 9．山地地域（2）山地資源の開発と観光化 10．地球環境問題（1）生態系と人間活動 11．地球環境問題（2）自然環境の破壊 12．地球環境問題（3）環境問題解決にむけた取り組み 13．地球環境問題（4）私たちにできること 14．まとめ（1） 15．まとめ（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三他著（2004）『自然環境と文化―世界の地理的展望　改訂版』原書房	期末定期試験の結果（90%）に、出席状況（10%）等を加味して、総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（社会学 a） 社会学 a（他者と自己）	担当者	木本 玲一

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、社会学という学問に対する基礎的な知識の習得と包括的な理解を深めることを目的とする。 学説史もまじえながら、これまでの社会学における諸議論を紹介し、社会学という学問の発想法に対する理解を深める。そのうえで、労働、グローバライゼーション、文化、コミュニケーション、メディア等のトピックを取り上げ、それらに対する社会学的な議論の方法を学ぶ。 なお社会学には曖昧なイメージがある。しかしそれはひとつの「物の見方」だと理解すれば良い。この講義では、社会学という学問の考え方を伝えると共に、身の回りにある具体的な事象について検討していく。	第 1 回　イントロダクション 第 2 回　逸脱 第 3 回　犯罪とリスク 第 4 回　労働 第 5 回　消費 第 6 回　遊び 第 7 回　文化 第 8 回　メディア(1) 第 9 回　メディア(2) 第 10 回　社会調査 第 11 回　ナショナリズム 第 12 回　グローバライゼーション(1) 第 13 回　グローバライゼーション(2) 第 14 回　複合メディア環境 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時、指示する。	期末試験によって評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（社会学 b） 社会学 b（現代社会の諸問題）	担当者	岡村 圭子

講義目的、講義概要	授業計画
社会学が成立した背景について、その概略を学び、現代社会が抱えるさまざまな問題を社会学的なアプローチから考える。とくに、グローバル社会のなかで異文化・異民族が共存するとき、そこにどういった問題が生じるのか、社会学はどのようにその問題を分析するのか、といった論点をベースにしつつ、映像資料も適宜取り入れながら講義を進める。 講義のなかでとりあげるトピックは、都市、地域社会、移民、大量消費社会、異文化、メディアである。幾人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、これらについて受講者とともに考えてゆきたい。受講者は、本講義で学んだことを自分なりに展開し、現代のグローバル化・国際化のもとで今後の日本社会が直面する課題はなにか、自分はどういった立場でそこに関わっていくのかについて考えてほしい。	1. イントロダクション 2. 社会学の歴史――ウェーバーとデュルケム 3. 社会の類型 4. 社会的性格と「自由からの逃走」――E.フロム 5. 同調様式の 3 類型――D.リースマン 6. 都市化と移民――W.I.トマスとF.W.ズナニエツキ 7. 同心円地帯説――E.バージェス 8. シカゴ学派と都市問題――R.パーク 9. 予言の自己成就――R.K.マートン 10. 誇示的消費――T.ヴェブレン 11. 認知的不協和の理論――L.フェスティンガー 12. 文化的再生産――P.ブルデュー 13. コンフルエント・ラブ――A.ギデンズ 14. 「社会問題化する」ということ 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
E.フロム『自由からの逃走』東京創元社 D.リースマン『孤独な群集』みすず書房 A.ギデンズ『親密性の変容』而立書房 岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社　　ほか	出席とレポート（履修者多数の場合、期末試験を行う）

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (経済学 1)(はじめての経済学) 経済学 a(はじめての経済学)	担当者	黒木 亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 本講義の目的は、経済学の基本的な考え方を紹介することにある。具体的な経済問題や日本経済の事例にも触れながら、複雑な経済現象を理解し、整理するための見方、すなわち経済学の基本を習得してもらいたい。 講義の概要 テキストに沿って下記のテーマに関する講義を行う予定である。 Ⅰ．ミクロ経済学の基本 Ⅱ．ゲーム理論の考え方 Ⅲ．マクロ経済学の基本 Ⅳ．日本の経済をマクロの視点でとらえる （なお以上のテーマとその順番は、下記のテキスト上巻の第Ⅳ・Ⅴ・Ⅱ・Ⅲに対応している）。	Ⅰ． 1. ガイダンス――経済学とはどのような学問か 2. 民営化・規制緩和の経済学的根拠 3. 市場メカニズムを解剖する 4. 市場はこうして失敗する Ⅱ． 5. ゲーム理論のエッセンス 6. 囚人のジレンマ 7. コミットメントとは何か 8. 出店戦略分析 Ⅲ． 9. GDP を中心にマクロ経済を考える 10. 需要と供給で考える 11. マクロ経済のコントロール―財政金融政策の役割 Ⅳ． 12. 日本経済の構造変化―石油ショックと変動相場制 13. 日本経済のグローバル化――プラザ合意前後 14. バブルの形成と崩壊後の日本経済 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
伊藤元重『はじめての経済学（上)』日本経済新聞社.	レポート・期末試験のいずれか、ないし両方。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (経済学 2) (はじめての経済学) 経済学 b(はじめての経済学)	担当者	黒木 亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 本講義の目的は、春季に習得した経済学の基本を、現実理解に即してマスターしてもらうことにある。財政や金融、企業や産業、ビジネスや労働、国際経済や為替の動き等々、具体的な事例や経済問題を通して、経済学の考え方にさらに磨きをかけてもらいたい。 講義の概要 テキストに沿って下記のテーマに関する講義を行う予定である。 Ⅰ．公共部門の経済学 Ⅱ．金融システムを理解する Ⅲ．国際経済を見る目を養う （なお以上のテーマとその順番は、下記のテキスト下巻の第Ⅵ・Ⅶ・Ⅸ章に対応している）。	Ⅰ． 1. ガイダンス――経済学とはどのような学問か 2. 公共部門の三つの機能 3. 財政支出と累進課税 4. 自然独占と公共財 5. 景気対策と日本の財政状況 6. プライマリーバランス――財政の未来を考える Ⅱ． 7. 貨幣のもつ様々な機能 8. マネーストックと金融政策 9. 信用乗数と資産市場の全体像 10. バブルの形成と崩壊が生じるメカニズム Ⅲ． 11. 国際収支表の基本 12. 為替相場の仕組みとその動向 13. 企業の戦略および収益と為替の関係 14. 比較優位――国際的な自由貿易の恩恵 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
伊藤元重『はじめての経済学（下)』日本経済新聞社.	レポート・期末試験のいずれか、ないし両方。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会１（日本国憲法） 日本国憲法（憲法と私たち）	担当者	古関 彰一

講義目的　講義概要	授業計画
春学期で日本国憲法全般を講義することになります。 従って、日本国憲法の人権と統治機構全般に及びますが、１５回という制約がありますので、人権と統治機構の主要な論点を講義することになります。	１　開講にあたって（近代憲法とはなにか） ２　基本的人権の歴史 ３　明治憲法の構造 ４　平和主義と憲法９条 ５　日米安保条約の構造 ６　基本的人権適用と公共の福祉 ７　選挙権の法的性格と選挙定数 ８　平等権の概念 ９　選挙定数と裁判例 １０　表現の自由の意義 １１　表現の自由と名誉・プライバシー １２　環境権の法的性格と判例 １３　国会の地位と権能 １４　司法権の意味、範囲、限界 １５　春学期のまとめ
テキスト　参考文献	**評価の方法**
芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法・第五版』（岩波書店、2007 年）、高橋・長谷部・石川編『憲法判例百選』（有斐閣、2007 年）	春学期の最後の試験期間中に論述試験を行い、それにより評価する。

		担当者	

講義目的　講義概要	授業計画
テキスト　参考文献	**評価の方法**

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（グローバリゼーションを巡って） 現代文化論 a(グローバリゼーションを巡って)	担当者	柴崎 信三

講義目的、講義概要	授業計画
文明史はグローバリゼーションの歴史の集積でもあるが、米国がこの百年ほどの間に世界に及ぼしたものはきわめて大きい。9/11、リーマンショックなどの直近の大きな出来事から振り返って、とくに 20 世紀の世界に米国文化がもたらしたものの意味を考える。 言語、宗教、生活習慣、社会システム、人々の価値観など「文化」がかかわる領域は幅広い。20 世紀の社会はそれぞれの国や地域の固有性に根ざしながら、民主主義という統治の仕組みから市場経済システムのありかたや大量消費の文化など、米国というモデルの強い影響力の下で統合されてきたとみることができる。 21 世紀の今日、その米国の文化的な覇権が揺らいでいることは、9/11 から金融危機や国際秩序の混乱を見るまでもない。日本や欧州諸国に比べれば、米国の歴史は浅く、その若い人工的な国家が超大国となって 20 世紀の覇権を世界にもたらしてきた文化的な影響力の由来とその限界を、歴史にさかのぼって考える。国家や民族、地域の文化が持つ固有性と、それを飲み込む普遍性を通してグローバリゼーションの意味を学びたい。	１　はじめに ２　文明のかたち ３　「帝国」と覇権 ４　フランクリン型人間像 ５　トクヴィルが見た米国 ６　WASP と移民国家 ７　ロックフェラーと石油の世紀 ８　大量生産・大量消費の文化 ９　冷戦と「豊かな時代」 １０　「信頼」と社会 １１　「大きな政府」から「小さな政府」へ １２　米国標準とソフトパワー １３　アメリカンシステムと金融危機 １４　主役はどこへー文化の覇権の行方 １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を配布する。渡辺靖『文化と外交』（岩波新書）を参考文献とする。	定期試験の成績に加えて、通常の授業で課するリポートの実績を勘案して評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（日本の表象と世界） 現代文化論 b(日本の表象と世界)	担当者	柴崎 信三

講義目的、講義概要	授業計画
「日本」とは何だろう。われわれの生きている場は、それぞれの言語や風土、民族や宗教、伝統と文化の下に置かれている。現代社会はこうした固有の環境がグローバリズムという大きなうねりと衝突し、あるいは融合して変化しながら、新たな文化のかたちとなった。 中国文明の強い影響と極東の島国という地理的な条件の下で、日本は古来独特の文化を育んできた。外来の知識や技術の積極的な受け容れとその固有の風土への融合による、ハイブリッド（混合）型の文化がその特徴といわれる。明治維新以降の日本は近代化を進めた結果、アジアの先頭を切って西欧列強へ仲間入りした。近隣諸国の植民地化と敗戦という負の遺産を超えて、戦後に果たした復興と経済大国への道には、そうした日本の文化的な特質が少なからず寄与している。 近代の日本というモデルを通して、文芸や美術などの表象から社会システムや技術のありかたなど、その「文化」のさまざまな現れ方を探り、グローバリズムと伝統や固有の価値とのかかわりを考える。グローバル化の波に異文化がどのように向き合ってきたかを問うとともに、普遍的な価値と固有の価値のダイナミックな交渉とその葛藤のプロセスをそこで学んでゆきたい。	１　はじめに ２　脱亜入欧とジャポニスム ３　「蝶々夫人」と武士道 ４　日本型システムの起源 ５　天皇制という仕組み ６　敗戦とアメリカの影 ７　1955 年体制と戦後日本 ８　MADE　IN　JAPAN ９　高度成長と中流社会 １０　ブランドと消費社会 １１　日本礼賛と日本たたき １２　表象としての日本 １３　＜日本＞という価値 １４　グローバリズムと文化 １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を配布する。夏目漱石『三四郎』（岩波文庫）、ロナルド・ドーア『働くということ』（中公新書）を参考文献とする。	定期試験の成績に加えて、通常の授業で課するリポートの実績を勘案して評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（歴史の中のメディア） 現代社会（Ⅲ）（歴史の中のメディア）	担当者	柴崎 信三

講義目的、講義概要	授業計画
人の声による意思の伝達から活字印刷の発明、電信、映像、電波、コンピューターと情報技術の進化が、社会の情報のはたらきを変え、人の思考や行動、個人と国家や社会のかかわりも大きく変えてきた。こうしたメディアを介した個人と社会かかわりの変化を歴史のなかに探りながら、社会と人間のありようを考える。活字印刷の発明で大量の情報が同時に広く人々に行き渡るようになり、コミュニケーションの空間と影響力は飛躍的に拡大した。新聞や雑誌という活字メディアの勃興は民主主義社会の発展を促した。 19 世紀後半から 20 世紀にかけては、電信などの通信技術の開発と写真や映画、ラジオやテレビといった映像と音声による情報伝達が広がると、人々を取り巻く情報環境は一変した。さらにインターネットが切り開いた 21 世紀の空間は、グローバルなネットワークと伝達のスピードや個人の自在な情報のやりとりを可能にし、社会の価値観や規範まで揺るがせている。この授業ではこうしたメディアの変遷をたどりながら、個人と国家や社会との関係や、民主主義と市場経済というシステムとのかかわりなどこれからの人間とメディアの姿を見つめたい。	１　はじめに ２　グーテンベルクの革命 ３　ピュリツァーと＜新聞戦争＞ ４　ロイターと大英帝国の覇権 ５　視覚の二〇世紀 ６　メディアとプロパガンダ ７　戦争・国益・メディア ８　グローバリゼーションと情報 ９　メディア複合体のゆくえ １０　テレビとネット １１　エンターテインメントとメディア １２　民主主義とメディアモデルの揺らぎ １３　情報の価値―著作権と無償の情報 １４　メディアのなかの人間 １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を配布する。ジョアンナ・ヌーマン『情報革命という神話』（柏書房）を参考文献とする。	定期試験の成績に、通常の授業なかで課すリポートの実績を勘案して評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（メディアと現代社会） 現代社会(Ⅲ)(メディアと現代社会)	担当者	柴崎 信三

講義目的、講義概要	授業計画
インターネットの情報空間が、活字や映像、電波などこれまでのメディア社会のモデルを揺るがせている。個人が世界へ自在に情報をやりとりできるインターネットは、その技術を応用したサービスの広がりで、人々の生活様式や価値観をさまざまな領域から変えつつある。これまでマスメディアが依拠してきた社会モデルと、新たなメディアの急成長がもたらす問題を通して、民主主義と市場社会における「公共性」の行方を考えたい。 マスメディアは個人と民主主義や市場を支えるシステムを結んで情報を伝達し、社会が共有する「公共財」を生み出してきた。世論や政策の形成、市場における消費や文化的な価値の創造に大きな影響力をもたらすこの機能が、立法や司法、行政の三権になぞられて「第 4 の権力」と呼ばれてきた。 民主主義の下の国民の要求を代行するという立場で既存メディアが情報を独占してきたのは、「公益性」の追求という使命がそこに認められてきたからだ。電子メディアという新たな競争者の台頭と旧メディアの社会的機能や倫理的な空洞化が問われる。報道を巡る「表現の自由」と個人の「プライバシー」の権利の対立、「知る権利」というメディア報道の法的基盤の揺らぎなど、具体的な争点を通して新旧メディアを考える。	１　はじめに ２　ジャーナリズムの誕生 ３　調査報道とキャンペーン ４　「表現の自由」と社会 ５　誤報と虚報はなぜ生まれるのか ６　「世論」とメディア ７　情報操作はなぜ行われるのか ８　公共性とメディアの倫理 ９　テレビー放送と通信の融合 １０　外交と情報摩擦 １１　メディアの再編と市場 １２　情報漏洩－ウィキリークス問題 １３　メディアと文化 １４　ネット社会と「公共圏」の行方 １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を配布する。佐藤卓巳『メディア社会』（岩波新書）を参考文献とする。	定期試験の成績に、通常の授業のなかで課すリポートの実績を勘案して評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（NGO 論） 現代社会(Ⅲ)(NGO 論)	担当者	清水 俊弘

講義目的、講義概要	授業計画
紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発（貧困）問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。 この講座では非政府組織、NGOの活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。 この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助（ＯＤＡ）の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。 　また、こうした紛争地等で活動するＮＧＯが、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対人地雷全面禁止条約の成立過程（オタワプロセス）やクラスター爆弾禁止条約の成立過程における市民社会の役割についても詳しく説明する。	①NGO 論オリエンテーション ②～③「対テロ戦争」と市民社会 I／アフガニスタンの現状と NGO の活動 ④～⑤「対テロ戦争」と市民社会 II／イラクの現状と NGO の活動 ⑥パレスチナ問題とＮＧＯの取り組み ⑦東アジアの平和と市民交流 ⑧ＮＧＯによる復興・開発協力の事例　（カンボジア） ⑨ミレニアム開発目標（MDG ｓ）とラオスにおける森林保全 ⑩アフリカにおける HIV/AIDS の原状と NGO の取り組み ⑪政府開発援助と NGO ⑫～⑬非人道兵器の禁止と市民社会 I 対人地雷の廃絶キャンペーンに学ぶＮＧＯのﾈｯﾄﾜｰｸ ⑭非人道兵器の禁止と市民社会 II クラスター爆弾禁止条約の成立過程に学ぶ市民社会の役割 ⑮ＮＧＯの組織運営と資金
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：日本国際ボランティアセンター著『NGO の選択』めこん　2005 年 参考文献：清水俊弘著　『クラスター爆弾なんてもういらない』合同出版 2008 年	リポート提出。平常授業の課題など。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会１(コトバと社会) 現代社会(Ⅲ)(コトバと社会・言語文化概論)	担当者	下川 浩

講義目的、講義概要	授業計画
異なる言語を話す民族は、違ったものの見方・考え方をし、違った行動のしかた・生活のしかたをします。 文化とは、ある集団に共通のものの見かた・考えかた、行動のしかた・生活のしかた、およびそれらを表すものであり、言語は、その集団に共通の行動のしかた方の一種であるとともに、この共通性をささえるものでもありますから、言語・文化と民族・社会は相互依存の関係にあります。 言語と文化の相互関係と、それらをになう民族と社会との関連について考えることがこの講義の目的です。 遠い昔、人類の発祥地とされるアフリカから人類が拡散するにつれて人種の違いが生まれ、食べ物とすみかを求めて移動するうちにさまざまの民族に分かれ、言語も異なってきました。 コロンブスのアメリカ大陸「発見」以来、奴隷の売買と植民地の争奪戦などのように、民族どうしの関わりかたが根本的に異なり、文化の摩擦・言語の衝突が起きるようになりました。 多くの文化・言語が滅ぼされましたし、今も失われつつあります。こうした伝統的文化を保存し、方言をも含めて言語の死滅を防ぐために、世界平和をどのようにして確立すればよいのかをさぐっていきます。	１．人と人とが出会えば、伝え合いをしないわけにはいかない。伝え合いとはどういうものか？ ２．動物の伝え合い ３．コトバによる伝え合いとよらない伝え合い ４．伝え合いの手段・産物である言語とは？ ５．世界にはどのような言語があるのか？ ６．民族の形成 ７．文化の形成・変化 ８．民族と宗教 ９．民族と国家 １０．少数民族問題と民族・地域紛争 １１．はたらきかけ合いと伝え合いの原則とは？ １２．ウソとコトバの魔術 １３．　つづき １４．話し合いによる平和で豊かな世界の建設 １５．つづきとまとめ 毎回パワーポイントを使い、話しの要点を示し、それをあらかじめ WEB 上に公開しておきますが、ビデオを織りまぜ、資料を配布するときもあるので、出席していないと、講義の内容全体を把握することはできません。最終レポートはポータルサイトから提出してもらいます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
高崎通浩「改訂版世界の民族地図」(作品社) 下川　浩『どうしてそんなにダマされる？』『生きたコトバづかい』(えむ出版企画・国際語学社) ほか	授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを、最後に『どうしてそんなにダマされる？』のレポートを提出し、自己評価をしてもらい、これにもとづき評価します。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会１(コトバと社会) 現代社会(Ⅲ)(コトバと社会・言語文化概論)	担当者	下川 浩

講義目的、講義概要	授業計画
異なる言語を話す民族は、違ったものの見方・考え方をし、違った行動のしかた・生活のしかたをします。 文化とは、ある集団に共通のものの見かた・考えかた、行動のしかた・生活のしかた、およびそれらを表すものであり、言語は、その集団に共通の行動のしかた方の一種であるとともに、この共通性をささえるものでもありますから、言語・文化と民族・社会は相互依存の関係にあります。 言語と文化の相互関係と、それらをになう民族と社会との関連について考えることがこの講義の目的です。 遠い昔、人類の発祥地とされるアフリカから人類が拡散するにつれて人種の違いが生まれ、食べ物とすみかを求めて移動するうちにさまざまの民族に分かれ、言語も異なってきました。 コロンブスのアメリカ大陸「発見」以来、奴隷の売買と植民地の争奪戦などのように、民族どうしの関わりかたが根本的に異なり、文化の摩擦・言語の衝突が起きるようになりました。 多くの文化・言語が滅ぼされましたし、今も失われつつあります。こうした伝統的文化を保存し、方言をも含めて言語の死滅を防ぐために、世界平和をどのようにして確立すればよいのかをさぐっていきます。	１．人と人とが出会えば、伝え合いをしないわけにはいかない。伝え合いとはどういうものか？ ２．動物の伝え合い ３．コトバによる伝え合いとよらない伝え合い ４．伝え合いの手段・産物である言語とは？ ５．世界にはどのような言語があるのか？ ６．民族の形成 ７．文化の形成・変化 ８．民族と宗教 ９．民族と国家 １０．少数民族問題と民族・地域紛争 １１．はたらきかけ合いと伝え合いの原則とは？ １２．ウソとコトバの魔術 １３．　つづき １４．話し合いによる平和で豊かな世界の建設 １５．つづきとまとめ 毎回パワーポイントを使い、話しの要点を示し、それをあらかじめ WEB 上に公開しておきますが、ビデオを織りまぜ、資料を配布するときもあるので、出席していないと、講義の内容全体を把握することはできません。最終レポートはポータルサイトから提出してもらいます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
高崎通浩「改訂版世界の民族地図」(作品社) 下川　浩『どうしてそんなにダマされる？』『生きたコトバづかい』(えむ出版企画・国際語学社) ほか	授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを、最後に『どうしてそんなにダマされる？』のレポートを提出し、自己評価をしてもらい、これにもとづき評価します。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会１(政治システムの構成要素) 政治学 a(政治システムの構成要素)	担当者	鈴木 宏尚

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 　政治という現象および政治システムの構成要素について理解を深める。 講義の概要 　本講義では、まず政治とは何か、政治学とはどのような学問か、について概説する。そしてその上で、政治システムはどのような要素から構成されているのか、を政党や官僚などのアクター、政治と社会、経済との関係等の側面から検討していきたい。また、一国内の政治システムだけでなく、国境を越えた政治現象についても取り上げる。 　概念的・理論的な説明が中心となるが、過去や現在の政治の具体例に触れることによって、理解を助けたい。 　また、できるだけ双方向の授業にしたいと考えるので、ほぼ毎回短いコメントカードの提出を求める。	（予定） １．イントロダクション ２．政治の世界（１）　政治とは何か ３．政治の世界（２）　政治の多様性 ４．政治学のアイデンティティ ５．「政治システム」と政治体制 ６．リーダーとリーダーシップ ７．政党 ８．官僚制 ９．利益団体 １０．マスメディアと政治 １１．政治と経済 １２．国際政治 １３．グローバル化と政治 １４．講義のまとめ（１） １５．講義のまとめ（２）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。 毎回レジュメを配布する。 参考文献は適宜紹介する。	平常点（コメントカード）20% 期末試験 80%

08 年度以降 07 年度以前	現代社会１(現代の民主主義) 政治学 b(現代の民主主義)	担当者	鈴木 宏尚

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 　「民主主義」と民主主義体制における政治について理解を深める。 講義の概要 　現在、民主主義、特に自由民主主議のイデオロギーと政治制度はグローバル・スタンダードとなっていると言ってよい。しかしながら、民主主義はいくつかある政治体制の一つのタイプに過ぎないとも言える。また、日本を含めた先進国では、民主主義が行き詰まっているような印象を受ける。 　そこで本講義では、民主主義、権威主義、全体主義など、政治体制の諸類型、経済発展と民主化、民主主義と国際政治、政党制、政治過程などのトピックを取り上げながら、政治体制と民主主義についての理解を深めたい。 　また、できるだけ双方向の授業にしたいと考えるので、ほぼ毎回短いコメントカードの提出を求める。	（予定） １．イントロダクション ２．民主主義の展開 ３．政治体制とは何か ４．非民主主義的政治体制 ５．自由民主主義体制（１） ６．自由民主主義体制（２） ７．民主化（１） ８．民主化（２） ９．民主主義と国際政治 １０．政党政治と政党システム １１．選挙制度と政治参加 １２．民主主義体制下の政治過程 １３．民主主義の危機と課題 １４．講義のまとめ　（１） １５．講義のまとめ（２）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。 毎回レジュメを配布する。 参考文献は適宜紹介する。	平常点（コメントカード）20% 期末試験　80%

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（韓国社会各論 b） 現代社会（Ⅲ）（韓国社会各論 b）	担当者	全 載旭

講義目的、講義概要	授業計画
世界で最も貧しい国の一つであった韓国が、40 年ばかりで工業国に変貌し、経済的に成功した。一方、韓国経済の成功は韓国社会に大きな社会変化をもたらしている。この講義は、この 40 年間にわたる韓国の発展過程において社会はどのように変貌したのか、経済成長と社会変容を担ったのは何か、ということを明らかにすることを目的とする。 まず経済発展以前の韓国社会の構造を家族、血縁関係を中心に検討する。韓国の経済発展と開発戦略がどのようにもたらされてきたのかを考察する。また経済成長による韓国社会の変化を人口移動、教育の変化、中間層の形成などを中心に検討する。社会発展過程において「財閥」と呼ばれる巨大なビジネス・グループがなぜ、いかに形成されたのかを探る。	1. 韓国の歴史、政治（1） 2. 韓国の歴史、政治（2） 3. 家族の構造 4. 社会の人間関係ネットワーク 5. 経済成長の社会学的考察 6. 経済成長をどう表すか 7. 二重構造モデル（ルイス・モデル） 8. 経済発展と後発性利益 9. 韓国の経済成長（1） 10. 韓国の経済成長（2） 11. 工業化パターン―日本モデル 12. 輸出志向工業化と輸入代替工業化 13. 韓国の財閥 14. 日・韓経済関係 15. 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
第一回目の授業にて参考文献を紹介する。 必要に応じて資料を配布する。	出席状況と試験によって評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (ジェンダーとメディア表象) 女性学 b(ジェンダーとメディア表象)	担当者	西山 千恵子

講義目的、講義概要	授業計画
テレビや新聞、ラジオ、雑誌、インターネットなど私たちは毎日メディアを通じて膨大な情報に接し、そこから女性、男性についての知識を得て、男女のイメージ、固定観念を作り上げています。「自分はメディアに左右されていない」と思っていても、私たちはメディアの影響力から完全には自由になれません。 この授業ではそもそも「性別」「性役割」とは何かについて、ジェンダー概念を中心に考えていくと共に、それがメディアでどのように描かれているか、また自分自身はどのように受け止めているか、批評的な態度で考える視点、力を養うことを目的とします。講義を進める上で、映像資料を使用することが多くあります。 授業内容を受けてコメントカードを書いてもらうことがあります。（不定期）。コメントは次の回の授業のはじめに一部紹介し、それを受けてさらに考察を深めます。 なお、トピックは変更されることがあります。また講義の内容上、一部性的表現や性暴力表現などが含まれることがありますが、ご了承のうえ、履修して下さい	1. オリエンテーション：ジェンダーとは何か 2. 「女らしさ・男らしさ」 3. ジェンダー概念成立の背景 4. ジェンダー平等の流れ 5. ジェンダーの周辺概念 6. 性の多様性 7. 「セクシュアル・マイノリティ」の主張・運動 8. ジェンダー視点のメディア・リテラシー 9. 広告におけるジェンダー 10. メディアとセクシュアリティ 11. 映画とジェンダー 12. 映画における「セクシュアル・マイノリティ」 13. 美術表現におけるジェンダー 14. メディアとジェンダーの平等 15. まとめ・質疑応答

テキスト、参考文献	評価方法
プリントを配布します。特定のテキストは用いません。 参考文献は授業中に提示します。	学期末試験で評価します。優れたコメントカードの提出があった場合は、これを加点要素とします。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (経済学 1)(ミクロの視点で考える) 経済学 a(ミクロの視点で考える)	担当者	浜本 光紹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は，様々な経済現象を理論的に考察するための分析道具であるミクロ経済学の基礎を習得し，経済理論に基づいて現実の経済問題を検討する力を養うことを目標とする。 講義では，まず経済学という学問が考察対象とする課題について解説しつつ，基本的概念の説明を行なう。続いて，経済主体の行動と経済の効率性に関する理解に必要な基礎知識の習得を図る。そのうえで，余剰分析について解説し，市場構造のあり方が経済厚生にどのような影響をもたらすかを考察する。また，「市場の失敗」とその諸要因について理解を深めながら，政府の役割と市場の役割のあり方を考える能力を身につける。	１．　ガイダンス ２．　経済学とはどのような学問か ３．　分業の利益 ４．　消費者行動と財の需要（１） ５．　消費者行動と財の需要（２） ６．　企業行動と財の供給（１） ７．　企業行動と財の供給（２） ８．　余剰分析（１） ９．　余剰分析（２） １０．　完全競争と経済の効率性 １１．　不完全競争 １２．　外部効果 １３．　公共財 １４．　ミクロ経済学の応用 １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義において指示する。	定期試験による。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (経済学 2)(マクロの視点で考える) 経済学 b(マクロの視点で考える)	担当者	浜本 光紹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は，日本経済に関して理論的に考察するうえで必要な分析道具であるマクロ経済学の基礎を習得し，現実の経済問題の本質的要因を探り処方箋を考える力を養うことを目標とする。 講義では，まず国民所得の決定メカニズムおよびマクロ経済における家計・企業・政府の各部門の関係について解説する。これを踏まえて，財政政策・金融政策の理論と現実について検討し，マクロ経済政策の効果に関する理解を深める。また，開放マクロ経済の基礎知識を習得し，グローバル化が進展する中で国際的な経済現象が日本にもたらす影響について考える能力を養う。 講義においては，昨今の日本経済を取り巻く様々な出来事を取り上げることで，受講生にとって理論と現実との対応関係が理解できるように配慮したい。	１．　ガイダンス ２．　マクロ経済学の課題 ３．　家計の消費行動と貯蓄動機 ４．　企業の投資行動 ５．　企業の資金調達と家計の資産選択 ６．　直接金融：株式市場の理論と実際 ７．　間接金融：銀行の役割 ８．　中央銀行の役割と貨幣市場モデル ９．　ケインズ経済学：有効需要の原理 １０．　財市場モデルと乗数効果 １１．　財政政策と金融政策（１） １２．　財政政策と金融政策（２） １３．　労働市場と失業 １４．　開放マクロ経済 １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義において指示する。	定期試験による。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（中東の社会空間） 現代社会（Ⅲ）（中東の社会空間）	担当者	水口 章

講義目的、講義概要	授業計画
歴史的な時空の圧縮が進む中、2011 年には中東地域で「アラブの春」と呼ばれる政治変化が起きたように、人々の意識・行動の変化と社会変動が連環しつつ動いている状況が見て取れる。 本講義ではこの社会変動に関して、自由と公平の観点からイスラムの経済論と統治論を見ていく。また社会面では、都市や教育、労働問題などの観点から現状破壊格差をの見ていく。 それにより、現在の中東の社会空間の特性を知ることを目的とする。 到達目標は、距離的に遠く離れた地域の社会空間で起きている変化と、身近な社会空間の変化との関連性について分析できる能力を養成することである。 授業の進め方は講義形式で、授業を 3 つに区分する。各区分の終了時には理解度を確認するためのグループ討議（ブレインストーミング）を行う。	1　ガイダンス（社会空間とは） 2　人間行動と空間の特性 3　イスラムの基礎知識 4　信仰と日常生活 5　小まとめ： イスラムと公共空間 6　自由と公平 7　制度と慣習 8　イスラム法と統治 9　イスラム経済論 １０　小まとめ： 中東の社会空間にある檻 １１　イスラムと科学・技術 １２　教育・ジェンダー問題と中東社会 １３　都市化と若者に見る社会変化 １４　経済・産業から見る中東と国際社会 １５　まとめ：中東と世界空間の変化との関係
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜テキスト＞ 水口章『中東を理解する―社会空間論敵アプローチ』日本評論社	学習態度（10%）、課題（20%）、最終レポート（70%）で総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（中東政治と市民社会） 現代社会（Ⅲ）（中東政治と市民社会）	担当者	水口 章

講義目的、講義概要	授業計画
冷戦終焉後、国際社会は歴史的な転換期にある。その中で、民族・宗教間の対立、文化的摩擦、経済格差を要因とする市民の抗議運動が世界各地で見られている。 特に、アイデンティティや社会的不安が政治変動とどのように関係するのか、また、市民運動を構成する組織や人々の意識連帯が国境を越えてどのように結ばれ社会運動が展開されているかについて考察する。その事例として、中東地域での紛争と「アラブの春」を取り上げる。 本講義では今日の国際社会における市民の社会・政治運動から、近未来の日本の市民社会のあり方をイメージできるようになることを目的とする。 また、到達目標は、国際的変化を読み解き、市民として政治・社会参加をするための基礎能力を養成することである。 授業の進め方は講義形式で、授業を 3 つに区分する。各区分の終了時には理解度を確認するためのグループ討議（ブレインストーミング）を行う。	1　ガイダンス（市民社会における統治とは） 2　今日の中東と国際関係 3　中東諸国の政治構造（アラブ湾岸産油国） 4　中東諸国の政治構造（エジプト、シリア） 5　小まとめ： 市民の政治参加 6　中東和平とパレスチナ人 7　イラン革命の影響 8　アフガニスタン問題とテロとの戦い 9　湾岸戦争、イラク戦争と国際介入 １０　小まとめ：紛争から考える国際秩序 １１　チュニジア、エジプトの政変と市民 １２　リビア、シリアの内戦と市民 １３　アラブ湾岸諸国の市民運動 １４　ソーシャルネットワークと市民の抗議活動 １５　まとめ：地球市民としての政治・社会運動のあり方
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜テキスト＞ 水口章『中東を理解する―社会空間論敵アプローチ』日本評論社	学習態度（10%）、課題（20%）、最終レポート（70%）で総合的に評価する。

08 年度以降	自然・環境・人間１(数学 a)	担当者	東 孝博

講義目的、講義概要	授業計画
数学とは、数量および空間に関して研究する学問であり、古代文明以来人類が持ち続ける教養の一つです。また、これらの研究から得られた公理と推論からなる論理と理論の体系全体を指すとも言えます。数学を学ぶということは、数量や空間を扱う考え方を身につけるだけでなく、論理的に考え、正確に判断し、的確に類推する能力を養うことにもつながります。 本講義では、数学を支えてきた論理である「数理論理」について学びます。論理において重要なものは文と文の接続関係ですが、「数理論理」では、文を「命題」として扱い、接続関係を「論理演算子」で表します。授業では、まず、文の真偽に対応する「命題」の「真理値」と、「論理演算子」により合成された「合成命題」の「真理値」の関係を調べ、「同値」な「命題」について考察します。つづいて、論証を構成する接続関係である「条件文」を導入し、「条件文」と「同値」な「命題」についても考察します。さらに、論証の中でも最も厳格に前提から結論を演繹的に導く「推論」を取り上げ、「推論」の妥当性について検討します。また、論理と代数、論理と集合との関係についても学びます。	１．はじめに ２．命題と論理式 ３．真理表と命題の同値 ４．条件文１ ５．条件文２ ６．推論と証明 ７．論理式と代数１ ８．論理式と代数２ ９．論理と集合１ １０．論理と集合２ １１．推論の応用１ １２．推論の応用２ １３．推論の応用３ １４．問題演習 １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：小島寛之『文系のための数学教室』(講談社現代新書 2004 年)	毎回の授業における「授業レポート」とまとめの問題演習により評価する予定

08 年度以降	自然・環境・人間１(数学 b)	担当者	東 孝博

講義目的、講義概要	授業計画
数学とは、数量および空間に関して研究する学問であり、古代文明以来人類が持ち続ける教養の一つです。また、これらの研究から得られた公理と推論からなる論理と理論の体系全体を指すとも言えます。数学を学ぶということは、数量や空間を扱う考え方を身につけるだけでなく、論理的に考え、正確に判断し、的確に類推する能力を養うことにもつながります。 本講義では、自然や社会において偶然に支配されているとみなされる現象を解析する数学の一分野である「確率論」について学びます。「確率」については、高等学校数学で扱われていますが、ここでは、その内容を復習しつつ、実際に様々な分野で応用されている、「確率」を基にした「統計」の基本的な考え方につなげることを目標に授業を進めていきます。内容は、まず、「確率」の学習に必要な「集合」と「順列」「組合せ」、そして「確率」と「条件付確率」の考え方を学習します。つぎに、「確率変数」を導入し、「確率分布」や「期待値」を学びます。さらに、「確率分布」の実例として「二項分布」や「正規分布」を取り上げ、「確率分布」の「平均」や「分散」についても考察します。これらの内容は、「推定」や「検定」といった「推測統計」の理解や利用につながります。	１．はじめに ２．場合の数と集合 ３．順列・組合せ ４．標本空間と事象 ５．確率１ ６．確率２ ７．事象の独立と条件付確率 ８．確率変数と確率分布１ ９．確率変数と確率分布２ １０．二項分布 １１．正規分布 １２．確率分布の平均 １３．確率分布の分散 １４．問題演習 １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：石村園子『すぐわかる確率・統計』(東京図書 2001 年)	毎回の授業における「授業レポート」とまとめの問題演習により評価する予定

08 年度以降	自然・環境・人間１(物理学Ⅰ)	担当者	東 孝博

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つけられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。 本講義では、物理学の中でも２０世紀までに確立され、すでに様々な場面で応用されている分野を扱います。これらは、高等学校までの理科や物理で学んでいる内容ですが、もう一度、私たちの身の回りの生活との関係という視点で見直すことを目標として、学習を進めていきます。内容は、①物体に働く力と物体の運動との関係を考察する「力と運動」、②熱の現象とその実態である分子運動を扱う「熱」、③波の一般的性質とその実例としての音波・光波を扱う「波動」、④電気と磁気に関する現象や電気と磁気との関係、さらに電磁波について考察する「電磁気」からなります。	１．はじめに ２．力と運動１－物体の運動 ３．力と運動２－物体に働く力 ４．力と運動３－運動の法則 ５．力と運動４－万有引力 ６．熱１－温度と熱 ７．熱２－熱と分子運動 ８．波動１－媒質の振動と波 ９．波動２－音波と光波 １０．電磁気１－電気と磁気 １１．電磁気２－電流と磁場 １２．電磁気３－電磁誘導 １３．電磁気４－電磁波 １４．問題演習 １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介	毎回の授業における「授業レポート」とまとめの問題演習により評価する予定

08 年度以降	自然・環境・人間１(物理学Ⅱ)	担当者	東 孝博

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つけられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。 本講義では、２０世紀以降物理学の分野で得られた新しい知見について紹介します。一つは「時間と空間」に関するもの、もう一つは「物質の究極像」に関するものです。時間と空間は、以前は自然の基本法則が登場する舞台でしたが、２０世紀以降「相対性理論」により物理学の研究対象となりました。物が何からできているかという物質の究極像を探る研究は、原子・素粒子の発見やその従う法則である「量子力学」の成立により大きく進展しました。これら人類の得た新しい知見を題材にして、自然に対する認識を深めることを目標に授業を進めていきます。内容は、前半が「時間と空間」で、相対性原理・光速一定原理と特殊相対性理論、等価原理・一般相対性原理と一般相対性理論について、後半が「物質の究極像」で、元素・原子と原子の構造、前期量子論と量子力学、素粒子論と統一理論についてです。	１．はじめに ２．時間と空間１－相対性原理 ３．時間と空間２－光速一定原理 ４．時間と空間３－特殊相対性理論 ５．時間と空間４－等価原理 ６．時間と空間５－一般相対性原理 ７．時間と空間６－一般相対性理論 ８．物質の究極像１－元素と原子 ９．物質の究極像２－原子の構造 １０．物質の究極像３－前期量子論 １１．物質の究極像４－量子力学 １２．物質の究極像５－素粒子論 １３．物質の究極像６－統一理論 １４．問題演習 １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介	毎回の授業における「授業レポート」とまとめの問題演習により評価する予定

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間１(宇宙論 a) 自然・環境・人間(Ⅲ)(宇宙論 a)	担当者	東 孝博

講義目的、講義概要	授業計画
「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超えており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。 「宇宙論ａ」では、まず、「近代科学以前の宇宙論」を概観し、次に、様々な天体現象の観察による「近代的宇宙観の成立」と、相対性理論による「現代的宇宙観の成立」を見ていきます。そして、「現代宇宙論」で確立されたビッグバン宇宙について解説します。	１．はじめに ２．近代科学以前の宇宙論 ３．近代的宇宙観の成立１ ４．近代的宇宙観の成立２ ５．近代的宇宙観の成立３ ６．現代的宇宙観の成立１ ７．現代的宇宙観の成立２ ８．現代的宇宙観の成立３ ９．現代宇宙論１ １０．現代宇宙論２ １１．現代宇宙論３ １２．現代宇宙論４ １３．現代宇宙論５ １４．問題演習 １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：佐藤勝彦『宇宙論入門』(岩波新書 2008 年)	毎回の授業における「授業レポート」とまとめの問題演習により評価する予定

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間１(宇宙論 b) 自然・環境・人間(Ⅲ)(宇宙論 b)	担当者	東 孝博

講義目的、講義概要	授業計画
「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超えており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。 「宇宙論ｂ」では、「現代宇宙論」において近年得られた知見による「宇宙膨張の観測と理論」、「宇宙における天体の形成」、「宇宙における物質の形成」について解説します。また、まだ解決していない「現代宇宙論の諸課題」についても取り上げます。	１．はじめに ２．宇宙膨張の観測と理論１ ３．宇宙膨張の観測と理論２ ４．宇宙における天体の形成１ ５．宇宙における天体の形成２ ６．宇宙における物質の形成１ ７．宇宙における物質の形成２ ８．宇宙における物質の形成３ ９．宇宙における物質の形成４ １０．現代宇宙論の諸課題１ １１．現代宇宙論の諸課題２ １２．現代宇宙論の諸課題３ １３．現代宇宙論の諸課題４ １４．問題演習 １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：佐藤勝彦『宇宙論入門』(岩波新書 2008 年)	毎回の授業における「授業レポート」とまとめの問題演習により評価する予定

08 年度以降	自然・環境・人間 1（歴史における科学技術 1：西洋近代科学技術の起源）	担当者	内田 正夫

講義目的、講義概要	授業計画
～ルネサンスから啓蒙主義時代まで～ 私たちは科学技術に取り囲まれた現代社会に生きている。物の生産や消費はもちろん、科学技術は人々の考え方や倫理観にまで大きな影響を与えており、日常生活から将来の政策決定にいたるまで、科学技術に関わる知識や判断力は専門家だけでなく私たちすべてに求められる。そのために最も基本的な、科学技術とはなにかということについて、歴史から学び、考察する学問分野が科学史・技術史である。 春学期は、西洋のルネサンスから近代社会の形成と、その中で近代科学が生み出されてきた過程を概観し、それが人々の自然世界に対する近代的な認識を形づくった道筋を考察する。私たちが幼時から目にし耳にして育つ、宇宙から原子までの自然世界の姿、それが現代とはまったく違うものであった時代から、私たちはどのようにして近代的な自然の見方を獲得してきたのか。その起源を考察することを通して現代科学に基づく私たちの世界観をあらためて振り返ってみよう。授業は講義形式でおこなう。	ほぼ教科書(Principe 著)の内容に沿って、補足の史料等を読みつつ授業を進める。 1. イントロダクション　"科学革命"の時代 2. 旧世界と新世界(1)　中世からの流れ　ルネサンス 3.　〃　(2)　印刷術　大航海 4. 繋がりあった世界(1)　世界の連関・学問の連関 5.　〃　(2)　自然魔術 6. 天上世界(1)　惑星の見かけの運動　地動説 7.　〃　(2)　宇宙の調和　望遠鏡　地球の運動 8. 地上世界(1)　地球　地上の物体の運動　水と空気 9.　〃　(2)　錬金術　原子とメカニズム 10. 生き物の世界(1)　医学　解剖 11.　〃　(2)　新しい医薬　動植物 12. 新しい科学と技術の体制(1)建築・鉱山冶金・時計 13.　〃　(2)　科学技術情報の流通システム 14. 啓蒙主義(Enlightenment)と科学・技術 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Lawrence M. Principe, *The Scientific Revolution: A Very Short Introduction*, Oxford University Press, 2011, ペーパーバック(Kindle 版もあり)。 必要に応じて日本語訳その他の資料を配布する	定期試験（60%）、授業で指示する提出物（30%）、出席（10%）

08 年度以降	自然・環境・人間 1（歴史における科学技術 2：日本の近代化と科学技術）	担当者	内田 正夫

講義目的、講義概要	授業計画
～西欧科学技術の導入から現代の諸問題まで～ 私たちは科学技術に取り囲まれた現代社会に生きている。物の生産や消費はもちろん、科学技術は人々の考え方や倫理観にまで大きな影響を与えており、日常生活から将来の政策決定にいたるまで、科学技術に関わる知識や判断力は専門家だけでなく私たちすべてに求められる。そのために最も基本的な、科学技術とはなにかということについて、歴史から学び、考察する学問分野が科学史・技術史である。 西洋において近代科学が生み出されてきた 17 世紀初めから 19 世紀半ば過ぎまで、日本はいわゆる鎖国体制によって西洋近代科学技術から隔絶されてきた。とはいえ、その間にも蘭学という形でそれを取り入れる過程を持ち、やがて明治維新以後、急速にそれを導入し、消化し、我がものとしていった。このような歴史は日本の科学技術に特殊な性格を刻印し、さらに戦争の時代と戦後の高度成長を経て、現代に到る科学技術のありようを形成してきた。この過程を振り返ることを通して、現代の科学技術をめぐる諸問題を考える土台としたい。授業は講義形式でおこなう。	1. 洋学の時代(1)伝統技術と伝統的自然観 2.　〃　(2)蘭学の興り 3.　〃　(3)幕末の洋学 4. 明治維新から帝国大学まで(1)殖産興業と科学技術政策 5.　〃　(2)社会インフラの整備、帝国大学の設立 6. "自立"から敗戦まで(1)理化学研究所の設立 7.　〃　(2)大正～昭和初期の科学 8.　〃　(3)戦争と科学技術 9. 戦後復興と高度成長(1)産業と科学の戦後復興 10.　〃　(2)技術革新と高度成長 11.現代科学技術の諸問題(1)科学技術の巨大化 12.　〃　(2)公害・環境問題の歴史① 13.　〃　(3)公害・環境問題の歴史② 14.　〃　(4)核エネルギー利用の歴史① 15.　〃　(5)核エネルギー利用の歴史②
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト なし 必要に応じてプリントを配布する 参考文献は授業の中で示す	定期試験（60%）、授業で指示する提出物（30%）、出席（10%）

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1（自然観察 a） 生物学 a(植物の特性と自然の仕組み)	担当者	加藤 僖重

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 ・ 生物学の基礎は材料となる種（種類）の認識である。種の認識は時代、民族によって大きく異なる。その違いを知り、植物(種)の多様性を知ることを目標とする。 **履修資格** ・ 植物名に関心があること。 ・ 普通の植物 100 種を認識できること。	1　登録に先立っての試験 2　実験室の使用法 3　5 月の花 1 4　植物の基礎　分類学 1 5　5 月の花 2 6　植物の基礎　分類学 2 7　6 月の花 1 8　植物の基礎　分類学 3 9　6 月の花 2 10 植物の基礎　分類学 4 11 植物の基礎　分類学 5 12 7 月の花 1 13 7 月の花 2 14 7 月の花 3 15 まとめ 第一回目の講義で**詳細な説明**と**基礎テスト**を行なうので、必ず出席すること（**欠席者の登録お断り**）。
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。	毎回出欠を確認。4 回以上の欠席者は不可とする。提出数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果､その他を総合して評価する。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1（自然観察 b） 生物学 b(植物の分布)	担当者	加藤 僖重

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 ・日本の地域によって異なる植物相を理解し、日本の自然環境の特質を知ることを目標とする。 **講義の目的** ・ 地域によって生物型が定まっている｡その共通点と相違点を知ることを目標とする。 **履修資格** ・ 植物に興味があり、地理が好きであること。 ・ 普通の植物 100 種を認識できること。	1　登録に先立っての試験 2　植物の基礎　形態学 1 3　10 月の花　1 4　植物の基礎　形態学 2 5　10 月の花　2 6　植物の基礎　形態学 3 7　11 月の花 1 8　植物の基礎　形態学 4 9　11 月の花 2 10 植物の基礎　形態学 5 11 植物の基礎　形態学 6 12 12 月の花 1 13 12 月の花 2 14 12 月の花 3 15 まとめ 第一回目の講義で**詳細な説明**と**基礎テスト**を行なうので、必ず出席すること（**欠席者の登録お断り**）。
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。	毎回出欠を確認。4 回以上の欠席者は不可とする。提出数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果､その他を総合して評価する。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間１(地球環境の変化とその要因) 自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境の変化とその要因)	担当者	鈴木 滋

講義目的、講義概要	授業計画
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 我々の環境は目まぐるしく変化している。その状況を地球規模で、タイムリーに的確に理解するためには、地球環境を自然科学的側面から捉えることが必要である。 この講義では、地球環境の変化とその要因として、地球誕生後の地球環境の変遷とその自然的および人為的要因について検討する。また、地球環境問題に対する地球環境の位置づけや地球規模の問題として環境と資源がどのような因果関係にあるのか考察する。	１　オリエンテーション：授業概要等の説明 ２　地球環境とは何か？　今、何が起っているのか？ ３　地球環境の歴史（I） ４　地球環境の歴史（II） ５　地球環境の構造等：地球という惑星について ６　地球環境と地球システム（I）：物質圏の相互関係 ７　地球環境と地球システム（II）：炭素循環など ８　地球環境と資源（I）：資源の特性 ９　地球環境と資源（II）：エネルギー １０　地球環境と材料：地球材料学（ジオマテリアル・サイエンス）とは １１　地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何をもたらしたか？ １２　環境：地球環境と広域・地域環境との比較 １３　環境と共生：人間活動・物質循環との関係 １４　地球環境問題概論 １５　まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 **参考文献：**講義内容によって、適時指示する。	基本的には定期試験による。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間１(地球環境問題と環境保全) 自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境問題と環境保全)	担当者	鈴木 滋

講義目的、講義概要	授業計画
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 地球環境問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えている。この問題を理解し、把握することは、グローバルなものの見方を養うと共に、地球環境の保全に欠かせないと思われる。 この講義では、地球環境問題と環境保全として、地球環境問題各論を中心に、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などの地球環境に生じる具体的現象、その原因と影響ならびに対策について環境論および資源論を交えて検討する。	１　オリエンテーション：授業概要等の説明 ２　地球環境問題各論（I）：地球温暖化（a） ３　地球環境問題各論（I）：地球温暖化（b） ４　地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊（a） ５　地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊（b） ６　地球環境問題各論（II）：酸性雨 ７　地球環境問題各論（II）：海洋汚染 ８　地球環境問題各論（II）：有害廃棄物の越境移動 ９　地球環境問題各論（III）：砂漠化 １０　地球環境問題各論（III）：森林減少 １１　地球環境問題各論（III）：野生生物（種）の減少 １２　地球環境問題各論（III）：開発途上国等の環境（公害）問題など １３　地球環境の保全（I）：環境と開発 １４　地球環境の保全（II）：文化・経済・社会等との関係 １５　まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 **参考文献：**講義内容によって、適時指示する。	基本的には定期試験による。

08 年度以降	自然・環境・人間１(科学史 a)	担当者	野澤 聡

講義目的、講義概要	授業計画
現在の私たちの生活は、科学と切り離すことができません。科学は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、画期的な治療薬を開発する基礎となったりして、私たちの人生や生活を豊かにしてくれます。他方、最新の科学知識は、私たちに生命や心とは何か問い直しを迫っており、科学の成果は核兵器など私たちの生命を脅かしてもいます。このような科学はどこから来てどこに向かおうとしているのでしょうか。 この講義では、科学の歴史を大まかに見ることによって、私たちが社会の中で科学を生かす方法を考えるとともに、受講生が一般市民に科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることを目指しています 春学期は、古代から「科学者（scientist)」という言葉が登場した19世紀初めまでを対象とし、科学的なものの見方や考え方がどのように移り変わってきたのかについて、代表的な人物や事例に焦点を当てて概観します。	１．　ガイダンス、科学とはなにか？ ２．　科学的な考え方のはじまり（古代） ３．　古代世界の宇宙観 ４．　地中海世界からアラビア世界へ ５．　アラビア世界からヨーロッパ世界へ ６．　コペルニクスと地動説 ７．　魔術と科学 ８．　機械論的自然観と科学 ９．　ニュートンと科学革命 １０．　科学アカデミーの誕生 １１．　女性と科学 １２．　産業革命と科学 １３．　フランス革命と科学 １４．　「科学者（scientist)」の登場 １５．　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用せず、毎回講義資料を配布する。 参考書：中島秀人『社会の中の科学』，日本放送協会，2008 年	中間レポート（文章の要約・１回）５０％ 期末試験５０％ ただし、出席態度も考慮することがある。

08 年度以降	自然・環境・人間１(科学史 b)	担当者	野澤 聡

講義目的、講義概要	授業計画
現在の私たちの生活は、科学と切り離すことができません。科学は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、画期的な治療薬を開発する基礎となったりして、私たちの人生や生活を豊かにしてくれます。他方、最新の科学知識は、私たちに生命や心とは何か問い直しを迫っており、科学の成果は核兵器など私たちの生命を脅かしてもいます。このような科学はどこから来てどこに向かおうとしているのでしょうか。 この講義では、科学の歴史を大まかに見ることによって、私たちが社会の中で科学を生かす方法を考えるとともに、受講生が一般市民に科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることを目指しています 秋学期は、「科学者（scientist)」という言葉が登場した 19 世紀の初めから現代までを対象とし、科学が社会の中で大きな力を獲得していく様子について、具体的な事例に焦点を当てて概観します。	１．　ガイダンス、「科学者（scientist)」とはだれか？ ２．　蒸気機関と熱力学の誕生 ３．　科学の制度化と専門職業化 ４．　科学の産業化 ５．　公害の発生と科学 ６．　進化論と社会 ７．　科学と国家 ８．　研究所の誕生と展開 ９．　現代科学の登場と自然観の転換 １０．　大量生産時代の科学 １１．　科学と戦争 １２．　ビッグ・サイエンスの誕生 １３．　地球環境問題と科学 １４．　科学技術政策の展開 １５．　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用せず、毎回講義資料を配布する。 参考書：中島秀人『社会の中の科学』，日本放送協会，2008 年	中間レポート（文章の要約・１回）５０％ 期末試験５０％ ただし、出席態度も考慮することがある。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降	自然・環境・人間 1（スポーツ科学概論）	担当者	依田 珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 スポーツ科学分野は近年目覚ましい発展を遂げています。「スポーツ」を「科学」することによってトップアスリートの身体機能やパフォーマンスの秘密が明らかになり、効率的なトレーニング方法が開発されています。また健康の維持増進にも寄与するデータが数多く得られ、私達の身近な世界にもスポーツ科学は貢献しています。スポーツを科学することによって個々の受講生がスポーツに対する理解を深めることを目指します。 〔講義概要〕 この講義ではスポーツ科学が扱う様々な領域を概説し、スポーツの魅力と可能性について紹介します。またビデオ映像を適宜、視聴します。スポーツ科学の現状について、受講生同士で討論を行う予定です。	1. スポーツ科学とは 2. スポーツの起源と歴史 3. 持久力の科学 4. 筋の科学 5. トップパフォーマンスとは 6. サッカーの科学 7. 野球・陸上の科学 8. コンディショニングと疲労 9. 障害者のスポーツ 10. メンタルトレーニング 11. スポーツ医科学 12. トップアスリートの秘密を探る① 13. トップアスリートの秘密を探る② 14. スポーツ振興 15. まとめ （講義の順番は変更する場合があります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で指示する。	出席、授業態度、レポートの内容で総合的に判断します。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (私の自由時間設計) スポーツ･レクリエーション学 a(自由時間とクオリティオブライフを考えよう)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
平和で、豊かな生活が可能な日本では、生涯生活時間の 2 割から 3 割の自由時間を享受することができます。労働時間は、1 割です。あなたは 1 割の時間の価値観にとらわれすぎていませんか。自由時間を「レジャー」(生きがい)とするために、自由時間についてもっとよく考えて見ましょう。そうすれば、あなたは一人十色の魅力的な個性豊かな生き方に気づくはずです。あなたが、遊びの範疇でおこなってきたことが、大きな価値を持ち始めるでしょう。何も持っていない人は、この授業をきっかけに始められるでしょう。 この授業では、あなたの自由時間を学問的に意義付けし、その価値に目覚めていただくことを目標にします。また、旅行業など余暇関連産業の仕事をめざす学生には必須の知識となるでしょう。 秋学期には、実践編として全学総合講座で「自由時間の達人」たちにその方々の実践、考え方をお話していただきますので、ぜひこの授業と「自由時間の達人」を継続して履修してほしいと思います。 積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますので、ブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから気軽に質問に来てください。	1　オリエンテーション 2　自由時間とは 3　生活時間の構成 4　自由時間の推移と現状 5　自由時間「三つの意味」その１ 6　自由時間「三つの意味」その２ 7　少子化とライフスタイル 8　古典的解釈から知るレジャー 9　「スコレー」とは 10　余暇享受能力を開発していますか 11　ビデオ「森と老人」に見る余暇享受能力 12　クオリティオブライフ 13　「環境と健康」 14　ライブアンケートから知る獨協生の価値観とライフスタイル 15　まとめ 授業で携帯電話をライブアンケート等に必要に応じて利用しますので、参加は任意ですが、大講義室での授業をより活性化するために必要ですので、ぜひご協力をお願いします。(パケット通信料がかかります)
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義支援システムに授業資料をアップロードします。	出席状況、学期末試験の結果、その他授業時に書いた作文も考慮します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(碑文を読む) ことばと思想(Ⅳ)(碑文を読む)	担当者	飯島 一彦

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：路傍に見過ごされる石碑を読む。 現代の日常生活の周辺にも気づかぬまま存在している石碑類（道標・墓誌・歌碑・句碑・記念碑・供養碑等）を読み解くために解釈と理解の道筋を示して、身近に存在する文化的歴史的遺産に対する意識を高めるのが目的の、実践的な授業である。 具体的には各分野の碑文のうち、典型的な例を写真などで示して（写真のデジタル処理に関してある程度の知識がある方が望ましい）読解の基本の指導と作業を行って基礎力を養った後に、学生各自が碑文の採集と解釈を行い、教室で報告することを課する。 変体仮名や異体字、漢文・梵字などを読まなくてはならないので、勉強しなくてはならないことは山ほどある。 全体としては足を動かし、手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。	１．オリエンテーション・導入 ２．概説（石碑の種類・刻まれた文字達） ３．日本漢文体の読解、梵字の読解 ４．道標・講中碑を読む ５．墓碑銘・供養碑を読む ６．記念碑・文学碑を読む ７．学生諸君の報告と検討① ８．学生諸君の報告と検討② ９．学生諸君の報告と検討③ 10. 学生諸君の報告と検討④ 11. 学生諸君の報告と検討⑤ 12. 学生諸君の報告と検討⑥ 13. 学生諸君の報告と検討⑦ 14. 学生諸君の報告と検討⑧ 15. 学生諸君の報告と検討⑨
テキスト、参考文献	**評価方法**
特にない。	各自が調査した碑文の採集・調査報告書を発表、授業中に検討した上で手直しして、最低４点提出してもらい、その内容による。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(写本を読む) ことばと思想(Ⅳ)(写本を読む)	担当者	宇津木 言行

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、写本の読み方の基礎を手ほどきし、くずし字を用いて書写された文献を初心者でも読みこなせるようになることを目的とします。 教材として、西行の歌論『西行上人談抄』を取り上げることにします。 授業の最初では読み解き方の見本を示しながら進めてゆきますが、要領がわかってきたところで途中から履修者の学生にも課題を割り当てて読み解いてもらいます。 日本社会の中で失われてしまった和本リテラシーが、これからは改めて必要になってくるものと予想されます。その入門編となれば幸いです。	1. 授業の概要 2. 読み方の範例（1） 3. 読み方の範例（2） 4. 読み方の範例（3） 5. 読み方の範例（4） 6. 読み解き実践（1） 7. 読み解き実践（2） 8. 読み解き実践（3） 9. 読み解き実践（4） 10. 読み解き実践（5） 11. 読み解き実践（6） 12. 読み解き実践（7） 13. 読み解き実践（8） 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いず、プリントを配布する。	評価方法：期末試験の結果（50%）と、授業中に割り当てての実技（50%）によって評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降	ことばと思想２(日本文学作品研究 e)	担当者	宇津木 言行

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、昔話・伝説を素材とする宮澤賢治の童話を講読します。 昔話・伝説の宝庫といわれる東北・岩手県花巻に生まれ育った賢治の童話にはそれらを素材として取り込んだ作品が多いが、中でも彼の代表作のひとつ『風の又三郎』はその集大成と目されます。『風の又三郎』生成に至る童話数篇を取り上げて講読しますが、ひとつの方法として異人論を用いた作品分析を行います。 口承された前近代の昔話・伝説が、いかに近代の記載文学を豊かにしてきたかということを理解してもらいたいと考えます。	1. 授業の概要 2. ざしき童子のはなし（1） 3. ざしき童子のはなし（2） 4. とっこべとらこ 5. 雪渡り（1） 6. 雪渡り（2） 7. 祭の晩 8. 山男の四月（1） 9. 山男の四月（2） 10. 種山ヶ原（1） 11. 種山ヶ原（2） 12. 風の又三郎（1） 13. 風の又三郎（2） 14. 風の又三郎（3） 15. 講義のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキストは用いず、毎回プリントを配布する。	評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80%）と、出席（20%）によって評価する。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(日本語音声表現のトレーニング基礎篇) ことばと思想(Ⅳ)(日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	担当者	梅津 正樹

講義目的、講義概要	授業計画
日本語の音声表現によるコミュニケーション能力を高めるための基礎を学ぶ。 日本語（国語）教育では「読む」「書く」「聞く」「話す」を柱としている。その中でも、今日の複雑な社会環境で社会人に必須とされるのは、コミュニケーション力「話して伝える力」である。その基本となる「ことば」は口語言語（話し言葉）であって、書記言語（書き言葉）ではない。 近年「正しい話し方」などという指導があるが、そうしたマニュアルはあり得ない。話し手・聞き手、それぞれ個性があり価値観が異なる。「ことば」に対する認識も異なるのである。正しいといわれる言葉で整然と話しても、正しく伝わるとは限らないのである。 本講義では言葉の「力と空しさ」を体験しながら、理論ではなく、実践からコミュニケーションの方法論を考える。	１　オリエンテーション「日本人とことば」 ２　自然な発音・発声「発音・発声トレーニング」 ３　日本語の発音「鼻濁音・無声化・アクセント」 ４　実践「自己紹介」 ５　　同上 ６　聞き手に伝わる話の組み立て ７　実践「話して伝える基本・説明するⅠ」 ８　実践「話して伝える基本・説明するⅡ」 ９　実践「テーマに即したスピーチⅠ」 １０　　同上 １１　　同上 １２　実践「テーマに即したスピーチⅡ」 １３　　同上 １４　敬語の基本「用法と実践」 １５　気を付けたい表現とことば
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時プリント配布	毎回の出席・課題の実践

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(日本語音声表現のトレーニング表現篇) ことばと思想(Ⅳ)(日本語音声表現のトレーニング表現篇)	担当者	梅津 正樹

講義目的、講義概要	授業計画
日本語の音声表現によるコミュニケーション能力を高めるための基礎を学ぶ。 日本語（国語）教育では「読む」「書く」「聞く」「話す」を柱としている。その中でも、今日の複雑な社会環境で社会人に必須とされるのは、コミュニケーション力「話して伝える力」である。その基本となる「ことば」は口語言語（話し言葉）であって、書記言語（書き言葉）ではない。 近年「正しい話し方」などという指導があるが、そうしたマニュアルはあり得ない。話し手・聞き手、それぞれ個性があり価値観が異なる。「ことば」に対する認識も異なるのである。正しいといわれる言葉で整然と話しても、正しく伝わるとは限らないのである。 本講義では言葉の「力と空しさ」を体験しながら、理論でなく、実践からコミュニケーションの方法論を考える 秋季は文章を「読んで伝える」ことも加える。	１　オリエンテーション「日本人とことば」 ２　自然な発音・発声「発音・発声トレーニング」 ３　実践「話して伝える・聴いて理解する」 ４　実践「話して伝える・適切な言葉を選ぶ」 ５　実践「テーマに即した話をするⅠ」 ６　　同上 ７　話すと読む「読んで伝える」 ８　実践「文意通りの音声表現」 ９　実践「テーマに即した話をするⅡ」 １０　　同上 １１　敬語表現「基本と応用」 １２　敬語表現「用法と実践」 １３　実践「自己ＰＲ」 １４　　同上 １５　気を付けたい表現とことば
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時プリント配布	毎回の出席・課題の実践

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(ラテン語Ｉa) ラテン語Ｉa	担当者	小倉 博行

講義目的、講義概要	授業計画
ラテン語とは今から 2,000 年以上も前にイタリアのローマを中心に用いられていた言語です。ローマの支配圏が拡大するのに伴い、このラテン語も西ヨーロッパの全域に広まりました。現在のイタリア語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語などロマンス諸語と呼ばれる言語は、ラテン語が人々によって用いられる間に少しずつ変化し、成立したものなのです。したがって、ヨーロッパの社会・歴史・言語のどの分野であれ、深い理解を得ようとするにはラテン語（そしてギリシア語）の知識が不可欠です。本講座ではラテン語の読解力を身につけるべく、その初級文法を学びます。 教科書を使って、毎回文法事項を説明します。皆さんは課ごとに付されている練習問題を解き、それを提出します。次回までにこちらがそれを添削し、返却および解説を行います。	1:第一課　文字と発音・音韻組織・音節 2:第一課　アクセント・母音の長音化と短音化 3:第一課　直説法現在能動相・接続詞の例 4:第二課　第一変化名詞・名詞の性と格・不規則動詞 sum,do,eo,fero 5:第二課　第二変化名詞・-er で終わる第二変化男性名詞 6:第三課　第一・第二変化形容詞・前置詞・sum と eo の合成動詞 7:第三課　人称代名詞・再帰代名詞 8:第四課　未完了過去・未来 9:第四課　第三変化名詞 10:第五課　完了・過去完了・未来完了 11:第五課　第三変化形容詞・場所の表現 12:第六課　指示代名詞・idem と ipse 13:第六課　直説法受動相未完了系三時称・受動文 14:第七課　疑問代名詞と疑問形容詞・全文疑問文・関係代名詞 15:第七課　第四変化名詞・第五変化名詞・ローマ人の名前
テキスト、参考文献	**評価方法**
『標準ラテン文法』中山恒夫著　白水社	課ごとについている和訳問題を提出してもらい, 20 点満点で評価し，平均して 6 割（12 点）を合格の裁定ラインとします.

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(ラテン語Ｉb) ラテン語Ｉb	担当者	小倉 博行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じです。ただし，秋学期から受講するという場合は，春学期で学ぶ内容を終えている必要があります.	1:第八課　目的分詞・動詞の基本形・完了受動分詞・直説法受動相完了系三時称 2:第八課　命令法能動相・命令法受動相・形容詞からの副詞・述語的同格 3:第九課　不規則動詞・形容詞の比較 4:第九課　副詞の比較・部分を表す述語的同格 5:第十課　形式受動相動詞・分詞 6:第十課　接合分詞・絶対的奪格 7:第十一課　不定法 8:第十一課　対格＋不定法 9:第十二課　代名詞型形容詞・不定代名詞・nemo と nihil 10:第十二課　二重否定・動名詞・動形容詞 11:第十三課　非人称動詞・属格の用法 12:第十三課　与格の用法 13:第十四課　対格の用法・奪格の用法 14:第十五課　接続法の活用 15:第十五課　主文の接続法
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じです.	春学期と同じです.

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(ラテン語Ⅱa) ラテン語Ⅱa	担当者	小倉 博行

講義目的、講義概要	授業計画
ラテン語の原典を講読し、読解力の向上を目指します。従って、この授業を受講するには、ラテン語の初級文法を学び終えていることが前提です。 ラテン語の文法を学んだ人は「とにかく予習が大変だった」あるいは「課題をこなすのに一苦労だった」と言います。そこで、せっかく「完走」しても、「あれをまたやるのは…」と、続けることを断念してしまう人も少なからずいます。この授業はそうした心配には及びません。詳しい註や解説をあらかじめ用意することで、予習の段階でのいわば「不必要な試行錯誤」を回避できるよう工夫してあります。つまり、なるべく負担は少なく、なおかつ原文で読まなければ味わうことのできない醍醐味を知ってもらおうという、欲張りな授業です。文法を学んだだけで終わらせてしまうのは、辛いところしか知らずにやめてしまうのに等しいといえるでしょう。初級をクリアしたということは、古代世界を深く知る、それも特権的な資格を得たということです。そうした自負を持って、ためらうことなくこの授業に参加してもらいたいと思います。	左記のような方針なので、輪読の形式をとることになります。『ガリア戦記』の第 1 巻の冒頭（第 1 章）を読んだ後、第３巻を読もうと思っています。 I 教材プリント配布、ガイダンス。 II 第１巻第１章 III 第３巻第１章 IV 第３巻第２章 V 第３巻第３章 VI 第３巻第４章 VII 第３巻第５章 VIII 第３巻第６章 IX 第３巻第７章 X 第３巻第８章 XI 第３巻第９章 XII 第３巻第 10 章 XIII 第３巻第 11 章 XIV 第３巻第 12 章 XV 第３巻第 13 章
テキスト、参考文献	**評価方法**
原典はプリントを配布します．また，辞書は『羅和辞典』（研究社）を用意して下さい．また，ラテン語I で使った教科書を参考書とします。	平常点で評価します．毎回の予習と，授業への意欲的な参加を望みます。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(ラテン語Ⅱb) ラテン語Ⅱb	担当者	小倉 博行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じです。	春学期に引き続きカエサルの『ガリア戦記』を輪読します。 I 第３巻第 13 章 II 第３巻第 14 章 III 第３巻第 15 章 IV 第３巻第 16 章 V 第３巻第 17 章 VI 第３巻第 18 章 VII 第３巻第 19 章 VIII 第３巻第 20 章 IX 第３巻第 21 章 X 第３巻第 22 章 XI 第３巻第 23 章 XII 第３巻第 24 章 XIII 第３巻第 25 章 XIV 第３巻第 26 章 XV 第３巻第 29 章
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じです。	春学期と同じです。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(古典ギリシア語Ｉa) 古典ギリシア語Ｉa	担当者	櫻井 悠美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 春・秋一年間の授業を通して、基礎的な古典ギリシア語を着実に読み、書き、理解することができるようになることを第一の目標とします。そのためには、テキストの練習問題を確実にこなして、一つ一つステップアップしていく手法をとっていきます。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの歴史や文化、さらには現代ギリシアの社会や文化にも触れていきたいと思います。 ＜講義概要＞ 授業は毎回各単元１～２つずつ学習するペースで進みますが、途中１０分間ほどの中休みを入れ、古代や現代のギリシアの情勢を映像などを交えて紹介しながら、アト・ホームな雰囲気で行いたいと考えています。なお、各回の授業は予習と復習をきちんとしていることを前提に進めていくことになるので、出席は必ず毎回するように心がけて下さい。希少で貴重な古典ギリシア語を知的遺産として自分のものにしてみませんか。	１　字母・発音・音韻などの分類 （この時点で、古典ギリシア語で自分の名前が書ける） ２　音節・アクセント・句読点 （この時点で、古典ギリシア語の単語が読める） ３　動詞の変化・直説法能動相現在 （この時点で、単文が理解できる） ４　名詞の第一変化 （この時点で、名詞の規則変化が理解できる） ５　動詞の変化・直説法能動相未来 （この時点で、未来形の文章が読める） ６　動詞の変化・直説法能動相未完了過去 （この時点で、動詞の三時制がマスターできる） ７　名詞の第二変化 ８　形容詞の変化（第一・第二変化） ９　前置詞 １０　動詞の変化・直説法能動相アオリスト １１　動詞の変化・現在完了と過去完了 １２　指示代名詞と強意代名詞（新約聖書が読める） １３　直説法能動相本時称の人称語尾 １４　直説法能動相副時称の人称語尾 １５　春学期まとめ ＊　(　)内は到達度チェックの際の目安です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜テキスト＞田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門新装版』(岩波書店、２０１２)（２２００円＋消費税） ＜参考文献＞なし。時々、プリントを配布します。	出席による練習問題の解答を繰り返して行ない、テストや試験はしません（つまり、平常点評価)。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(古典ギリシア語Ｉb) 古典ギリシア語Ｉb	担当者	櫻井 悠美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 同上 ＜講義概要＞ 同上	１　ε ι μ ι 動詞とφ η μ ι 動詞 （この時点で、動詞の人称変化の基本形が理解できる） ２　疑問代名詞と不定代名詞（この時点で、アクセントの有無で意味が変わることが理解できる） ３　動詞の変化・直説法中動相の各時制（１） （この時点で、中動相独特の用法が理解できる） ４　動詞の変化・中動相の各時制（２） （この時点で、微妙な文章表現が理解できる） ５　人称代名詞（この時点で、人称代名詞を使わずに、その代用表現が多用されることが理解できる） ６　再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞（この時点で、文章上のつながりが理解しやすくなる） ７　第二アオリストの用法（不規則変化が理解できる） ８　動詞の変化・直説法受動相 ９　名詞の第三変化（１） １０　名詞の第三変化（２） １１　能相欠如動詞と約音動詞 １２　形容詞の第三変化 １３　不定法（１） １４　不定法（２） １５　秋学期まとめ（古典ギリシア語習得の意義）
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(書き言葉の問題) ことばと思想(Ⅳ)(書き言葉の問題)	担当者	佐藤 毅

講義目的、講義概要	授業計画
メールはその簡便性から一般化されてきた。その簡便性ゆえに日本語の持つ叙情性や心配りが失われつつある。本講義では、暗号のようなメールのやり取りから抜け出して、心を打つ手紙をトレーニングして、心を打つ文章を徹底的に考える。 手紙文の定型。先人の書簡の分析、鑑賞。手紙を重要なアイテムとした小説の鑑賞。美しいメール作法。 受講生への要望 連続する授業ですので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいてください。	第１回　ガイダンス 第２回　手紙文の約束① 第３回　手紙文の約束② 拝啓―時候の挨拶―本文―敬具―（追伸）まで。 第４回　時候の挨拶と季節感① 第５回　時候の挨拶と季節感② 第６回　著名人の手紙鑑賞、解説① 第７回　著名人の手紙鑑賞、解説② 第８回　手紙を題材にした小説の鑑賞① 第９回　手紙を題材にした小説の鑑賞② 第１０回　メール作成の問題点① 第１１回　メール作成の問題点② 第１２回　添削指導① 第１３回　添削指導② 第１４回　添削指導③ 第１５回　まとめ（総集編）
テキスト、参考文献	**評価方法**
適時指示	添削指導歴。レポート。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(話し言葉の問題) ことばと思想(Ⅳ)(話し言葉の問題)	担当者	佐藤 毅

講義目的、講義概要	授業計画
現代の話し言葉は、ギャル語、若者言葉、おやじ言葉などに代表されるように、それぞれの世代で区分されコミュニケーションの断絶を生んでいる。世代を越えて理解しあえる話し言葉を学びながら、そこに込められた日本人の知恵と繊細さを学び、心に届くことばの本質を考える。 流行語と世相の相関関係を見ながら、現代の世代間ギャップを埋める話し言葉を模索する。学生生活でのことばの問題だけでなく、就職試験の面接に代表されるような世代間のコミュニケーションに役立つ自己表現としての話し言葉について考える。 受講生への要望 連続する授業ですので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいてください。	第１回　ガイダンス 第２回　流行語の変遷（流行語大賞の分析）① 第３回　流行語の変遷（流行語大賞の分析）② 第４回　流行語の変遷（流行語大賞の分析）③ 第５回　若者言葉の問題（世代語についての考察）① 第６回　若者言葉の問題（世代語についての考察）② 第７回　若者言葉の問題（世代語についての考察）③ 第８回　放送コードの問題① 第９回　放送コードの問題② 第１０回　心を開かせる挨拶と立ち居振る舞い① 第１１回　心を開かせる挨拶と立ち居振る舞い② 第１２回　３分間スピーチの実践① 第１３回　３分間スピーチの実践② 第１４回　３分間スピーチの実践③ 第１５回　まとめ（総集編）
テキスト、参考文献	**評価方法**
適時指示	添削指導歴。レポート

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(ロマンス語研究入門１) ことばと思想(Ⅳ)(ロマンス語研究入門１)	担当者	島津 寛

講義目的、講義概要	授業計画
（対象となる受講者） 仏語、西語、葡語、伊語（以下「主要ロマンス語」と呼びます）のいずれか一つ以上について一年以上学んだ方（以下既習の言語を「専攻ロマンス語」と呼びます）を対象とします. （目的） 専攻ロマンス語の知識を最大限活用しながら非専攻ロマンス語を同時並行して効率よく学ぶことで、非専攻ロマンス語に関する幅広い知識を身につけると共に、専攻ロマンス語についても、その特徴を非専攻ロマンス語との比較によりあぶりだし、当該言語に関するより深い知識・理解を得ることを目標とします. （概要） 前期は主要ロマンス語文法を伝統的な文法項目毎に並行整理し、主要ロマンス語比較文法表（ノート）の作成を目指します. 同時にテクストの読解練習および音読のための発音練習を積み重ねることで、テクスト分析のための基礎力を養成し、後期の授業に備えます. 授業は受講者の専攻ロマンス語歴を考慮して班をつくり発表形式で進めます.	1) ガイダンス 2) 発音 3) 発音 4) 名詞、形容詞、冠詞、前置詞＋定冠詞縮約形 5) 所有形容詞、指示形容詞、人称代名詞 6) 不定詞形、現在形(1) 7) 現在形(2) 8) 過去形(1) 9) 過去形(2) 10) 過去形(3) 11) 再帰代名詞、代名(再帰)動詞 12) 分詞形、完了形、進行形、受動形 13) 未来形、条件法(過去未来形) 14) 接続法(1) 15) 接続法(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考書はガイダンスの際に案内します.	平常点（発表を含む)、課題提出をもとに総合的に判断します.

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(ロマンス語研究入門２) ことばと思想(Ⅳ)(ロマンス語研究入門２)	担当者	島津 寛

講義目的、講義概要	授業計画
（概要） コナン・ドイル『バスカヴィル家の犬』の主要ロマンス語版を並行して精読しながら、各テクストの対応部分を主に文法的な観点から比較検討し、観察結果、問題点を発表、レポートに仕上げます.	1) テクスト分析 2) テクスト分析 3) テクスト分析 4) テクスト分析 5) テクスト分析 6) テクスト分析 7) テクスト分析 8) テクスト分析 9) テクスト分析 10) テクスト分析 11) テクスト分析 12) テクスト分析 13) テクスト分析 14) テクスト分析 15) テクスト分析
テキスト、参考文献	**評価方法**
	平常点（発表を含む)、課題提出、レポートをもとに総合的に判断します.

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(プレゼンテーション実習) ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	担当者	清水 絹代

講義目的、講義概要	授業計画
毎回の講義で、履修者たちはチームに別れ、与えられたテーマを元にディスカッションを行い、そこで得られた結論をパワーポイントにまとめて発表します。発表後には、質疑・応答の時間も作ります。ディスカッションやプレゼンテーションを行うプロセスの中から、自身が考えていることを他者に言語を用いて的確に伝える能力を磨きます。 またチームのメンバーそれぞれが持つ才能を生かす方法も学びます。	第 5 回目：レクチャー：プレゼンテーションの準備 テキスト：第 7 章 ディスカッション・テーマ：「幸せ」の定義① 第 6 回目：レクチャー：草稿の作成 テキスト：第 3 章 ディスカッション・テーマ：「幸せ」の定義② 第7回目：レクチャー：編集作業 テキスト：第 4 章 ディスカッション・テーマ：「幸せ」の定義③ 第 8 回目：レクチャー：チームはどのようにして成長するのか ディスカッション・テーマ：感性と理性① 第 9 回目：レクチャー：プレゼンテーションの様々なスタイル テキスト：第 6 章 ディスカッション・テーマ：感性と理性② 第 10 回目：レクチャー：効果的なプレゼンテーションのスキル テキスト：第 8 章 ディスカッション・テーマ：感性と理性③ 第 11 回目：レクチャー：ファシリテーションとコーチング ディスカッション・テーマ：感性と理性③ 第 12～15 回目：総まとめ
授業計画	
第 1 回目：イントロダクション 第 2 回目：レクチャー：センスのよい表現 テキスト：第 1 章 ディスカッション・テーマ：大学で勉強する目的① 第 3 回目：レクチャー：アウトラインの作成方法 テキスト：第 2 章 ディスカッション・テーマ：大学で勉強する目的② 第 4 回目：レクチャー：他者との対話 テキスト：第 9 章 ディスカッション・テーマ：大学で勉強する目的③	
テキスト、参考文献	**評価方法**
資料を配布します	出席、参加状況、提出物、最終レポート

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(プレゼンテーション実習) ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	担当者	清水 絹代

講義目的、講義概要	授業計画
毎回の講義で、履修者たちはチームに別れ、与えられたテーマを元にディスカッションを行い、そこで得られた結論をパワーポイントにまとめて発表します。発表後には、質疑・応答の時間も作ります。ディスカッションやプレゼンテーションを行うプロセスの中から、自身が考えていることを他者に言語を用いて的確に伝える能力を磨きます。 またチームのメンバーそれぞれが持つ才能を生かす方法も学びます。	第 5 回目：レクチャー：プレゼンテーションの準備 テキスト：第 7 章 ディスカッション・テーマ：「幸せ」の定義① 第 6 回目：レクチャー：草稿の作成 テキスト：第 3 章 ディスカッション・テーマ：「幸せ」の定義② 第7回目：レクチャー：編集作業 テキスト：第 4 章 ディスカッション・テーマ：「幸せ」の定義③ 第 8 回目：レクチャー：チームはどのようにして成長するのか ディスカッション・テーマ：感性と理性① 第 9 回目：レクチャー：プレゼンテーションの様々なスタイル テキスト：第 6 章 ディスカッション・テーマ：感性と理性② 第 10 回目：レクチャー：効果的なプレゼンテーションのスキル テキスト：第 8 章 ディスカッション・テーマ：感性と理性③ 第 11 回目：レクチャー：ファシリテーションとコーチング ディスカッション・テーマ：感性と理性③ 第 12～15 回目：総まとめ
授業計画	
第 1 回目：イントロダクション 第 2 回目：レクチャー：センスのよい表現 テキスト：第 1 章 ディスカッション・テーマ：大学で勉強する目的① 第 3 回目：レクチャー：アウトラインの作成方法 テキスト：第 2 章 ディスカッション・テーマ：大学で勉強する目的② 第 4 回目：レクチャー：他者との対話 テキスト：第 9 章 ディスカッション・テーマ：大学で勉強する目的③	
テキスト、参考文献	**評価方法**
資料を配布します	出席、参加状況、提出物、最終レポート

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(生きたコトバづかい・文章編) ことばと思想(Ⅳ)(生きたコトバづかい・文章編)	担当者	下川 浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、生きたコトバづかいの４原則にのっとった文章の書きかたができるようになるように、実習にもとづく勉強します。	１．生きたコトバづかいの４原則説明、ビデオ感想 ２．書きなれノートの書き方説明、ビデオ感想 ３．書きなれノートの提出、ビデオ感想 ４．書きなれノート返却／提出、ビデオ感想 ５．以下同様 ６． ７． ８． ９． １０． １１． １２． １３． １４． １５． 毎回話題となるビデオを見せて、その感想を書いてもらいます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？ウソとコトバの魔術』(国際語学社) 同『コトバの力』(同)	「書きなれノート」を提出してもらうとともに、左記教科書の「事項索引」を作成し、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(生きたコトバづかい・文章編) ことばと思想(Ⅳ)(生きたコトバづかい・文章編)	担当者	下川 浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、生きたコトバづかいの４原則にのっとった文章の書きかたができるようになるように、実習にもとづく勉強します。	１．生きたコトバづかいの４原則説明、ビデオ感想 ２．書きなれノートの書き方説明、ビデオ感想 ３．書きなれノートの提出、ビデオ感想 ４．書きなれノート返却／提出、ビデオ感想 ５．以下同様 ６． ７． ８． ９． １０． １１． １２． １３． １４． １５． 毎回話題となるビデオを見せて、その感想を書いてもらいます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？ウソとコトバの魔術』(国際語学社) 同『コトバの力』(同・近刊)	「書きなれノート」を提出してもらうとともに、左記教科書の「事項索引」を作成し、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(心理検査法と自己理解) ことばと思想(Ⅳ)(心理検査法とこころの健康)	担当者	田口 雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらう。これらの学習を通して，心理学の基本的知見を習得してほしい。また，心理検査の結果を分析して自己理解を深めてもらうことも本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後には、結果をレポートにまとめてもらう。関連するビデオを視聴し、レポートを書いてもらうこともありうる。 **※<u>履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費（2000 円程度）を負担してもらう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する</u>。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入方法について説明するので欠席しないこと。**	授業計画は以下のとおりである。 １．　心理検査とは？ ２．　心理検査の種類と理論 ３．　質問紙による性格検査① ４．　質問紙による性格検査② ５．　ストレス・コーピング ６．　絵からみる家族像 ７．　知能検査 ８．　感情指数 ９．　職業興味 10.　グループ・ワークによる自己理解① 11.　グループ・ワークによる自己理解② 12.　グループ・ワークによる自己理解③ 13.　グループ・ワークによる自己理解④ 14.　グループ・ワークによる自己理解⑤ 15.　心理検査による自己理解のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
各種の心理検査用紙はこちらで用意する。ただし，履修者には，これら心理検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらう。	各回の授業レポートと最終のレポートにより総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(反=コミュニケーション論) ことばと思想(Ⅳ)(反=コミュニケーション論)	担当者	谷口 亜沙子

講義目的、講義概要	授業計画
たとえば外国語の学習において真っ先に「コミュニケーション能力」の強化がうたわれ、実践的で「使える」語学力が重視されるという風潮の中で、我々はコミュニケーションといえば、効率よく、なめらかで、軋みのないものこそが理想であるかのようなイメージを抱きがちです。 この授業では、逆に「通じないこと」「なかなか通じないこと」の大切さについて考えます。 中心となる題材は言語作品ですが、映像作品や造形芸術も扱います。ジャンルをこえて、さまざまなものが根底でつながってゆくさまを感じとってください。 講義の大まかな流れはあらかじめ想定してありますが、受講者の感想や疑問などから、授業が思わぬ方向へと旋回してゆくことこそがスリリングです。今年度も積極的な参加と多くの報告を期待しています。	1. イントロダクション：山村暮鳥「殺人ちゆうりつぷ」 2. 千野栄一「沈黙の通訳」／小島信夫『吃音教室』 3. 穂村弘『整形前夜』 4. ［実験授業］ 長谷川雅康氏（鹿児島大学名誉教授）「ものとの対話」 5. 萩原朔太郎「ばくてりやの世界」 6. 杉浦日向子「やまあり」／内田百閒『山東京伝』 7. イヨネスコ『禿の女歌手』 8. 水村美苗『日本語が亡びるとき』 9. ユクスキュル『生物から見た世界』 10. シュトゥンプケ『鼻行類』 11. モルゲンシュテルン『絞首台の歌』 12. 日高敏隆『人間についての寓話』 13. シュヴァンクマイエル『対話の可能性』『闇・光・闇』 14. ロベール・ブレッソン『抵抗 死刑囚は逃げた』 15. ヨシフ・ブロツキイ『私人』 この順のとおりに授業をおこなうわけではありませんが、とりあえず題材として以上のものをあげておきます。ここにない作品も数多く登場します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
資料はプリントで配布します。	授業への参加態度、毎回のコメントペーパー、学期末レポート（4000 字以上)。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(反=コミュニケーション論 2) ことばと思想(Ⅳ)(反=コミュニケーション論 2)	担当者	谷口 亜沙子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期からの継続受講が望ましいですが、秋からの受講も可能です。秋学期には、写真、絵画、映画、現代アート等をより多くとりあげます。 作品には「メッセージ」があり、その「メッセージ」を理解することが作品を理解することだ、と思っているひとは案外とたくさんいます。しかし、作品には、メッセージ以外のものや、メッセージよりももっと重要なものが、いろいろとあります。 この授業では、作者の言おうとしていることは何か、と考えることを、むしろいったん中止することを学びます。 文学や詩にかぎらず、あらゆる表現活動に関心のある方を歓迎します。	1. イントロダクション：河原温 2. エル・アナツイ／ジルヴィナス・ケンピナス 3. デュシャン／高橋新吉／アイ・ウェイウェイ 4. ナボコフ『ヨーロッパ文学講義』／ルーセル『アフリカの印象』 5. ダニエル・アラス『なにも見えない』／中井久夫『徴候・記憶・外傷』／田中純『都市の詩学』 6. 畠山直哉『話す写真』／ジョゼフ・クーデルカ 7. 毛利衛『宇宙から学ぶ』 8. フレデリック・ワイズマン 9. メルヴィル『書写人バートルビー』カフカ『断食芸人』 10. ゴーゴリ『外套』ホーソン『ウェイクフィールド』 11. トーベ・ヤンソン『フェア・プレイ』 12. ホフマンスタール『チャンドス卿の手紙』 13. 西脇順三郎『旅人かへらず』谷川俊太郎『世間知ラズ』 14. ジョン・ケージ／鈴木大拙 15. 吉田健一『文学が文学でなくなる時』
テキスト、参考文献	**評価方法**
資料はプリントで配布します。	授業への参加態度、毎回のコメントペーパー、学期末レポート（4000 字以上)。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2（英語通訳）（英語通訳の仕事） ことばと思想（IV）（英語通訳の仕事）	担当者	中島 直美

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、通訳者になりたいと考えている、もしくは、通訳という行為に関心がある人に、仕事の現状と訓練方法を伝えることを目的としています。 通訳者の実際の仕事内容を紹介するとともに、通訳に何が求められているかを考えながら、市場の現状やキャリアパスなどを探っていきます。通訳者の方などをお招きし、現場の話を聞く機会もあります。また、どんな勉強をすれば通訳の力がつくのかというヒントも提供します。 参加者の英語のレベルが様々で人数も多いため、集中的な訓練はできませんが、基本的な訓練方法を紹介し、授業内での演習を行います。なお、演習については主に日本語で行います。 初回の授業で詳しい説明をしますので、必ず出席してください。 *ゲストスピーカーの都合により、授業の内容は前後する可能性があります。	01 通訳・通訳者とは？ 02 通訳者のキャリアパス 03 通訳者に求められるスキルとは？ 04 語彙力増強方法 05 通訳訓練方法（1）- シャドウイング 06 通訳訓練方法（2）- リプロダクション 07 通訳訓練方法（3）- サイトトランスレーション 08 通訳訓練方法（4）- クイックレスポンスなど 09 ゲストスピーカー 10 通訳の実践（1）- 逐次通訳 11 通訳の実践（2）- ウィスパリング通訳 12 通訳の実践（3）- 同時通訳 13 インターネットの活用方法 14 まとめ 15 確認テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時プリントなどを配布する。	授業中に実施する確認テストによって評価する。 なお出席は前提条件であり、遅刻 2 回を 1 欠席と見なし、欠席 4 回以上は評価の対象外とする。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 2（英語通訳）（英語通訳の仕事） ことばと思想（IV）（英語通訳の仕事）	担当者	中島 直美

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、通訳者になりたいと考えている、もしくは、通訳という行為に関心がある人に、仕事の現状と訓練方法を伝えることを目的としています。 通訳者の実際の仕事内容を紹介するとともに、通訳に何が求められているかを考えながら、市場の現状やキャリアパスなどを探っていきます。通訳者の方などをお招きし、現場の話を聞く機会もあります。また、どんな勉強をすれば通訳の力がつくのかというヒントも提供します。 参加者の英語のレベルが様々で人数も多いため、集中的な訓練はできませんが、基本的な訓練方法を紹介し、授業内での演習を行います。なお、演習については主に日本語で行います。 初回の授業で詳しい説明をしますので、必ず出席してください。 *ゲストスピーカーの都合により、授業の内容は前後する可能性があります。	01 通訳・通訳者とは？ 02 通訳者のキャリアパス 03 通訳者に求められるスキルとは？ 04 語彙力増強方法 05 通訳訓練方法（1）- シャドウイング 06 通訳訓練方法（2）- リプロダクション 07 通訳訓練方法（3）- サイトトランスレーション 08 通訳訓練方法（4）- クイックレスポンスなど 09 ゲストスピーカー 10 通訳の実践（1）- 逐次通訳 11 通訳の実践（2）- ウィスパリング通訳 12 通訳の実践（3）- 同時通訳 13 インターネットの活用方法 14 まとめ 15 確認テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時プリントなどを配布する。	授業中に実施する確認テストによって評価する。 なお出席は前提条件であり、遅刻 2 回を 1 欠席と見なし、欠席 4 回以上は評価の対象外とする。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(生活文化の発見) ことばと思想(Ⅳ)(生活文化の発見)	担当者	林 英一

講義目的、講義概要	授業計画
生活することは、社会の中で生きるということであり、また社会は文化を形成する。つまり生活は文化の中で営まれ、文化の影響のもとで人間は成長し、人生を送るということになる。 本講義では、とくに先人たちがどのような生活を送り、どのような意識をもっていたのかを中心に解説する。しかし、それは決して「過去」の話しではなく、現在にも通じるものである。「過去」の話しとしてではなく、「過去」から「現在」へとどのように生活文化が変化し、その背景がどのようなものであったのか明らかにすることによって、「現在」の生活文化を見つめたい。さらに、それでも我々が抱える深層の部分（観念）がどのようになっているのかという点を理解しようとするものである。また現代に通じる心意的問題も扱う。将来の我々の生活を見据える上で大きな助けとなるだろう。	1　ガイダンス 2　「生活」とは何か（概説、生活を見つめる眼差し） 3　地域差の問題１（地域差とは何か） 4　地域差の問題２（地域差が生まれる要因は何か） 5　生活様式を捉える１（家を中心に） 6　生活様式を捉える２（社会システムを中心に） 7　生活様式を捉える３（社会システムの機能を中心に） 8　生活様式を捉える４（社会システムの機能を中心に） 9　生活様式の変化１（明治維新による生活変化） 10　生活様式の変化２（生活改善運動による生活変化） 11　生活様式の変化３（第二次世界大戦・高度経済成長による生活変化） 12　生活様式の変化４（ＩＴ革命、現代の様相） 13　ジェンダーの問題（生活文化として読み解く） 14　異形への眼差し（生活文化の心意的問題） 15　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時にプリント配布	試験を行う。但し、欠席４回以上の者は評価の対象とはしない。出席表配布後の入室は遅刻とし、遅刻２回で欠席１回とする。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(生活文化の記述) ことばと思想(Ⅳ)(生活文化の記述)	担当者	林 英一

講義目的、講義概要	授業計画
古来さまざまな記録が残されてきているが、「当たり前」の生活を記録したものはあまりない。それがみられるようになるのは江戸時代後期からである。 生活を記録したものとしては、旅行記や日記という個人的なものがあり、また主に自治体が編纂する民俗誌というものがある。これらがどのような理由で記述され、またそれにどのような意味があるのか、さらに民俗誌には文書化されたものと映像化されたものがある。本講義では、人々が自分のために書き残したメモを始め、さまざまな意味を持つ日記、そして文書化された記録や映像記録を見ることにより、記録することの意味や問題点を考える。そしてこのような記録の究極は伝統文化の保存である。最後には保存とは何かその意味と問題点について考えていきたいと思っている。	1　ガイダンス 2　生活を記述すること１（「嫁」の立場、行事覚え） 3　生活を記述すること２（日記） 4　生活を記述すること３（備忘録） 5　生活を記述すること４（日記の意味） 6　情報としての生活記録 7　災害記録（安政地震を通して） 8　民俗誌に記録されたもの１（『県史』『市史』から） 9　民俗誌に記録されたもの２（『県史』『市史』を読む） 10　民俗誌の意味と問題点 11　映像記録を見る１（ビデオと解説） 12　映像記録を見る２（ビデオと解説） 13　映像記録を見る３（ビデオと解説） 14　映像記録の問題点 15　民俗文化財の保護の意味と問題点
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時にプリント配布	試験を行う。但し、欠席４回以上の者は評価の対象とはしない。出席表配布後の入室は遅刻とし、遅刻２回で欠席１回とする。

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(論文を書く) ことばと思想(Ⅳ)(論文を書く)	担当者	福沢 健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　大学において要求される学生の能力とは、自分で調べて、自分の言葉で考え、それをまとめて、その内容を相手に正しく発信するというものである。その発信した結果として残されるものが「論文」ということになろう。したがって、「論文を書く」という作業は、ただ論文の形式を覚えて、それに従って書けばいいというものではなく、上記の作業の総合にある。そこで、この講義では、「ディベート」を行うことを通して、その内容を最終的に「論文」として発信してもらうことを目的とする。 講義概要 　ディベートの題材としては、「企業は社会貢献活動に取り組むべきである」という論題を設定する。これに関して、「企業」「社会貢献活動」の概念を明確にしつつ、自らの意見をまとめてもらうこととする。また、授業の進捗度にも依るが、出来れば学生同士によるディベートの試合も行いたいと考えている。最後に、その内容を基に、「論文」をまとめてもらうこととする。 なお、例年、４年生の受講が多いが、1・2年生を対象とした内容である。1・2年生が受講することが望ましい。	１「論文」と「社会人基礎力」 ２ディベート①（ディベートの説明、論題の説明） ３ディベート②（課題文をまとめる、リサーチ） ４ディベート③（トゥールミンモデル） ５ディベート④（リサーチカードの集約） ６ディベート⑤（リンクマップの作成） ７ディベート⑥（立論の作成） ８ディベート⑥(反駁シートの作成、フローシートの作成) ９ディベート⑦（試合） 10 論文①（論文の構成） 11 論文②（序論の書き方） 11 論文③（本論の書き方） 12 論文④（注、引用の方法） 13 論文⑤（結論の書き方） 14 論文の指導 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　特になし 参考文献　授業時に指示する	課題の取り組み状況・レポートによって決める。 課題が中心となるので、なるべく欠席しないようにすること。

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(口頭発表を行う) ことばと思想(Ⅳ)(口頭発表を行う)	担当者	福沢 健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　この授業では、自分の意見を相手に伝えるためには、どのような技術が必要かを考えながら、話す能力の向上を目指す。話す能力は、ただ講義を聴いていただけでは向上しない。したがって、前に出たりしてもらって、実際に発表をしてもらいながら授業を行っていく予定である。 講義概要 　「話す」ことには、さまざまな場面が想定されるが、特に人前で自分の意見を述べるプレゼンテーションについて練習する。この練習を通して、人前に出て自らの意見をわかりやすく述べることができる能力の育成を行う。 　具体的には、プレゼンテーションの技術について考えながら、発声練習、朗読、ボディーランゲージ、資料作成などの技術を考えていきたい。最後に、その成果を踏まえたかたちで各人に発表をしてもらう予定である。 なお、例年、４年生の受講が多いが、1～3年生を対象とした内容である。1～3年生が受講することが望ましい。	１はじめに ２プレゼンテーションの目的。 ３プレゼンテーションの三要素 ４目的の設定と聴衆分析 ５内容の構成① ６内容の構成② ７視覚資料の作成 ８ボディーランゲージ①（声―滑舌） ９ボディーランゲージ②（声―朗読1） 10 ボディーランゲージ③（声―朗読2） 11 ボディーランゲージ④（アイコンタクト） 12 ボディーランゲージ⑤（ビジュアルハンド） 13 発表① 14 発表② 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　特になし 参考文献　授業時に指示する	課題の取り組み状況・レポートによって決める。 課題が中心となるので、なるべく欠席しないようにすること。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(古典ギリシア語Ⅱa) 古典ギリシア語Ⅱa	担当者	古川 堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 本講座は、一年間の授業を通して、古典ギリシア語の初級リーダー、中級前半リーダーの理解が、辞書を片手に、ともかくも可能になることを主目的とします。そのためには、辞書の引き方から文章中に使われている単語の意味の確定、文章理解を、一語一語また一文一文と、こまめに根気よく掘り下げていくことから始めたいと思います。その上で内容説明や解説を丁寧にゆっくり、かつ、じっくり取り組むよう心がけます。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの歴史や文化、さらには現代ギリシアの社会や文化に触れることにしたいと考えます。 ＜講義概要＞ 毎回、楽しい読み物（「イソップ物語」「人さまざま」など）のごくやさしく、短い文章をもとに、ノートの作り方、辞書による単語の引き方、文章理解のための文法知識（中・受動相、分詞の用法など）、裏話やエピソード、関連する映像などさまざまな工夫をこらして授業を進めていきます。後半、慣れてきたら、古典作品の原典の一部の読解や大理石碑文の解読にも挑戦してみましょう。出席は毎回心がけて下さい。受講者は初級文法を修了していることが望ましいけれど、必ずしもそれにこだわりません。	１　はじめに （辞書の引き方、ノートの作り方の指導） ２　『イソップ物語』の機知と教訓 （アイソーポスの知恵） にわとりと泥棒（その１） ３　にわとりと泥棒（その２） ４　にわとりと泥棒（その３） ５　亀とそのねぐら（その１） ６　亀とそのねぐら（その２） ７　亀とそのねぐら（その３） ８　狼の叫び（その１） ９　狼の叫び（その２） １０　狼の叫び（その３） １１　クセノフォン『ソクラテスの思い出』より １２　ホメロス『イリアス』『オデュッセイア』より １３　ギリシア大理石碑文より（その１：墓碑銘） １４　ギリシア大理石碑文より（その２：民会決議） １５　春学期まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用せず、プリントを配布します。辞書等の参考文献は初回の授業で紹介します。	毎回の出席によるさまざまな受け答えを通して理解度のチェックを行ないます（平常点評価）。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(古典ギリシア語Ⅱb) 古典ギリシア語Ⅱb	担当者	古川 堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 同上 ＜講義概要＞ 同上	１　『人さまざま』の人間類型の面白さ （テオフラストスの鋭い人間観察） おべっか使い（その１） ２　おべっか使い（その２） ３　おべっか使い（その３） ４　不平たらたら（その１） ５　不平たらたら（その２） ６　不平たらたら（その３） ７　信用できない人（その１） ８　信用できない人（その２） ９　信用できない人（その３） １０　ヘロドトス『歴史』より １１　プラトン『ソクラテスの弁明』より １２　プラトン『饗宴』より（その１） １３　プラトン『饗宴』より（その２） １４　アリストテレス『政治学』より １５　秋学期まとめ （古典ギリシア語習得の意義）
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

08 年度以降	歴史と文化２(Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts: 1)	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
講義はすべて英語で行います。 TOEIC 700、TOEFL(IBT) 71、英検準一級程度以上の英語力を必要とします。 This course is designed to acquaint students with various aspects of Japanese culture through the study of traditional legends, tales and myths. Each focus story or topic will be introduced through associated imagery and/or artworks and will include a lecture, readings and related discussions. For the study of one select topic in particular, the class will make an excursion to a corresponding exhibition or performance. Course Objectives: • To learn and discuss a broad variety of traditional Japanese legends, tales and myths • To learn and discuss the socio-cultural context from which these legends/tales/myths emerged and in which they were maintained • To learn and discuss the expression of these legends/tales/myths in the context of performance (noh, *jōruri*, kabuki), ritual (*kagura*), and art (painting, prints, sculpture) • To learn and discuss how this selection of legends/tales/myths reflect the history, traditions, mores, world-view and character of the Japanese people	Including a general introduction, classes 1 through 15 will focus on a selection from the following topics: • Animal/Creature Tales, Symbolism and Superstitions – Dragon, Tiger, Carp, Ox, Monkey, Fox, Kappa (painting, prints) • Demons and Tricksters – Oni no Nenbutsu: Demon Reciting Buddhist Prayers (Otsu-e folk painting) – Amanojaku (sculpture) • Vengeful Spirits and Ghosts – *Dōjōji* (noh, noh masks, painting) – Tenjin: Sugawara no Michizane (painting) – Oiwa: *Yotsuya Kaidan* (kabuki, prints) • Heroes and Heroines – Benkei (prints) – Tokiwa Gozen (prints)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.	Final evaluations will be based on attendance (15%), participation in classroom discussions (15%), the completion of homework assignments (30%), and achievement on an essay, or a presentation (40%).

08 年度以降	歴史と文化２ (Japanese Legends, Tales and Myths as Expressed in the Arts: 2)	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
講義はすべて英語で行います。 TOEIC 700、TOEFL(IBT) 71、英検準一級程度以上の英語力を必要とします。 This course is designed to acquaint students with various aspects of Japanese culture through the study of traditional legends, tales and myths. Each focus story or topic will be introduced through associated imagery and/or artworks and will include a lecture, readings and related discussions. For the study of one select topic in particular, the class will make an excursion to a corresponding exhibition or performance. Course Objectives: • To learn and discuss a broad variety of traditional Japanese legends, tales and myths • To learn and discuss the socio-cultural context from which these legends/tales/myths emerged and in which they were maintained • To learn and discuss the expression of these legends/tales/myths in the context of performance (noh, *jōruri*, kabuki), ritual (*kagura*), and art (painting, prints, sculpture) • To learn and discuss how this selection of legends/tales/myths reflect the history, traditions, mores, world-view and character of the Japanese people	Including a general introduction, classes 1 through 15 will focus on a selection from the following topics: • Benevolent Spirits and Gods – Amaterasu Ōmikami: The Sun Goddess (*kagura*) – Shōki: Demon Queller and Protector of Boys (painting, prints, sculpture) • Hell and Salvation – Enma Dai-Ō: Judge of the Dead and Ruler of Hell (painting, sculpture) – Datsue-ba: The Old Hag who Strips off Clothes (painting, sculpture) – Jizō Bosatsu: Defender and Savior of the Condemned (painting, sculpture) • Tormented, Suffering Souls – *Kagekiyo* (noh, noh masks) – *Fujito* (noh, noh masks) – *Tamakazura* (noh, noh masks)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.	Final evaluations will be based on attendance (15%), participation in classroom discussions (15%), the completion of homework assignments (30%), and achievement on an essay, or a presentation (40%).

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化 2(西洋絵画の主題と様式 1) 歷史と文化(Ⅳ)(西洋絵画の主題と様式 a)	担当者	阿部 明日香

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ ルネサンスから 19 世紀前半までの西洋絵画史を概観し、作家や作品の特徴、様式、時代背景について理解を深めることを目標とします。 また西洋絵画に繰り返し現われる主題について学び、絵画を見る上で必要な基礎知識を身につけます。 ＜講義概要＞ 毎回一人の画家を中心に取り上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説していきます。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。	1. イントロダクション 2. ボッティチェリ 3. ダヴィンチ 4. ラファエロ 5. カラヴァッジョ 6. リュベンス 7. ヴェラスケス 8. レンブラント 9. フェルメール 10. プッサン 11. ブーシェ 12. シャルダン 13. ゴヤ 14. ダヴィッド 15. まとめ テーマと順番は変更になる可能性があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。	コメントペーパー（毎回提出してもらいます。） 学期末レポート（美術館に行って書いてもらいます。）

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化 2(西洋絵画の主題と様式 2) 歷史と文化(Ⅳ)(西洋絵画の主題と様式 b)	担当者	阿部 明日香

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 19 世紀から 20 世紀初頭の西洋美術の展開を概観します。代表的な作家と作品について知るとともに、さまざまな美術の動向と、それらが提起する問題について理解を深めることを目的とします。 ＜講義概要＞ 毎回一人の画家を中心に取り上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説していきます。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。	1. イントロダクション 2. アングル 3. ドラクロワ 4. ターナー 5. ミレー 6. クールベ 7. マネ 8. 印象派-1 9. 印象派-2 10. ポスト印象派-1 11. ポスト印象派-2 12. 【外部講師による講義】 13. 美術館と美術-1 14. 美術館と美術-2 15. まとめ テーマと順番は変更になる可能性があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。	コメントペーパー（毎回提出してもらいます。） 学期末レポート（美術館に行って書いてもらいます。）

08 年度以降	歴史と文化２（日本文化研究 d）	担当者	飯島 一彦

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：境界領域論から見る日本文化研究 日本文化には「この世とあの世」や「異質と同質」などの差異を示す境界領域の空間認識がある。この境界領域には実はかなりの幅があり、その中における位置取りによって自己評価や一般的評価が決まってしまう場合も多い。 ところがこの境界は目に見えないし、非常に可変的で境界領域の認識は無意識に行われていることが多いので、理解しにくい。 日本に存在する様々な場面を例として境界領域の存在を明らかにすることを続けて、どのような場面にいても明確に認識ができるようにする。	1. ガイダンス、導入 2. 境界領域とは（概説①） 3. 境界領域とは（概説②） 4. 日本の祭りに見る境界領域① 5. 日本の祭りに見る境界領域② 6. 日本の祭りに見る境界領域③ 7. 芸能と舞台に見る境界領域① 8 .芸能と舞台に見る境界領域② 9. 文芸に見られる境界領域① 10. 文芸に見られる境界領域② 11. 日常生活と境界領域①（家庭と社会） 12. 日常生活と境界領域②（友人と親友） 13. 日常生活と境界領域③（学校と会社） 14. 日常生活と境界領域④（KY といじめ） 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特にない。必要な参考文献は授業中に示す。	学期末試験（論述式）の成績による。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法
	する。

08 年度以降	歴史と文化２(日本文化研究 b)	担当者	宇津木 言行

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、日本文化史の中で鬼の源流を探り、基層文化と外来文化とから成る日本文化の重層性の一例を解明することを目的とします。 鬼ごっこや節分の豆まきで子供の頃から誰しも馴れ親しんだ鬼にも歴史的変遷があり、その原像は現在の私たちが抱いている通念とは異なるものであったのではないかと考えられます。追う・追われる存在とは異なる、我々を祝福しに来訪する鬼を民俗伝承の中に探ってみる必要があります。 日本の歴史と文化の固有の性格に興味ある学生の関心に応じる授業になりますが、広くアジアの霊的世界への見渡しも視野に入れてゆきたいと考えます。	1. 授業の概要 2. 追儺の鬼（1） 3. 追儺の鬼（2） 4. 鬼の杖と宝物（1） 5. 鬼の杖と宝物（2） 6. 鬼の杖と宝物（3） 7. 中世の神と鬼（1） 8. 中世の神と鬼（2） 9. 中世の神と鬼（3） 10. タマの去来と季節風（1） 11. タマの去来と季節風（2） 12. タマの去来と季節風（3） 13. 原始・古代の霊的存在（1） 14. 原始・古代の霊的存在（2） 15. 講義のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキストは萩原秀三郎『鬼の復権』（吉川弘文館）を用いる。	評価方法：期末試験もしくはレポートの結果（80%）と、出席（20%）のよって評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化２（日韓比較文化論 b） 歷史と文化(Ⅳ)（日韓比較文化論 b）	担当者	金（きむ）　熙淑（ひぃすく）（김 희숙）

講義目的、講義概要	授業計画
本講座では、韓国と日本の「教育」にテーマを絞って文化比較を行い、その共通点と相違点について理解を深めるとともに、「異文化比較」の具体的な方法を模索し、それを身につけていくことを目的とする。主に「教育政策」、「教育と文化」、「高等教育のあり方」、「教育と人間関係」、「生涯教育と社会」、「教育とジェンダー」などのテーマで日韓両国（両地域）の比較を行っていく予定である。身近なテーマであるため、履修者には積極的な授業参加が期待される。 積極的な授業参加を評価する。	1. 講義の概要 2. 書堂と寺子屋 3. 三国時代の教育と文化 4. 高麗前期の教育と文化 5. 高麗後期の教育と文化 6. 朝鮮前期の教育と文化 7. 朝鮮後期の教育と文化 8. 植民地支配の教育政策 9. 植民地支配の国語教育 10. 日韓生涯教育と社会 11. 日韓ジェンダー教育 12. 日韓女性の教育 13. 韓国における日本語教育の歴史 14. 日本における韓国語教育の歴史 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
レジュメを配布する。 参考書：授業時に紹介する。	・出席、課題レポート（講義内容から一つのテーマを選ぶ） ・日韓の教育政策や教育文化を理解したか。 ・韓国と日本の教育について自分なりの問題を設定できたか。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化２（日韓比較文化論 a） 歷史と文化(Ⅳ)（日韓比較文化論 a）	担当者	金（きむ）　熙淑（ひぃすく）（김 희숙）

講義目的、講義概要	授業計画
私達は、異文化を語る際、無意識のうちに、自分の属している社会や文化を念頭において同質性と異質性を語っている。しかしながら、とりわけ韓国の文化を語る際、表面的な同質性にとらわれがちになってしまい、「文化比較」がきちんと行われない場合が多い。本講座ではこのような点をふまえ、日韓の文化比較を行う際の基本的な事項を学んでいく。具体的には、家族、村落、祭儀、信仰、食文化などに関する日韓比較の理解を目標とし、授業の最後に各自で身近なテーマを決めて「日韓文化比較」を行うことを課題とする。積極的に取組むことを期待したい。 ●参加型授業による人数制限をする。（50 名まで） ◎注意：テーマごとにグループ分けし話し合う場を設け発表する形式を取る。極力１回目の授業から出席すること。	1. 日韓比較文化概説　ガイダンス 2. 韓日の建国神話 3. 韓日の国土構造 4. 韓日の村落 5. 韓日の産育習俗 6. 韓日の歳時風俗 7. 韓日の祭祀風習 8. 韓日の民俗信仰 9. 韓日の家族 10. 韓日の食文化 11. 韓日の食事の作法 12. 韓日の住生活 13. 韓日の服飾 14. 韓日の福祉レジーム 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布する。 参考文献：講義においてその都度紹介する。	・出席、課題レポート（講義内容から一つのテーマを選ぶ） ・日本と韓国の異なる文化を理解したか。 ・日本と韓国の文化について具体的な比較ができるようになったか。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化２(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化) 歴史と文化(Ⅳ)(スペイン･ラテンアメリカの芸術文化)	担当者	倉田 量介

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，スペインとその旧植民地という位置づけにあるラテンアメリカ諸国の音楽実践を扱います。欧米や日本のポップスと比較することにより，背景となる社会や時代の諸相を検討します。 この地域の音楽はダンスと不可分に様式化されてきたことから，身体技法についても言及します。クレオールを筆頭に文化混淆がキーワードとなるため，前半の授業では，成分にあたる要素を個別に考察します。音楽研究一般の可能性を吟味しつつ，各自の関心に応じた題目を選んでもらい，レポート作成の手引きをします。後半の授業では，スペイン語圏に限らず，非スペイン語圏の文化にも視野を広げます。Jポップ・演歌・大衆演劇といった日本の事例も取り込む予定です。芸術には，文学・美術・映画などの分野が含まれます。講義の主たる対象は芸能，議論の基盤は人類学ですが，表象文化全般を分析します。視聴覚資料，楽器紹介，日本語訳などでスペイン語履修者以外にも配慮します。丸暗記は不要です。思索力を磨く場として，時間を有効に活かしてください。	1. VTR を交えたイントロダクション 2. カリブ海地域キューバの芸能(音楽，ダンス)にみる文化混淆 3. スペイン系弦楽器に由来する口頭伝承的な弾き語り 4. アフリカ系太鼓に由来するポリリズムとコール&リスポンス 5. フォルクローレは先住民の音楽か 6. クラブカルチャーのラップから里帰り的なレゲトンへ 7. 民族音楽学とポピュラー音楽研究の射程 8. 世界で渦巻く対抗文化と世界を巻き込むポピュラー音楽 9. カット&ミックス，ジャマイカのスカ・レゲエ・ダブ… 10. サンバ以外のブラジル，トロピカリアや農民音楽 11. ボサノヴァはなぜ人気があるのか 12. 北米移民ラティーノやチカーノらの日常生活とサルサほか 13. 大陸(ペルー，ボリビア，アルゼンチン…)と島々の音楽事情 14. 日本の「大衆演劇」，創られた「ラテン歌謡」と J ポップ・演歌 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配り，進捗に応じて参考文献を紹介する。講義内容に準じた論集として以下をあげておく。石橋純編『中南米の音楽』(東京堂出版, 2010, 978-4490206678)	評価方法: 平常授業の感想紙におけるコメントなどの実績(30%)と期末レポート(70%)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化２(おもしろまじめな芝居のミカタ a) 歴史と文化(Ⅳ)(おもしろまじめな芝居のミカタ a)	担当者	児嶋 一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。 テキスト（英文プリント）を毎回配布します。よく読んでから、出席してください。日本語に翻訳した台本を本読みするパフォーマンスを、順番に実施してもらう場合があります。 なるべく実際の上演を観られるものをとりあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行って、芝居は楽しいライヴ・パフォーマンスであることを知って下さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。 授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。	毎回授業開始時に英語の語彙テストを、終了前に内容把握テストを行います。教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。 指定する演劇の観劇レポート（700 字以上 800 字以内）に関することなど、詳細は教室にて説明します。 ＊ 第 1 回の授業の資料は中央棟 5 階 504 研究室前に用意しておきます。事前に準備してから出席すること。 **＊＊＊注意事項＊＊＊** 全学共通授業科目「おもしろまじめな芝居のミカタ a」は、英語学科生は「英語圏の演劇 a」、言語文化学科生は「多言語間交流研究各論Ⅶ（英語圏の演劇 a)」として登録ください。テキストの英文は TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力が前提です。600 点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。	授業時のテストで 40%、観劇レポート 2 編で 60%、レポート（必修）未提出者には単位を認めません。学期末定期試験はしません。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化２(おもしろまじめな芝居のミカタ b) 歴史と文化(Ⅳ)(おもしろまじめな芝居のミカタ b)	担当者	児嶋 一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。 テキスト（英文プリント）を毎回配布します。よく読んでから、出席してください。日本語に翻訳した台本を本読みするパフォーマンスを、順番に実施してもらう場合があります。 なるべく実際の上演を観られるものをとりあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行って、芝居は楽しいライヴ・パフォーマンスであることを知って下さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。 授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。	毎回授業開始時に英語の語彙テストを、終了前に内容把握テストを行います。教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。 指定する演劇の観劇レポート（700 字以上 800 字以内）に関することなど、詳細は教室にて説明します。 ＊ 第 1 回の授業の資料は中央棟 5 階 504 研究室前に用意しておきます。事前に準備してから出席すること。 **＊＊＊注意事項＊＊＊** 全学共通授業科目「おもしろまじめな芝居のミカタ b」は、英語学科生は「英語圏の演劇 b」、言語文化学科生は「多言語間交流研究各論Ⅷ（英語圏の演劇 b)」として登録ください。テキストの英文は TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力が前提です。600 点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。	授業時のテストで 40%、観劇レポート 2 編で 60%、レポート（必修）未提出者には単位を認めません。学期末定期試験はしません。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化２（能楽論） 歴史と文化(Ⅳ)(能楽論)	担当者	瀬尾 菊次

講義目的、講義概要	授業計画
古典芸能「能楽」は、舞台芸術として鎌倉室町時代から各時代に受け継がれ、現代では世界遺産に指定され、日本や世界各地で上演されています。とはいえ、一般には難しいものとして捉えられがちです。外国に留学し、その国の人に日本文化として質問され、答えに窮した経験談も聞きます。この能楽の全体像を、現役能楽師の視点から、ビデオ鑑賞と併せてミニ舞台を設定し実技・実演を交えながら、解りやすく解説していきます。 現場の臨場感を味わっていただくため、能楽堂での鑑賞をし、レポート課題の一つとします。（チッケット代自己負担・２０００～３０００円） 秋期と併せて受講も可能。	① 能楽の紹介 ② 能楽の概説 ③ 能楽の流れ ④ 能を演じる各役 ⑤ 能舞台についてⅠ ⑥ 能の実技についてⅡ（実演・能の見方） ⑦ 能の演目Ⅰ ⑧ 能の演目Ⅱ（実演・神男女狂鬼） ⑨ 夢幻能と現在能 ⑩ 現在能「土蜘」の作品解読 ⑪ 現在能「土蜘」のビデオ鑑賞 ⑫ 伊勢物語と能（在原業平と井筒の女） ⑬ 夢幻能「井筒」の作品鑑賞 ⑭ 夢幻能「井筒」のビデオ鑑賞 ⑮ まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
関連資料のコピーを配布	課題レポート・能楽鑑賞レポート 平常講義関連事項レポート

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化２（能楽における中世武士の諸像） 歴史と文化(Ⅳ)(能楽における中世武士の諸像)	担当者	瀬尾 菊次

講義目的、講義概要	授業計画
源平合戦の花形・「源義経」は、貴種流離譚の主人公として数奇な人生をおくり、日本人には悲劇のヒーローとして、平家物語・義経記など物語・伝説に登場し、人口に膾炙してきました。そのエピソードは、いろいろな芸能にも作品化されています。鎌倉室町時代に誕生した「能」ではどのように描かれているか、その生涯を辿りながら、一つの作品を題材にして、「義経」像を解き明かしていくとともに、世界遺産に指定された日本の古典芸能「能楽」についても、ビデ鑑賞、ミニ舞台による実演などを取り入れ、現役能楽師としての視点から解説していきます。 春期からの通年受講も可能です。 能楽の理解度を深めていただくため、能楽堂での鑑賞レポートを課題といたします。（チッケット代各自負担２０００～３０００）	① 古典芸能について（能・歌舞伎・文楽） ② 能「船弁慶」の詞章を読む（能の概説） ③ 能「船弁慶」の作品解読Ⅰ（義経の生涯 1） ④ 能「船弁慶」の作品解読Ⅱ（義経の生涯 2） ⑤ 能「船弁慶」の作品解読Ⅲ（義経をとりまく女性達） ⑥ 能「船弁慶」の作品解読Ⅳ（義経の合戦） ⑦ 能が描く義経像 ⑧ 実演による能「船弁慶」の構成 ⑨ 能「船弁慶」のビデオ鑑賞 ⑩ 能と歌舞伎のあゆみ ⑪ 歌舞伎「船弁慶」のビデオ鑑賞 ⑫ 夢幻能「八島」について ⑬ 能「八島」のビデオ鑑賞 ⑭ 能「船弁慶」の衣装（能装束の着付実演） ⑮ まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
関連資料のコピーを配布。 「能と義経」櫻間金記著・光芒社（平成 12 年刊） 「旅と文学」第 24 回獨協大学公開講座（平成６年刊）	課題レポート・能楽鑑賞レポート 平常講義関連事項レポート

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化２(イタリアの音楽史) 歴史と文化(Ⅳ)(イタリアの音楽史)	担当者	園田 みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリアの音楽史を概観する。なお、オペラについては後期にまとめて扱うので、原則として除外する。	1　ガイダンスと導入 2　古代ギリシアの音楽と西洋音楽 3　グレゴリオ聖歌 4　グレゴリオ聖歌成立後の西洋音楽の発展 5　「イタリア音楽」の誕生 6　メディチ家の芸術後援活動 7　宗教改革と音楽 8　バロック音楽の誕生 9　ヴァイオリンの誕生と器楽の発展 10　ヴィヴァルディとヴェネツィア 11　ペルゴレージの音楽 12　パガニーニと超絶技巧 13　ヴェルディとイタリア国家統一運動 14　プッチーニとオリエンタリスム 15　プッチーニ後のイタリア音楽：レスピーギを中心に
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献として： 藤沢道郎『物語 イタリアの歴史』(中公新書 1045)	授業内に複数回行う小テスト（持ち込み不可）による。小テストの時期は授業中に指示する。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化２(イタリアの声楽曲) 歴史と文化(Ⅳ)(イタリアの声楽曲)	担当者	園田 みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリアの声楽曲の歴史をオペラに焦点を絞って概観する。	1　オペラ誕生に先立つ劇音楽の系譜 2　オペラ誕生の経緯 3　フィレンツェにおける初期の試み 4　バロック・オペラの台本 5　バロック・オペラの音楽的特徴：カストラートの魅力 6　オペラ・セリアとオペラ・ブッファ 7　バロック・オペラと劇場 8　ロッシーニの世界 9　ベッリーニ 10　ドニゼッティ 11　ヴェルディ 12　イタリア・オペラの国際化（1） 13　イタリア・オペラの国際化（2） 14　プッチーニ 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。	授業内に複数回行う小テスト（持ち込み不可）による。小テストの時期は授業中に指示する。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２(詩と音楽 5) 歴史と文化(Ⅳ)(詩と音楽 5)	担当者	園田 みどり

講義目的、講義概要	授業計画
ジュゼッペ・ヴェルディ（1813～1901）は、19 世紀のイタリア音楽界を代表する作曲家で、数々の名作オペラを残した。本講義では、その中でもシェイクスピアの同名の戯曲に基づき、独特の輝きを放つ初期の傑作《マクベス》を採り上げる。授業期間の前半では、まず《マクベス》を注意深く鑑賞し、話の筋と聞きどころを学ぶ。また、オペラ台本と、シェイクスピアによる原作との違いも確認する。授業期間の後半では、ヴェルディがシェイクスピアの原作から何を理解し、オペラとしてどのように表現しようとしたのかを、先行するドイツやフランスの楽曲も視野に入れながら検討する。 なおオペラとは直接関係ないが、シェイクスピアの『マクベス』は、黒澤明が日本の戦国時代に時と場所を移し、『蜘蛛巣城』(1957) として映画化している。授業では、日本人の目で見たマクベスの物語も、併せて確認したい。 **なお、本講義は「詩と音楽5」であるので、授業開始までに「詩と音楽1」「詩と音楽2」「詩と音楽3」「詩と音楽4」「詩と音楽6」の単位を取得した学生も履修できる。**	1　ガイダンスと導入 2　《マクベス》第 1 幕の聞きどころ（1） 3　《マクベス》第 1 幕の聞きどころ（2） 4　《マクベス》第 2 幕の聞きどころ 5　《マクベス》第 3 幕の聞きどころ 6　《マクベス》第 4 幕の聞きどころ（1） 7　《マクベス》第 4 幕の聞きどころ（2） 8　オペラ台本と原作 9　19 世紀における「異界」と音楽 10　ベルリオーズの《幻想交響曲》 11　ウェーバーのオペラ《魔弾の射手》 12　モーツァルトのオペラ《ドン・ジョヴァンニ》 13　演出家としてのヴェルディ 14　黒澤明『蜘蛛巣城』（1） 15　黒澤明『蜘蛛巣城』（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
原作であるシェイクスピアの『マクベス』は、日本語訳が書店で容易に入手できるので、必ず購入すること。小田島訳（白水社）あるいは河合訳（角川文庫）を推奨するが、手持ちの他の翻訳でも構わない。オペラ台本については、プリントを配布する。	終幕まで鑑賞したところで、オペラ台本と原作との違いを論じるレポートを課す（50 点）。その他、毎回授業終了時に提出してもらう「まとめ」（各 5 点）を集計して評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２(詩と音楽 6) 歴史と文化(Ⅳ)(詩と音楽 6)	担当者	園田 みどり

講義目的、講義概要	授業計画
ジュゼッペ・ヴェルディ（1813～1901）は、19 世紀のイタリア音楽界を代表する作曲家で、数々の名作オペラを残した。本講義では、その中でも最も愛されているオペラ《トラヴィアータ》(1853) を採り上げる。 このオペラは、『モンテ・クリスト伯』などで有名なアレクサンドル・デュマの同名の息子、アレクサンドル・デュマ・フィスが処女作として発表した小説『椿姫』(1848) を、デュマ・フィス本人が舞台化した戯曲『椿姫』(1852 初演）に基づいて制作されたものである。 授業では、まずオペラ《トラヴィアータ》を注意深く鑑賞した上で、ヴェルディが当時最も信頼していた台本作家ピアーヴェによるオペラ台本と、デュマ・フィスの戯曲『椿姫』との比較を試みる。また、小説および戯曲『椿姫』の中で重要な役割を果たしているアベ・プレヴォの小説『マノン・レスコー』についても学ぶこととする。 なおオペラとは直接関係ないが、デュマ・フィスの小説『椿姫』は、20 世紀にノイマイヤーというクラシック・バレエの振付家がバレエに翻案している。授業ではそれも採り上げ、『椿姫』の物語の広がりも併せて確認したい。 **なお、本講義は「詩と音楽 6」であるので、授業開始までに「詩と音楽 1」「詩と音楽 2」「詩と音楽 3」「詩と音楽 4」「詩と音楽 5」の単位を取得した学生も履修できる。**	1　ガイダンスと導入 2　《トラヴィアータ》第 1 幕の聞きどころ 3　戯曲『椿姫』と《トラヴィアータ》第 1 幕の違い 4　《トラヴィアータ》第 2 幕前半の聞きどころ 5　戯曲『椿姫』と《トラヴィアータ》第 2 幕前半の違い 6　《トラヴィアータ》第 2 幕後半の聞きどころ 7　戯曲『椿姫』と《トラヴィアータ》第 2 幕後半の違い 8　《トラヴィアータ》第 3 幕の聞きどころ 9　戯曲『椿姫』と《トラヴィアータ》第 3 幕の違い 10　『椿姫』とアベ・プレヴォ『マノン・レスコー』（1） 11　『椿姫』とアベ・プレヴォ『マノン・レスコー』（2） 12　小説『椿姫』との比較／ノイマイヤー振付によるバレエ『椿姫』（1） 13　ノイマイヤー振付によるバレエ『椿姫』（2） 14　ヴェルディの《トラヴィアータ》(作曲の舞台裏) 15　ヴェルディの《トラヴィアータ》(「色合い」について)
テキスト、参考文献	**評価方法**
デュマ・フィスの小説『椿姫』は、日本語訳が書店で容易に入手できるので、必ず購入すること。戯曲『椿姫』およびピアーヴェによるオペラ台本については、プリントを配布する。	アベ・プレヴォの『マノン・レスコー』まで学んだところで、オペラ台本と、デュマ・フィスの小説『椿姫』との違いを論じるレポートを課す（50 点）。その他、毎回授業終了時に提出してもらう「まとめ」（各 5 点）を集計して評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化２(イギリス詩入門) 歷史と文化(Ⅳ)(イギリス詩入門)	担当者	田村 斉敏

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 William Butler Yeats、W. H. Auden、Seamus Heaneyなど、主に19世紀末から現在に至るまで、英国あるいはアイルランドに生まれ、活躍した詩人たちの作品を取り上げる。さまざまな作品の味読を通して、多様な詩的世界に触れると同時に、基本的な詩の読み方を身に着けることを目的とする。 講義概要 基本的に時間軸に沿って詩人を取り上げる。一回に取り上げるのは一人または二人程度とする。 取り上げる詩についてはあらかじめプリント等で配布する。一通り目を通してくること。 期末のレポートのほかに、不定期に授業時間内に課題を出す。	1　講義の概要 2～13 講義概要にそって詩をとりあげて読んでいく。取り上げる予定の詩人は以下の通り： Thomas Hardy (1840-1928) William Butler Yeats (1865-1939) D. H. Lawrence (1885-1930) Robert Graves (1895-1985) W. H. Auden (1907-1973) Philip Larkin (1922-1985) Ted Hughes (1930-1998) Geoffrey Hill (b. 1932) Seamus Heaney (b. 1939) Eavan Boland (b. 1944) その他 14　まとめ 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布するのでテキストの購入は不要。 なお、底本として Michael Shmidt 編 *The Great Modern Poets* (Quercus, 2008)を使用するので参考まで。	期末にレポートの提出を求める。また授業内の課題および出席状況も重視する。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化２(アメリカ詩入門) 歷史と文化(Ⅳ)(アメリカ詩入門)	担当者	原 成吉

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 まず第一に詩を楽しむこと。詩の言葉をとおしてアメリカの文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡を使いながら「いまのわたしたち」を考える。 講義概要 アメリカ先住民の口承詩（うた)、ロック・ミュージックの歌詞、モダニストの作品、そして同時代の詩人の作品を紹介する。文学史的なアプローチではなく、「ここそしていま」 の視点から論じる。	1. アメリカの大地の声—Native American のうた 2.　Rock の Lyrics 読む—Bob Dylan と Paul Simon 3. デモクラシーを歌う『草の葉』の詩人—Walt Whitman 4. ミクロコスモのなかのマクロコスモ—女性詩人 Emily Dickinson 5. モダニズムの起源を探る—(1)Ezra Pound がみた東洋 6. (2) T. S. Eliot の “The Love Song of J. Alfred Prufrok” に描かれた現代人の苦悩 7. (3) William Carlos Williams がみたアメリカの美学 8. (4) e. e. cummings の “typography”が創る「感じる」詩 9. ポストモダンの詩を読む　(1) Allen Ginsberg の “A Supermarket in California” 10. (2) Gary Snyder の “Ripples on the Surface” 11. (3) Sylvia Plath の “Daddy” 12. (4) Robert Bly の “Conversation With the Soul” 13. (5) Robert Creeley の “The Whip” 14. (6) Frank O’Hara の “A Step Away from Them” 15. (7) Billy Collins の “Japan”
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text: The American Poetry & Literary Project, ed. *101 Great American Poems.* Mineola, NY: Dover Pub., 1998. 参考文献、『アメリカ名詩選』(岩波文庫)	4,000 程度の作品論（原ゼミ HP の「MLA 論文の書き方」を参照）と授業への参加度によって決める。欠席が授業回数の 1 /3 を超えた場合は、評価の対象としない。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化２(近代パリと文学 1) 歷史と文化(Ⅳ)(近代パリと文学 1)	担当者	福田 美雪

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、19世紀以降に急速に発展し、ヨーロッパの文化的首都として華やかなイメージをまとってきたパリという都市が、出自も国籍もさまざまな文学者にどのようなインスピレーションを与えてきたかを学びます。 春学期は、「よそ者から見たパリ」をテーマに、パリをめぐる人々の絶え間ない幻想と幻滅がどこから生じるのか、歴史的・文化的背景を読み解きます。名声に憧れ上京した詩人や画家、あるいは故郷を離れてさすらうエトランジェたちの物語を通して、「生きる場所」と「死に場所」が表裏一体であるパリの相貌が浮かび上がるでしょう。 全学に開かれた講義ですから、「フランス語」あるいは「フランス文学」に対して予備知識がなくても十分に理解できます。ただし、最低限の興味・関心は必要です。 初回のイントロダクションには必ず出席すること。前年度の「近代パリの風景と文学１」を取った者も履修可能ですが、登録者数によっては抽選になる場合があります。	第 1 回：上京者たちのパリ 第 2 回：バルザック『ゴリオ爺さん』 第 3 回：バルザック『幻滅』 第 4 回：フロベール 『感情教育』 第 5 回：パリからの逃亡 第 6 回：ゾラ『パリの胃袋』 第 7 回：ゾラ『制作』 第 8 回：エトランジェのパリ 第 9 回：リルケ『マルテの手記』 第 10 回：ヘミングウェイ『移動祝祭日』 第 11 回：講演会（予定） 第 12 回：戦時中のパリ 第 13 回：プルースト『見出された時』 第 14 回：コレット『シェリの最後』 第 15 回：ネミロフスキー『フランス組曲』
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内でプリントを配布。主要参考文献は以下の通り。 小倉孝誠『19世紀フランス―光と闇の空間』、人文書院 宝木義範『パリ物語』、講談社学術文庫	平常点と期末レポート。

08 年度以降 07 年度以前	歷史と文化２(近代パリと文学 2) 歷史と文化(Ⅳ)(近代パリと文学 2)	担当者	福田 美雪

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、「知られざるパリ」をテーマに、華やかなモニュメントに飾られたよそゆきのパリからは見えてこない、都市の裏面にスポットを当てます。 モンマルトル、モンパルナス、マレ界隈など、貧乏人、ならず者、孤児、娼婦、よそ者がひしめくパリは、ときに暗く厳しい環境でもありました。しかし、パリに惹かれてやまない文学者たちは、気ままに路地や裏通りを踏みしめ、屋根裏から街を見下ろし、全身の感覚でパリの表も裏も知り抜こうとしました。舞い上がっては転落し、幻滅しながらもぎりぎりの人生にもがく人々の物語こそ、都市に絶えず新たな生命を吹き込んでいると言えるでしょう。 全学に開かれた講義ですから、「フランス語」あるいは「フランス文学」に対して予備知識がなくても十分に理解できます。ただし、最低限の興味・関心は必要です。 初回のイントロダクションには必ず出席すること。前年度の「近代パリの風景と文学２」を取った者も履修可能ですが、登録者数によっては抽選になる場合があります。	第 1 回：パリの屋根裏部屋 第 2 回：ミュッセ『ミミ・パンソン』 第 3 回：ミュルジェール『ボヘミアン生活の情景』 第 4 回：犯罪と警察 第 5 回：バルザック『ラブイユーズ』 第 6 回：ウジェーヌ・シュー『パリの秘密』 第 7 回：ユゴー『レ・ミゼラブル』 第 8 回：貧乏人の夢 第 9 回： ゾラ『居酒屋』 第 10 回：モーパッサン『首飾り』 第 11 回：セリーヌ『なしくずしの死』 第 12 回：街角と路地裏 第 13 回：ブルトン『ナジャ』 第 14 回：J・グリーン『パリ』 第 15 回：クノー『地下鉄のザジ』
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内でプリントを配布。主要参考文献は以下の通り。 小倉孝誠『近代フランスの事件簿―犯罪・文学・社会』、淡交社	平常点と期末レポート。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２（日本事情 1） 日本事情 a	担当者	守田 逸人

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 原始～中世の日本列島を対象に、「日本」という世界のなかの一つの国家や、日本列島の社会・文化がどのように形成されていったのか、大陸との関係に留意しつつ最新の研究成果を基に学び、国家とは何か、また地域とは何か、考える能力を身につける。 【講義概要】 ◎原始～中世の日本通史である。 学界での通説と、中学校の歴史教科書の記述を比較しつつ、授業を進める。 ◎近年の日本の歴史学界のなかで、どのような点が注目されているのか、講義の中で適宜触れていく。 ◎現代の価値観から過去を評価するのではなく、当時の価値観を復元しながら、歴史を認識することを心がける。	１：なぜ、歴史学は必要なのか？ ２：原始社会論 -稲作のはじまりと富の蓄積- ３：邪馬台国からヤマト政権へ -邪馬台国はどこにあったか？- ４：倭国と東アジア -4・5 世紀の「倭」の存立基盤- ５：倭国から「日本」へ -「天皇」・「日本」の成立- ６：律令国家の展開と土地政策 -律令国家はどの程度日本列島を把握していたか？- ７：平安時代前期の国家と社会 -王臣家の地域進出- ８：摂関政治の成立 -ミウチ政治の成立・受領の台頭- ９：院政の成立と中世の胎動 -荘園制社会へ- 10：鎌倉幕府の形成と展開 -公家・武家・寺社の相互補完関係- 11：元寇から鎌倉幕府の滅亡へ -元寇の影響と徳政観念の展開- 12：日本列島史の転換期としての南北朝内乱 -なぜ内乱を通じて武家優位の社会になるのか？- 13：室町幕府論　-公武統一政権・地域社会・一揆- 14：室町幕府の対外交渉 -日明勘合貿易と「倭寇」- 15：総括　-古代・中世の日本列島と地域社会-
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に指摘する。	テストおよび出席状況による。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２（日本事情 2） 日本事情 b	担当者	守田 逸人

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 おもに戦国時代～太平洋戦争までの日本列島を対象に、世界の秩序編成の動きに留意しつつ、社会の変遷のあり方を学び、現在の日本・世界の成り立ちと、これからの日本列島と世界について考える能力を身につける。 【講義概要】 ◎戦国時代～太平洋戦争終結までの日本通史である。 ◎学界での通説と、中学校の歴史教科書の記述を比較しつつ、授業を進める。 ◎近年の日本の歴史学界のなかで、どのような点が注目されているのか、講義の中で適宜触れていく。 ◎現代の価値観から過去を評価するのではなく、当時の価値観を復元しながら、歴史を認識することを心がける。 ◎20 世紀にはいると、多くの映像資料も残されている。それらをできるだけ利用する。 ※前後期ともにいえるが、歴史を学ぶ意義は、知識を積み重ねることではなく、社会や人間の生き方、その変化について、できるだけ正確な情報をもとに考える力を身につけることである。歴史を様々な視野から見つめることによって、驚きを感じ、その重要さを学んで欲しい。	１：世界システムとは何か？ -16 世紀における世界秩序の展開と日本- ２：なぜ戦国大名はあらわれたのか？ -群雄割拠の時代から織豊政権・朝鮮侵略へ- ３：江戸幕府の形成と東アジア -徳川政権の諸政策と「倭寇的状況」の展開- ４：元禄の政治と社会 -戦時文化からの脱却- ５：江戸中期の幕政改革 -迫りくる危機- ６：対外危機と天保の改革 -「鎖国」とは何か？- ７：幕末の動乱 -不平等条約・尊皇攘夷運動から大政奉還へ- ８：明治新政府の樹立と国政 -明治政府は何を目指したのか？- ９：明治期の社会と思想 -自由民権運動の意義- 10：大日本帝国憲法と議会の成立 －憲法・議会はなぜ必要だったのか？- 11：日清・日露戦争と韓国併合　-帝国主義とは何か？- 12：映像にみる 20 世紀前半の世界と日本 13：大正デモクラシーと第 1 次世界大戦 -大東亜共栄圏構想へ- 14：第 2 次世界大戦 -日中戦争は誰が支持したのか？- 15：総括 -日本列島の過去と未来をめぐって-
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に指摘する。	テストおよび出席状況による。

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

08 年度以降	現代社会 2（英語で学ぶ比較政治入門：その理論と実践）	担当者	客員教授　C. デーリヒス （マールブルク大学教授）
講義目的、講義概要		授業計画	
Introduction to Comparative Political Science (in English) This lecture series introduces step by step the central questions and issues of comparative political science. From basic questions such as “Why and How do we compare?”, we proceed to methodological issues and theoretical approaches. At the end of the term, we have learned about the value of comparative methods and about several cases of comparison which show us how we can develop our skills in comparative political science.		＜2013 年度　秋学期＞ ＊詳細については、初回授業時に説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basic reading: Todd Landman (2009): Issues and Methods in Comparative Politics. An Introduction. 3rd Edition. Routledge / Taylor & Francis		初回授業時に説明します。	

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』) 現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	担当者	上村 敏郎

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、ドイツ語圏にある世界遺産について、小規模グループによる調査・発表を通じて、日本人にはあまりなじみのないドイツ語圏の文化や歴史に関する知識を深めることを目的とする。 受講者はグループに分かれ、ドイツ語圏の世界遺産について調査を行ない、いかにその世界遺産が魅力的なものであるのかを発表する。その発表に対してグループ相互で評価を行ない、最終的に本講義内でのドイツ語圏世界遺産ランキングを作成する。 詳細については、第1回目のオリエンテーションで説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。	第１回　オリエンテーション 第２回　ドイツ語圏の国々 第３回　グループ分けとテーマ決め 第４回～第６回　グループワーク 第７回　中間報告会 第８回～第 10 回　グループワーク 第 11 回～第 14 回　グループ発表 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中、適宜指示します。	授業への出席、主体的な参加、発表

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』) 現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	担当者	上村 敏郎

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、ドイツ語圏の国々に関連する書籍をテーマにして、受講生による「ビブリオバトル」を行ない、書籍の紹介を通して、ドイツ語圏に関する知識や関心を深めるとともに、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を培うことを目的とする。 ビブリオバトルでは、受講生自身が紹介する本を選択し、プレゼンを行い、受講生全員がプレゼンターのプレゼンを評価します。毎回、4~5 名のかたにそれぞれ 5 分程度プレゼンをしてもらう予定です。 ビブリオバトルについては第１回のオリエンテーションで説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。 また、受講生の人数に応じて、複数回発表してもらうことも考えられるので、本をたくさん読むことになることは覚悟して下さい。	第１回　オリエンテーション 第２回　ドイツ語圏の国々 第３回　本の探し方 第４回～第 14 回　ビブリオバトル 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中、適宜指示します。	授業への出席、主体的な参加、発表

08年度以降 07年度以前	現代社会２(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』1) 現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』1)	担当者	大井 正博

講義目的、講義概要	授業計画
講義目標 EUは現実のものであり、その政治面・経済面での力も大きいとわかっているものの、もうひとつ現実のEUの姿が見えてこない。そこでEUの細かな実態については下記の参考文献にゆずるとして、授業においてはドイツとならびEUのリーダーであるフランスを中心においた上で、いろいろな側面からEUの理解につとめようと思う。 講義概要 講義は問題点を掘り下げる形で行うので、参考書などを読んで一定の基礎知識を養っていないと、やや難解に思われるかも知れない。	1　EUの歴史　欧州共同体創設への道 2　EUの歴史　欧州共同体15カ国の実現 3　EUの拡大と深化 4　EUの各種機構 5　フランス農業と共通農業政策 6　共通農業政策の仕組み 7　共通農業政策の問題点 8　共通農業政策の改革とフランス 9　欧州通貨制度とフランス 10　単一通貨ユーロ導入までの動き 11　安定成長協定とはなにか 12　ユーロ危機とはなにか 13　欧州憲法条約とリスボン条約 14　特定多数決とはなにか 15　EUの国際平和への貢献
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献： 日経文庫1079　藤井良広著「EUの知識」第15版	期末定期試験

08年度以降 07年度以前	現代社会２(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』2) 現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』2)	担当者	大井 正博

講義目的、講義概要	授業計画
講義目標 EUは現実のものであり、その政治面・経済面での力も大きいとわかっているものの、もうひとつ現実のEUの姿が見えてこない。そこでEUの細かな実態については下記の参考文献にゆずるとして、授業においてはドイツとならびEUのリーダーであるフランスを中心においた上で、いろいろな側面からEUの理解につとめようと思う。 講義概要 講義は問題点を掘り下げる形で行うので、参考書などを読んで一定の基礎知識を養っていないと、やや難解に思われるかも知れない。	1　フランスの政治とEU(民主主義の赤字) 2　フランスの政治とEU(主権擁護派と統合推進派) 3　フランスの政治とEU(リーダーシップ) 4　フランス経済とEU(門戸開放と統合市場) 5　フランス経済とEU(世界経済への一体化) 6　フランス経済とEU(移民労働者) 7　フランス経済とEU(国内産業の保護) 8　フランス経済とEU(産業の空洞化と失業問題) 9　フランスのODA政策とEU 10　域内自由移動とフランス 11　フランスの政党とEU 12　EUの安全保障とフランス 13　フランスとドイツの協力と対立 14　農業大国フランスの悩み 15　EUの将来とフランス
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献： 日経文庫1079　藤井良広著「EUの知識」第15版	期末定期試験

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (経理入門 1) 現代社会(Ⅳ)(経理入門 a)	担当者	大坪 史治

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、簿記の初学者を対象に、簿記の基本原理を習得することを目的としている。簿記は、日々の取引を記録し、集計し、最終的に成果と実態を集約する技術である。 簿記は、会社の規模や業種、職種に関わらず必要不可欠な技術・知識とされ、学習することで、実社会に出た時に役立つビジネス感覚と実践的基礎力を養うことができる。そのため、就職試験、内定後、入社後研修、昇格試験とあらゆる場面で簿記の知識が求められるようになっている。 受講生には、将来必ず役に立つ知識・技術であることを意識しながら講義を受講してもらいたい。 春学期では、簿記の一連の流れと計算原理の習得を目指す。講義では、わかりやすい説明を心がけ、反復練習と解説をつうじて理解の定着を図る。	①講義概要 ②簿記の意義と役立ち ③貸借対照表と損益計算書の構造 ④仕訳と転記（1） ⑤仕訳と転記（2） ⑥帳簿記入 ⑦試算表の作成 ⑧6 桁精算表の作成 ⑨決算手続（1） ⑩決算手続（2） ⑪決算手続（3） ⑫貸借対照表と損益計算書の構造 ⑬現金預金取引 ⑭商品売買取引 ⑮演習問題
テキスト、参考文献	**評価方法**
湯田雅夫，渋谷武夫編著『ベーシック簿記教室』中央経済社，2010 年	出席状況（30%）と試験（70%）により総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (経理入門 2) 現代社会(Ⅳ)(経理入門 b)	担当者	大坪 史治

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、簿記の初学者を対象に、簿記の基本原理を習得することを目的としている。簿記は、日々の取引を記録し、集計し、最終的に成果と実態を集約する技術である。 簿記は、会社の規模や業種、職種に関わらず必要不可欠な技術・知識とされ、学習することで、実社会に出た時に役立つビジネス感覚と実践的基礎力を養うことができる。そのため、就職試験、内定後、入社後研修、昇格試験とあらゆる場面で簿記の知識が求められるようになっている。 受講生には、将来必ず役に立つ知識・技術であることを意識しながら講義を受講してもらいたい。 秋学期では、様々なケースの取引を処理することをつうじて、記録・計算技術をより一層磨くことを目標とする。また、貸借対照表および損益計算書についての深い理解を到達目標にする。 なお、春学期履修者で、ある程度の簿記の基礎知識を有することが望ましい。	①講義概要 ②復習 ③売掛金と買掛金 ④その他の債権・債務取引 ⑤手形取引（1） ⑥手形取引（2） ⑦有価証券取引 ⑧固定資産取引 ⑨純資産、税金 ⑩収益と費用の見越し・繰延べ ⑪決算と財務諸表（1） ⑫決算と財務諸表（2） ⑬伝票会計 ⑭帳簿組織 ⑮演習問題
テキスト、参考文献	**評価方法**
湯田雅夫，渋谷武夫編著『ベーシック簿記教室』中央経済社，2010 年	出席状況（30%）と試験（70%）により総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (英文会計入門 1) 現代社会(Ⅳ)(英文会計入門 a)	担当者	大坪 史治

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化が進む現代の企業経営を鑑みれば、英文で作成された財務諸表を読み解き、企業の財政状態および経営成績等を分析できることは、大きなスキル（財産）となる。その前提として、単に言語ができるだけではなく、簿記会計の知識と技術が必要となる。したがって本講義は、言語（英語）を駆使して簿記会計の知識と技術を習得することが第一の狙いとなる。 なお、本講義は、ある程度簿記の基本的知識を有することが望ましい。	①オリエンテーション ②会計と簿記の基礎（Basic of Accounting and bookkeeping ③勘定科目（Accounts） ④仕訳（Journal entries） ⑤各種取引と仕訳 1（Transactions and Journal Entries） ⑥各種取引と仕訳 2（Transactions and Journal Entries） ⑦各種取引と仕訳 3（Transactions and Journal Entries） ⑧各種取引と仕訳 4（Transactions and Journal Entries） ⑨仕訳帳と元帳（Journals and Ledgers） ⑩元帳（Ledgers） ⑪試算表（Trial Balance） ⑫精算表（Worksheet） ⑬貸借対照表（Balance sheet） ⑭損益計算書（Income statement） ⑮帳簿組織（Multiple journal system）
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし	出席状況（20%）と試験（80%）により総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (英文会計入門 2) 現代社会(Ⅳ)(英文会計入門 b)	担当者	大坪 史治

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化が進む現代の企業経営を鑑みれば、英文で作成された財務諸表を読み解き、企業の財政状態および経営成績等を分析できることは、大きなスキル（財産）となる。その前提として、単に言語ができるだけではなく、簿記会計の知識と技術が必要となる。したがって本講義は、言語（英語）を駆使して簿記会計の原理原則を習得することが第一の狙いとなる。 なお、本講義は、春学期履修者で、ある程度の簿記の基礎知識を有することが望ましい。	①オリエンテーション ②復習 1 ③復習 2 ④決算修正仕訳 1（Adjusting Entries） ⑤決算修正仕訳 2（Adjusting Entries） ⑥減価償却費の計算（Depreciation） ⑦修正後残高試算表（Adjusted Trial Balance） ⑧売上原価の計算（Cost of Goods Sold） ⑨棚卸資産の評価（Evaluation of Inventory） ⑩決算手続（Closing books process and discloser） ⑪財務諸表 1（Financial Statements） ⑫財務諸表 2（Financial Statements） ⑬会計原則 1（Accounting concepts） ⑭会計原則 2（Accounting concepts） ⑮内部統制（Internal control）
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし	出席状況（20%）と試験（80%）により総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(教育の現場：教師と語る a) 現代社会(Ⅳ)(教育の現場：教師と語る a)	担当者	川村 肇

講義目的、講義概要	授業計画
１．目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあい、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかみます。そのなかで、特に生活指導についての理解を深めます。 ２．概要：教室での講義・討論と、埼玉県の教師の研究会（懇親会を含む）への参加とで構成します。そのため、右記の研究会に必ず参加して下さい（参加費は 1500 円、宿泊の場合には 9000 円程度)。研究会に終日参加できない場合には、この授業を受講しても、単位を認定することはできません。 ３．研究会で 7 コマ相当の実践的学修をするため、教室での講義は 8 回程度とします。2 回目以降の日程は相談の上、決定するため、**初回の授業には必ず参加して下さい**。参加できなかった場合には、メールで問い合わせるか、研究室（720）を訪れてください。 ４．教職課程に登録している必要はありません。 ５．履修登録の上限を 30 名とします。	１ 講義の進め方等の説明／参加者自己紹介 ２～３ 生活指導とは何か（テキスト使用） ４～７ 実践記録を読む ８ 研究会参加のまとめ 研究会は、6 月 8 日、9 日（土・日)、またはその前後の土日、場所は浦和の予定です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
高橋陽一編『新しい生活指導論と進路指導』 （武蔵野美術大学出版局）	研究会と講義への出席と最終レポートによります。研究会に終日参加しない場合には、不可とします。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(教育の現場：教師と語る b) 現代社会(Ⅳ)(教育の現場：教師と語る b)	担当者	川村 肇

講義目的、講義概要	授業計画
１．目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあい、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかみます。そのなかで、特に生活指導についての理解を深めます。 ２．概要：教室での講義・討論と、埼玉県の教師の研究会合宿（懇親会を含む）への参加とで構成します。そのため、右記の研究会合宿に必ず参加して下さい（参加費は 9000 円程度)。研究会合宿に参加できない場合には、この授業を受講しても、単位を認定することはできません。 ３．研究会合宿で 7 コマ相当の実践的学修をするため、教室での講義は 8 回程度とします。2 回目以降の日程は相談の上、決定するため、**初回の授業には必ず参加して下さい**。参加できなかった場合には、メールで問い合わせるか、研究室（720）を訪れてください。 ４．教職課程に登録している必要はありません。 ５．履修登録の上限を 30 名とします。	１ 講義の進め方等の説明／参加者自己紹介 ２～７ 実践記録を読む ８ 研究会合宿参加のまとめ 研究会は、11 月 30 日・12 月 1 日（土・日)、またはその翌週の土日、場所は埼玉県西部にある森林公園近くのホテルの予定です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
高橋陽一編『新しい生活指導論と進路指導』 （武蔵野美術大学出版局）	研究会と講義への出席と最終レポートによります。研究会に終日参加しない場合には、不可とします。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(異文化理解教育) 現代社会(Ⅳ)(異文化理解教育)	担当者	小島 優生

講義目的、講義概要	授業計画
●講義目的 異文化（間）教育の理論と実践を学ぶことで、多文化社会における人間形成や学校教育制度に関する基礎的な知識を身につけ、最終的には現在の学校が抱える課題について自身の考えを持つことを目標とする。 ●講義概要 ２．～４．では、異文化理解教育や、日本の置かれている状況等を概観する、いわば理論編である。グローバリゼーションや、異文化など身近な用語から理解をしていく。 ６．～１１．は、日本の教育制度が抱える課題であるニューカマー（ＮＣ）、オールドカマー（ＯＣ）それぞれの教育課題を探求する。この２つは、同様に外国籍の子どもを対象とする点では一見類似しているが、それぞれの状況が大きく異なる。２つの教育問題は、結果として学校や教育に対する日本政府の考え方を顕在化させる。 １３．～１５．は、上記のような教育や学校に対する考え方を他の国の政策との比較で考えていく。 少人数で、ディスカッションを多く用いながら授業を進めたいと考えている。	１．授業に関するガイダンス ２．国際化と教育 ３．異文化理解の教育 ４．日本の異文化間教育とその視点 ５．まとめと討論 ６．オールドカマーの子どもたち① ７．オールドカマーの子どもたち② ８．オールドカマーの子どもたち③ ９．ニューカマーの子どもたち① 10. ニューカマーの子どもたち② 11. まとめと討論 12. 多文化教育の国際比較① 13. 多文化教育の国際比較② 14. 多文化教育の国際比較③ 15. まとめと討論・日本はどうあるべきか
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特になし 参考文献：授業中に適宜指示する	①小テスト②レポートシステムの提出、内容、③学期末レポートなどを総合的に評価する。 ※評価方法等は１回目の授業で説明するので、必ず出席のこと。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(生きたコトバづかい・話し合い編) 現代社会(Ⅳ)(生きたコトバづかい・話し合い編)	担当者	下川 浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、現代社会のさまざまの問題をテーマにしたビデオを見て、役割分担をしたうえで、それに関する話し合いをしながら、生きたコトバづかいの４原則が身につくように勉強をします。	１．導入・じょうずな聞きかた・メモのとりかた説明 ２．生きたコトバづかいの４原則説明 ３．ウソとコトバの魔術説明 ４．ビデオについての討論 ５．以下同様 ６． ７． ８． ９． １０． １１． １２． １３． １４． １５．まとめの議論
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？ウソとコトバの魔術』(国際語学社) 同『コトバの力』(同)	時事問題についての話し合いと役割分担に参加し、左記教科書の「事項索引」を作成・提出し、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(生きたコトバづかい・話し合い編) 現代社会(Ⅳ)(生きたコトバづかい・話し合い編)	担当者	下川 浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、現代社会のさまざまの問題をテーマにしたビデオを見て、役割分担をしたうえで、それに関する話し合いをしながら、生きたコトバづかいの４原則が身につくように勉強をします。	１．導入・じょうずな聞きかた・メモのとりかた説明 ２．生きたコトバづかいの４原則説明 ３．ウソとコトバの魔術説明 ４．ビデオについての討論 ５．以下同様 ６． ７． ８． ９． １０． １１． １２． １３． １４． １５．まとめの議論
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？ウソとコトバの魔術』(国際語学社) 同『コトバの力』(同)	時事問題についての話し合いと役割分担に参加し、左記教科書の「事項索引」を作成・提出し、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2（韓国社会論） 現代社会（Ⅳ）（韓国社会論）	担当者	平田 由紀江

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、変化の著しい韓国社会をジェンダーの視点で読み解いていく。 とりわけ講義の前半では韓国社会の「家族」をめぐるさまざまな変化に焦点を当てて論じ、後半には、徴兵制度や、日本と韓国の間の歴史問題などに焦点を当てていく。	1 イントロダクション-講義紹介 2 ジェンダーとは 3 韓国社会の女と男① - 家父長制のはなし（1） 4 韓国社会の女と男② - 家父長制のはなし（2） 5 韓国社会の女と男③-マネージメントマムとは 6 ジェンダーと制度① - 法と制度の変遷 7 ジェンダーと制度② - 少子高齢化社会・韓国 8 変わりゆく「家族」① - シングル女性をめぐって 9 変わりゆく「家族」② - ひとり親世帯の現状 10 変わりゆく「家族」③ - 「多文化」家族について 11 軍隊とジェンダー① - 徴兵制について 12 軍隊とジェンダー② - 「軍事化された社会」とは 13 歴史とジェンダー① 14 歴史とジェンダー② 15 まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
適宜紹介していく。	出席、期末テスト

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(ポストコロニアル研究入門) 現代社会(Ⅳ)(ポストコロニアル研究入門)	担当者	平田 由紀江

講義目的、講義概要	授業計画
植民地主義の歴史と、現在における、政治、社会、文化などに残存する植民地主義の影響を認識することからはじめ、「自己」と「他者」、「西欧」と「それ以外」、「植民地支配」と「被支配者」の境界に立って、現代世界を捉え直していくことを試みる。 講義中盤からは、ポストコロニアル文学作品などを取り上げ、討論形式で講義を進めていく。	1　イントロダクション-講義紹介 2　帝国主義のものがたり① 3　帝国主義のものがたり② 4　ポストコロニアリズムとはなにか① 5　ポストコロニアリズムはなにか② 6－14　討論 - 文学作品・映画から考える 15　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
適宜紹介していく。	出席、期末レポート

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2（新聞を読む 1） 現代社会(Ⅳ)（新聞を読む 1）	担当者	細野 徳治

講義目的、講義概要	授業計画
若者の「新聞離れ」が進んでいるといわれて久しい。新聞を読まない理由として「つまらない」「分かりにくい」という声をよく聞く。なぜだろうか。その大きな原因は、ニュースを理解するうえで必要な背景的知識が不足しているからではないか。 そこでこの授業では、その時々の国内外の重要ニュースを伝える新聞記事を教材に取り上げ、そのニュースの意味を深く掘り下げるとともに、そのニュースの背景を詳しく解説する。「新聞に関する基礎知識」についても学習する。 ニュースのキーワードを読み解き、新聞を読みこなす術を習得することを授業の目標とする。受講生には、旺盛なる好奇心をもって国内外のニュースに多大の関心を払い、新聞を読む習慣を身につけてもらいたい。	国内外の重要ニュースをできる限りリアルタイムで取り上げる。1 授業で 1 ニュースを原則とするが、どんなニュースが飛び込んで来るか予測不能のため、実際にどのような授業内容となるかは未知数だ。過去の授業で取り上げた項目を参考にしてほしい。 2012 年春学期には、北朝鮮で金正恩（キム・ジョンウン）新体制始動、尖閣諸島問題（石原都知事による購入発言）、小沢一郎元代表に無罪判決、オランド仏大統領就任、プーチン露大統領復帰、G8 サミット、東京五輪誘致（2020 年夏季五輪開催候補都市として一次選考を通過）、急増する生活保護受給者、再審と冤罪（東京電力女性社員殺害事件の容疑者とされたネパール人男性の再審決定）、大飯原発再稼働問題、などを取り上げた。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材として取り上げる新聞記事のコピーなど、プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。	日ごろの受講態度、テスト（記事についての感想文）などに基づく平常成績と期末試験の成績を総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2（新聞を読む 2） 現代社会(Ⅳ)（新聞を読む 2）	担当者	細野 徳治

講義目的、講義概要	授業計画
若者の「新聞離れ」が進んでいるといわれて久しい。新聞を読まない理由として「つまらない」「分かりにくい」という声をよく聞く。なぜだろうか。その大きな原因は、ニュースを理解するうえで必要な背景的知識が不足しているからではないか。 そこでこの授業では、その時々の国内外の重要ニュースを伝える新聞記事を教材に取り上げ、そのニュースの意味を深く掘り下げるとともに、ニュースの背景を詳しく解説する。「新聞に関する基礎知識」についても学習する。 ニュースのキーワードを読み解き、新聞を読みこなす術を習得することを授業の目標とする。受講生には、旺盛なる好奇心をもって国内外のニュースに多大の関心を払い、新聞を読む習慣を身につけてもらいたい。	国内外の重要ニュースをできる限りリアルタイムで取り上げる。1 授業で 1 ニュースを原則とするが、どんなニュースが飛び込んで来るか予測不能のため、実際にどのような授業内容となるかは未知数だ。過去の授業で取り上げた項目を参考にしてほしい。 2012 年秋学期には、山本美香さんの死（フリージャーナリストと戦場取材）、野田内閣の支持率（世論調査政治）、ノーベル賞（山中伸弥氏に生理学・医学賞、EU に平和賞）、読売新聞が大誤報（日本人研究者の虚偽説明を鵜呑みにして報道）、アメリカ大統領選挙の仕組み、オバマ大統領再選、小沢一郎氏が控訴審でも無罪（強制起訴の問題点）、中国で習近平新指導部が発足、死刑について考える、韓国大統領選挙、TPP 交渉参加問題、などを取り上げた。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材として取り上げる新聞記事のコピーなど、プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。	日ごろの受講態度、テスト（記事についての感想文）などに基づく平常成績と期末試験の成績を総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(インターンシップ) 現代社会(Ⅳ)(インターンシップ)	担当者	森永 卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は、春学期に開講する講義と夏休みに実施するインターンシップ実習を通して、自分自身を正確に理解し、進路を真剣に考え、適職を発見する機会を得ることを目的とします。あわせて、コミュニケーション能力や対人関係のスキル、職場でのマナー、時事に関する感性など、社会人に求められる資質も涵養します。 インターンシップを単に「プレ就活」ととらえる傾向がありますが、本講座の真のねらいは、断じて小手先の就活対策やノウハウを学ぶことではありません。履修者の皆さんが、狭義のキャリア（＝職業）をどのように獲得し、広義のキャリア(＝人生)をどのように設計していくかを、色々な角度から模索する場になることを目指します。 本講座の内容は、事前指導（春学期の授業)、夏休みに実施する約２週間のインターンシップ実習、および実習後の報告会から構成されています。事前指導の内容はさらに、オリエンテーション（第１回)、自己理解・自己分析（第２～５回)、実習に臨むにあたっての準備（第６回以降）の３段階に分かれています。（下欄に続く）	第１回 オリエンテーション： 本講座の目的、授業内容、進め方などについて詳しく説明します。また、インターンシップと就職活動の関係、実習先の探し方、R-CAP などについて、キャリアセンターと教務課のスタッフから説明していただきます。 第２回　働くということは何か（講義） 第３回　セカンドベストの選択と職業能力開発（講義） 第４回　コミュニケーションと面接の技術（講義） 第５回 R-CAP の講評・分析： Web 上で受験した R-CAP の結果について講評と分析を行い、自分の適職や自分に向いた職場環境を確認します。（R-CAP の担当者から） 第６・７回 グループディスカッションの練習： グループディスカッションを行い、コミュニケーションやリーダーシップの能力を鍛え、特に「聞く・伝える・まとめる」スキルの向上を目指します。（下欄に続く）

	（上欄の続き）	担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
注意事項 １．４月４日（木）14:00~15:00 に E-102 教室で開催されるインターンシップガイダンスに必ず出席し、その後に履修登録会場にて各自オンライン登録して下さい。履修者の定員は 150 名です。 ２．R-CAP（Recruit Career Assessment Program）実施費用（3,000 円）が必要です。履修決定者は自動発行機にて納付書を購入し、第 2 回目の授業に必ず持参して下さい。 ３．インターンシップの実習先は、キャリアセンターで支援はしますが、履修者自身が見つけることが原則です。 ４．インターシップ実習に参加しなかった場合、所定の研修プログラムを修了しなかった場合、報告会に出席しなかった場合は、たとえ授業（事前指導）に出席したとしても単位は認定されません。 ５.インターンシップを予約した場合は、企業との約束になりますので、よほどの理由がない限り解約はできません。	第８・９回 時事問題研究： 新聞を教材として、グループ単位で時事問題や業界最新事情に関するプレゼンテーションとディスカッションを行い、時事に対する感性を涵養します。 第 10 回 人事担当者によるパネルディスカッション： パネルディスカッションの形で、インターンシップ受入れ先である企業や官公庁の人事担当者から、インターンシップの意義、メリット、心構えなどについてお話します。 第 11 回 インターンシップ経験者による体験談： パネルディスカッションの形で、インターンシップ経験者である先輩から貴重な体験談を話していただきます。 第 12･13 回 外部講師によるマナー講座： インターンシップに参加するにあたって必要とされるマナーを身につけます。 第 14 回 直前指導： インターンシップへの参加に先立ち、キャリアセンターと教務課のスタッフから、重要事項（インターンシップ保険、実習後の提出書類等）について説明していただきます。 第 15 回 報告会（10 月開催予定）： 各自のインターンシップ実習について報告書を書き、グループ内発表および全体発表を行います。 ※授業内容と日程は都合により変更する場合があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じてプリントを配布します	実習先からの勤務評定、実習日誌、発表レポート（報告会）などを総合的に判断して、評価を決定します。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(コンピュータ入門 a) 現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門 a)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、大学でのレポート作成や、ゼミでのプレゼンテーションにおいて必要となる、情報検索、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの実際的な利用方法を、実習を通して身につけることと、コンピュータの基本的な知識を身につけることを目的とする。 コンピュータの単なるスキルではなく、社会に出てから必要となるコンピュータおよびネットワークの基礎的な知識および技能を身につけることが目的である。 また、データベースとよばれる、大規模なデータ管理の際に使用されるデータの作成についても取り扱う。 レポート提出は、ポータルサイトを利用する。 なお、各テーマが取り扱われる順序や、時間配分については、担当教員によって異なることがある。	1. 講義概要 2. 情報収集方法と実際 3. コンピュータの基礎とアプリケーション 4. インターネットの基礎と利用 5. ワードプロセッサの有効利用 6. ワードプロセッサでレポートを書く 7. 表計算ソフトの有効利用 8. 表計算ソフトの関数を活用する 9. 表計算ソフトでデータを分析する 10. プレゼンテーションソフトの有効利用 11. プレゼンテーションソフトで調査内容発表 12. データベースの作成 13. データベース処理 14. 外部データベースの利用 15. ソフトの統合と課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：立田ルミ他『大学で必要な情報基礎』日経ＢＰ社 森夏節、立田ルミ他『日経パソコン Edu で学ぶ』、日経ＢＰ社	出席-20%、レポート-40%、試験-40%。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(コンピュータ入門 b) 現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門 b)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
コンピュータを用いて作業を行う際には、ワープロや表計算のような市販のアプリケーションを使用するだけではなく、コンピュータプログラムを作成し、既存のソフトを使うだけでは出来ないことを行うことができる。 コンピュータプログラムを作成する際には、プログラム言語の文法を覚えることに加えて、どのような手順（アルゴリズム）でコンピュータにより問題を解くのかを考え、それをプログラムとして表現することが重要である。 この講義では、JavaScript、Java、C 言語、Visual Basic といったコンピュータ言語のひとつを使用して、プログラム作成の基礎を学ぶ。使用する言語は、担当教員ごとに異なるが、各種言語を用いたプログラム法を学び、基礎的な問題解決の手順をプログラムで表現できるようになることを目指す。	1. 講義の進め方について 2. 使用言語の特徴とプログラムの作成方法 3. 簡単な処理 4. 場合分け(1) 5. 場合分け(2) 6. 繰り返す(1) 7. 繰り返す(2) 8. ファイルの処理 9. 簡単なアルゴリズム 10. 関数を用いるアルゴリズム 11. 複数の関数の利用 12. インタラクティブなプログラム 13. 画像の処理 14. 画像の入れ替え 15. アニメーション作成 担当教員が指定した問題を、数回の講義に分けて作成する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員指定の教科書または印刷物	出席-20%、レポート-40%、試験-40%。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (ホームページ作成) 現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	担当者	和泉 順子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、現代社会における情報発信手段の一つとなる WWW 上のホームページ作成に必要となる基本的な知識の習得と実習を目的とする。ホームページ作成の基礎となる HTML の形式とデザイン定義のためのスタイルシートを学ぶだけでなく、マルチメディアコンテンツや Dynamic HTML を用いたホームページ作成を目指す。 ホームページ作成に際し、大まかに 以下の知識や技能を学ぶ。 1) ホームページの仕組み 2) ホームページの作成（HTML 文書作成） 3) ホームページのデザイン設計 4) マルチメディアコンテンツの取り扱い 5) WWW での情報発信と情報倫理 また、ホームページ作成に必要な知識と技能を修得するだけでなく、WWW やインターネットの仕組みの概要を理解し、不用意な情報発信によるトラブルを避けるための知識や知的所有権（著作権）等についても学習する。	1. コースの説明、インターネットの仕組み 2. WWW とホームページ 3. ホームページ作成の基本 4. ページ構成、編集方法 5. ホームページのデザイン 6. 画像、背景、色の作成 7. テキスト処理、フォント、リンク 8. テーブル、ページのレイアウト 9. スタイルシートの基本 10. HTML と CSS の実践 11. Dynamic HTML 12. マルチメディアコンテンツの取り扱い 13. 情報発信と情報倫理 14. 知的所有権 15. 学期末テストと講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で適宜紹介します。	出席、作品（ホームページ）、および学期末テストによる総合評価

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2 (ホームページ作成) 現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	担当者	和泉 順子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、現代社会における情報発信手段の一つとなる WWW 上のホームページ作成に必要となる基本的な知識の習得と実習を目的とする。ホームページ作成の基礎となる HTML の形式とデザイン定義のためのスタイルシートを学ぶだけでなく、マルチメディアコンテンツや Dynamic HTML を用いたホームページ作成を目指す。 ホームページ作成に際し、大まかに 以下の知識や技能を学ぶ。 1) ホームページの仕組み 2) ホームページの作成（HTML 文書作成） 3) ホームページのデザイン設計 4) マルチメディアコンテンツの取り扱い 5) WWW での情報発信と情報倫理 また、ホームページ作成に必要な知識と技能を修得するだけでなく、WWW やインターネットの仕組みの概要を理解し、不用意な情報発信によるトラブルを避けるための知識や知的所有権（著作権）等についても学習する。	1. コースの説明、インターネットの仕組み 2. WWW とホームページ 3. ホームページ作成の基本 4. ページ構成、編集方法 5. ホームページのデザイン 6. 画像、背景、色の作成 7. テキスト処理、フォント、リンク 8. テーブル、ページのレイアウト 9. スタイルシートの基本 10. HTML と CSS の実践 11. Dynamic HTML 12. マルチメディアコンテンツの取り扱い 13. 情報発信と情報倫理 14. 知的所有権 15. 学期末テストと講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で適宜紹介します。	出席、作品（ホームページ）、および学期末テストによる総合評価

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(ホームページ作成) 現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	担当者	久東 義典

講義目的、講義概要	授業計画
PC 上で閲覧するホームページの基礎を学習する授業である。ホームページは、HTML 形式のテキストファイル（Windowsに同梱されているプログラム[メモ帳]で内容を確認できるファイル）で書かれている。この HTML 形式の規則の骨組を学習して PC による情報発信する仕組みの理解を高めることを目的にする。 本校サイト内からホームページを発信できる環境が整備されているので、これを利用してホームページをアップロードする知識やインターネットを利用した情報発信に必要な知識や倫理を学習する。より実戦的な情報発信を目指すためにブログ開設・運用まで学習する。 他方、PC上のドキュメントと呼ばれる電子文書も様変わりしてきた。ワープロ文書のような動きのないものではなく、また、説明者主体によるプレゼンテーション資料文書でもない、リンク機能を中心とした読者主体の電子文書としてホームページ文書が見直され拡張されてきている。エクセルと同じくらい（エンド・ユーザー・コンピューティング）の仕事に役立つ道具としてホームページ文書を作りこむ方法を学習する。この分野は、PerlやPHPといったさらに高度なレベルのプログラミングの授業へ発展できる知識が得られる。	１．ホームページと HTML ２．HTML ファイルとファイルサーバ ３．ホームページの運用・管理 ４．ホームページの仕組みと公開 ５．ブログの開設と運用 ６．ホームページの公開とネチケット ７．HTML の基本 ８．CSS の基本 ９．HTML と CSS の実践 10. Dynamic HTML サンプル 11. Java Script 入門 12. Dynamic HTML 入門 13. 音楽や動画再生の基礎知識 14. マルチメディア・ドキュメントの利用 15. ホームページとインターネット利用
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で適宜紹介する。	出席、レポート、小テスト、作品、学期末テストによる総合評価

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(ホームページ作成) 現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	担当者	久東 義典

講義目的、講義概要	授業計画
PC 上で閲覧するホームページの基礎を学習する授業である。ホームページは、HTML 形式のテキストファイル（Windowsに同梱されているプログラム[メモ帳]で内容を確認できるファイル）で書かれている。この HTML 形式の規則の骨組を学習して PC による情報発信する仕組みの理解を高めることを目的にする。 本校サイト内からホームページを発信できる環境が整備されているので、これを利用してホームページをアップロードする知識やインターネットを利用した情報発信に必要な知識や倫理を学習する。より実戦的な情報発信を目指すためにブログ開設・運用まで学習する。 他方、PC上のドキュメントと呼ばれる電子文書も様変わりしてきた。ワープロ文書のような動きのないものではなく、また、説明者主体によるプレゼンテーション資料文書でもない、リンク機能を中心とした読者主体の電子文書としてホームページ文書が見直され拡張されてきている。エクセルと同じくらい（エンド・ユーザー・コンピューティング）の仕事に役立つ道具としてホームページ文書を作りこむ方法を学習する。この分野は、PerlやPHPといったさらに高度なレベルのプログラミングの授業へ発展できる知識が得られる。	１．ホームページと HTML ２．HTML ファイルとファイルサーバ ３．ホームページの運用・管理 ４．ホームページの仕組みと公開 ５．ブログの開設と運用 ６．ホームページの公開とネチケット ７．HTML の基本 ８．CSS の基本 ９．HTML と CSS の実践 10. Dynamic HTML サンプル 11. Java Script 入門 12. Dynamic HTML 入門 13. 音楽や動画再生の基礎知識 14. マルチメディア・ドキュメントの利用 15. ホームページとインターネット利用
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で適宜紹介する。	出席、レポート、小テスト、作品、学期末テストによる総合評価

08 年度以降	自然・環境・人間２(サイエンスライティング a)	担当者	東 孝博

講義目的、講義概要	授業計画
「サイエンスライティング」とは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含みますが、科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことで、サイエンスコミュニケーションの一つといえます。近年では、科学の専門家は専門の内容について社会の理解を得るため、サイエンスコミュニケーション能力を身につけることが求められていますが、記者やライター、さらにはそのような職業についていない人も含めて、専門外の人々が科学の成果や影響を正しく理解し、その内容をより広く社会に伝えていくことが大切になってきています。 専門外の人々が科学について書くには、まずは科学についての理解力を身につけなければなりませんが、普段あまり馴染みのないことや初めて聞くことについて自ら情報を収集する能力も必要となります。また、対象がどのような人々で何を伝えたいかを明らかにし、それらに応じて内容を構成したり解説の方法を工夫したりすることが必要です。さらには、解説の正確さや論理性を踏まえたうえで、読んで面白いと感じさせる文章力も必要でしょう。このように、サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなるのです。 「サイエンスライティングａ」では、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物の内容の一部を文章にまとめるという作業を通して、科学について書く能力を高めていきます。	１．はじめに ２．科学に関する講義の内容の一部をまとめる１ ３．科学に関する講義の内容の一部をまとめる２ ４．科学に関する講義の内容の一部をまとめる３ ５．科学に関する講義の内容の一部をまとめる４ ６．まとめ文の講評とディスカッション１ ７．科学に関するビデオの内容の一部をまとめる１ ８．科学に関するビデオの内容の一部をまとめる２ ９．科学に関するビデオの内容の一部をまとめる３ １０．科学に関するビデオの内容の一部をまとめる４ １１．まとめ文の講評とディスカッション２ １２．科学に関する本の内容の一部をまとめる１ １３．科学に関する本の内容の一部をまとめる２ １４．科学に関する本の内容の一部をまとめる３ １５．まとめ文の講評とディスカッション３
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介	各テーマにおける「まとめ文」の完成度を総合的に評価する

08 年度以降	自然・環境・人間２(サイエンスライティング b)	担当者	東 孝博

講義目的、講義概要	授業計画
「サイエンスライティング」とは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含みますが、科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことで、サイエンスコミュニケーションの一つといえます。近年では、科学の専門家は専門の内容について社会の理解を得るため、サイエンスコミュニケーション能力を身につけることが求められていますが、記者やライター、さらにはそのような職業についていない人も含めて、専門外の人々が科学の成果や影響を正しく理解し、その内容をより広く社会に伝えていくことが大切になってきています。 専門外の人々が科学について書くには、まずは科学についての理解力を身につけなければなりませんが、普段あまり馴染みのないことや初めて聞くことについて自ら情報を収集する能力も必要となります。また、対象がどのような人々で何を伝えたいかを明らかにし、それらに応じて内容を構成したり解説の方法を工夫したりすることが必要です。さらには、解説の正確さや論理性を踏まえたうえで、読んで面白いと感じさせる文章力も必要でしょう。このように、サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなるのです。 「サイエンスライティングｂ」では、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物の解説文を実際に書くという作業を通して文章力をさらに高め、最終的に短い科学エッセイの創作をします。	１．はじめに ２．科学に関する講義の解説文を書く１ ３．科学に関する講義の解説文を書く２ ４．科学に関する講義の解説文を書く３ ５．解説文の講評とディスカッション１ ６．科学に関するビデオの解説文を書く１ ７．科学に関するビデオの解説文を書く２ ８．解説文の講評とディスカッション２ ９．科学に関する本の解説文を書く１ １０．科学に関する本の解説文を書く２ １１．解説文の講評とディスカッション３ １２．科学エッセイを読む １３．科学エッセイを書く１ １４．科学エッセイを書く２ １５．科学エッセイを書く３
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：授業中に紹介	各テーマにおける「解説文」と「科学エッセイ」の完成度を総合的に評価する

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2（統計と調査法） 自然･環境･人間(Ⅳ)（統計と調査法）	担当者	安間 一雄

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的 基礎的な統計手法の学習とその背景にあるデータの性質の理解を通して科学的なものの考え方を身につける． **授業概要** ・1 世帯当たりの平均年間所得は約 600 万円→実感と違うのはなぜ？ ・この店の料理とあの店の料理はどっちがおいしい？→違いがあるとは？ ・「どっきょ」まで入力したら次に最も来やすい文字は何？→確率が高いとは？ 私達は常にこのようなデータに囲まれており，それを巧みに利用しながら生活している．「大まかな感覚」は大切な知恵ではあるが，より客観的で厳密な判断ができればさらに賢い生活をすることができる．この授業では日常的なデータを素材として，その性質を記述し，現象の本質を推測できるように，科学的な分析方法を使うことを学ぶ．基礎的な統計手法を学ぶことで身の回りの世界を客観的に理解することを目標とする．	1. (1) 英語学習実態調査　ー アンケートの取りかた (2) お国自慢クイズ　ー テスト問題作成 2-3. (1) データを集めてみよう　ー 統計量の種類（量的変量・質的変量）：比例変量，間隔変量，順位変量，名義変量 (2) データの傾向を見よう　ー 度数分布，相対度数，度数分布表 (3) データをグラフ化しよう　ー 量的変数のグラフ表現，質的変数のグラフ表現 4. データの特徴を数値で表そう　その 1　ー 代表値（平均値，中央値，最頻値），値の広がり，能力テストと到達度テスト 5. データの特徴を数値で表そう　その 2　ー 正規分布，散布度（標準偏差），歪度，尖度，標準得点，偏差値 6. データを採点しよう（これまでのまとめ）　ー 表計算ソフトによる採点・集計 7. テストを見直す　ー 信頼性係数，項目分析，ロジスティック回帰分析 8. 偶然か，特殊能力か？　ー 記述統計と推測統計，仮説（帰無仮説，対立仮説） 9. 学習時間と成績には関係があるか？　ー 相関散布図，相関係数，回帰直線，欠損値の推定，相関検定 10. あさがお観察日記　ー 対応がない場合の t 検定，分散分析 11. ダイエット観察日記　ー 対応がある場合の t 検定，プリテスト・ポストテスト，時系列分析 12. 出身地と麺類の好みに関係はあるか？　ー クロス集計，カイ二乗検定 13. 駅前出店計画　ー 判別分析 14. おいしい料理のための食材分量　ー 重回帰分析 15. 隠れた傾向を探り出す　ー 主成分分析，因子分析

テキスト、参考文献	評価方法
山口和範『よくわかる統計解析の基本と仕組み：統計データ分析入門』（秀和システム, 2004）ISBN 4-7980-0913-X	(定期試験 (80%)＋平常授業におけるまとめ (20%)) x 出席率

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2（観察と実験生物学 a） 自然・環境・人間(Ⅳ)（身近な自然観察 春）	担当者	加藤 僖重

講義目的、講義概要	授業計画
登録するに先立っての注意事項 ・ 講義の性質上、受講生は年間を通じて履修することが望ましい。 ・ 一クラスの受講者を抽選に受かった 48 名に限定する。**抽選に受かった学生は実習費 (¥2,000-)**を収めること。 ・ 詳細は 1 回目の講義で説明する。 **講義の目的** ・ 身近な自然を知ることを目標とする。 **履修資格** ・ 身近な植物 100 種以上認識できること	1 はじめに 講義内容の説明 2 実験室内における心得・実験器具の説明 3 キャンパスウオッチング 1 種の識別 4 身近な植物の観察 1 花の構造 ① 5 顕微鏡使用法 1 顕微鏡の構造 ② 6 顕微鏡使用法 2 ミクロメーターの使用 7 身近な植物の観察 2 花の構造 8 キャンパスウオッチング 2 五感を働かす 9 身近な植物の観察 3 果実の構造 ① 10 身近な植物の観察 4 果実の形態 ② 11 身近な植物の観察 5 葉の形態 ① 12 身近な植物の観察 6 葉の構造 ② 13 身近な植物の観察 7 根の構造① 14 身近な植物の観察 8 根の構造② 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回、プリント配布	毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2（観察と実験生物学 b） 自然・環境・人間(Ⅳ)（身近な自然観察 秋）	担当者	加藤 僖重

講義目的、講義概要	授業計画
登録するに先立っての注意事項 ・ 講義の性質上、受講生は春学期に連続して履修することが望ましい。 ・ 一クラスの受講者を抽選に受かった 48 名に限定する。**抽選に受かった学生は実習費 (¥2,000-)**を収めること。 ・ 詳細は 1 回目の講義で説明する。 **講義の目的** ・ 身近な自然を知ることを目標とする。 **履修資格** 身近な植物 100 種以上認識できること。	1 はじめに：講義の内容を説明 2 身近な植物の観察 1 3 キャンパスウオッチング 1：種の同定 4 蛋白質の分析 5 生産構造図の作成 6 種の多様性の観察：ブナ科果実の観察 7 身近な植物の観察 2 8 光合成の色素の分析：クロマトグラフィー 9 身近な植物の観察 3 10 キャンパスウオッチング：五感を働かす 11 形質と系統：類縁関係を知る 12 身近な植物の観察 4 13 身近な植物の観察 5 14 身近な植物の観察 6 15 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回 プリント配布	毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。

08 年度以降	自然・環境・人間２(生物学Ⅰ)	担当者	加藤 僖重

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 最近の生物学は生命科学が主流となっているが、その流れは他分野を専攻する諸君にとっても必要不可欠な基礎知識である。しかし、高校時代にきちんと生物学を履修してきていない学生も多いので、本抗議では生物学基礎となるテーマをわかりやすく説明することを目標とする。 **履修者は秋学期の生物学（担当者：依田准教授）の講義も必ず履修してほしい。**	1　はじめに（生物学基礎知識の有無） 2　身近な植物の観察 1 3　細胞の発見 4　細胞説 5　身近な植物の観察 2 6　メンデルの法則発見 7　進化論 8　染色体・遺伝子・DNA 9　遺伝の仕組み 10　ワトソン・クリックの DNA モデル 11　植物の生活史　1 12　植物の生活史　2 13　植物の生活史　3 14　身近な植物の観察 3 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
使用しないが、高校生用の教科書（参考書）を用意すること。 必要に応じてプリントを配布する。	出席点、レポート点、試験結果に応じて評価する。

08 年度以降	自然・環境・人間２(生物学Ⅱ)	担当者	依田 珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 私たちは生物の一員です。今、私たちの住む地球の環境は生命が誕生した38億年前とはもちろん、人類が生まれた500万年前と比べて大きく変わっています。生物は様々に変化する環境という刺激に適応して今日までその生態をつないできました。この講義では生物がいかにたくましく、その一方で生存競争にやぶれていったかを「環境」をキーワードに、未来に種を伝えていくための知識と術について受講生自身が考えていくことを目指します。 〔講義概要〕 講義では様々な生物の生態環境とその変化および生物の適応について学びます。またグループに分かれて身の回りあるいは世界の様々な地域に生息する生物についてテーマを決めて調べ、発表します。 ★春学期の「生物学Ⅰ」（加藤先生担当）で生物学の基礎を学んでいることを前提に進めていきますので、ぜひ生物学Ⅰを履修してください。	1　はじめに（生物学基礎知識の確認） 2　からだの機能と構造（ヒト編） 3　からだの機能と構造（グループ調査） 4　からだの機能と構造（グループ発表） 5　iPS 細胞 について考える 6　恐竜はなぜ滅んだのか 7　高山に生きる生物 8　海の生物 9　極地の生物 10　日本特有の生物 11　プレゼンテーション１ 12　プレゼンテーション２ 13　プレゼンテーション３ 14　人類の発展の功罪 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で指示する。	出席、授業態度、プレゼンテーション、レポート点、試験結果に応じて評価します。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間２(体育経営スポーツマネージメント) 自然･環境･人間(Ⅳ)(体育経営スポーツマネージメント)	担当者	川北 準人

講義目的、講義概要	授業計画
〔目的〕マネジメントは成果によって定義されるといわれている。スポーツ・マネジメントを定義するためには、「成果を得るためには何が必要か」を追求しなければならない。諸外国からの輸入文化として広がったスポ-ツの発展・普及における過程を理解し、現代社会におけるスポ-ツの可能性を模索する。そして“今何が求められているか”を問う。身近なスポ-ツ活動からトップ・プロの動向など幅広く題材として扱い、スポ-ツの普及とは如何にあるべきかを考える。 〔講義概要〕1980 年から 1990 年は、メディアの発達、各種企業のグローバル化によってスポーツ・マーケティングの時代といわれている。このようにスポーツは、社会情勢の影響を受けながら人々の期待に応えてきた。そこで、我が国における体育とスポーツの関わりを歴史的背景から理解し、その発展過程から現代社会における体育・スポーツの問題を考えていく。特に組織論観点からマネジメントを捉え、我が国における現状のみならず、諸外国の事例なども扱ってスポーツ・マネジメントの理解を深めていく。 〔受講生への要望〕適宜資料を配布するので、ファイル等を用意することが望ましい。	〔授業計画〕 1.オリエンテーション 2.スポーツ・マネジメントの概要 3.我が国におけるスポーツ・体育の歴史的背景 4.スポーツ・マネジメントの研究動向 5.我が国におけるスポーツ組織の組織論的分析 6.マーケティングとイノベーション 7.諸外国のスポーツ・マネジメント（NCAA を事例に）① 8.諸外国のスポーツ・マネジメント（NCAA を事例に）② 9.マーケティングとイノベーション 10.学生スポーツのマネジメント① 11.学生スポーツのマネジメント② 12.プロスポーツのマネジメント 13.我が国における健康教育のマネジメント 14.これからのスポーツ・マネジメント 15.総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜資料を配布する。	〔評価方法〕出席状況、授業態度、そして期末試験の結果を総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
〔目的〕	〔授業計画〕
テキスト、参考文献	**評価方法**

08年度以降	自然・環境・人間２(コンピュータと言語)	担当者	呉 浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。	1. 講義の概要と目標、情報科学とは 2. データ表現、基数変換、論理演算 3. コンピュータの構成要素 4. ソフトウェアの役割、体系と種類 5. オペレーティングシステム（OS） 6. プログラム言語 7. データ構造―リスト、スタック、キュー、2分木 8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9. コンピュータによる言語情報処理技術（１） 10. コンピュータによる言語情報処理技術（２） 11. 機械翻訳システムの演習 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 授業のまとめ 15. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。	レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間２(情報検索と加工) 自然･環境･人間(Ⅳ)(情報検索と加工)	担当者	黄 海湘

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】情報爆発といわれている現代社会において，情報検索の技術を駆使し，いかに必要な情報を素早く，的確に見つける能力は不可欠である．本講義は情報検索の仕組を解説し，実習を通して「情報検索力」を身に付けることを目的とする． 【概要】情報検索システムの基本的な理論と方法について，講義形式とパソコンを使った実習形式で体験する． 　講義内容は，文系の学生でも理解できるように，情報検索の歴史，情報検索ための情報収集，情報整理，情報抽出，情報評価の順番で説明する． 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため，休まず出席すること．	1. 授業ガイダンス 2. 情報検索の基本（1）：パソコンの世界 3. 情報検索の基本（2）：情報の表現 4. 情報検索の基本（3）：データベース 5. 情報検索の種類 6. 情報検索システムの構成と役割 7. 情報の収集 8. 情報の整理（1） 9. 情報の整理（2） 10. 情報の抽出（1） 11. 情報の抽出（2） 12. 情報の検索と評価 13. 情報検索システムの例：図書検索 14. 情報検索システムの例：ネット検索 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：必要に応じて配布する 参考文献：原田，江草，小山，澤井共著『情報検索演習』新・図書館学シリーズ 6，2007（樹村房）	出席(20%)，レポート(20%)及び筆記試験(60%)により総合的に評価する．

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間２(マルチメディア論) 自然･環境･人間(Ⅳ)(マルチメディア論)	担当者	田中 雅英

講義目的、講義概要	授業計画
動画などは今やインターネットの世界では常識的なことになってきている。しかしそれは，ブログなどでただ単に指定通りに貼り付けるだけであり，その原理をマスターしている人は少ない。その基本的原理は，最近話題のパラパラ漫画であるが，その処理などを理解し，インターネットの世界での標準ともいえるソフトのフラッシュを用いて自分の力でコントロールできるようになることを目指す。もちろんこれは，ソフトの使いこなしだけを目指すのではなく，より一層の深化につなげられるものとしたい。基本的には自ら作画し，それを動かせるようにすることから始める。	1. ガイダンス 2. イラストの作成① 3. イラストの作成② 4. イラストの作品制作 5. アニメーションの基礎。モーショントゥイーン 6. シンボルの制作，保存。レイヤーの利用 7. 作品の制作① 8. トゥイーンアニメーション 9. シェイプトゥイーン① 10. シェイプトゥイーン② 11. 写真の利用 12. 作品の制作② 13. 作品の制作③ 14. 作品の制作④ 15. 作品の制作予備日
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適宜指示・配布する。	いくつかの作品を制作してもらい，それによって評価する。出席は重視し，欠席回数が多いと不可とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降	自然・環境・人間２（人間活動の自然環境への影響のデータからの理解）	担当者	中村 健治

講義目的、講義概要	授業計画
地球環境は人間活動により大きく変化しています。まず地球の自然状態を講義し、それを踏まえて、その自然環境の上での人間活動とその影響について述べます。その後、そのような実態のデータがどのようにして得られたのか、について主に大気環境を中心にして述べます。同時に、様々な図の見方と解釈について説明します。これらにより様々なデータを批判的に摂取するための基礎素養を得てもらいたいと思います。	自然について 1. 地球環境の形成 2. 地球の大気海洋の構造 3. 地球上の水循環 4. アジアモンスーン 5. 日本の気象 環境と人間について 6. 水と人間生活 7. アジアモンスーンと人間 8. 気候変動と人間 9. 地域規模の環境問題と地球規模の環境問題 10. 大気と水の環境と汚染 11. 具体例による議論演習 環境と測定 12. 集中豪雨とリスク管理 13. 現場観測（大気を例として） 14. 衛星リモートセンシング 15. 我々は何をすべきか
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：和田武、小堀洋美『現代地球環境論』（創元社、2011 年）	随時行う小レポート（60%）と試験（40%）で評価します。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間２(スポーツコーチ学 a) 自然･環境･人間(Ⅳ)(スポーツコーチ学 a)	担当者	依田 珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 スポーツ選手の競技力向上には身体機構、運動中の身体各部の機能や適応について理解し、各種トレーニングの計画・実践、また動作解析やゲーム分析などのパフォーマンスのチェックが欠かせません。そこで本講義では、スポーツに関わる身体の基本的な機能を学び、実際にスポーツパフォーマンスの向上に必要な様々な測定を経験し、各自のスポーツへの関わり方がその新たな知識を生かして工夫されることを目指します。 〔講義概要〕 基本的な身体機能および運動中の反応について概説します。実際にスポーツ中の生理データを測定し、試合の映像を持ち寄って分析を行い、その成果を発表します。またビデオなどを利用してスポーツ科学の現状についても紹介する予定です。 ★35周年記念館アリーナ、グラウンドを使用しますので、スポーツシューズと運動にふさわしい服装を用意してください。	1. ガイダンス 2. 身体の基本的な機能（骨格筋の働き） 3. 身体の基本的な機能（循環系の働き） 4. フィジカルテストの基礎 5. フィジカルテスト実践（グループワーク） 6. 動作分析の基礎 7. 動作分析①（測定・グループワーク） 8. 動作分析②（解析・グループワーク） 9. ゲーム分析の基礎編 10. ゲーム分析①（試合の分析・グループワーク） 11. ゲーム分析②（試合の分析・グループワーク） 12. 運動強度測定（予定：バスケ・卓球） 13. 運動強度測定（予定：サッカー・バレーボール） 14. 成果発表① 15. 成果発表② ＊講義の内容の順番は変わる可能性があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『イラスト運動生理学』　朝山正己　他編　東京共学社	出席、授業態度、グループ発表およびレポートの内容で総合的に判断します。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間２(スポーツコーチ学 b) 自然･環境･人間(Ⅳ)(スポーツコーチ学 b)	担当者	松原 裕

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツコーチ学のなかで特にコーチング方法について、実践・実習をすることを目的とする。 木曜日１時限に使用できる学内の施設を利用して、コーチングの実践・実習を行う。	第１回授業時、第２回授業時に提示します。 基本的なスポーツは次の通りですが、受講生の人数等で変更があります。 １　ガイダンス ２　スポーツコーチ学の概念と写真付受講票作成 ３　トレーニングルーム利用法① ４　トレーニングルーム利用法② ５　フットサルコーチング① ６　フットサルコーチング② ７　ソフトボールコーチング① ８　ソフトボールコーチング② ９　インラインホッケーコーチング① １０　インラインホッケーコーチング② １１　ショートテニスコーチング① １２　ショートテニスコーチング② １３　コーチング方法の分類① １４　コーチング方法の分類② １５　コーチング方法の分類③
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要により紹介し、プリントを配布する。	毎回の参加とコーチング方法の理解、最終レポートを総合して評価する。

08 年度以降	自然・環境・人間２(生理学Ⅰ)	担当者	依田 珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 生理学はその名の意味するように「生きる」ことの「理（ことわり)」を考える学問です。私達のからだは60兆個の様々な細胞がそれぞれに役割を担い、協調しながら生命活動を行っています。この講義では生命現象や生体機能の仕組みを学び，ヒトの身体の機能系統の器官と働きを理解することを目指します。 〔講義概要〕 講義内容は身体の仕組みや機能について概説し、実際に実験・測定を行い理解の促進を図ります。ここでは，呼吸，循環，消化・吸収，排泄，代謝といった生命現象，血液・体液，神経，内分泌，筋・骨といった機能系統について講義します。 また、各自が興味をもった「からだ」に関する情報を受講生同士（グループにわかれて）で発表・討論することで、共有する形式も取り入れます。	1. 生理学の基礎 2. 血液・体液 3. 循環 4. 呼吸 5. 消化・吸収 6. 排泄 7. 代謝・体温 8. 内分泌 9. 神経 10. 感覚 11. 筋・骨 12. プレゼンテーション① 13. プレゼンテーション② 14. プレゼンテーション③ 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
彼末一之・能勢博編『やさしい生理学（改訂第６版)』(南江堂) 田中越郎『イラストでまなぶ生理学（第２版)』(医学書院)	出席、授業態度、プレゼンテーション、レポート、試験結果に応じて評価します。

08 年度以降	自然・環境・人間２(生理学Ⅱ)	担当者	依田 珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 「脳」は身体の機能の司令塔であり、また心の源でもあります。そしてまだまだ未知な領域として多くの研究者がその機能の解明に取り組んでいます。この講義ではヒトの身体の制御機構である脳機能について学習し、様々な生理機能との関連を理解することを目指します。 〔講義概要〕 春学期の生理学Ⅰで学んだ身体の仕組みや機能の基礎を基に、秋学期は私達の身体の中枢である脳機能に焦点を当てて講義します。また睡眠、情動、言語、学習と記憶など、脳機能と関連する事象についても扱う予定です。 各自が興味をもった「脳機能」に関する情報を受講生同士（グループにわかれて）で発表・討論することで、共有する形式も取り入れます。	1. 神経科学の基礎 2. ニューロン・シナプス・神経伝達物質 3. 中枢神経系（大脳・小脳・脳幹・脊髄）と末梢神経系 4. 味覚・視覚・聴覚・平衡感覚・体性感覚① 5. 味覚・視覚・聴覚・平衡感覚・体性感覚② 6. 脳・脊髄による運動制御 7. 摂食調節（なぜ食べるのか) 8. 性と脳 9. 脳と情動 10. 脳と睡眠 11. 学習と記憶 12. プレゼンテーション① 13. プレゼンテーション② 14. プレゼンテーション③ 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
加藤宏司他監訳『カラー版神経科学－脳の探求－』西村書店	出席、授業態度、プレゼンテーション、レポート、試験結果に応じて評価します。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間２(リーダーシップ論) 自然･環境･人間(Ⅳ)(リーダーシップ論)	担当者	和田 智

講義目的、講義概要	授業計画
問題解決活動を実践し、その中から集団と個の関わりを考えてもらいます。問題解決活動は学生が互いに指導役割を交代しながら行うことで、指導経験の機会を得ることも目的としています。 グループ単位で企画作成と発表を行う過程でリーダーシップ理論を参考にしながら自己と他者の特性と役割を理解していくことを目標とします。 授業の最初には集団の形成に必要ないくつかの方法を実践します。次の段階ではリーダーシップ発現の機会としてのイニシアティブゲームを実施し、リーダーシップを取る人の特性について考えます。その人の性格と経験等の特性をサンプルとして扱いいくつかのリーダーシップ理論と対照します。次の段階では、イベント企画を題材として企画と実践に向けた取り組みの中で個々の学生が自分の役割を果たすトレーニングを実施します。 いくつかのグループによって提案された企画は投票によって１位を決定し、１位を取ったグループによってそのイベントが実施され、評価を含めたまとめを行います。 グループでの話し合いと実践が多いので出席が重視されます。	1 オリエンテーション 2 集団形成：アイスブレーキング 3 グループワークによる問題解決活動と発表 4 イニシアティブゲームによる問題解決活動１ 5 イニシアティブゲームによる問題解決活動２ 6 グループ内での課題についての討論と発表 7 リーダーシップ理論 8 イベント企画作成の手順 9 イベント企画コンテストに向けてのグループ討論 10 イベント企画案の作成 11 イベント企画プレゼンテーション第1回 12 イベント企画プレゼンテーション第2回 13 イベントの実施 14 イベントの評価とまとめ 15 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて資料を配布します。	出席、授業への取り組み姿勢、小レポート、期末レポート 企画コンテスト１位のグループは成績に反映します

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

07 年度以前	ことばと思想(Ⅲ)(日本語の談話と日本語教育)	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 談話分析についての基本的な知識と方法の習得を目的とする。談話分析は，前世紀の後半以降，文学，文化人類学，社会学，心理学などの分野とも関連して発展してきた言語の学である。本講義では，日本語教育の中上級の学習項目を談話論にもとめるという目標のもとで，談話とはなにか，どのような理論があり，どのような具体的分析が可能なのかを学習していく。 〔講義概要〕 授業は，ほぼテキストの目次にそって進展する。履修者は毎回の該当箇所を予習し，わからない点を明確にしてから出席することが要求される。教員から質問が「強制」されることもありうるので，よく準備をされたい。あわせて適宜，教員から議論の材料となる談話に関するデータまたはテキスト内のものもふくめた課題が提供されるので，授業内で，グループなどによる討論もおこなわれうる。	1. ガイダンスと談話論概説 2. 日本語の談話 3. 指示 4. 接続 5. 応答表現 6. 語順 7. 文法 8. 文体 9. 日本語の待遇 10. 敬語 11. 丁寧 12. 回避 13. 運用 14. 日本語教育と談話・待遇 15. 談話論のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
日本語記述文法研究会著『現代日本語文法7　談話待遇表現』くろしお出版(2009年)	試験をおこない，その結果で評価する。必要に応じてレポートを課すこともある。また，前提として出席をきびしく要求する。

07 年度以前	ことばと思想(Ⅲ)(日本語教材における学習項目の扱い)	担当者	小山 慎治

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は、日本語教育の教材作成の実践を通じて、言語コミュニケーションの能力の習得について考えることである。 授業では、日本語の授業における副教材の作成について学ぶ。この課題のために、教科書の分析、教材作成に関わる文献の講読を行う。 受講生には、初級レベルの会話教材、読解教材、漢字教材の作成、それらを用いた授業案の作成を課す。また、中級、上級レベルの授業を視野に入れ、ビデオ、新聞記事、小説などを教材として使用する方法について検討してもらう。 受講生による文献発表、教材の作成、作成過程および授業案の発表を軸に授業を進めることになるので、積極的に活動に参加し，クラスを活性化してくれる学生を特に歓迎する。	1　オリエンテーションと教材開発の概観 2　言語コミュニケーションと日本語教育 3　初級教材の作成：教科書の分析 4　初級教材の作成：会話教材作成 5　初級教材の作成：漢字教材作成 6　初級教材の作成：日本事情教材の作成 7　初級教材作成過程と授業案の発表 8　初級授業における教材の可能性 9　中上級教材の作成：教科書の分析 10　中上級教材の作成：会話教材の作成 11　中上級教材の作成：生の素材を用いた読解教材作成 12　中上級教材の作成：ビデオを用いた教材作成 13　中上級教材の作成：日本事情教材の作成 14　中上級教材作成過程と授業案の発表 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない 参考文献： 野田尚志（編）『コミュニケーションのための日本語文法』くろしお出版 関正昭ほか（編）『会話教材を作る』スリーエーネットワーク 関正昭ほか（編）『漢字教材を作る』スリーエーネットワーク 関正昭（編）『読解教材を作る』スリーエーネットワーク	クラスでの課題（30%）、クラス参加（30%）、最終課題（40%）の割合で評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

秋	スポーツ･レクリエーション(インラインスケートb)	担当者	和田 智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　インラインスケートについての知識、技術の習得によって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にします。初めは慣れない道具で不自由さに戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。前後方滑走、カーブ、方向転換までの技術習得を目標にします。 [講義概要] 　実施場所は室内アリーナです。インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進歩状況によって、授業計画は変えていきます。大学では、２２センチから２８センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。 足首上までのソックスを必ず着用すること。	第１回：オリエンテーション インラインスケートとは（ビデオ視聴）と用具あわせ 立ち方・歩き方・とまり方 第２回：「滑ることに慣れよう」ステップ 第３回：「滑ることに慣れよう」グライド 第４回：「からだを動かしてみよう」腕の使い方 第５回：「からだを動かしてみよう」ボディの使い方 第６回：「自由にからだを動かしてみよう」パイロンを使った練習 第７回：「自由にからだを動かしてみよう」ストックを使った練習 第８回：インラインホッケーの基本 第９回：インラインホッケーを楽しもう 第１０回：「後ろ向きになれよう」足の使い方 第１１回：「後ろ向きになれよう」ボディの使い方 第１２回：「後ろ向きになれよう」バックストロークのバリエーション 第１３回：「方向転換」カーブの練習 第１４回：「方向転換」スリーターン 第１５回：まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
特になし	出席状況と受講態度ならびに技術の向上度

春	スポーツ・レクリエーション(ウェルネス入門 a)	担当者	依田 珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 ウェルネスとは「積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことです。授業では『それぞれの健康観』を構築し、自らその理想とする健康生活を送るための知識と能力を身につけることを目的としています。 〔講義概要〕 いつでもどこでも気軽に体を動かすことのできる方法を学び、実践します。運動の強度は軽～中程度ですので、運動・スポーツが苦手でも十分取り組める内容です。またウェルネスに関する情報を毎回の授業でプリントなどを配布して提供します。主にトレーニングルームで行います。 〔受講生への要望〕 各自、トレーニングルーム用のシューズを必ず用意してください。運動にふさわしい服装で参加してください。 ★トレーニングルームが主な実技場所ですが、その他の場所を使うときにはあらかじめ授業時に連絡します。	1. ガイダンス 2. 自分の『ウェルネス』について考えてみよう 3. からだをほぐしてリラックス（ストレッチポール） 4. ストレッチングのススメ 5. 自分の体重を使って筋力アップ 6. 有酸素運動を理解しよう 7. きれいな姿勢のためのエクササイズ 8. ヨガの基本ポーズ① 9. ヨガの基本ポーズ② 10. ヨガの基本ポーズ③ 11. ヨガの基本ポーズ④ 12. バランスボールを使ったエクササイズ① 13. バランスボールを使ったエクササイズ② 14. バランスボールを使ったエクササイズ③ 15. 春学期の総まとめ （ただし、上記内容の順番は変更になる場合があります。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で指示する。	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

秋	スポーツ・レクリエーション(ウェルネス入門 b)	担当者	依田 珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 ウェルネスとは「積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことです。授業では『それぞれの健康観』を構築し、自らその理想とする健康生活を送るための知識と能力を身につけることを目的としています。 〔講義概要〕 いつでもどこでも気軽に体を動かすことのできる方法を学び、実践します。運動の強度は軽～中程度ですので、運動・スポーツが苦手でも十分取り組める内容です。またウェルネスに関する情報を毎回の授業でプリントなどを配布して提供します。主にトレーニングルームで行います。 〔受講生への要望〕 各自、トレーニングルーム用のシューズを必ず用意してください。またウォーキングなど外のプログラムもありますので、外運動用のシューズも必要です。運動にふさわしい服装で参加してください。 ★トレーニングルームが主な実技場所ですが、その他の場所を使うときにはあらかじめ授業時に連絡します。	1. これまでのプログラムを振り返る 2. 自分の体をチェック 3. ストレッチング・筋力アップ①・ヨガ 4. ストレッチング・筋力アップ②・ヨガ 5. ストレッチング・筋力アップ③・ヨガ 6. ストレッチング・筋力アップ④・ヨガ 7. バランスボール・エクササイズ① 8. バランスボール・エクササイズ② 9. ストレッチング・その場でステップ 10. 話題のエクササイズに挑戦① 11. 話題のエクササイズに挑戦② 12. 話題のエクササイズに挑戦③ 13. からだをあたためるエクササイズ 14. リクエスト・プログラム 15. 秋学期の総まとめ （ただし、上記内容の順番は変更になる場合があります。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で指示する。	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

春	スポーツ・レクリエーション(エアロビックダンス a)	担当者	中村 恭子

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目標] 音楽のリズムに合わせて楽しく有酸素運動を行うことで新陳代謝を高めるとともに、全身持久力、筋力、調整力（リズム感、協応性、巧緻性、平衡性、柔軟性など）を高めます。また、運動の効果を実感し、安全で効果的な動き方・運動への取り組み方を理解して、生涯にわたって運動に親しむ資質を身に付けます。 [講義概要] エアロビックダンスの基礎から始め、受講者の理解度に合わせて、毎回新しい動きを加え、徐々に運動強度・難度を上げていきます。複雑な動きの組み合わせにも挑戦し、元気に、力強く、器用に動ける体を作ります。 [準備物] 動きやすい服装、体育館シューズ、タオル、水	1．オリエンテーション、エアロビックダンスの特性 2．エアロビックダンスの基礎、ステップ名称の理解 3．ローインパクトのエクササイズ① 4．ローインパクトのエクササイズ② 5．ローインパクトのエクササイズ③ 6．ローインパクトのエクササイズ④ 7．ハイインパクトのエクササイズ① 8．ハイインパクトのエクササイズ② 9．ハイインパクトのエクササイズ③ 10. ハイインパクトのエクササイズ④ 11. コンビネーション・エクササイズ① 12. コンビネーション・エクササイズ② 13. コンビネーション・エクササイズ③ 14. コンビネーション・エクササイズ④ 15. コンビネーション・エクササイズ⑤ ※各回の内容は受講生の理解度に合わせて変更する可能性があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席回数、授業への参加態度、実技の達成度、学習カードの記述内容から総合的に評価します。

秋	スポーツ・レクリエーション(エアロビックダンス b)	担当者	中村 恭子

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目標] 音楽のリズムに合わせて楽しく有酸素運動を行うことで新陳代謝を高めるとともに、全身持久力、筋力、調整力（リズム感、協応性、巧緻性、平衡性、柔軟性など）を高めます。また、運動の効果を実感し、安全で効果的な動き方・運動への取り組み方を理解して、生涯にわたって運動に親しむ資質を身に付けます。 [講義概要] エアロビックダンスの基本から始め、受講者の理解度に合わせて、ステップ台を用いたエクササイズや、ラテン系やヒップホップ系のダンスムーブメントを取り入れたエクササイズへと展開していきます。エアロビックダンスの応用プログラムを体験し、多様な動きを楽しみます。 [準備物] 動きやすい服装、体育館シューズ、タオル、水	1．エアロビックダンスの基礎 2．ローインパクトのエクササイズ① 3．ローインパクトのエクササイズ② 4．ハイインパクトのエクササイズ① 5．ハイインパクトのエクササイズ② 6．ステップ台を用いたエクササイズ① 7．ステップ台を用いたエクササイズ② 8．ステップ台を用いたエクササイズ③ 9．ステップ台を用いたエクササイズ④ 10. ラテン系のエクササイズ① 11. ラテン系のエクササイズ② 12. ラテン系のエクササイズ③ 13. ヒップホップ系のエクササイズ① 14. ヒップホップ系のエクササイズ② 15. ヒップホップ系のエクササイズ③ ※各回の内容は受講生の理解度に合わせて変更する可能性があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席回数、授業への参加態度、実技の達成度、学習カードの記述内容から総合的に評価します。

春	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ a)	担当者	小笠原 慶太

講義目的、講義概要	授業計画
ゴルフは、正しい知識を身につけることによって生涯にわたって楽しめるスポーツです。そのためには基本となる技術、ルールの理解、正しいマナーの習得が求められます。授業では、ショートアイアンを中心にスウィングをつくります。また、ルールやマナーについても細かく説明をし、ゴルフというスポーツを正しく理解してもらいます。 他の競技に比べ初心者が多いこと、また人それぞれ打ち方が違うため、個別指導中心の授業になります。 【受講者へ】 ゴルフ練習場での授業には、ボール購入にお金が掛かります。また危険防止の為、練習中はグローブ着用を義務付けます。必ず用意して下さい。	1. オリエンテーション 2. 学内にてスウィング作り（アドレス・グリップ） 3. 学内にてスウィング作り（アドレス・グリップ） 4. 学内にて実習（ショートアイアン） 5. 学内にて実習（ショートアイアン） 6. 学内にて実習（ミニゲーム・ルール学習） 7. 学内にて実習（ミニゲーム・ルール学習） 8. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 9. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 10. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 11. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 12. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 13. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 14. ゴルフ練習場にて実習（個別指導） 15. ゴルフ練習場にて実習（個別指導）
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席状況、授業態度、技能の向上度で評価する。

秋	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ b)	担当者	小笠原 慶太

講義目的、講義概要	授業計画
ゴルフは、正しい知識を身につけることによって生涯にわたって楽しめるスポーツです。そのためには基本となる技術、ルールの理解、正しいマナーの習得が求められます。授業では、ショートアイアンを中心にスウィングをつくります。また、ルールやマナーについても細かく説明をし、ゴルフというスポーツを正しく理解してもらいます。 他の競技に比べ初心者が多いこと、また人それぞれ打ち方が違うため、個別指導中心の授業になります。 【受講者へ】 ゴルフ練習場での授業には、ボール購入にお金が掛かります。また危険防止の為、練習中はグローブ着用を義務付けます。必ず用意して下さい。	1. 学内にてスウィング作り（アドレス・グリップ） 2. ゴルフ練習場にて実習（スウィングチェック） 3. ゴルフ練習場にて実習（スウィングチェック） 4. ゴルフ練習場にて実習（アプローチ） 5. ゴルフ練習場にて実習（アプローチ） 6. ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン） 7. ゴルフ練習場にて実習（ミドルアイアン） 8. ゴルフ練習場にて実習（ミドルアイアン） 9. ゴルフ練習場にて実習（フェアウェイ・ウッド） 10. ゴルフ練習場にて実習（フェアウェイ・ウッド） 11. ゴルフ練習場にて実習（ドライバー） 12. ゴルフ練習場にて実習（ドライバー） 13. ルール学習 14. ルール学習 15. ルール学習
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席状況、授業態度、技能の向上度で評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

秋	スポーツ・レクリエーション（コンディショントレーニング）	担当者	松原 裕

講義目的、講義概要	授業計画
良いパフォーマンスを得る為の用意として、ひとりひとりが自分の身体の状況に関心を持ち、正しく理解すること、身体の良いコンディションを理解し、整えること、疲労を軽減すること、身体の動きを良くすることを目的とする。良い姿勢とは何か、良いポジションとは何か、について色々な角度から考えてみる。 学生センター2 階のトレーニングルームを使用して授業を行い、毎回、前半は二人組によるお互いの身体の調整を行う。後半は個人の目標に応じてトレーニングメニューを考えて実行し評価する。	１．　授業ガイダンス ２．　写真付登録票の作成 ３．　現在のコンディションの評価 ４．　二人組骨盤調整と姿勢①＆個別トレーニング ５．　二人組骨盤調整と姿勢②＆個別トレーニング ６．　二人組骨盤調整と姿勢③＆個別トレーニング ７．　二人組操体法①＆個別トレーニング ８．　二人組操体法②＆個別トレーニング ９．　二人組操体法③＆個別トレーニング １０．身体の動きとコンディション① １１．身体の動きとコンディション② １２．身体の動きとコンディション③ １３．骨格の位置と動き① １４．骨格の位置と動き② １５．最終回でのコンディションの評価

テキスト、参考文献	評価方法
必要に応じて紹介する。	毎回の、出席、受講態度、理解度などを総合して評価する。

春	スポーツ・レクリエーション(サッカーa)	担当者	大森 一伸

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】 １．好きなサッカーを定期的に楽しく実践することによって、運動習慣を身に付けるきっけかにする。 ２．サッカーの戦術を理解し、その戦術を自ら意図してプレーできるようになる。 【講義の概要】 授業では、サッカーの攻撃についてテーマを設定しています。各テーマに沿ったウォーミングアップ、技術戦術トレーニングを30分程度行い、その後ゲームを実践します。天候等によりグランドが使用できないときには、体育館でミニサッカーを行うか、サッカーの歴史・ルールやサッカーサイエンスについて講義します。 【学生への要望】 「どんなに忙しくても、授業でサッカーはやりたい！」という皆さんが多く受講することを期待しています。	１．　ガイダンス ２．　楽しくプレーするを考える① ３．　楽しくプレーするを考える② ４．　シンプルにプレーするを考える① ５．　シンプルにプレーするを考える② ６．　プレーを伝える、理解する① ７．　プレーを伝える、理解する② ８．　攻撃に人数をかける① ９．　攻撃に人数をかける② １０．動きながらボールを受ける① １１．動きながらボールを受ける② １２．１つ２つ先のプレーを考える① １３．１つ２つ先のプレーを考える② １４．一人で守備はできない① １５．一人で守備はできない② （ただし、講義のスケジュールは変更になる場合があります。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に購入の必要はありません。	出席と、戦術技術トレーニングや試合への取り組む姿勢を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

秋	スポーツ・レクリエーション(サッカーb)	担当者	大森 一伸

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】 １．好きなサッカーを定期的に楽しく実践することによって、運動習慣を身に付けるきっけかにする。 ２．サッカーの戦術を理解し、その戦術を自ら意図してプレーできるようになる。 【講義の概要】 授業では、サッカーの攻撃についてテーマを設定しています。各テーマに沿ったウォーミングアップ、技術戦術トレーニングを30分程度行い、その後ゲームを実践します。天候等によりグランドが使用できないときには、体育館でミニサッカーを行うか、サッカーの歴史・ルールやサッカーサイエンスについて講義します。 【学生への要望】 「どんなに忙しくても、授業でサッカーはやりたい！」という皆さんが多く受講することを期待しています。	１．　ガイダンス ２．　楽しくプレーするを考える① ３．　楽しくプレーするを考える② ４．　シンプルにプレーするを考える① ５．　シンプルにプレーするを考える② ６．　プレーを伝える、理解する① ７．　プレーを伝える、理解する② ８．　攻撃に人数をかける① ９．　攻撃に人数をかける② １０．動きながらボールを受ける① １１．動きながらボールを受ける② １２．１つ２つ先のプレーを考える① １３．１つ２つ先のプレーを考える② １４．一人で守備はできない① １５．一人で守備はできない② （ただし、講義のスケジュールは変更になる場合があります。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に購入の必要はありません。	出席と、戦術技術トレーニングや試合への取り組む姿勢を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

春	スポーツ・レクリエーション(サッカーa)	担当者	西川 誠太

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ 1．サッカーの実践者（競技者や指導者など）として、あるいは観戦者としてより楽しく関われるための知識や技能の習得。 2．サッカーというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。 ［講義概要］ 受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、技術戦術に限らずサッカーの様々なトピックを取り扱うことで、サッカーを多角的に捉えることに努めサッカーへの理解を深める。 ［受講生への要望］ 第1回のガイダンス（注意事項伝達）に必ず出席すること。とにかくサッカーをより楽しみたいと願っている学生の受講を希望します。	1．ガイダンス 2．ボールを飛ばす技術①、スモールサイドゲーム 3．ボールを飛ばす技術②、スモールサイドゲーム 4．ボールを受ける技術①、スモールサイドゲーム 5．ボールを受ける技術②、スモールサイドゲーム 6．ボールを運ぶ技術①、スモールサイドゲーム 7．ボールを運ぶ技術②、スモールサイドゲーム 8．ボールを奪う技術①、スモールサイドゲーム 9．ボールを奪う技術②、スモールサイドゲーム 10. 技術・戦術トレーニングの理論と実践① 11. 技術・戦術トレーニングの理論と実践② 12. サッカーの歴史、ルール 13. ゲーム実践（リーグ戦） 14. ゲーム実践（リーグ戦） 15. ゲーム実践（リーグ戦）
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点 60%、実践力・グループへの貢献度・授業態度 40%とした総合評価

秋	スポーツ・レクリエーション(サッカーb)	担当者	西川 誠太

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ 1．サッカーの実践者（競技者や指導者など）として、あるいは観戦者としてより楽しく関われるための知識や技能の習得。 2．サッカーというチームスポーツを通して、人とのコミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を育む。 ［講義概要］ 受講生の技能レベルに応じて課題を設定し、ゲームでの実践力を身につける。また、技術戦術に限らずサッカーの様々なトピックを取り扱うことで、サッカーを多角的に捉えることに努めサッカーへの理解を深める。 ［受講生への要望］ 第1回のガイダンス（注意事項伝達）に必ず出席すること。とにかくサッカーをより楽しみたいと願っている学生の受講を希望します。	1．ガイダンス 2．ボールフィーリング、スモールサイドゲーム 3．4つの技術要素の確認①、スモールサイドゲーム 4．4つの技術要素の確認②、スモールサイドゲーム 5．技術・戦術トレーニングの理論と実践① 6．技術・戦術トレーニングの理論と実践② 7．グループ・チーム戦術① 8．グループ・チーム戦術② 9．グループ・チーム戦術③ 10. サッカーの歴史、ルール 11. ゲーム実践（リーグ戦） 12. ゲーム実践（リーグ戦） 13. ゲーム実践（リーグ戦） 14. ゲーム実践（リーグ戦） 15. ゲーム実践（リーグ戦）
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点 60%、実践力・グループへの貢献度・授業態度 40%とした総合評価

春	スポーツ・レクリエーション(スポーツ型デトックス a)	担当者	齋藤 初恵

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 スポーツ型デトックスでは、エクササイズを行うことにより身体の調整を行い、代謝機能を高めるとともに老廃物をスムーズに排泄できる身体づくり、つまりデトックスしやすい身体づくりを目指します。また、この授業内で行うエクササイズは、いずれも自分自身の心身と向きあったり、楽しんで行うことが目的です。この授業を通して自分に合ったエクササイズを見つけられたら、ぜひ生活の中に取り入れていって欲しいと思います。 ○ ポール&コアコンディショニング：ストレッチポールを使用し、本来の正しい姿勢へと身体を調整します。 ○ ベーシックヨーガ：深い呼吸とポーズを組み合わせることにより、心と身体を調和させるとともに、心身のリフレッシュを行います。 ○ 骨盤調整エクササイズ：骨盤にフォーカスしたエクササイズを行うことで、身体の歪みの調整や体幹の調整を目指します。 【準備するもの】 運動のできるウェア、室内シューズ、タオル、水（真水のみ可）	1 オリエンテーション 年間授業計画の説明　実施上の諸注意 2 スポーツ型デトックスについて ポール&コアコンディショニング① 3 ポール&コアコンディショニング② 4 ポール&コアコンディショニング③ 5 ポール&コアコンディショニング④ 6 ポール&コアコンディショニング⑤ 7 ベーシックヨーガ① 8 ベーシックヨーガ② 9 ベーシックヨーガ③ 10 ベーシックヨーガ④ 11 ベーシックヨーガ⑤ 12 骨盤調整エクササイズ① 13 骨盤調整エクササイズ② 14 骨盤調整エクササイズ③ 15 骨盤調整エクササイズ④
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし	出席状況、授業への参加態度等により評価します。

秋	スポーツ・レクリエーション(スポーツ型デトックス b)	担当者	齋藤 初恵

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、各種のエクササイズを行うことで身体の調整を行い、代謝機能を高めるとともに、老廃物をスムーズに排泄できる（デトックスしやすい）身体づくりを目指します。 ○ ポール&筋コンディショニング：ストレッチポールで本来の正しい姿勢へと身体を調整します。また、筋コンディショニングでは体幹部（コア）の筋肉を鍛えます。 ○ パワーヨーガ：深い呼吸とポーズを組み合わせることにより、心とからだを調和させるとともに、身体のデトックス機能向上と心のリフレッシュを行います。また、ポーズを連続的に行うことにより、有酸素運動効果をも取り入れます。 ○ 骨盤調整エクササイズ：骨盤にフォーカスしたエクササイズを有酸素運動と組み合わせて行うことで、身体の歪みの調整や体幹の調整とともに、よりデトックスしやすい身体づくりを目指します。 【準備するもの】 運動のできるウェア、室内シューズ、タオル、水（真水のみ可）	1 スポーツ型デトックスについて ポール&筋コンディショニング① 2 ポール&筋コンディショニング② 3 ポール&筋コンディショニング③ 4 ポール&筋コンディショニング④ 5 ポール&筋コンディショニング⑤ 6 パワーヨーガ① 7 パワーヨーガ② 8 パワーヨーガ③ 9 パワーヨーガ④ 10 パワーヨーガ⑤ 11 骨盤調整エクササイズ① 12 骨盤調整エクササイズ② 13 骨盤調整エクササイズ③ 14 骨盤調整エクササイズ④ 15 骨盤調整エクササイズ
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし	出席状況、授業への参加態度等により評価します。

春	スポーツ・レクリエーション(ソフトボール a)	担当者	萩野 元祐

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 [講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 [受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。	1. オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。 2. ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的技能練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習 3. 前回の復習 ゲームの実施 4. バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、スイング）　リーグ戦 5. 前回の復習。リーグ戦 6. リーグ戦 7. 守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習 リーグ戦 8. 前回の復習 リーグ戦 9. リーグ戦 10. リーグ戦 11. リーグ戦 12. リーグ戦 13. リーグ戦 14. リーグ戦 15. リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席３回を越えた者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。

秋	スポーツ・レクリエーション(ソフトボール b)	担当者	萩野 元祐

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 [講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 [受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。	1. オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。 2. ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的技能練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習 3. 前回の復習 ゲームの実施 4. バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、スイング）　リーグ戦 5. 前回の復習。リーグ戦 6. リーグ戦 7. 守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習 リーグ戦 8. 前回の復習 リーグ戦 9. リーグ戦 10. リーグ戦 11. リーグ戦 12. リーグ戦 13. リーグ戦 14. リーグ戦 15. リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席が３回を越えた者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。

春	スポーツ・レクリエーション（卓球 a）	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 　敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献出来ること。 ［講義概要］ 　基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 ［受講者への要望］ 　技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館シューズを用意すること。	１．オリエンテーション 　　授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 ２．実技授業の開始　用具の準備と片づけの仕方と基本知識動作などについて ３．ボールの打ち方・スイングの基本 ４．サーブ・レシーブの練習　　簡易ゲーム ５．フォアーハンド・バックハンドの練習　　簡易ゲーム ６．上記の復習 ７．カット・スマッシュ練習　シングルスゲーム ８．グループ内でのシングルスリーグ戦 ９．上記に同じ 10．上記に同じ 11．各グループ同順位リーグ戦 12．上記に同じ 13．技能テスト 14．上記に同じ 15．上記に同じ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席４回以上の者に対しては、評価の対象としない。

秋	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 　敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献出来ること。 ［講義概要］ 　基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 ［受講者への要望］ 　技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館シューズを用意すること。	１．基本的技術の春学期の復習 ２．上記と同じ　　ダブルスの動き ３．ダブルスの簡易ゲーム ４．上記と同じ ５．上記と同じ ６．日替わりチーム編成をしチーム内でのダブルスリーグ戦 ７．上記と同じ ８．上記と同じ ９．固定チームを編成しチーム対抗戦１ 10．チーム対抗戦２ 11．チーム対抗戦３ 12．チーム対抗戦４ 13．技能テスト 14．上記に同じ 15．上記に同じ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席４回以上の者に対しては、評価の対象としない。

春	スポーツ・レクリエーション(卓球 a)	担当者	神宮司 親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的な練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。	1．オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2．用具の準備と片づけ方 基本知識（ラケットの種類・持ち方、基本姿勢） 3．ボールの打ち方・スイングの基本 4．フォアハンド・バックハンドの練習　簡易ゲーム 5．サービス・レシーブの練習　簡易ゲーム 6．フォアハンドロング・バックハンドショート 7．カット・スマッシュ 8．審判法とゲームの進め方　シングルスゲーム 9．シングルスゲーム 10. シングルスゲーム 11. ダブルスゲームの進め方・シングルスゲームとの違い ダブルスゲーム 12. ダブルスゲーム　パートナーの動きを考える 13. ダブルスゲーム 14. まとめ①（シングルスゲーム） 15. まとめ②（ダブルスゲーム）
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数 4 回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関等の特別な事情以外の遅刻は認めない。

秋	スポーツ・レクリエーション(卓球 b)	担当者	神宮司 親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的な練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。	1．復習　基本練習　シングルスゲーム 2．復習　基本練習　ダブルスゲーム 3．決定打までの組み立て チーム編成とシングルスゲーム・チーム内リーグ戦 4．シングルスゲーム・チーム内リーグ戦 5．シングルスゲーム・チーム対抗戦 6．上に同じ 7．ダブルスゲーム・チーム内リーグ戦 8．ダブルスゲーム・チーム対抗戦 9．上に同じ 10. シングルス・トーナメント戦 11. ダブルス・トーナメント戦 12. ミックスダブルス 13. ミックスダブルス・リーグ戦 14. チーム対抗戦（シングルスゲーム・ダブルスゲーム） 15. 総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数 4 回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関等の特別な事情以外の遅刻は認めない。

春	スポーツ・レクリエーション(卓球 a)	担当者	山口 知恵

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが一番です。 また、スポーツを通してもっと自分のことをよく知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、卓球という種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。	1. オリエンテーション 2. 卓球導入、ラケットとボールに慣れる（ボール遊び） 3. 構え、スイングの練習（フォアハンド、バックハンド） 4. サービスとサーブレシーブの練習 5. シングルスゲーム（ルールの習得） 6. シングルスゲーム 7. シングルスゲーム 8. ダブルスゲーム（ルールの習得） 9. ダブルスゲーム 10. ダブルスゲーム 11. ダブルスゲーム 12. チーム団体戦（団体戦の形式を覚える） 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を主に、授業への参加態度などを総合して決めます。

秋	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	山口 知恵

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが一番です。 また、スポーツを通してもっと自分のことをよく知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、卓球という種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。	1. 基本的な打ち方の練習（ボールとラケットに慣れる） 2. フォアハンド、バックハンド、スマッシュなどの練習 3. サービス、レシーブの練習 4. シングルスゲーム（ルールの習得） 5. シングルス・リーグ戦 6. シングルス・リーグ戦 7. シングルス・リーグ戦 8. ダブルスゲーム（ルールの習得） 9. ダブルス・リーグ戦 10. ダブルス・リーグ戦 11. ダブルス・リーグ戦 12. チーム団体戦（団体戦の形式を覚える） 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を主に、授業への参加態度などを総合して決めます。

春	スポーツ・レクリエーション(卓球 a)	担当者	大森　一伸

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが一番です。 また、スポーツを通してもっと自分のことをよく知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、卓球という種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。 （受講者の人数・経験等により内容は変更となる可能性がある）	1. オリエンテーション 2. 卓球導入、ラケットとボールに慣れる（ボール遊び） 3. 構え、スイングの練習（フォアハンド、バックハンド） 4. サービスとサーブレシーブの練習 5. シングルスゲーム（ルールの習得） 6. シングルスゲーム 7. シングルスゲーム 8. ダブルスゲーム（ルールの習得） 9. ダブルスゲーム 10. ダブルスゲーム 11. ダブルスゲーム 12. チーム団体戦（団体戦の形式を覚える） 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を主に、授業への参加態度などを総合して決めます。

秋	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	大森　一伸

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが一番です。 また、スポーツを通してもっと自分のことをよく知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、卓球という種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。 （受講者の人数・経験等により内容は変更となる可能性がある）	1. 基本的な打ち方の練習（ボールとラケットに慣れる） 2. フォアハンド、バックハンド、スマッシュなどの練習 3. サービス、レシーブの練習 4. シングルスゲーム（ルールの習得） 5. シングルス・リーグ戦 6. シングルス・リーグ戦 7. シングルス・リーグ戦 8. ダブルスゲーム（ルールの習得） 9. ダブルス・リーグ戦 10. ダブルス・リーグ戦 11. ダブルス・リーグ戦 12. チーム団体戦（団体戦の形式を覚える） 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を主に、授業への参加態度などを総合して決めます。

春	スポーツ・レクリエーション(卓球 a)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが一番です。 また、スポーツを通してもっと自分のことをよく知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、卓球という種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。 （受講者の人数・経験等により内容は変更となる可能性がある）	1. オリエンテーション 2. 卓球導入、ラケットとボールに慣れる（ボール遊び） 3. 構え、スイングの練習（フォアハンド、バックハンド） 4. サービスとサーブレシーブの練習 5. シングルスゲーム（ルールの習得） 6. シングルスゲーム 7. シングルスゲーム 8. ダブルスゲーム（ルールの習得） 9. ダブルスゲーム 10. ダブルスゲーム 11. ダブルスゲーム 12. チーム団体戦（団体戦の形式を覚える） 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を主に、授業への参加態度などを総合して決めます。

秋	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが一番です。 また、スポーツを通してもっと自分のことをよく知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、卓球という種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。 （受講者の人数・経験等により内容は変更となる可能性がある）	1. 基本的な打ち方の練習（ボールとラケットに慣れる） 2. フォアハンド、バックハンド、スマッシュなどの練習 3. サービス、レシーブの練習 4. シングルスゲーム（ルールの習得） 5. シングルス・リーグ戦 6. シングルス・リーグ戦 7. シングルス・リーグ戦 8. ダブルスゲーム（ルールの習得） 9. ダブルス・リーグ戦 10. ダブルス・リーグ戦 11. ダブルス・リーグ戦 12. チーム団体戦（団体戦の形式を覚える） 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を主に、授業への参加態度などを総合して決めます。

春	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 a)	担当者	大森 一伸

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】本講義では週1回のトレーニングプログラムで筋力アップ・シェイプアップにチャレンジします。 **【講義の概要】**ウエイトトレーニング、体幹トレーニング、有酸素性トレーニングの代表的な種目を選びトレーニングを実践します。まず第2週目の授業でトレーニング前の最大筋力、身体組成を計測し、各自の目標を設定しトレーニングプログラムを作成します。その後、毎週各自のプログラムに従ってトレーニングを継続し、第15週目の授業でトレーニング後の最大筋力、身体組成を計測し、トレーニングの成果を評価します。 　各種トレーニングの効果に関する科学的根拠を理解し、自身の健康つくりに役に立ててもらいたいと考えています。そのために、授業中に小講義を数回おこないます。 **【学生への要望】**トレーニングルーム用のシューズと運動に相応しいウエアを必ず用意してください。トレーニング後は筋肉痛が生じることがあることを承知してください。	１．　ガイダンス ２．　トレーニング前計測・講義① ３．　トレーニング① ４．　トレーニング② ５．　トレーニング③ ６．　トレーニング④ ７．　トレーニング⑤ ８．　トレーニング⑥・講義② ９．　トレーニング⑦ １０．トレーニング⑧ １１．トレーニング⑨ １２．トレーニング⑩ １３．トレーニング⑪ １４．トレーニング⑫ １５．トレーニング後計測・講義③ （ただし、講義のスケジュールは変更になる場合があります。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に購入の必要はありません。講義のときに資料を配布します。	出席とトレーニングへの取り組む姿勢を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

秋	スポーツ・レクリエーション(トレーニング入門 b)	担当者	大森 一伸

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】本講義では週1回のトレーニングプログラムで筋力アップ・シェイプアップにチャレンジします。 **【講義の概要】**ウエイトトレーニング、体幹トレーニング、有酸素性トレーニングの代表的な種目を選びトレーニングを実践します。まず第2週目の授業でトレーニング前の最大筋力、身体組成を計測し、各自の目標を設定しトレーニングプログラムを作成します。その後、毎週各自のプログラムに従ってトレーニングを継続し、第15週目の授業でトレーニング後の最大筋力、身体組成、形態計測を計測し、トレーニングの成果を評価します。 　各種トレーニングの効果に関する科学的根拠を理解し、自身の健康つくりに役に立ててもらいたいと考えています。そのために、授業中に小講義を数回おこないます。 **【学生への要望】**トレーニングルーム用のシューズと運動に相応しいウエアを必ず用意してください。トレーニング後は筋肉痛が生じることがあることを承知してください。	１．　ガイダンス ２．　トレーニング前計測・講義① ３．　トレーニング① ４．　トレーニング② ５．　トレーニング③ ６．　トレーニング④ ７．　トレーニング⑤ ８．　トレーニング⑥・講義② ９．　トレーニング⑦ １０．トレーニング⑧ １１．トレーニング⑨ １２．トレーニング⑩ １３．トレーニング⑪ １４．トレーニング⑫ １５．トレーニング後計測・講義③ （ただし、講義のスケジュールは変更になる場合があります。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に購入の必要はありません。講義のときに資料を配布します。	出席とトレーニングへの取り組む姿勢を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

春	スポーツ・レクリエーション(ニュースポーツ a)	担当者	村山 光義

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 1. 世界の様々なスポーツ文化・人間の遊びの文化を体験し理解する。 2. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 [講義概要] 手軽に楽しめるニュースポーツを紹介し、新たなスポーツ文化を体験するとともに、仲間とのコミュニケーションをはかります。ターゲットバードゴルフ、ペタンク、キンボール、フリスビーを使った競技など、幅広いニュースポーツ種目を数回ずつ体験していきます。雨天時にはニュースポーツの紹介・スポーツの歴史に関する講義を行うこともあります。なお、体験を重視し、技術の出来栄えは問いません。 [受講者への要望] スポーツは、金メダルや優勝を目指すチャンピオンスポーツばかりでなく、日常生活の気晴らし・Recreation としての「遊び」要素をもっています。世界のニュースポーツを体験しながら、人間と遊びの関係を考えてみましょう。	1．イントロダクション（各種スポーツの紹介・説明） 2．Flying Disc（フリスビー）を使った競技、投法練習 3．　〃　個人種目　アキュラシー (的通し競技)ほか 4．　〃　集団ゲーム　アルティメット 5．　〃　ディスクゴルフ　ラウンド 6．ターゲットバードゴルフ　技術練習 7．　〃　ラウンド 8．ペタンク 9-10. インディアカ 11-12. ユニバーサルホッケー 13-14. キンボール 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席(60%)、理解(20%)、態度(20%)の 3 項目で評価します。 理解は内省報告や簡単なレポートによって評価します。 態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。

秋	スポーツ・レクリエーション(ニュースポーツ b)	担当者	村山 光義

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 1. 世界の様々なスポーツ文化・人間の遊びの文化を体験し理解する。 2. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 [講義概要] 手軽に楽しめるニュースポーツを紹介し、新たなスポーツ文化を体験するとともに、仲間とのコミュニケーションをはかります。ターゲットバードゴルフ、ペタンク、キンボール、フリスビーを使った競技など、幅広いニュースポーツ種目を数回ずつ体験していきます。雨天時にはニュースポーツの紹介・スポーツの歴史に関する講義を行うこともあります。なお、体験を重視し、技術の出来栄えは問いません。 [受講者への要望] スポーツは、金メダルや優勝を目指すチャンピオンスポーツばかりでなく、日常生活の気晴らし・Recreation としての「遊び」要素をもっています。世界のニュースポーツを体験しながら、人間と遊びの関係を考えてみましょう。	1．イントロダクション（各種スポーツの紹介・説明） 2．Flying Disc（フリスビー）を使った競技、投法練習 3．　〃　個人種目　アキュラシー (的通し競技)ほか 4．　〃　集団ゲーム　アルティメット 5．　〃　ディスクゴルフ　ラウンド 6．ターゲットバードゴルフ　技術練習 7．　〃　ラウンド 8．ペタンク 9-10. インディアカ 11-12. ユニバーサルホッケー 13-14. キンボール 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席(60%)、理解(20%)、態度(20%)の 3 項目で評価します。 理解は内省報告や簡単なレポートによって評価します。 態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。

春	スポーツ・レクリエーション(バスケットボール a)	担当者	川北 準人

講義目的、講義概要	授業計画
〔目的〕バスケットボールは、我が国において競技人口の多いスポーツの一つでありプロリーグの発足などさらに人気が高まっている。そのバスケットボールの特性およびルールの理解を深め、基本的な個人技能、集団技能を習得することを目的とする。また、スポーツの原点“遊び”を踏まえながらチームスポーツとしての競技特性を体系的に理解しバスケットボールの楽しさを知る。 〔講義概要〕バスケットボールの技術・戦術の習得はもちろん、指導法、審判法などの習得も目指す。授業は初心者・初級者の基本的技術習得を中心に行うが、ゲームを通じての実践的な技術向上を目指すためにも早い段階からゲームを行っていく。具体的には、個人技能の習得に重点を置いたプログラムによって、その日の課題を明確にし、段階的に高度な集団技能へと発展していく。また、「する」「みる」「支える」「知る」のそれぞれの観点から、授業を展開することにより今日のバスケットボール競技の抱える諸問題、教育的可能性、さらには競技力向上にも言及していく。 〔受講生への要望〕　各自、バスケットボールシューズ（室内シューズ）及び運動にふさわしい服装を用意してください。腕時計、指輪、ピアス等は危険防止のために必ず外してください。	〔授業計画〕 1.オリエンテーション 2.ゲームの特性・ルールの理解 3.オフェンス・ファンダメンタル①（ボールハンドリング） 4.オフェンス・ファンダメンタル②（シュート） 5.オフェンス・ファンダメンタル③（ドリブル） 6.オフェンス・ファンダメンタル④（パス） 7.チーム・オフェンス①（パス及びドリブルからの展開） 8.チーム・オフェンス②（ハーフコート２ON２、３ON３ブレイクダウン） 9.チーム・オフェンス③（ファストブレイク） 10.ディフェンス・ファンダメンタル①（オンボールディフェンス） 11.ディフェンス・ファンダメンタル②（オフボールディフェンス） 12.チーム・ディフェンス①（シェル・ディフェンス） 13.リーグ編成とイベントマネジメント 14.リーグ戦 15.リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	〔評価方法〕 出席、授業態度を重視します。遅刻は減点の対象とします。

秋	スポーツ・レクリエーション(バスケットボール b)	担当者	川北 準人

講義目的、講義概要	授業計画
〔目的〕バスケットボールは、我が国において競技人口の多いスポーツの一つであり、プロリーグの発足などさらに人気が高まっている。そのバスケットボールの特性およびルールの理解を深め、基本的な個人技能、集団技能を習得することを目的とする。また、スポーツの原点である“遊び”を踏まえながら、チームスポーツとしての競技特性を体系的に理解し、バスケットボールの楽しさを知る。 〔講義概要〕　授業は初級者以上の経験者を対象に展開する。毎回の授業において、基礎技術の確認を行い、高度な戦略・戦術の習得を目指す。授業はゲームを中心に行うが、コンピューターソフトを用いた情報戦略にも挑戦していく。また、「する」「みる」「支える」「知る」のそれぞれの観点から、授業を展開することにより今日のバスケットボール競技の抱える諸問題、教育的可能性、さらには競技力向上にも言及していく。 〔受講生への要望〕各自、バスケットボールシューズ（室内シューズ）及び運動にふさわしい服装を用意してください。腕時計、指輪、ピアス等は危険防止のために必ず外してください。	〔授業計画〕 1.オリエンテーション 2.オフェンス／ディフェンス・ファンダメンタルの確認① 3.オフェンス／ディフェンス・ファンダメンタルの確認② 4.パッシング・ゲーム① 5.パッシング・ゲーム② 6.アーリー・オフェンス① 7.アーリー・オフェンス② 8.モーション・オフェンス① 9.モーション・オフェンス② 10.チーム・ディフェンス① 11.チーム・ディフェンス② 12.リーグ編成とイベントマネジメント 13.リーグ戦（ゲームプランの立案） 14.リーグ戦（スカルセッションの実施） 15.リーグ戦（総括）
テキスト、参考文献	**評価方法**
	〔評価方法〕 出席、授業態度を重視します。遅刻は減点の対象とします。

春	スポーツ・レクリエーション(バスケットボール a)	担当者	依田 珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。ゲーム時には各チームから審判、オフィシャルを出し、学生自らがゲーム運営を行い、バスケットボールの競技特性をより深く学ぶ。 学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなくチームの力の向上を図る。 〔受講生への要望〕 各自、体育館用のシューズを必ず用意してください。バスケットボールにふさわしい服装で参加してください。水分補給はこまめに行うようにしてください。	1. ガイダンス 2. ファンダメンタルを身につけよう① ボールハンドリング・シュート・パス・ドリブル 3. ファンダメンタルを身につけよう② シュート・パス・ドリブル 4. ファンダメンタルを身につけよう③ シュート・パス・ドリブル 5. ファンダメンタルを身につけよう④ 様々なシュート 6. ファンダメンタルを身につけよう⑤ ストップ・ターンの使い方 7. ファンダメンタルを身につけよう⑥ パスのもらい方、動きの中でのシュート 8. ファンダメンタルを身につけよう⑦ ディフェンスの基本、 9. 試合への応用 10. ゲームの進め方（審判・オフィシャル） 11. ～　15. ゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で指示する。	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

秋	スポーツ・レクリエーション(バスケットボール b)	担当者	依田 珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。ゲーム時には各チームから審判、オフィシャルを出し、学生自らがゲーム運営を行い、バスケットボールの競技特性をより深く学ぶ。 学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなくチームの力の向上を図る。 〔受講生への要望〕 各自、体育館用のシューズを必ず用意してください。バスケットボールにふさわしい服装で参加してください。水分補給はこまめに行うようにしてください。 ＊秋学期は試合がメインになります。	1.　ファンダメンタルの確認 2.　ファンダメンタルの確認 3.　ゲームを楽しもう 4.　～　15.　ゲーム（リーグ戦など） ＊毎週あるいは数週ごとチームを変えて試合を行います。同じチームの仲間とコミュニケーションを取り、教えあい、バスケットボールの試合を楽しみつつ、改善点などを見つけて克服していきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で指示する。	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

春	スポーツ・レクリエーション(バドミントン a)	担当者	藤野 和樹

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ バドミントン競技を一生涯楽しむため、専門的な技能のマスターを主の目的とし、ルールの理解、バドミントンを通じてのコミュニケーション能力を向上させていく。 ［講義概要］ 技術練習の際には、個人の技能獲得のみならず、技術指導のポイントも理解し、バドミントンの技術において深い知識を得てもらう。 授業では技術練習とゲーム練習を組み合わせ、ゲームの中で獲得した技術を試すとともに、審判法もあわせて理解し、自立してゲームを進めていけるようにする。	1　オリエンテーション 2　バドミントン競技の概要解説　試しのゲーム 3　バックハンドドライブの基本練習 4　バックハンドロブの基本練習 5　各種フットワークの基本練習 6　フォアハンドドライブの基本練習 7　オーバーヘッドストロークの基本練習 8　様々なサーブの基本練習 9　ダブルスのゲーム(ルールの理解) 10　シングルスのゲーム(ルールの理解) 11　ダブルスの総合練習 12　シングルスの総合練習 13　団体戦の実施 14　技能テスト(サーブとバックハンドドライブ) 15　授業全体のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度、実技の達成度を総合的に評価する。

秋	スポーツ・レクリエーション(バドミントン b)	担当者	藤野 和樹

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ バドミントン競技を一生涯楽しむため、専門的な技能のマスターを主の目的とし、ルールの理解、バドミントンを通じてのコミュニケーション能力を向上させていく。 ［講義概要］ 技術練習の際には、個人の技能獲得のみならず、技術指導のポイントも理解してもらい、バドミントンの技術において深い知識を得てもらう。 授業では技術練習とゲーム練習を組み合わせ、ゲームの中で獲得した技術を試すとともに、審判法もあわせて理解し、自立してゲームを進めていけるようにする。	1　オリエンテーション 2　バドミントン競技の概要解説　試しのゲーム 3　バックハンドドライブの基本練習 4　バックハンドロブの基本練習 5　各種フットワークの基本練習 6　フォアハンドドライブの基本練習 7　オーバーヘッドストロークの基本練習 8　様々なサーブの基本練習 9　ダブルスのゲーム(ルールの理解) 10　シングルスのゲーム(ルールの理解) 11　ダブルスの総合練習 12　シングルスの総合練習 13　団体戦の実施 14　技能テスト(サーブとバックハンドドライブ) 15　授業全体のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度、実技の達成度を総合的に評価する。

春	スポーツ・レクリエーション(バドミントン a)	担当者	梶野 克之

講義目的、講義概要	授業計画
ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的な技術やルールについて理解する。各種の技術を試合の中で使い分けられるようにする。 シングルス・ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールに理解とともにゲームの進行方法の理解を深める。 練習した技術が、実際のゲームの中で有効に生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、より高いレベルのゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を務めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行に努める。	１．　年間授業計画の説明　実技実施上の注意　連絡事項 ２．　バドミントン競技の全体的説明　クリヤーの基本 ３．　ハイクリヤーの基本練習　ドロップの基本 ４．　クリヤー、ドロップの練習　ヘアピンの練習 ５．　各種ストロークの復習　サービスの基本練習 ６．　半面シングルスの実施　カウント方法の確認 ７．　半面シングルスの試合　フットワークの基本練習 ８．　半面シングルス　審判法の理解 ９．　ドライブの基本練習 １０．スマッシュの基本練習　シングルスゲーム １１．各種ストロークの練習　ダブルスの基本 １２．ダブルスのルールの理解　試合の実施と審判 １３．ダブルスの試合・審判 １４．グループ毎のダブルスの試合・審判 １５．リーグ戦の実施　結果の整理
テキスト、参考文献	**評価方法**
田中稔監修『基礎からのバドミントン』ナツメ社 2007	出席回数、授業への参加態度、実技の達成度などにより決定する。

秋	スポーツ・レクリエーション(バドミントン b)	担当者	梶野 克之

講義目的、講義概要	授業計画
ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的な技術やルールについて理解する。各種の技術を試合の中で使い分けられるようにする。 シングルス・ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールに理解とともにゲームの進行方法の理解を深める。 練習した技術が、実際のゲームの中で有効に生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、より高いレベルのゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を務めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行に努める。	１．　基本的なストロークの復習　ダブルスの試合 ２．　ダブルスの組合せの決定　リーグ戦の実施 ３．　ダブルスのフォーメーションの確認　ゲームの実施 ４．　ダブルスゲームの実施　問題点の整理 ５．　ダブルスゲームの実施　ゲーム結果の分析 ６．　ゲームの進行状況の確認　組合せの変更 ７．　ダブルスゲームの進行　課題の解決 ８．　ダブルスゲームの進行　面白さの理解 ９．　ゲームの中での課題の練習　高いレベルのゲーム １０．ダブルスゲームの進行　組合せの変更 １１．ゲームの中での課題の練習　フォーメーション練習 １２．ゲームの進行　ゲーム・審判とも全員で実施 １３．ゲームの中での課題の練習 １４．ゲームの進行　勝敗・順位の整理 １５．リーグ戦の実施　結果の整理
テキスト、参考文献	**評価方法**
田中稔監修『基礎からのバドミントン』ナツメ社 2007	出席回数、授業への参加態度、実技の達成度などにより決定する。

春	スポーツ・レクリエーション（バドミントン a）	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおける trial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 到達目標 ①学習する者同士がお互いについて、自分自身について考えられるようになる。 ②「まずやってみる」という姿勢、チャレンジについて考えられる。 ③ルールを理解し、ゲームができる。 進め方 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・バドミントンを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動をおこなううえで必要なことを身につける。	1.　オリエンテーション（服装、くつ等）。 2. 3. 4. 5.　グリップ、スイング、サービス、ハイクリヤードロップ、ドライブ、スマッシュ、ヘアピン等の練習、ルールの確認。 6. 7. 8.　シングルスのゲーム、ダブルスのゲーム。技能テスト。 9. 10. 11.　技術トレーニング。 12. 13. 14. 15.　シングルスのゲーム。ダブルスのゲーム。技能テスト。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出欠状況、授業への参加姿勢、レポートの内容、技能の向上で評価する。

秋	スポーツ・レクリエーション（バドミントン b）	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおける trial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 到達目標 ①学習する者同士がお互いについて、自分自身について考えられるようになる。 ②「まずやってみる」という姿勢、チャレンジについて考えられる。 ③ルールを理解し、ゲームができる。 進め方 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・バドミントンを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動をおこなううえで必要なことを身につける。	1.　オリエンテーション（服装、くつ等）。 2. 3. 4. 5.　グリップ、スイング、サービス、ハイクリヤードロップ、ドライブ、スマッシュ、ヘアピン等の練習、ルールの確認。 6. 7. 8.　シングルスのゲーム、ダブルスのゲーム。技能テスト。 9. 10. 11.　技術トレーニング。 12. 13. 14. 15.　シングルスのゲーム。ダブルスのゲーム。技能テスト。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出欠状況、授業への参加姿勢、レポートの内容、技能の向上で評価する。

春	スポーツ・レクリエーション(バドミントン a)	担当者	山口 知恵

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが一番です。 また、スポーツを通してもっと自分のことをよく知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、バドミントンという種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。	1. オリエンテーション 2. バドミントン導入、ラケットとシャトルに慣れる （シャトルの打ち上げ、シャトル拾い、トスノック） 3. ストロークの基本 （オーバーヘッド、サイド、アンダーハンド） 4. クリア、ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ヘアピン 5. 各ショットの復習 6. ロング＆ショートサービスとサービスリターンの練習 7. ダブルスゲームのルールとマナー、審判法を覚える 8. ダブルスゲーム（基本フォーメーション） 9. ダブルスゲーム（フォーメーション復習） 10. ダブルス・リーグ戦 11. ダブルス・リーグ戦 12. ダブルス・リーグ戦 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を主に、授業への参加態度などを総合して決めます。

秋	スポーツ・レクリエーション(バドミントン b)	担当者	山口 知恵

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが一番です。 また、スポーツを通してもっと自分のことをよく知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、バドミントンという種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。	1. 基本的なストロークの練習 （オーバーヘッド、サイド、アンダーハンド） 2. 各ショットの練習 （クリア、ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ヘアピン） 3. 各ショットの復習 4. ロング＆ショートサービス、サービスリターンの練習 5. ダブルスゲームのルールとマナー、審判法の確認 6. ダブルスゲーム（フォーメーションの確認） 7. ダブルスゲーム（フォーメーション復習） 8. ダブルス・リーグ戦 9. ダブルス・リーグ戦 10. ダブルス・リーグ戦 11. ダブルス・リーグ戦 12. チーム団体戦 13. チーム団体戦 14. チーム団体戦 15. チーム団体戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を主に、授業への参加態度などを総合して決めます。

春	スポーツ・レクリエーション(バレーボール a)	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 [講義概要] バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 [受講者への要望] 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。	1. オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成。 2. 基本技と動き（アンダー、オーバー)、パスゲーム１。 3. レシーブとトス（ボールのつなぎ)、パスゲーム２。 4. レシーブとカバーリング (守りのフォーメーション)、パスゲーム３。 5. 基本技と動き（アンダー　フローターサーブ）サーブレシーブ、基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム１ 6. 基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム２。 7. チーム編成（スターティングポジションの決定) サーブレシーブのフォーメーション サーブレシーブからの攻撃の組立、 スパイクを含んだゲーム。 8. ゲーム、６チームによるリーグ戦。 9. 上記と同じ。8 ゲーム、６チームによるリーグ戦。 10. 上記と同じ。 11. 上記と同じ。 12. 上記と同じ。 13. 上記と同じ。 14. 上記と同じ。 15. 上記と同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席４回以上の者に対しては、評価の対象としない。

秋	スポーツ・レクリエーション(バレーボール b)	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 [講義概要] バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 [受講者への要望] 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。	1. チーム編成（スターティングポジションと攻守のフォーメーション)。 2. 上記と同じ。 3. サーブレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。 4. 上記と同じ。 5. スパイクレシーブのフォーメーション、スパイクを含んだゲーム。ゲーム（リーグ戦）記録、チーム（特に攻撃スパイク、サーブ) 6. 上記と同じ。 7. 上記と同じ。 8. ゲーム（リーグ戦）記録、チーム（特に守りレシーブ、ブロック)。 9. 上記と同じ。 10. ゲーム（リーグ戦）記録、攻撃の組立能力、ゲームの評価と練習課題。 11. 上記と同じ。 12. ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。ルールやセオリー審判法など知的理解度をテストする。 13. 上記と同じ。 14. 上記と同じ。 15. 上記と同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席４回以上の者に対しては、評価の対象としない。

春	スポーツ・レクリエーション(バレーボール a)	担当者	横矢 勇一

講義目的、講義概要	授業計画
バレーボールのルールを理解し、個人的および集団的技術を習得するとともに、それらを基にした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 また、様々な学部、学年の学生がコミュニケーションすることによって、親睦を深め、協調性を高めると同時に、生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、バレーボールの特性についてゲームを通して味わえるようにする。	① オリエンテーション ② 基本技術（レシーブとトス、サーブ） ③ 基本技術（スパイク、ブロック） ④ 基本技術の確認、ミニゲームⅠ ⑤ フォーメーションの基本、ゲームⅠ ⑥ フォーメーションの組立、ゲームⅡ ⑦ フォーメーションの確立、ゲームⅢ ⑧ 技術および戦術の習得状況の確認、チーム編成 ⑨ リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅰ ⑩ リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅱ ⑪ リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅲ ⑫ リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅳ ⑬ リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅴ ⑭ ゲームを通して技能および戦術の習得状況の評価 ⑮ 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
吉田 清司　著『基礎から戦術までバレーボール』日東書院	出席を中心に評価(70%)し、学習意欲･チームメイトとの協調性(20%)、技術習得への努力度(10%)を加味します。また、遅刻･服装･体育館シューズ、学習態度もチェックします。

秋	スポーツ・レクリエーション(バレーボール b)	担当者	横矢 勇一

講義目的、講義概要	授業計画
バレーボールのルールを理解し、個人的および集団的技術を習得するとともに、それらを基にした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 また、様々な学部、学年の学生がコミュニケーションすることによって、親睦を深め、協調性を高めると同時に、生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、バレーボールの特性についてゲームを通して味わえるようにする。	① オリエンテーション ② 基本技術（レシーブとトス、サーブ） ③ 基本技術（スパイク、ブロック） ④ 基本技術の確認、ミニゲームⅠ ⑤ フォーメーションの基本、ゲームⅠ ⑥ フォーメーションの組立、ゲームⅡ ⑦ フォーメーションの確立、ゲームⅢ ⑧ 技術および戦術の習得状況の確認、チーム編成 ⑨ リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅰ ⑩ リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅱ ⑪ リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅲ ⑫ リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅳ ⑬ リーグ戦、ゲーム評価と練習課題Ⅴ ⑭ ゲームを通して技能および戦術の習得状況の評価 ⑮ 総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
吉田 清司　著『基礎から戦術までバレーボール』日東書院	出席を中心に評価(70%)し、学習意欲･チームメイトとの協調性(20%)、技術習得への努力度(10%)を加味します。また、遅刻･服装･体育館シューズ、学習態度もチェックします。

春	スポーツ・レクリエーション(フットサル a)	担当者	神宮司 親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレーヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。 〔受講者への要望〕 ・フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。 ・授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。 ・ピアス・指輪などのアクセサリーは外すこと。	1．オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2．ボールに親しむ　簡易ゲーム 3．ボールコントロール　ボールタッチ・ドリブル 4．ボールコントロール　パス 5．1 対 1 の攻防 6．ポジションの理解 7．GK トレーニング 8．2 対 1 の攻防 9．1 対 2 の攻防 10. ルールの理解とゲームの進め方 11. リーグ戦 12. リーグ戦 13. リーグ戦 14. リーグ戦 15. リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数 4 回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関および体調等のやむを得ない事情以外の遅刻は認めない。

秋	スポーツ・レクリエーション(フットサル b)	担当者	神宮司 親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレーヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。 〔受講者への要望〕 ・フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。 ・授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。 ・ピアス・指輪などのアクセサリーは外すこと。	1．復習　基本技術の確認 2．攻撃のグループ戦術 3．守備のグループ戦術 4．セットプレーからの攻撃 5．セットプレーに対する守備 6．チームごとの練習① 7．審判法ならびにゲーム運営 8．リーグ戦① 9．リーグ戦② 10. リーグ戦③ 11. チームごとの練習② 12. リーグ戦④ 13. リーグ戦⑤ 14. リーグ戦⑥ 15. リーグ戦⑦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数 4 回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関および体調等のやむを得ない事情以外の遅刻は認めない。

春	スポーツ・レクリエーション(フリスビーa)	担当者	村山 光義

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 1. フリスビー（フライングディスク）投法技術の習得。 2. フリスビー（フライングディスク）競技・文化の理解。 3. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 [講義概要] 通称「フリスビー」と呼ばれるフライングディスクには数多くの専門種目があります。ディスクの最大の特徴は世界記録で 250m を越す飛距離と円盤特性による曲進性･滞空性です。円盤を使ったスポーツの総称で、数多くの専門競技があります。ディスクを遠くへ、思う所へ投げることはとても難しく、投げ方も一通りではありません。本授業ではこの専門競技の紹介と投法技術の練習実践を通じ、新たなスポーツ文化を理解･吸収してもらいます。雨天時には技術や競技の解説講義を行うこともあります。 [受講者への要望] 「フリスビーなんてただの遊びでしょ」と思ったら大間違い。専門競技の中では、投げ方はもちろん、風の読みやディスク自体の選択など多くの要素による変化があります。また、集団ゲームのアルティメットは非常に激しいスポーツですし、ディスクゴルフは自己との戦いです。この新しいスポーツに是非挑戦してみてください。	1．イントロダクション　フライングディスクとは 2．基礎投法　技術練習（バックハンド・スロー） 3．基礎投法　技術練習（サイドアーム・スロー） 4．技能記録会　遠投　アキュラシー (的通し競技) 5．集団ゲーム　アルティメット　導入 6．集団ゲーム　アルティメット　基礎 7．集団ゲーム　アルティメット　基礎 8．個人種目　セルフコートフライト 9．個人種目　ディスクゴルフ 10. 個人種目　ディスクゴルフ 11. アルティメット　発展 12. アルティメット　発展 13. アルティメット　発展 14. 個人総合練習 15. 技能記録会　遠投　アキュラシー
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席(60%)、技術(30%)、態度(10%)の 3 項目で評価します。 技術については記録会の結果や向上具合を加味します。 態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。

秋	スポーツ・レクリエーション(フリスビーb)	担当者	村山 光義

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 1. フリスビー（フライングディスク）投法技術の習得。 2. フリスビー（フライングディスク）競技・文化の理解。 3. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 [講義概要] 通称「フリスビー」と呼ばれるフライングディスクには数多くの専門種目があります。ディスクの最大の特徴は世界記録で 250m を越す飛距離と円盤特性による曲進性･滞空性です。円盤を使ったスポーツの総称で、数多くの専門競技があります。ディスクを遠くへ、思う所へ投げることはとても難しく、投げ方も一通りではありません。本授業ではこの専門競技の紹介と投法技術の練習実践を通じ、新たなスポーツ文化を理解･吸収してもらいます。雨天時には技術や競技の解説講義を行うこともあります。 [受講者への要望] 「フリスビーなんてただの遊びでしょ」と思ったら大間違い。専門競技の中では、投げ方はもちろん、風の読みやディスク自体の選択など多くの要素による変化があります。また、集団ゲームのアルティメットは非常に激しいスポーツですし、ディスクゴルフは自己との戦いです。この新しいスポーツに是非挑戦してみてください。	1．基礎投法の確認 2．技能記録会　遠投　アキュラシー (的通し競技) 3－5．集団ゲーム　アルティメット 6．集団ゲーム　ガッツ 7．集団ゲーム　ドッジビー 8－10. 個人種目　ディスクゴルフ 11－13. アルティメット　リーグ戦 14. 個人総合練習 15. 技能記録会　遠投　アキュラシー
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席(60%)、技術(30%)、態度(10%)の 3 項目で評価します。 技術については記録会の結果や向上具合を加味します。 態度は取り組みの積極性を観察によって評価します。

春	スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンスａ)	担当者	内堀 祐子

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目標］ 欧米では、今も身近にあるボールルームダンス（社交ダンス)。日本でも、生涯スポーツとして、幼稚園児から高齢者まで幅広く踊られています。 目の前の相手とのコミュニケーションの取り方、音楽にのって体を動かす楽しさを学びながら、踊れるようになることを目標にしています。 ［講義概要］ ボールルームダンスを通じて、正しい姿勢及び、柔軟な体づくりをします。音楽にのって楽しく踊るための、正しい技術を学習します。 ［受講生への要望］ 社交ダンスシューズを使用します。 動きやすい服装で受講してください。(ただし、ジーンズ、半ズボン不可)	1. オリエンテーション　ボールルームダンスとは 2. 正しい立ち方、歩き方 3. 手及び腕の使い方 4. 体の各部分の使い方 5. 回転動作の学習 6. ラテン基礎編①、モダン基礎編① 7. ラテン基礎編②、モダン基礎編② 8. ラテン基礎編③、モダン基礎編③ 9. ラテン基礎編④、モダン基礎編④ 10. ラテン基礎編⑤、モダン基礎編⑤ 11. ラテン　サンバ編①、モダン　ワルツ編① 12. ラテン　サンバ編②、モダン　ワルツ編② 13. ラテン　パソドブレ編①、モダン　タンゴ編① 14. ラテン　パソドブレ編②、モダン　タンゴ編② 15. 各種目まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	出席状況と受講態度を重要視します。

秋	スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンスｂ)	担当者	内堀 祐子

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目標］ 春学期にボールルームダンスの受講の続きになります。 前学期より自然に踊れることを目標とし、基本の復習、さらに高度なステップを学んでいきます。 ［講義概要］ ボールルームダンスを通じて、バランスのよい筋肉をつけていきます。１０種目のうち、６種目を踊れるようにします。 ［受講生への要望］ 社交ダンスシューズを使用します。 動きやすい服装で受講してください。(ただし、ジーンズ、半ズボン不可)	1. 春期講座の振り返り 2. ラテン　サンバ編③、モダン　ワルツ編③ 3. ラテン　パソドブレ編③、モダン　タンゴ編③ 4. ラテン　ルンバ編①、モダン　クイックステップ① 5. ラテン　ルンバ編②、モダン　クイックステップ② 6. ラテン　ルンバ編③、モダン　クイックステップ③ 7. リードとフォローについて 8. 体の動作の細かい動きと表現方法について 9. 立ち位置の確認、首の使い方 10. ラテン　サンバ編④、モダン　ワルツ編④ 11. ラテン　パソドブレ編④、モダン　タンゴ編④ 12. ラテン　ルンバ編④、モダン　クイックステップ④ 13. ラテン　ルンバ編⑤、モダン　クイックステップ⑤ 14. 他の種目について 15. 総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	出席状況と受講態度を重要視します。

春	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a)	担当者	重藤 誠市郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 生涯スポーツとして硬式テニスを楽しむための技術と知識を身につける。また、授業内で学生間のコミュニケーションを充実させ、社会性、協調性を養うことを目的とする。 【授業内容】 基本的な技術の練習を行い、全体のスキルアップを目指す。初心者から中上級者までレベルに差がある場合は、上級者が初心者をサポートする形をとる場合もある。 授業前半に基本的なスキルやルールを身につけ、後半はダブルスのゲームを中心とした授業展開をしていく。ただし、毎回の授業の最後にはゲーム形式のメニューを行う。 実技テストを行う。	1.ガイダンス 2.写真付受講票の作成とアイスブレーク 3.フォアハンドストロークの基本 4.フォアハンドストローク（ドライブ、スライス） 5.バックハンドストロークの基本 6.バックハンドストローク（ドライブ、スライス） 7.サービス＆レシーブ 8.ボレー＆スマッシュ 9.サーブ＆ボレー 10.ダブルスチャンピオンシップゲーム（5 分ローテ） 11.ダブルスチャンピオンシップゲーム（5 分ローテ） 12.ダブルスゲーム（3 ゲームマッチ） 13.ダブルスゲーム（5 ゲームマッチ） 14.実技テスト　ダブルスゲーム（1 セットマッチ） 15.実技テスト（予備日）ダブルスゲーム（1 セットマッチ）
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎回の出席 60%、実技テスト 20%、受講態度 20%を総合して評価する。

秋	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス b)	担当者	重藤 誠市郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 生涯スポーツとして硬式テニスを楽しむための技術と知識を身につける。また、授業内で学生間のコミュニケーションを充実させ、社会性、協調性を養うことを目的とする。 【授業内容】 春学期からの継続履修者と秋学期からの履修者の混合になるため、秋学期からの履修者には原則として、全くの未経験者ではないことが条件となる。 試合を有利に進めるための戦術やスキルを学び、シングルス、ダブルスのゲームを数多く行う。 試合を円滑に進めるための、ルールやマナーの理解を深める。 実技テストを行う。	1.ガイダンス及び実技 2.写真付受講票の作成とアイスブレーク 3.回り込みフォアハンド 4.アングルショット 5.ポーチ、ローボレー 6.スピンサービス、フラットサービス 7.シングルス（リーグ戦①） 8.シングルス（リーグ戦②） 9.ダブルスチャンピオンシップゲーム（3 ゲームマッチ） 10.ダブルスチャンピオンシップゲーム（5 ゲームマッチ） 11.ダブルス（リーグ戦①） 12.ダブルス（リーグ戦②） 13.ダブルス（リーグ戦③） 14.実技テスト　ダブルス（トーナメント①） 15.実技テスト（予備日）ダブルス（トーナメント②）
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎回の出席 60%、実技テスト 20%、受講態度 20%を総合して評価する。

春	スポーツ・レクリエーション（硬式テニス a）	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおける trial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 到達目標 ①学習する者同士がお互いについて、自分自身について考えられるようになる。 ②「まずやってみる」という姿勢、チャレンジについて考えられる。 ③ルールを理解し、ゲームができる。 進め方 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・テニスを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・原則として雨天決行し、服装忘れ、遅刻は認めない。	1.　オリエンテーション。 2. 3. 4. 5.　サービス、ストローク等の練習。ルールの確認。 6. 7. 8.　シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト。 9. 10. 11.　技術練習。 12. 13. 14. 15.　シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出欠状況、授業への参加姿勢、レポートの内容、技能の向上で評価する。

秋	スポーツ・レクリエーション（硬式テニス b）	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおける trial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 到達目標 ①学習する者同士がお互いについて、自分自身について考えられるようになる。 ②「まずやってみる」という姿勢、チャレンジについて考えられる。 ③ルールを理解し、ゲームができる。 進め方 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・テニスを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・原則として雨天決行し、服装忘れ、遅刻は認めない。	1.　オリエンテーション。 2. 3. 4. 5.　サービス、ストローク等の練習。ルールの確認。 6. 7. 8.　シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト。 9. 10. 11.　技術練習。 12. 13. 14. 15.　シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出欠状況、授業への参加姿勢、レポートの内容、技能の向上で評価する。

春	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス a)	担当者	松原 裕

講義目的、講義概要	授業計画
硬式テニスのスキルを理解し、獲得することを第1番の目的とし、次にダブルスのゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上を図ることを第2番の目的とする。 基本的には、初心者から中級レベルが４面にわかれて練習を行う。受講が決定した時点で名札を作成し、毎回出席を取る。 授業前半は基本スキル練習、後半はダブルスゲーム形式で応用スキルの練習を色々なメンバーの組み合わせにより行う。 受講者の人数などの様子により授業内容が変更される可能性がある。	１．ガイダンス ２．写真付受講票の作成とスキルテスト ３．フォアハンドストローク（球出し） ４．バックハンドストローク（球出し） ５．ボレー＆スマッシュ（球出し） ６．サービス＆レシーブ ７．サービス＆レシーブ＆ラリー（ストレート） ８．サービス＆レシーブ＆ラリー（クロス） ９．ダブルスゲーム（3ポイント先取） １０．ダブルスゲーム（5ポイント先取） １１．ダブルスゲーム（2ゲーム先取） １２・ダブルスゲーム（4ゲーム先取） １３．ダブルスゲーム（1試合20分間） １４．１５．スキルテスト
テキスト、参考文献	評価方法
必要に応じて紹介する。	毎回の出席、態度、スキルテストを総合して評価する。

秋	スポーツ・レクリエーション(硬式テニス b)	担当者	松原 裕

講義目的、講義概要	授業計画
硬式テニスのシングルス・ダブルスゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上を図る。 春学期からの継続履修者と秋学期からの履修者の混合になる。 秋学期からの履修者は、原則として硬式テニスのダブルスのゲームが出来ることを条件とし、顔写真１枚を貼った受講票を作成する。 色々な組み合わせによりダブルスゲームを行う。 受講者の人数などの様子により授業内容が変更される可能性がある。	１．実技とガイダンス ２．写真付受講票の作成とスキルテスト ３．シングルスゲーム（順位決め） ４．シングルスゲーム（順位決め） ５．ダブルスゲーム（シングルス順位で組合せ） ６．ダブルスゲーム（順位決め） ７．ダブルスゲーム（リーグ戦①） ８．ダブルスゲーム（リーグ戦②） ９．ダブルスゲーム（リーグ戦③） １０．ダブルスゲーム（ポイントハンデ付） １１．ダブルスゲーム（スキルハンデ付） １２・ダブルスゲーム（トーナメント①） １３．ダブルスゲーム（トーナメント②） １４．ダブルスゲーム（トーナメント③） １５．スキルテスト
テキスト、参考文献	評価方法
必要に応じて紹介する。	毎回の、出席、態度、スキルテストを総合して評価する。

春	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田 智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] レクリエーション活動のうち、主に自然環境と関連するいくつかの種目を経験し、安全と管理、自然と環境、自由時間の意味、価値について考え、現在と将来の自由時間をデザインする能力をつけることを目標とします。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係を育成することを目標とします。 [講義概要] 学内の授業では、グループゲームによる合宿に向けた人間関係作り、野外炊事の実践による用具の使い方や調理の方法についての学習、山歩きに向けての体力作りのためのトレーニング理論と実践、野外で活動するための重要な知識と技術となるマップ&コンパスワーク、合宿計画の作成を行います。	1.授業の内容と計画についての説明 2.仲間つくりの時間：アイスブレーキング 3.仲間つくりの時間：イニシアティブゲーム 4.仲間つくりの時間：アウトドアクッキングの計画 5.アウトドアクッキング 6. 合宿に向けたトレーニング理論 7.トレーニング実習（有酸素トレーニング） 8.トレーニング実習（筋力トレーニング） 9.アウトドアレクリエーション種目１ 10.アウトドアレクリエーション種目２ 11.アウトドアクッキングの計画とメニュー造り 12.アウトドアを想定した調理実践 13.マップ＆コンパス 14.合宿計画の作成 15.合宿についてのオリエンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて、プリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

夏季集中	スポーツ・レクリエーション(アウトドア山岳)	担当者	和田 智

講義目的、講義概要	授業計画
山岳高原地域で行うアウトドアレクリエーションを夏季集中合宿で体験します。 将来、家族で再び訪れることを前提にした内容で行いますので身体的にはそれほどハードではありません。（運動不足ではハードに感じます） 皆さんには、山に行くときの計画、持ち物、マナー、道具の使い方、自然の見方、楽しみ方を学んでいただきます。 毎日の昼食はアウトドアで作りますが、それが当たり前でたいへんなことでないという感覚を身に付けてほしいと思います。道具と技術があれば、今までの苦労も楽しみとなります。山での過ごし方全体をそのように感じてもらえる活動になればよいと思います。 合宿は、同じ大学の仲間たちと共有の時間を過ごします。積極的に関わることによって、たくさんの友人を得られるでしょう。このこともこの授業の大切な目的としています。 履修人数によって、合宿の場所、内容を変更する場合があります。	[集中授業]　「山岳型アウトドアレクリエーション」 予定 場所：長野県志賀高原 宿泊：志賀パレスホテル 期日：2013 年 8 月 29 日（木）~9 月 2 日（火） 4 泊 5 日 費用：35000 円（宿泊費、傷害保険料、プログラム費） （内 31000 円を大学自動発行機で振込、4000 円を現地徴収） この他に現地までの交通費が別途かかります。 合宿日程 第 1 日目　現地集合・開講式 横手山散策（スカイレーターとリフト） 第 2 日目　池めぐりコース登山 第 3 日目　岩菅山登山 第 4 日目　草津白根山登山と草津温泉探訪 第 5 日目　前山散策と絵手紙創作鑑賞会 午後解散
テキスト、参考文献	**評価方法**
現地でプリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

春	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田 智

講義目的、講義概要	授業計画
レクリエーション活動のうち、レクリエーショナルスポーツとして普及している種目を体験します。実施予定の種目はイニシアティブゲーム、アウトドアクッキングの計画と実践、ペタンク、フリスビー、ウォークラリーの計画と実践、ターゲットバードゴルフです。天候等の条件によって種目を変更する場合があります。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。ここで形成した人間関係を夏季合宿に生かしていきます。 この授業で紹介できる活動種目はほんのわずかですが、自分に与えられた能力と環境があなたの自由時間を充実させる活動へと導いてくれるはずです。この授業はそのきっかけをつくる授業です。この授業は就職のためには何も役立つことはないでしょうが、人生を充実させるためには役立つはずです。この点を重要だと思う学生に受講してほしいと思います。	1.授業の内容と計画についての説明 2.アイスブレーキングゲーム 3.イニシアティブゲーム１ 4.イニシアティブゲーム２ 5.アウトドアクッキングの計画 6.アウトドアクッキングの実践 7.ペタンクの紹介と練習 8.ペタンクの試合 9.フリスビーの練習 10. アルティメット（フリスビーを使ったチームゲーム） 11. 地域資源を利用したウォークラリーの紹介と計画 12. ウォークラリーの実践 13. ターゲットバードゴルフの練習 14. ターゲットバードゴルフコンペ 15. まとめと夏季合宿についてのオリエンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じ、プリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

夏季集中	スポーツ・レクリエーション(ウィンドサーフィン)	担当者	和田 智

講義目的、講義概要	授業計画
ウィンドサーフィンとは、ボードの上に立ちボードにつながれた帆を操作し、風の力を進行方向への力に変えて進む滑走艇のことで、波を使うサーフィンやヨットとは違うものです。オリンピック種目にもなっているスポーツです。 千葉県館山市の獨協学園海の家において、ウィンドサーフィン技術の習得を通して海浜環境で安全に楽しく過ごすための知識技術を習得することを目標とします。また、炊事や清掃など共同生活を円滑に進めていくための人間関係の育成も目標としています。 この合宿生活で培った人間関係を秋学期の授業を通してさらに深めていくこともこの授業のもう一つの大きな目標としていますので、合宿と春学期のアウトドアレクリエーションを合わせて受講して欲しいと思います。 [受講者への要望] 海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。心配な方は担当教員に活動内容を聞きに来た上で、医師に参加可能かどうかご相談ください。	[[集中授業] 「ウィンドサーフィン」 場所：千葉県館山市 期日（予定）：2013 年 9 月 9 日（月）~13 日（金） 4 泊 5 日 費用：16000 円（宿泊費、傷害保険料、食費、プログラム費） （内 11000 円を大学自動発行機で振込、5000 円を現地で徴収） この他に現地までの交通費が別途かかります。 合宿日程 1 日目　現地集合・開講式・組み立て・セイルトリム 2 日目　セイルアップからセイリングポジション 3 日目　方向転換 4 日目　いろいろな方向へのセイリング 5 日目　レース・午後解散
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じプリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

春	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田 智

講義目的、講義概要	授業計画
レクリエーション活動のうち、レクリエーショナルスポーツとして普及している種目を体験します。実施予定の種目はイニシアティブゲーム、アウトドアクッキングの計画と実践、ペタンク、フリスビー、ウォークラリーの計画と実践、ターゲットバードゴルフです。天候等の条件によって種目を変更する場合があります。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。ここで形成した人間関係を夏季合宿に生かしていきます。 この授業で紹介できる活動種目はほんのわずかですが、自分に与えられた能力と環境があなたの自由時間を充実させる活動へと導いてくれるはずです。この授業はそのきっかけをつくる授業です。この授業は就職のためには何も役立つことはないでしょうが、人生を充実させるためには役立つはずです。この点を重要だと思う学生に受講してほしいと思います。	1.授業の内容と計画についての説明 2.アイスブレーキングゲーム 3.イニシアティブゲーム１ 4.イニシアティブゲーム２ 5.アウトドアクッキングの計画 6.アウトドアクッキングの実践 7.ペタンクの紹介と練習 8.ペタンクの試合 9.フリスビーの練習 10. アルティメット（フリスビーを使ったチームゲーム） 11. 地域資源を利用したウォークラリーの紹介と計画 12. ウォークラリーの実践 13. ターゲットバードゴルフの練習 14. ターゲットバードゴルフコンペ 15. まとめと夏季合宿についてのオリエンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じ、プリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

夏季集中	スポーツ・レクリエーション(アウトドア海浜)	担当者	和田 智

講義目的、講義概要	授業計画
海浜型アウトドアレクリエーションでは、新潟県佐渡島を舞台にスキンダイビング（ナイトダイビングも行います)、シーカヤック、星座観察、釣り、サバイバルクッキング、地域研究等、良好な自然環境と地域の環境を活かすプログラムを 4 泊 5 日の合宿生活の中で体験してもらいます。この授業の特徴はそのプログラムと実施場所にあります。わざわざ新潟県佐渡市という離島で合宿を行う理由は、その美しい自然環境とその中に住む人々がつくる地域社会を知って欲しいからです。 この合宿において、主に海浜で行う自然活動を体験し、活動を安全に楽しむことのできる知識技術を習得すること、及び合宿生活を送る上で必要な良好な人間関係を育成することがこの授業の目標となります。 この合宿生活で培った人間関係を秋学期の授業を通してさらに深めていくこともこの授業のもう一つの大きな目標としていますので、春学期の授業と合宿を合わせて受講することを履修条件とします。 [受講者への要望] 海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。心配な方は担当教員に活動内容を聞きに来た上で、医師に参加可能かどうかご相談ください。	[集中授業] 「海浜型アウトドアレクリエーション」 場所：新潟県佐渡市 期日（予定）：2013 年 8 月 16 日（金）~20 日（火） 4 泊 5 日 費用：32000 円（宿泊費、傷害保険料、プログラム費） （内 30400 円を大学自動発行機で振込、1600 円を現地徴収） この他に現地までの交通費が別途かかります。 （青春 18 切符が利用できるスケジュールにしてあります。） 合宿日程 第 1 日目　現地集合・開講式 第 2 日目　スキンダイビング、シーカヤック 第 3 日目　スキンダイビング、地域研究 第 4 日目　サバイバルクッキング、海中清掃 第 5 日目　午前中解散
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じ、プリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

秋	スポーツ･レクリエーション(スケートトレーニング)	担当者	和田 智

講義目的、講義概要	授業計画
アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。秋学期の毎週の授業ではアイススケートを目的としたインラインスケートでの練習を行います。 アイススケートはメディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。カーリングは、長野オリンピックから正式種目となり、カーリングを題材とする映画もつくられましたが、まだまだマイナーなスポーツです。どちらのスポーツも、氷の上で行いますが、近年アイススケート場が次々と閉鎖され、体験のチャンスが少なくなっています。体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてあなたの可能性を広げてみませんか。 秋学期の毎週の授業と冬季集中授業の組み合わせですので、どちらか一つだけを受講することはできません。スケート、カーリング初心者の方から受講できます。	1 オリエンテーション（更衣不要） 2 用具あわせ、基本動作 3 基本動作 4 フォアストロークとバリエーション その１ 5 フォアストロークとバリエーション その２ 6 パイロンを利用した練習 7 バックストロークとバリエーション その１ 8 バックストロークとバリエーション その２ 9 ホッケーにチャレンジ その１ 10 フォアクロッシング その１ 11 フォアクロッシング その２ 12 バッククロッシング 13 バッククロッシング 14 ホッケーにチャレンジ 15 集中授業についてのオリエンテーション ストップ、ステップ、カーブ、トランジション等は皆さんの上達状況に応じて、適宜取り入れていきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じプリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

冬季集中	スポーツ･レクリエーション(アイススポーツ)	担当者	和田 智

講義目的、講義概要	授業計画
アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。 長野県軽井沢町のアイススケート、カーリング施設を利用し、3 泊 4 日で合宿を行います。 アイススケートとカーリング アイススケートは、アイススケートの基本的な滑走技術の習得を目指します。技術の進歩度や天候によって内容を変えます。 カーリングは、試合を楽しめるまでの基本的な知識、技術を学習します。 親しい友人をつくる 合宿生活ですので、親しい友人を持つ絶好のチャンスとなります。 秋学期のスケートトレーニングの授業との組み合わせで受講すると合宿での効率的な技術向上ができます。	合宿について 時期： 2014 年 2 月初旬予定 3 泊 4 日 場所： 長野県軽井沢町 現地集合解散 宿泊： 施設に近い民宿を利用 費用： 26000 円（宿泊費、傷害保険料、入場料、貸靴代、プログラム費他） (内、21500 円を自動発行機で振込、4500 円を現地徴収) 1 日目 午後： アイススケート 靴合わせと基本的技術 夜 ： 講義「カーリングの楽しみ方」 2 日目 午前： カーリング 道具の扱い方と基本技術 午後： カーリング大会 夜 ： 講義「アイススケートの基本」 3 日目 午前： アイススケート 午後： アイススケート 夜 ： 懇親会 4 日目 午前： アイススケート 午後： 昼食後解散 施設の都合により予定を変更することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

秋	スポーツ・レクリエーション(バランストレーニング)	担当者	松原 裕

講義目的、講義概要	授業計画
各自のバランス感覚をトレーニングすることによって、運動能力と、スポーツを楽しむ能力とを向上させることを目的とする。 授業はグラウンドとアリーナで行う。トランポリン、インラインスケート、インラインホッケー、バランスボール、バランスボード、ストックワーク、ボールゲームなど色々な運動を行う予定である。 顔写真１枚を貼った受講票を作成する。 スキー＆スノーボード合宿とのセット履修となっている。履修登録と同時に宿泊費予約分 18000 円を大学に納入すること。	１．ガイダンス ２．写真付登録票の作成とスキー・スノボー経験調査 ３．インラインスケート（基本滑走） ４．インラインスケート（長距離滑走） ５．インラインスケート（ストックワーク） ６．トランポリン・バランスボール・バランスボード ７．フットサル ８．ショートテニス ９．バレーボール １０．バスケットボール １１．卓球 １２．フリスビー（アルティメット） １３．トランポリン・バランスボール・バランスボード １４．１５．合宿ガイダンス
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎回の、出席、受講態度、技術などを総合して評価する。

冬季集中	スポーツ・レクリエーション(スキー＆スノーボード)	担当者	松原 裕

講義目的、講義概要	授業計画
スキーとスノーボードの基本から応用までを合宿を通じて指導し、ひとりひとりの能力の向上を図る。また、合宿を通じてコミュニケーション能力を高める。 アルペンスキーとスノーボードの班を編成し、各班に指導教員がつき実習を行う。 宿泊費予約分として18000円を履修登録と同時に大学に納める。宿泊費以外の必要経費は現地で精算する。 学内のバランストレーニング授業とのセット履修が原則となっている。 （注意）この授業のみを履修したい場合には、スポーツ・レクリエーション準備室にて担当者の許可を得てから履修登録と宿泊費予約分18000円を大学に納入すること。顔写真1枚を貼った受講票を作成する。この場合の合宿ガイダンスは、別途に行う。	合宿期間：2014年2月4-7日を予定している。 合宿場所：舞子スノーリゾート 宿泊場所：外谷旅館（とやりょかん） 合宿費用：宿泊費（大学に納入）18000円（3泊9食）予定 以下は現地精算 保険・雑費1000円 （注意）リフト代・交通費・レンタル代は各自別途負担となる。また、秋学期履修登録時に、期間・場所・宿泊・費用について変更になる可能性もある。秋学期履修登録期間の掲示等に十分注意し確認すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	合宿参加、受講態度、技術の進歩などを総合して評価する。

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(リーディング I a) / (Academic Reading Strategies I a) English 111-a Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○ この科目は、Academic Listening Strategies I とともに、全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目です。原則として通年で履修してください。 ○様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とします。この科目では大きく3つの活動を行います。 1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。 2. 大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材“Dokkyo 1964”（獨協アカデミック語彙リスト、大学HPから各自ダウンロード）を学習。毎時間語彙テストがある。 3. 教室外で、コンピューターによる英語学習（ALC Net Academy）を行うことが義務づけられており、期末試験にも出題される。 ○オリエンテーションや授業で配布される資料に目を通し、連絡事項を聞き漏らさないようにしてください。	Lesson 1 コース紹介。各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 Lesson 2-15 ・各担当者が指定した教科書による授業 ・毎回「Dokkyo 1964 獨協アカデミック語彙リスト」を範囲とした語彙小テストを実施 ○教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照すること。 ○年度末(1月)に全員TOEIC を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
○教科書は第 1 回目の授業の指示に従うこと。 ○“Dokkyo 1964”（獨協アカデミック語彙リスト）:HP から各自ダウンロード ○ALC NetAcademy Standard Reading Course (Units 1-25)	○各担当教員のシラバスに記載。 ○原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降(秋) 07 年度以前(秋)	English(リーディング I b) / (Academic Reading Strategies I b) English 111-b Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○ この科目は、Academic Listening Strategies I とともに、全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目です。原則として通年で履修してください。 ○春学期に引き続き、様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とします。この科目では大きく3つの活動を行います。 1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。 2. 大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材“Dokkyo 1964”（獨協アカデミック語彙リスト、大学HPから各自ダウンロード）を学習。毎時間語彙テストがある。 3. 教室外で、コンピューターによる英語学習（ALC Net Academy）を行うことが義務づけられており、期末試験にも出題される。 ○オリエンテーションや授業で配布される資料に目を通し、連絡事項を聞き漏らさないようにしてください。	Lesson 1 コース紹介。各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 Lesson 2-15 ・各担当者が指定した教科書による授業 ・毎回「Dokkyo 1964 獨協アカデミック語彙リスト」を範囲とした語彙小テストを実施 ○教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照すること。 ○年度末(1月)に全員 TOEIC を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
○教科書は第 1 回目の授業の指示に従うこと。 ○“Dokkyo 1964”（獨協アカデミック語彙リスト）:HP から各自ダウンロード ○ALC NetAcademy Standard Reading Course (Units 26-50)	○各担当教員のシラバスに記載。 ○原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降（春）	English(リーディング I a) / (Academic Reading Strategies I a)	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
○ Academic Listening Strategies I とともに、１年生の英語科目の中核となる重要な科目である。原則として通年で履修すること。 ○ドイツ語、フランス語、経済、経営、国際環境経済、法律、国際関係法、総合政策の各学科１年生のうち、入学時に TOEIC で高得点だった学生が受講する科目である。 ○様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とする。 大きく以下の３つの活動を行う。 １．担当者が指示したリーディング教科書。 ２．大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材（大学 HP から各自ダウンロード）を学習。毎時間語彙テストがある。 ３．コンピューターによる英語学習。期末試験にも出題される。 【重要】リーディングは英文和訳ではありません。大学生らしい英語の読み方を学び、グループワークやディスカッションを織り交ぜた活動を、英語で行います。	Class 1: オリエンテーション Classes 2 – 15 教科書を用いた授業活動。毎回、語彙小テストを行う。詳細は、クラス別シラバス、および教員の指示に従って下さい。 トピックの一部を紹介すると 「ブログとジャーナリズム」 「言語が死に絶えるとき」 「写真と地図でウソをつく」 「ノルウェイの種苗倉庫」など。 【重要】第１回目の授業で、より詳しいシラバスを配布し、春学期の授業の進め方などについて詳細に説明します。積極的な参加を期待しています。 1 月末に TOEIC®を全員受験します。各自計画的に学習して下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
・Q: Skills for Success (Oxford University Press) 5 副教材として以下がある。 ・“Dokkyo 1964”（獨協アカデミック語彙リスト）:HP から各自ダウンロード ・ALC NetAcademy Standard Reading Course (Units 1-25) ・英々辞書（電子辞書又は紙の辞書）を用意すること	出席と積極的な授業参加 20% 語彙小テスト 10% 課題（プレゼンを含む） 30% 期末試験（ALC Reading 課題を含む）40% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降（秋）	English(リーディング I b) / (Academic Reading Strategies I b)	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
○ Academic Listening Strategies I とともに、１年生の英語科目の中核となる重要な科目である。春学期に引き続き、原則として通年で履修すること。 ○ドイツ語、フランス語、経済、経営、国際環境経済、法律、国際関係法、総合政策の各学科１年生のうち、入学時に TOEIC で高得点だった学生が受講する科目である。 ○春学期に引き続き、様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力をつけることを目的とする。 大きく以下の３つの活動を行う。 １．担当者が指示したリーディング教科書。 ２．大学生にふさわしい語彙力を身につけるための統一語彙教材（大学 HP から各自ダウンロード）を学習。毎時間語彙テストがある。 ３．コンピューターによる英語学習。期末試験にも出題される。 【重要】リーディングは英文和訳ではありません。大学生らしい英語の読み方を学び、ディスカッションや、プレゼンテーション、ライティングなども織り交ぜた活動を、英語で行います。	Class 1: オリエンテーション Classes 2 – 15 教科書を用いた授業活動。毎回、語彙小テストを行う。詳細は、クラス別シラバス、および教員の指示に従って下さい。 トピックの一部を紹介すると 「ザ・サード・プレイス」 「信号のない街作り」 「ゴミ問題」 「缶コーヒーでカフェイン補給」など。 【重要】第１回目の授業で、より詳しいシラバスを配布し、秋学期の授業の進め方などについて詳細に説明します。積極的な参加を期待しています。 1 月末に TOEIC®を全員受験します。各自計画的に学習して下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
・Q: Skills for Success (Oxford University Press) 副教材として以下がある。 ・“Dokkyo 1964”（獨協アカデミック語彙リスト）:HP から各自ダウンロード ・ALC NetAcademy Standard Reading Course (Units 26-50) ・英々辞書（電子辞書又は紙の辞書）を用意すること	出席と積極的な授業参加 20% 語彙小テスト 10% 課題（プレゼンを含む） 30% 期末試験（ALC Reading 課題を含む）40% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際関係法学科、総合政策学科、国際環境経済学科のクラス指定科目です。原則として春・秋学期通年で履修すること。 本科目の目的は、英語のアカデミック・ライティングの基礎であるパラグラフライティングのルールを学び、論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばすことです。パラグラフ（段落）の基本構造を学び、トピック・センテンスやサポーティング・センテンス、効果的な接続語などを用いて、情報や出来事の説明、自分の考えなどについて読みやすい文章を書く練習をします。書く前の計画からアウトライン作成、文章作成、書き直し、校正までの「プロセス」を重視します。これまでに学んだ語彙や文法を基に、「和文英訳」ではないライティング力を身につけてください。課題にはきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見交換をすることが求められます。	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第１回目の授業に出席しクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例です。 第１回 ガイダンス 第２回 英文メールの書き方 第３回 英文メールの書き方・タイピング練習 第４回 Punctuation and Capitalization 第５回 Paragraph Organization 第６回 Unity and Coherence 第７回 Brainstorming & Outlining 第８回 Descriptive Paragraphs 第９回 Descriptive Paragraphs 第 10 回 Process Paragraphs 第 11 回 Process Paragraphs 第 12 回 Process Paragraphs 第 13 回 Opinion Paragraphs 第 14 回 Opinion Paragraphs 第 15 回 Opinion Paragraphs
テキスト、参考文献	**評価方法**
第１回目の授業で担当教員の指示に従うこと。	積極的な授業活動への参加、課題、期末テストなどによる総合評価。 原則として４回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際関係法学科、総合政策学科、国際環境経済学科のクラス指定科目です。原則として春・秋学期通年で履修すること。 春学期同様、アカデミック・ライティングの基礎となるパラグラフの構造を学び、情報や出来事、自分の考えなどに関して論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばします。秋学期には、書き始める前の情報整理と計画、効果的な論展開の方法についてさらに理解を深め、より短い時間でパラグラフを完成させることを目指します。他の履修中の英語科目（リーディング、リスニングなど）で学ぶ語彙や表現も意識的に使ってみましょう。「和文英訳」ではないライティング力を習得する重要な科目です。計画から校正まで文章を完成させるプロセスを大切にしてください。課題にはきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見交換をすることが求められます。	第１回目の授業に出席し、担当者からクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例です。 第１回 ガイダンス 第２回 Review of Paragraph Organization 第３回 Classification Paragraphs 第４回 Classification Paragraphs 第５回 Classification Paragraphs 第６回 Cause and Effect Paragraphs 第７回 Cause and Effect Paragraphs 第８回 Cause and Effect Paragraphs 第９回 Comparison / Contrast Paragraphs 第 10 回 Comparison / Contrast Paragraphs 第 11 回 Comparison / Contrast Paragraphs 第 12 回 Opinion Paragraphs 第 13 回 Opinion Paragraphs 第 14 回 Opinion Paragraphs 第 15 回 Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教員の指示に従うこと。	出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストによる総合評価となる。 原則として４回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降（春）	English（スピーキング Ia） /（Speaking in Academic Contexts Ia）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
In this class, we will try to develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies and key expressions you need to speak in English in academic settings. University related themes will include speaking with your classmates and teachers about school life, club activities, and study strategies. Class time will be spent on a variety of speaking activities to help you practice speaking so that you can build confidence as a speaker of English. The more you practice, the more you will be able to speak clearly and naturally. Your listening skills will also improve. Evaluation will be based on a mid-term test, a final examination, and an in-class speaking evaluation. Part of your grade will also be based on your participation in class, as well as homework assignments. 経済学部クラス指定科目です。この科目では、英語コミュニケーションの基本となるスピーキングを学びます。大学生として必要なコミュニケーションの方略（ストラテジー）に注目し、スムーズに会話ができるように学び、また、会話に必要な語彙も学びます。練習を重ねることで、自信もつき、より滑らかに話せるようになります。また、リスニングの力もつきます。 評価は、中間テスト、期末テスト、スピーキングテスト、授業への積極的な参加および宿題に基づいて出されます。	Tentative schedule: Class 1 - Course introduction, etc. Classes 2, 3 - Meeting your classmates Classes 4, 5 - Talking to your teachers Classes 6, 7 - Personality: knowing yourself Class 8 – **Mid-term exam**; Talking about school Class 9 - Talking about school Classes 10, 11 - Study strategies and learning goals Class 12, 13 - Club activities Class 14 - Speaking practice; final exam review Class 15 -- **In-class speaking evaluation**
テキスト、参考文献	**評価方法**
Speaking in Academic Contexts I (A publication of the Interdepartmental English Program, Dokkyo University)	Classroom participation/homework 30% Mid-term exam 20% In-class speaking evaluation 20% Final exam 30% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降（秋）	English（スピーキング Ib） /（Speaking in Academic Contexts Ib）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
In this class, we will try to develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies and key expressions you need to speak in English in academic settings. This semester's themes will include choosing your career, preparing for job interviews in English, and studying abroad. Class time will be spent on a variety of speaking activities to help you practice speaking so that you can build confidence as a speaker of English. The more you practice, the more you will be able to speak clearly and naturally. Your listening skills will also improve. Evaluation will be based on two in-class speaking evaluations and a final examination. Part of your grade will also be based on your participation in class, as well as homework assignments. 経済学部クラス指定科目です。この科目では、春学期に引き続き、英語コミュニケーションの基本となるスピーキングを学びます。大学生として必要なコミュニケーションの方略（ストラテジー）に注目し、スムーズに会話ができるように学び、また、会話に必要な語彙も学びます。練習を重ねることで、自信もつき、より滑らかに話せるようになります。また、リスニングの力もつきます。評価は、期末テスト、2 回のスピーキングテスト、授業への積極的な参加および宿題に基づいて出されます。	Tentative schedule: Class 1 - Course introduction, etc. Classes 2, 3 - Travel Classes 4, 5 - Entertainment Classes 6, 7 - Part-time jobs Class 8 – **Mid-term speaking evaluation** Class 9, 10 - Choosing your career Classes 11, 12 - Job interviews Classes 13, 14 - Studying abroad Class 15 – **Final in-class speaking evaluation**
テキスト、参考文献	**評価方法**
Speaking in Academic Contexts I (A publication of the Interdepartmental English Program, Dokkyo University)	Classroom participation/homework 30% In-class speaking evaluation 30% (2 x 15%) Final exam 40% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English（リスニング I a） / (Academic Listening Strategies I a) English 141-a Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
下記の学生を対象とする、クラス指定科目です。 • ドイツ語学科・フランス語学科　1年生 • 経済学部　2年生、1年生（2013年度以降） • 法学部　1年生 高校までに身に付けた基礎英語の知識を、大学での学びや仕事で使えるように、実践的なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的・効果的に使う練習として、(1) 状況や場面にふさわしい英語表現を学び、(2) 身近なテーマに関する様々な会話を聴き、(3) リスニングストラテジーを意識的・効果的に使い、(4) 話の主旨や大切な情報を正確に聴き取る力を身に付け、 (5) 世界中で話される様々な英語を聴きます。また、TOEICの聴解問題練習やポッドキャストを用いて、自然なスピードの英語を理解できるようにします。さらに、聴解を支える発音、シャドーイング、スピーキングの練習も行います。英語のインプットとアウトプットを増やすことにより、リスニングの実践力を身に付けることを目指します。 • 毎授業、教科書と USB メモリースティックを持参すること。 • 経済学部 2 年生以外は、Academic Reading Strategies I とともに、原則として通年で履修すること。	1. Course introduction/Unit 1: Pleased to meet you 2. Unit 1: Pleased to meet you 3. Unit 1 Quiz/Unit 2: What's new? 4. Unit 2: What's new? 5. Unit 2 Quiz/Unit 3: Where can I catch a taxi? 6. Unit 3: Where can I catch a taxi? 7. Unit 3 Quiz/Unit 4: I need to reschedule 8. Unit 4: I need to reschedule 9. Unit 4 Quiz/Unit 5: Do you have a hobby? 10. Unit 5: Do you have a hobby? 11. Unit 5 Quiz/Unit 6: You need a passport 12. Unit 6: You need a passport 13. Unit 6 Quiz/Review Unit 1-6 14. Course review/TOEIC review exercises 15. Course review/TOEIC review exercises
テキスト、参考文献	**評価方法**
Beatty, K. & Tinkler, P. (2008). *Sounds Good, Student Book 2*. Pearson Longman. ※教科書購入時には、自分が使用する教科書を間違えないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。	出席・授業参加　20%　ユニットクイズ　30%（5% x 6 回） 課題　10%　統一期末試験　40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English（リスニング I b） / (Academic Listening Strategies I b) English 141-b Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
下記の学生を対象とする、クラス指定科目です。 • ドイツ語学科・フランス語学科　1年生 • 経済学部　2年生、1年生（2013年度以降） • 法学部　1年生 春学期に引き続き、基礎英語の知識を、大学での学びや仕事で使えるように、実践的なリスニング能力に発展させることを目的とします。 (1) 状況や場面にふさわしい英語表現を学び、(2) 身近なテーマに関する様々な会話を聴き、(3) リスニングストラテジーを意識的・効果的に使い、(4) 話の主旨や大切な情報を正確に聴き取る力を身に付け、(5) 世界中で話される様々な英語を聴きます。また、TOEICの聴解問題練習やポッドキャストを用いて、自然なスピードの英語を理解できるようにします。さらに、聴解を支える発音、シャドーイング、スピーキングの練習も行います。英語のインプットとアウトプットを増やすことにより、リスニングの実践力を身に付けることを目指します。 • 毎授業、教科書と USB メモリースティックを持参すること。 • 経済学部 2 年生以外は、Academic Reading Strategies I とともに、原則として通年で履修すること。 • 1 月に全員 TOEIC IP を受験します。計画的に授業外でも学習すること。	1. Course introduction/Unit 7: May I see the menu? 2. Unit 7: May I see the menu? 3. Unit 7 Quiz/Unit 8: Does it hurt? 4. Unit 8: Does it hurt? 5. Unit 8 Quiz/Unit 9: How much is this watch? 6. Unit 9: How much is this watch? 7. Unit 9 Quiz/Unit 10: What does it do? 8. Unit 10: What does it do? 9. Unit 10 Quiz/Unit 11: Who won the match? 10. Unit 11: Who won the match? 11. Unit 11 Quiz/Unit 12: You're very energetic 12. Unit 12: You're very energetic 13. Unit 12 Quiz/Review Unit 7-12 14. Course review/TOEIC review exercises 15. Course review/TOEIC review exercises
テキスト、参考文献	**評価方法**
Beatty, K. & Tinkler, P. (2008). *Sounds Good, Student Book 2*. Pearson Longman. ※教科書購入時には、自分が使用する教科書を間違えないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。	出席・授業参加　20%　ユニットクイズ　30%（5% x 6 回） 課題　10%　統一期末試験　40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降（春）	English（リスニング I a） / (Academic Listening Strategies I a)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
下記の学生を対象とする、クラス指定科目です。 • ドイツ語学科・フランス語学科　1年生 • 経済学部　2年生、1年生（2013年度以降） • 法学部　1年生 高校までに習得した英語の日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事で使えるように、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的・効果的に使う練習として、口頭発表の典型的な構成や頻出表現をヒントに内容を理解する、講義を聴いてノートを取る、インタビューの放送英語の要点を聴き取る、などを行います。また、TOEICの聴解問題練習やニュース・講演などを用いて、自然なスピードの英語を理解できるようにします。さらに、聴解を支える発音、シャドーイング、スピーキングの練習も行います。授業中は英語でコミュニケーションをとることにより、リスニングの実践力を身に付けることを目指します。 • 毎授業、教科書と USB メモリースティックを持参すること。 • 経済学部 2 年生以外は、Academic Reading Strategies I とともに、原則として通年で履修すること。	1. Course Introduction 2. Chapter 1: Part 2 Social Language 3. Chapter 1: Part 3 & Part 4 Broadcast English 4. Chapter 1: Part 5 Academic English 5. Review/Chapter 1 Test 6. Chapter 2: Part 2 Social Language 7. Chapter 2: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking 8. Chapter 2: Part 5 Academic English 9. Review/Chapter 2 Test 10. Chapter 3: Part 2 Social Language 11. Chapter 3: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking 12. Chapter 3: Part 4 Broadcast English 13. Review/Chapter 3 Test 14. Course review/TOEIC review exercises 15. Course review/TOEIC review exercises
テキスト、参考文献	**評価方法**
Blass, L. & Hartmann, P. (2007). *Quest Intro: Listening & Speaking*. McGraw-Hill. ※教科書購入時には、自分が使用する教科書を間違えないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。	出席・授業参加　20%　チャプターテスト　30%（10% x 3 回） 課題　10%　統一期末試験　40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降（秋）	English（リスニング I b） / (Academic Listening Strategies I b)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
下記の学生を対象とする、クラス指定科目です。 • ドイツ語学科・フランス語学科　1年生 • 経済学部　2年生、1年生（2013年度以降） • 法学部　1年生 春学期に引き続き、高校までに習得した英語の日常会話を理解する能力を、大学での研究や仕事で使えるように、より高度なリスニング能力に発展させることを目的とします。リスニングストラテジーを意識的・効果的に使う練習として、口頭発表の典型的な構成や頻出表現をヒントに内容を理解する、講義を聴いてノートを取る、インタビューの放送英語の要点を聴き取る、などを行います。また、TOEICの聴解問題練習やニュース・講演などを用いて、自然なスピードの英語を理解できるようにします。さらに、聴解を支える発音、シャドーイング、スピーキングの練習も行います。授業中は英語でコミュニケーションをとることにより、リスニングの実践力を身に付けることを目指します。 • 毎授業、教科書と USB メモリースティックを持参すること。 • 経済学部 2 年生以外は、Academic Reading Strategies I とともに、原則として通年で履修すること。 • 1 月に全員 TOEIC IP を受験します。計画的に授業外でも学習すること。	1. Course Introduction Chapter 4: Part 2 Social Language 2. Chapter 4: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking 3. Chapter 4: Part 5 Academic English 4. Review/ Chapter 4 Test 5. Chapter 5: Part 2 Social Language 6. Chapter 5: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking 7. Chapter 5: Part 5 Academic English 8. Review/Chapter 5 Test 9. Chapter 6: Part 2 Social Language 10. Chapter 6: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking 11. Chapter 6: Part 4 Broadcast English 12. Chapter 6: Part 5 Academic English 13. Review/Chapter 6 Test 14. Course review/TOEIC review exercises 15. Course review/TOEIC review exercises
テキスト、参考文献	**評価方法**
Blass, L. & Hartmann, P. (2007). *Quest Intro: Listening & Speaking*. McGraw-Hill. ※教科書購入時には、自分が使用する教科書を間違えないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。	出席・授業参加　20%　チャプターテスト　30%（10% x 3 回） 課題　10%　統一期末試験　40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降（春）	English（リスニング Ia）/（Academic Listening Strategies Ia）	担当者	M. クロフォード

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' ability to comprehend introductory-level academic lectures in various fields. In order to accomplish this, students will build their academic vocabulary, practice effective note-taking strategies, learn about how lectures are typically organized, and develop their critical thinking skills. In addition to actually listening to various lectures, pre- and post-listening activities such as discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. Students will be expected to participate actively in class. <u>Main skill objectives</u> By the end of the course students should be able to: - identify main and supporting ideas in lectures and understand the relationship between them - understand lecture organization - take effective notes while they listen - think critically about lectures and express their opinions about them - demonstrate understanding of words in the Academic Word List (AWL)	1. Introduction to the course 2. Chapter 1 3. Chapter 1 (continued) 4. Chapter 1 (continued) 5. Chapter 1 (continued) 6. Chapter 2 7. Chapter 2 (continued) 8. Chapter 2 (continued) 9. Chapter 2 (continued) 10. Chapter 3 11. Chapter 3 (continued) 12. Chapter 3 (continued) 13. Chapter 3 (continued) 14. Speaking / discussion activity 15. Review for final exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回の授業で指示する	Attendance and participation (20%), homework assignments / quizzes (40%), final exam (40%) 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降（秋）	English（リスニング Ib）/（Academic Listening Strategies Ib）	担当者	M. クロフォード

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' ability to comprehend introductory-level academic lectures in various fields. In order to accomplish this, students will build their academic vocabulary, practice effective note-taking strategies, learn about how lectures are typically organized, and develop their critical thinking skills. In addition to actually listening to various lectures, pre- and post-listening activities such as discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. Students will be expected to participate actively in class. <u>Main skill objectives</u> By the end of the course students should be able to: - identify main and supporting ideas in lectures and understand the relationship between them - understand lecture organization - take effective notes while they listen - think critically about lectures and express their opinions about them - demonstrate understanding of words in the Academic Word List (AWL)	1. Introduction 2. Chapter 4 3. Chapter 4 (continued) 4. Chapter 4 (continued) 5. Chapter 4 (continued) 6. Chapter 5 7. Chapter 5 (continued) 8. Chapter 5 (continued) 9. Chapter 5 (continued) 10. Chapter 6 11. Chapter 6 (continued) 12. Chapter 6 (continued) 13. Chapter 6 (continued) 14. Speaking / discussion activity 15. Review for final exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回の授業で指示する	Attendance and participation (20%), homework assignments / quizzes (40%), final exam (40%) 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(リーディングII a) / (Academic Reading Strategies II a) English 211-a Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この科目はAcademic Reading Strategies I （リーディングI）の上位科目です。原則として通年で履修してください。リーディングI で学んだ英語の読み方の基礎を踏まえて、アカデミックな英語を、的確に読み取り、まとめ、それについて考える訓練をします。 春学期には、大きく以下の2つの活動を行います。 1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。 2. E-learning (ALC NetAcademy) の Power Words というプログラムを用いて、各自が、教室外で語彙学習を行い、毎週範囲を決めて語彙小テストを実施します。 大学2年生は、英語運用能力を伸ばすのに最もふさわしくまた重要な1年間です。得意・不得意にかかわらず、現在の自分の力を少しでも伸ばす積極的な姿勢を持って取り組みましょう。	授業計画と評価方法の詳細は、第1回目の授業で各担当教員から個別のシラバスが配布されるので、必ず確認してください。 Week 1　オリエンテーション Week 2～14　各担当教員が指定した教科書の学習 ALC NetAcademy の指定箇所を範囲とする語彙小テスト Week 15　まとめ ○教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 ○年度末(1月)に全員 TOEIC を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員指定の教科書 ALC NetAcademy PowerWords レベル 3 (E-learning) 辞書	各担当教員から配布されるシラバスに記載。 原則として 4 回以上欠席した学生は評価の対象とならないので、欠席しないように注意すること。

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(リーディングIIb) / (Academic Reading Strategies IIb) English 211-b Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この科目はAcademic Reading Strategies I （リーディングI）の上位科目です。原則として通年で履修してください。春学期に引き続き、リーディングI で学んだ英語の読み方の基礎を踏まえて、アカデミックな英語を、的確に読み取り、まとめ、それについて考える訓練をします。 秋学期には、大きく以下の3つの活動を行います。 1. 担当者が指示したリーディング教科書で積極的に学習。 2. E-learning (ALC NetAcademy) の Power Words というプログラムを用いて、教室外での語彙学習を行う。これについて毎週語彙小テストを実施します。 3. TOEIC 対策の副教材を用いて、授業内に短時間の TOEIC対策を行う。(秋学期のみ実施) 秋学期は、学期末に TOEIC テストがひかえています。積極的な姿勢で勉強を続けて下さい。	授業計画と評価方法の詳細は、第1回目の授業で各担当教員から個別のシラバスが配布されるので、必ず確認してください。 Week 1　オリエンテーション Week 2～14 各担当教員が指定した教科書の学習 ALC NetAcademy の指定箇所を範囲とする語彙小テスト 共通の副教材を用いて、TOEIC テスト対策 Week 15　まとめ ○教科書に関する授業計画については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを保管し、必要に応じて参照すること。 ○年度末（1月）に全員 TOEIC を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員指定の教科書 *5-Minute Quizzes for the TOEIC Test*（マクミラン）: 第 1 回の授業までに必ず購入しておくこと。 ALC *PowerWords* レベル 4 (E-learning)、 辞書	各担当教員から配布されるシラバスに記載。 原則として 4 回以上欠席した学生は評価の対象とならないので、欠席しないように注意すること。

08 年度以降（春）	English（リーディング II a） ／(Academic Reading Strategies II a)	担当者	辻田 麻里

講義目的、講義概要	授業計画
下記の学部・学科の2年生を対象とする、クラス指定科目です。 • ドイツ語学科・フランス語学科 • 経済学部 • 法学部 1 年修了時の TOEIC テストで高得点の学生を集め、学部を超えたクラス編成になっています。各学部の必修科目と重ならないように 5 限目に設定しています。他学部の学生と英語を学べる貴重な機会なので、積極的に授業に参加してください。 リーディング I に引き続き、読解を中心にアカデミックな総合的英語運用力を身に付けることを目的とします。各自の専門分野にも生かせるように、新聞・雑誌の記事や学術論文を使用したテキストを用いて多読・速読・精読を行い、効果的に読むためのストラテジーを使えるようにします。内容を的確に把握できるように、語彙力・文法力などの基礎的な側面を伸ばし、文章の主題を即時に捉えて、アウトラインや要約を書く練習をします。さらに、内容を批判的に吟味し、それに対する自分の考えを、口頭および文章で表現できるようにします。 • 毎週授業の初めに語彙テストを行うので準備しておくこと。 • 原則として通年で履修すること。	1 回目　　コースガイダンス（シラバス配布・教科書発表） ※履修希望者は必ず出席すること。 2～14 回目　詳細は第 1 回目に配布のクラスシラバス参照。 15 回目　　授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回の授業で指示する。	出席・授業参加、課題、発表、期末試験など ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降（秋）	English（リーディング II b） ／(Academic Reading Strategies II b)	担当者	辻田 麻里

講義目的、講義概要	授業計画
下記の学部・学科の2年生を対象とする、クラス指定科目です。 • ドイツ語学科・フランス語学科 • 経済学部 • 法学部 春学期に引き続き、読解を中心にアカデミックな総合的英語運用力を身に付けることを目的とします。各自の専門分野にも生かせるように、新聞・雑誌の記事や学術論文を使用したテキストを用いて多読・速読・精読を行い、効果的に読むためのストラテジーを使えるようにします。内容を的確に把握できるように、語彙力・文法力などの基礎的な側面を伸ばし、文章の主題を即時に捉えて、アウトラインや要約を書く練習をします。さらに、内容を批判的に吟味し、それに対する自分の考えを、口頭および文章で表現できるようにします。 • 毎週授業の初めに語彙テストを行うので準備しておくこと。 • 原則として通年で履修すること。	1 回目　　コースガイダンス（シラバス配布・教科書発表） ※履修希望者は必ず出席すること。 2～14 回目　詳細は第 1 回目に配布のクラスシラバス参照。 15 回目　　授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回の授業で指示する。	出席・授業参加、課題、発表、期末試験など ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English (ライティング IIa) / (Academic Writing IIa: Essay) English 221-a Basic Composition	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際関係法学科・総合政策学科では、本科目がクラス指定科目となっている。原則として通年で履修すること。 本科目の目標は、Academic Writing I で学んだパラグラフの知識を基に、複数のパラグラフから成り立つアカデミックエッセイ（論文）を書けるようになることである。そのためには、英語論文の典型的な構成、書き始める前のプラニングやアウトライン作成、thesis statement、topic sentence などの役割、校正方法を理解し、ルールに基づいてエッセイを完成させることが求められる。「和文英訳」ではなく英語で論理的文章を書く力を習得する重要な科目である。課題にはきちんと取り組み、添削指導を通し、エッセイを完成させる「プロセス」を大切にする姿勢を学んでほしい。モデル・エッセイを分析し、学ぶべきルールを習得する姿勢も大切である。他の英語科目のテキストや英字新聞などで用いられている語彙や表現もエッセイを書く時に使えるよう努力してほしい。	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第１回目の授業で担当者からシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 第１回 ガイダンス Review of Paragraph Organization 第２回 Review of Paragraph Organization 第３回 Listing-Order Paragraphs 第４回 Listing-Order Paragraphs 第５回 Essay Organization 第６回 Essay Organization 第７回 Descriptive Essays 第８回 Descriptive Essays 第９回 Descriptive Essays 第 10 回 Descriptive Essays 第 11 回 Opinion Essays 第 12 回 Opinion Essays 第 13 回 Opinion Essays 第 14 回 Opinion Essays 第 15 回 Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教員の指示に従うこと。	出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストによる総合評価となる。 原則として４回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English (ライティング IIb) / (Academic Writing IIb: Essay) English 221-b Basic Composition	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際関係法学科・総合政策学科では、本科目がクラス指定科目となっている。原則として通年で履修すること。 本科目の目標は、Academic Writing I で学んだパラグラフの知識を基に、複数のパラグラフから成り立つアカデミックエッセイ（論文）を書けるようになることである。そのためには、英語論文の典型的な構成、書き始める前のプラニングやアウトライン作成、thesis statement、topic sentence などの役割、引用の使い方、校正方法を学び、ルールに基づいてエッセイを完成させることが求められる。「和文英訳」ではないライティング力を習得する重要な科目である。春学期同様、課題にはきちんと取り組み、添削指導を通し、エッセイを完成させるプロセスを大切にする姿勢を学んでほしい。モデル・エッセイの分析や、他の英語科目のテキストや英字新聞などで用いられている語彙や表現を用いるスキルの習得にも更に努力してもらいたい。	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第１回目の授業で担当者からシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 第１回 ガイダンス Review of Essay Organization 第２回 Review of Essay Organization 第３回 Definition Paragraphs 第４回 Definition Paragraphs 第５回 Definition Paragraphs 第６回 Argumentative Essays 第７回 Argumentative Essays 第８回 Argumentative Essays 第９回 Argumentative Essays 第 10 回 Argumentative Essays 第 11 回 Comparison / Contrast Essays 第 12 回 Comparison / Contrast Essays 第 13 回 Comparison / Contrast Essays 第 14 回 Comparison / Contrast Essays 第 15 回 Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教員の指示に従うこと。	出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストによる総合評価となる。 原則として４回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English (リスニング IIa)/(Academic Listening Strategies IIa) English 241-a / Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to build on the skills and strategies students acquired in ALSI. Students will listen to news broadcasts, interviews, and / or academic lectures on various topics and takes notes as they listen. Pre- and post-listening tasks such as vocabulary building exercises, discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. <u>Main skill objectives</u> By the end of the course students should be able to: - understand the main ideas of news broadcasts, interviews, and/or academic lectures - understand how supporting ideas are related to main ideas - take notes effectively as they listen - guess unknown words from context - demonstrate understanding of words in the Academic Word List (AWL)	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第 1 回目の授業で担当者からシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 1. Introduction to the course 2. Preview of topic 1, pre-listening tasks 3. Topic 1 passage(s), post-listening tasks 4. Preview of topic 2, pre-listening tasks 5. Topic 2 passage(s), post-listening tasks 6. Preview of topic 3, pre-listening tasks 7. Topic 3 passage(s), post-listening tasks 8. Midterm exam 9. Preview of topic 4, pre-listening tasks 10. Topic 4 passage(s), post-listening tasks 11. Preview of topic 5, pre-listening tasks 12. Topic 5 passage(s), post-listening tasks 13. Preview of topic 6, pre-listening tasks 14. Topic 6 passage(s), post-listening tasks 15. Wrap-up and review for final exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回の授業で指示する	各担当教員の指示にしたがうこと。 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English (リスニング IIb)/(Academic Listening Strategies IIb) English 241-b / Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to build on the skills and strategies students acquired in ALSI. Students will listen to news broadcasts, interviews, and / or academic lectures on various topics and takes notes as they listen. Pre- and post-listening tasks such as vocabulary building exercises, discussions, short presentations, and writing assignments will also be undertaken. <u>Main skill objectives</u> By the end of the course students should be able to: - understand the main ideas of news broadcasts, interviews and/or academic lectures - understand how supporting ideas are related to main ideas - take notes effectively as they listen - guess unknown words from context - demonstrate understanding of words in the Academic Word List (AWL)	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第 1 回目の授業で担当者からシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 1. Introduction 2. Preview of topic 1, pre-listening tasks 3. Topic 1 passage(s), post-listening tasks 4. Preview of topic 2, pre-listening tasks 5. Topic 2 passage(s), post-listening tasks 6. Preview of topic 3, pre-listening tasks 7. Topic 3 passage(s), post-listening tasks 8. Midterm exam 9. Preview of topic 4, pre-listening tasks 10. Topic 4 passage(s), post-listening tasks 11. Preview of topic 5, pre-listening tasks 12. Topic 5 passage(s), post-listening tasks 13. Preview of topic 6, pre-listening tasks 14. Topic 6 passage(s), post-listening tasks 15. Wrap-up and review for final exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回の授業で指示する	各担当教員の指示にしたがうこと。 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降（春）	English (リスニング IIa) / (Academic Listening Strategies IIa)	担当者	J. ラシーン

講義目的、講義概要	授業計画
This class will focus on practical listening skills for academic purposes. Emphasis will be placed on the use of strategies that will make you a better listener, a better note-taker, and a better learner, not just in English, but in any language and in ALL of your classes. While exploring interesting topics (such as gender, diet, and the environment), we will learn to listen for important lecture information and to take notes effectively. We will use information from real English lectures to hold discussions and give presentations. Evaluation will be based on class performance, examinations, and presentations.	Tentative schedule: Class 1 - Course outline, etc. Classes 2 to 4 - Marketing: Gender and spending habits Classes 5 to 7 - Marketing: Advertisements in everyday life Class 8 – Mid-term Examination Classes 9 to 11 - Science: Diet Classes 12 to 14 - Science: The effects of air pollution Class 15 - Presentations / Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Sarosy, P., & Sherak, K. (2006). *Lecture Ready 2*. New York: Oxford University Press.	Class participation 10%　Vocabulary quizzes 10% Presentation 20%　Midterm exam 30% Final exam 30% In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降（秋）	English (リスニング IIb) / (Academic Listening Strategies IIb)	担当者	J. ラシーン

講義目的、講義概要	授業計画
This class will focus on practical listening skills for academic purposes. Emphasis will be placed on the use of strategies that will make you a better listener, a better note-taker, and a better learner, not just in English, but in any language and in ALL of your classes. While exploring interesting topics (such as news, television, and the internationalization of English), we will learn to listen for important lecture information and to take notes effectively. We will use information from real English lectures to hold discussions and give presentations. Evaluation will be based on class performance, examinations, and presentations.	Tentative schedule: Class 1 - Course outline, etc. Classes 2 to 4 - Media Studies: News and modern technology Classes 5 to 7 - Media Studies: Themes on television Classes 8 to 10 - Linguistics: Slang Classes 11 to 13 - Linguistics: International English Classes 14 to 15 - Presentations / Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Sarosy, P., & Sherak, K. (2006). *Lecture Ready 2*. New York: Oxford University Press.	Class participation 20% Presentation 20%　Vocabulary quizzes 20% Final exam 40% In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(リーディングⅢa) / (Academic Reading and Writing StrategiesⅢa) English 311-a Reading English for Specific Purposes	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語学科 3 年次の学生を対象とするクラス指定科目です。原則として通年で履修すること。 本科目は、Academic Reading Strategies I-II で習得した読解ストラテジーを応用・強化し、より高度な英語運用能力と批判的思考能力を総合的に訓練することを目的とします。 入門レベルの学術的な文章や、新聞・雑誌記事のリーディングとライティングを中心に、内容理解を深めるためにディスカッションも練習します。具体的な授業活動は、分野やテーマ特有の文章構成と言語的特徴の理解、語彙の強化、論拠分析、情報の整理と統合、要約や言い換え、論点に関する自分の意見の発表、などを行います。 授業ではできるだけ英語を使い、主体的にクラスメートと意見交換をしたり説明しあったりする姿勢が求められます。	第 1 回目の授業で担当教員からシラバスが配布され、授業計画について詳細が説明されます。以下はトピックの一例です。 Lesson 1：Course introduction Lesson 2: The Influence of Culture Lesson 3: Peer Group Pressure Lesson 4: Crowds Lesson 5: Writing Lesson 6: Bringing Up Boys and Girls Lesson 7: Fairy-Tale Lessons for Girls Lesson 8: Gender Roles in the Media Lesson 9: Writing Lesson 10: The Role of Mass Media Lesson 11: What Is Newsworthy? Lesson 12: Reporting the Facts Lesson 13: Advertising in the Media Lesson 14: Writing Lesson 15: Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは第 1 回目の授業で発表します。英英辞書・類語辞書を毎回持参すること。	授業参加、課題、クイズ、期末試験など総合的に評価します。詳細は各担当教員のクラスシラバスを参照のこと。 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象となりませんので注意して下さい。

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(リーディングⅢb) / (Academic Reading and Writing StrategiesⅢb) English 311-b Reading English for Specific Purposes	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語学科 3 年次の学生を対象とするクラス指定科目です。原則として通年で履修すること。 本科目は、Academic Reading Strategies I-II で習得した読解ストラテジーを応用・強化し、より高度な英語運用能力と批判的思考能力を総合的に訓練することを目的とします。 入門レベルの学術的な文章や、新聞・雑誌記事のリーディングとライティングを中心に、内容理解を深めるためにディスカッションも練習します。具体的な授業活動は、分野やテーマ特有の文章構成と言語的特徴の理解、語彙の強化、論拠分析、情報の整理と統合、要約や言い換え、論点に関する自分の意見の発表、などを行います。 授業ではできるだけ英語を使い、主体的にクラスメートと意見交換をしたり説明しあったりする姿勢が求められます。	第 1 回目の授業で担当教員からシラバスが配布され、授業計画について詳細が説明されます。 Lesson 1: Course introduction Lesson 2: Cultural Variation and Change Lesson 3: Subcultures and Cults Lesson 4: Changing Communication Lesson 5: Writing Lesson 6: Population Change Lesson 7: Flight to the Cities Lesson 8: The Environment Lesson 9: Into the Future Lesson 10: Writing Lesson 11: What Stops Us from Committing Crimes? Lesson 12: Prisons Lesson 13: The Death Penalty Lesson 14: The War on Drugs Lesson 15: Writing
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは第 1 回目の授業で発表します。英英辞書・類語辞書を毎回持参すること。	授業参加、課題、クイズ、期末試験など総合的に評価します。詳細は各担当教員のクラスシラバスを参照のこと。 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象となりませんので注意して下さい。

08 年度以降（春）	English(リーディングⅢa) / (Academic Reading and Writing StrategiesⅢa)	担当者	宇野沢　和子

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語学科3 年次の学生を対象とするクラス指定科目です。2 年終了時のTOEIC 点数の高かった学生を対象に、より高度な英語運用能力と批判的思考能力を総合的に訓練することを目的とします。 Academic Reading Strategies I-II で習得した読解ストラテジーをさらに応用し、新聞・雑誌記事などのリーディングとライティング（要約、パラグラフライティングなど）を中心に授業を進め、ディスカッションも練習します。具体的な授業活動は、分野やテーマ特有の文章構成と言語的特徴の理解、語彙の強化、論拠分析、要約、論点に関する意見の発表などを行います。 教科書の新聞記事を中心に取り上げるほか、学生は興味のある新聞記事を選び、グループ内で発表し、ディスカッションを行ないます。期末には授業に関連のあるトピックに関するポスターセッションを行ないます。 授業活動はすべて英語で行います。 原則として通年で履修すること。	第1 回目の授業で教員がシラバスを配布し、授業計画について詳細を説明します。 Lesson 1: Course Introduction Lesson 2-13: Chapters from *Reading the News* Mini-presentations and discussions Lesson 14: Poster Session Lesson 15: Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Reading the News　2007 Pete Sharma, Heinle Cengage Learning 英英辞書を毎回持参すること。	出席・積極的な参加 20% グループ内発表 10% 発表・課題など 30% 期末試験 40%。原則として4 回以上欠席した学生は成績評価対象となりませんのでご注意ください。

08 年度以降（秋）	English(リーディングⅢb) / (Academic Reading and Writing StrategiesⅢb)	担当者	宇野沢　和子

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語学科3 年次の学生を対象とするクラス指定科目です。2 年終了時のTOEIC 点数の高かった学生を対象に、より高度な英語運用能力と批判的思考能力を総合的に訓練することを目的とします。 Academic Reading Strategies I-II で習得した読解ストラテジーをさらに応用し、新聞・雑誌記事などのリーディングとライティング（要約、パラグラフライティングなど）を中心に授業を進め、ディスカッションも練習します。具体的な授業活動は、分野やテーマ特有の文章構成と言語的特徴の理解、語彙の強化、論拠分析、要約、論点に関する意見の発表などを行います。 教科書の新聞記事を中心に取り上げるほか、学生は興味のある新聞記事を選び、グループ内で発表し、ディスカッションを行ないます。期末には授業に関連のあるトピックに関するポスターセッションを行ないます。 授業活動はすべて英語で行います。 原則として通年で履修すること。	第1 回目の授業で教員がシラバスを配布し、授業計画について詳細を説明します。 Lesson 1: Course Introduction Lesson 2-13: Chapters from *Reading the News* Mini-presentations and discussions Lesson 14: Poster Session Lesson 15: Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Reading the News　2007 Pete Sharma, Heinle Cengage Learning 英英辞書を毎回持参すること。	出席・積極的な参加 20% グループ内発表 10% 発表・課題など 30% 期末試験 40%。原則として4 回以上欠席した学生は成績評価対象となりませんのでご注意ください。

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(留学生 Ia) / (Basic English Skills for International Students Ia) English 110-a Introductory Reading Strategies	担当者	林　千賀

講義目的、講義概要	授業計画
英語初習の留学生が対象で、原則として春学期・秋学期通年で履修します。総合的な英語コミュニケーションの基礎力を身に付けることを目標とし、基本単語・文法・発音と、スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング能力を統合して練習します。基礎力定着のために、毎週授業外で単語の勉強とワークブックの宿題がありますので、必ず取り組んでください。授業ではたくさん英語を使ってみましょう。	1. コースの説明 2. Unit 1 3. Unit 1 4. Unit 1 5. Unit 2 6. Unit 2 7. Unit 2 8. 復習・中間テスト 9. Unit 3 10. Unit 3 11. Unit 3 12. Unit 4 13. Unit 4 14. Unit 4 15. 総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
Joan Saslow and Allen Ascher. *Top Notch Fundamentals Split Edition A* (with Workbook + Super CD-ROM). Second edition. Pearson Longman	出席・授業参加 20%（原則として 4 回以上欠席すると評価対象になりません。），単語クイズ 10%，ワークブック宿題 10%，中間テスト 30%，期末テスト 30%

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(留学生 Ib) / (Basic English Skills for International Students Ib) English 110-b Introductory Reading Strategies	担当者	林　千賀

講義目的、講義概要	授業計画
英語初習の留学生が対象で、原則として春学期・秋学期通年で履修します。総合的な英語コミュニケーションの基礎力を身に付けることを目標とし、基本単語・文法・発音と、スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング能力を統合して練習します。基礎力定着のために、毎週授業外で単語の勉強とワークブックの宿題がありますので、必ず取り組んでください。授業ではたくさん英語を使ってみましょう。	1. コースの説明 2. Unit 5 3. Unit 5 4. Unit 5 5. Unit 5 6. Unit 6 7. Unit 6 8. Unit 6 9. Unit 6 10. 復習・中間テスト 11. Unit 7 12. Unit 7 13. Unit 7 14. Unit 7 15. Unit 1-7 総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
Joan Saslow and Allen Ascher. *Top Notch Fundamentals Split Edition A* (with Workbook + Super CD-ROM). Second edition. Pearson Longman	出席・授業参加 20%（原則として 4 回以上欠席すると評価対象になりません。），単語クイズ 10%，ワークブック宿題 10%，中間テスト 30%，期末テスト 30%

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English（留学生 IIa） /（Basic English Skills for International Students IIa) English 211-a Basic Reading Strategies	担当者	長坂 達彦

講義目的、講義概要	授業計画
英語初習の留学生(経済学部・法学部・ドイツ語学科・フランス語学科)が対象です。原則として春学期・秋学期通年で履修します。 総合的な英語の基礎力を身に付けることを目標とし、基本 単語・文法・発音と、スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング能力を統合して練習し、応用力をつけます。 基礎力定着のために、授業外での宿題もあります。	Week 1 オリエンテーション Week 2 Ia/Ib 復習 Week 3-14 Unit 6-7 Week 15 復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
Saslow, J. and Ascher, A. (20011). *Top Notch Fundamentals B 2nd Ed.* Pearson Longman	出席・授業参加・宿題 20% テスト 30% 課題 20% 期末試験 30% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価の対象となりません。

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English（留学生 IIｂ） /（Basic English Skills for International Students IIb) English 211-b Basic Reading Strategies	担当者	長坂 達彦

講義目的、講義概要	授業計画
英語初習の留学生(経済学部・法学部・ドイツ語学科・フランス語学科)が対象です。原則として春学期・秋学期通年で履修します。 総合的な英語の基礎力を身に付けることを目標とし、基本 単語・文法・発音と、スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング能力を統合して練習し、応用力をつけます。 基礎力定着のために、授業外での宿題もあります。	Week 1 オリエンテーション Week 2-14 Unit 8-10 Week 15 総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
Saslow, J. and Ascher, A. (2011). *Top Notch Fundamentals B 2nd Ed.* Pearson Longman	出席・授業参加・宿題 20% テスト 30% 課題 20% 期末試験 30% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価の対象となりません。

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English（ライティング Ia） /（Academic Writing Ia: Paragraph） English 121-a Basic Composition	担当者	松岡 昇

講義目的、講義概要	授業計画
With more and more businesses in Japan going global, more people with a good command of English are needed. They write and answer dozens of e-mails every day, have meetings in English, give presentations to clients from abroad, conduct teleconferences with people at multi-locations outside Japan and prepare handouts for all these meetings. In view of the circumstances, this course aims to develop your practical English skills, especially, your skills of writing and giving presentations. Throughout the course (spring semester), you will have three projects: one is done by individuals; the other two by groups. You have three weeks for each project for its preparation. You begin with getting your ideas on a given theme, then, write them in an organized and logical manner, make PowerPoint slides and handouts, and rehearse against the clock. Each project is completed by giving a formal presentation to the class.	1. Intro: Paragraph Writing / Presentation 2. Project 1: Why Not Marry Me? (Individual; Descriptive/Listing Paragraph) , Prep 1 3. Project 1: Prep 2 4. Project 1: Presentation 1 5. Review 6. Project 2: News Digest (Group; Narrative Paragraph), Prep 1 7. Project 2: Prep 2 8. Project 2: Prep 3 9. Project 2: Presentation 2 10. Project 3: Why Not Take Our Summer Plans? (Group; Process/Listing Paragraph), Prep 1 11. Project 3: Prep 2 12. Project 3: Prep 3 13. Project 3: Presentation 3-1 14. Project 3: Presentation 3-2 15. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Reference handouts are given for each project in class.	Project (30 x 3 = 90 %), Paper (10 x1 = 10 %) NB: In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English（ライティング Ib） /（Academic Writing Ib: Paragraph） English 121-b Basic Composition	担当者	松岡 昇

講義目的、講義概要	授業計画
The components of international understanding are (1) understanding other cultures, (2) knowing the relationships between your country and others, and (3) making your own culture known to people from other cultures. We Japanese seem to have been working comparatively hard on (1) and (2) for centuries, but not quite on (3). Thus, Japan still remains as a mysterious country of the Orient to many people in the world. The fall semester of this course features “Talk about Yourself (Japan)”, with the same objectives as those of the spring semester. Three projects are planned again, and you will learn to use English as another language of yours to let people of the world know more about Japan, the practice of Component (3) mentioned above. Through this practice, you will build up your self-confidence in speaking English in public as well as improve your writing and presentation skills further more.	1. Intro: English and International Understanding; Review of Paragraph Writing / Presentation 2. Project 1: Introducing Japan (Group; Descriptive/Comparison Paragraph), Prep 1 3. Project 1: Prep 2 4. Project 1: Presentation 5. Project 2: Discussing Social Issues (Group; Cause-and –Effect/Opinion Paragraph) , Prep 1 6. Project 2: Prep 2 7. Project 2: Prep 3 8. Project 2: Presentation 9. Review 10. Project 3: My Future Plans (Individual; Classification/Dada-Illustration Paragraph), Prep 1 11. Project 3: Prep 2 12. Project 3: Prep 3 13. Project 3: Presentation 1 14. Project 3: Presentation 2 15. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Reference handouts are given for each project in class.	Project (30 x 3 = 90 %), Paper (10 x1 = 10 %) NB: In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降(春) 07 年度以前(春)	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	飯島　優雅

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語学科、フランス語学科、経済学科、経営学科、法律学科の学生を対象とする選択科目です。原則として学期完結科目ですが、春・秋学期通年で履修することも可能です。 本科目の目的は、英語のアカデミック・ライティングの基礎であるパラグラフライティングのルールを学び、論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばすことです。パラグラフ（段落）の基本構造を学び、トピック・センテンスやサポーティング・センテンス、効果的な接続語などを用いて、情報や出来事の説明、自分の考えなどについて読みやすい文章を書く練習をします。書く前の計画からアウトライン作成、文章作成、書き直し、校正までの「プロセス」を重視します。これまでに学んだ語彙や文法を基に、「和文英訳」ではないライティング力を身につけてください。課題にはきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見交換をすることが求められます。	第１回目の授業に出席し、担当者からクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 第１回 ガイダンス 第２回 英文メールの書き方 第３回 英文メールの書き方・タイピング練習 第４回 Punctuation and Capitalization 第５回 Paragraph Organization 第６回 Unity and Coherence 第７回 Brainstorming & Outlining 第８回 Descriptive Paragraphs 第９回 Descriptive Paragraphs 第 10 回 Process Paragraphs 第 11 回 Process Paragraphs 第 12 回 Process Paragraphs 第 13 回 Opinion Paragraphs 第 14 回 Opinion Paragraphs 第 15 回 Opinion Paragraphs
テキスト、参考文献	**評価方法**
第１回目の授業で担当教員の指示に従うこと。	積極的な授業活動への参加、課題、期末テストなどによる総合評価。 原則として４回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降(秋) 07 年度以前(秋)	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	林　千賀

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語学科、フランス語学科、経済学科、経営学科、法律学科の学生を対象とする選択科目です。原則として学期完結科目ですが、春・秋学期通年で履修することも可能です。 春学期同様、アカデミック・ライティングの基礎となるパラグラフの構造を学び、情報や出来事、自分の考えなどに関して論理的でまとまりのある文章を書く力を伸ばします。秋学期には、書き始める前の情報整理と計画、効果的な論展開の方法についてさらに理解を深め、より短い時間でパラグラフを完成させることを目指します。他の履修中の英語科目（リーディング、リスニングなど）で学ぶ語彙や表現も意識的に使ってみましょう。「和文英訳」ではないライティング力を習得する重要な科目です。計画から校正まで文章を完成させるプロセスを大切にしてください。課題にはきちんと取り組み、クラスメートと活発にフィードバックや意見交換をすることが求められます。	第１回目の授業に出席し、担当者からクラスシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 第１回 ガイダンス 第２回 Review of Paragraph Organization 第３回 Classification Paragraphs 第４回 Classification Paragraphs 第５回 Classification Paragraphs 第６回 Cause and Effect Paragraphs 第７回 Cause and Effect Paragraphs 第８回 Cause and Effect Paragraphs 第９回 Comparison / Contrast Paragraphs 第 10 回 Comparison / Contrast Paragraphs 第 11 回 Comparison / Contrast Paragraphs 第 12 回 Opinion Paragraphs 第 13 回 Opinion Paragraphs 第 14 回 Opinion Paragraphs 第 15 回 Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
第１回目の授業で担当教員の指示に従うこと。	積極的な授業活動への参加、課題、期末テストなどによる総合評価。 原則として４回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降(春) 07 年度以前(春)	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	遠藤 朋之

講義目的、講義概要	授業計画
比較的簡単なテキストを使って、英語⇔日本語の“switch back and forth（行ったり来たり）”をスムーズに行う練習をする。テキストは、最初に reading のセクションがあり、その練習問題、そして、その内容にまつわる英作文のセクション、という構成になっている。このひとつの chapter を２コマかけてこなし、次の週に英作文を提出してもらう、ということを繰り返す。つまり、半期に６～７通ていどの英作文を書いてもらうことになる。 ここまで英語を勉強してきて、さらに「学ぶ」ことなど、ほとんどない。この授業の目的は、簡単な英語を使って、英語が「できる」ようにすることだ。なので、テキストは「わかる」ものを使う。つまり、「わかる」から「できる」に移行することを、この授業の目的とする。 授業に「いる」だけでは、単位は認定できない。「参加する」ことが重要だ。	1：introduction 2~3：Chapter 1 4~5: Chapter 2 6~7: Chapter 3 8~9: Chapter 4 10~11: Chapter 5 12~13: Chapter 6 14~15: Chapter 7
テキスト、参考文献	**評価方法**
Weaving It Together 2 (Heinle Cengage Learning)	テストと授業への参加度、チャプターが終わったごとの英作文。４回以上休んだ場合は、評価の対象とはならない。

08 年度以降(秋) 07 年度以前(秋)	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	遠藤 朋之

講義目的、講義概要	授業計画
春学期でやってきたことを、引き続き行う。「わかる」から「できる」へ。授業の進め方、そして、６～７通の英作文を書いてもらうことは変わらない。	1: 春学期末テストの返却、講評 2~3: Chapter 8 4~5: Chapter 9 6~7: Chapter 10 8~9: Chapter 11 10~11: Chapter 12 12~13: Chapter 13 14~15: Chapter 14
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。 *Weaving It Together 2* 。	これも春学期と同じ。

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	石月　正伸

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は、＜パラグラフ・ライティング＞という大前提のもと、①効果的［理想的］な＜パラグラフ＞と、②レポートやエッセイの効果的な＜アウトライン＞とを作成するためのノウ・ハウ、即ち、センテンスを越えた英文の＜文章＞を書くための基礎的な理屈を、実践を通して、（ある程度）理解することである。１年間のスパンで、理屈を実践に結び付け、その理屈の深い理解に繋げたい。 《TOEIC のスコアが３５０から５００くらいまでの学生を対象と想定しています》 【授業ではテキストに即して、大きく３つのことをする】 ①トピックに関する和文英訳で、英文の構造を理解しながらセンテンスを組み立てる練習（英作文の基礎固め）。 【これは学生の予習を前提とします】 ②トピックに関する語彙・表現・文章の習得（情報と英文のイン・プット）。 ③トピックの和文と英文を参考にしてのパラグラフ・ライティングの実践。センテンスの数が１０程度の英文（PW）を提出してもらいます。　英文の「質」に関しては、成績評価の直接的な対象にはしないので、あまり気にしなくて OK です。　【＊ 詳しくは、総合ガイダンスで述べます】 【注】 就職活動による欠席は一切認めません	以下の内容は、基本的な進行予定です。 授業状況により多少の変更の可能性があります。 【小テスト】英作３０題中５題５０点（計２回） ＊ 授業時間の一部を使って行う。 【PW 提出】センテンス 10 程度の英文（計３回） ＊テーマは前もって授業時に指示する。 1　総合ガイダンスと PW の説明１（プリント） 2　PW の説明２（プリント） 3　Ｌ１　（Ｌ＝テキストの Lesson） 4　Ｌ１　（３回以下も、適宜、ＰＷの説明が加わる） 5　Ｌ２　【トライアル・エッセイ提出】 6　Ｌ２ 7　Ｌ３　【PW１提出】＊ ワープロ文字で提出 8　Ｌ３ 9　Ｌ４　【ＰＷ２提出】 10　Ｌ４ 11　Ｌ５　【小テスト１】（５題６０点） 12　Ｌ５ 13　Ｌ６　【PW３提出】 14　Ｌ６ 15　まとめ【小テスト２】（５題６０点）
テキスト、参考文献	**評価方法**
石谷由美子著『トピック別エッセイの書き方』(2010 年)、**南雲堂**	**小テスト５０％ ＋ レポ４０％ ＋発表１０％** 【原則として４回以上欠席した学生は成績評価対象とならない（遅刻は 0.5 回欠席）】

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	石月　正伸

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、「ライティングＩa」の続きです。 授業の目的は、原則的に、「ライティングＩa」と同じです。 【秋学期のみ履修を希望する学生は】　第１回と第２回の授業に必ず出てください。授業の進め方とパラグラフ・ライティングの説明があります。 【注】 就職活動による欠席は一切認めません 【＊ 詳しくは、第１回総合ガイダンスで述べます。】	以下の内容は、基本的な進行予定です。 授業状況により多少の変更の可能性があります。 【小テスト】英作３０題中５題５０点（計２回） ＊ 授業時間の一部を使って行う。 【PW 提出】センテンス 10 程度の英文（計４回） ＊ テーマは前もって授業時に指示する ＊ 【原則、ワープロ文字】 1　総合ガイダンス 2　春学期の復習を含めたＰＷの説明 3　Ｌ７　（Ｌ＝テキストの Lesson） 4　Ｌ７ 5　Ｌ８　【PW１提出】＊ ワープロ文字で提出 6　Ｌ８ 7　Ｌ９　【PW２提出】 8　Ｌ９ 9　Ｌ１０【小テスト１】（５題５０点） 10　Ｌ１０ 11　Ｌ１１【PW３提出】 12　Ｌ１１ 13　Ｌ１２【PW４提出】 14　Ｌ１２ 15　まとめ【小テスト２】（５題５０点）
テキスト、参考文献	**評価方法**
石谷由美子著『トピック別エッセイの書き方』(2010 年)、**南雲堂**	**小テスト５０％ ＋ レポ４０％ ＋発表１０％** 【原則として４回以上欠席した学生は成績評価対象とならない（遅刻は 0.5 回欠席）】

08 年度以降(春) 07 年度以前(春)	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	髙畑　哲男

講義目的、講義概要	授業計画
2つ以上のセンテンスの集合からパラグラフは構成される。しかし、パラグラフはセンテンスの単なる寄せ集めではなく、明確な目的と論理的構造をもっている。受講者がそうした特徴を理解したうえで、慣用表現などを使ったエッセイライティングに移行することを目指します。 まず最初に、日本語・英語のパラグラフの違いなどについて説明したのちに、各課のテーマに関係する語彙を口頭で確認してから、パラグラフを英訳する。また、板書解答を受講者全員で検討します。(英訳は事前に指名します) また、プリントを使ってのサマリーライティングも適宜おこない、要旨を簡潔に英文で表現する練習もします。受講者は予習が大切です。 なお、半期に3回程度のレポート(当方指定のテーマについてのパラグラフ)の提出を求めます。 TOEIC500点前後の受講者を想定していますが、詳細は初回授業で説明する予定です。	基本的には教科書のユニットにしたがって進める。 1. 全体的なガイダンス＋パラグラフについて 2. The History of Our University 3. My Favorite Country 4. The Four Basic Food Groups 5. Summary Writing(1) 6. Japan's Educational System 7. What Is Science? 8. Social Networking Services 9. Summary Writing(2) 10. Should Students Wear School Uniforms? 11. The Case for Organ Donation 12. Global Warming 13. Summary Writing(3) 14. Summary Writing(4) 15. まとめと復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
杉田　由仁、R.R. Caraker, *Writing for Presentation in English* (『ライティングで学ぶ英語プレゼンテーション』**南雲堂**　￥1,785	定期試験 70%　＋ レポート 15%　＋ 出席・発表 15% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない

08 年度以降(秋) 07 年度以前(秋)	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	髙畑　哲男

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は English(ライティング Ia)の継続となります。 授業目的、授業展開は春学期に準じますが、秋学期のみ受講を希望する人は必ず第 1 回目の授業に出席して、内容と授業展開を理解してから受講してください。 なお、秋学期は授業進度、内容も春学期にくらべてやや早く、深くなりますので注意してください。詳細は初回授業で説明する予定です。	基本的には教科書のユニットにしたがって進める。 1. 全体的なガイダンス＋サマリーライティングについて 2. Exercise and Physical Fitness 3. Overpopulation 4. Hybrid or Electric? 5. Summary Writing(1) 6. Informative Presentations(1) 7. Informative Presentations(2) 8. Persuasive Presentations(1) 9. Persuasive Presentations(2) 10. Summary Writing(2) 11. English and Internationalization(1) 12. English and Internationalization(2) 13. Aging Society(1) 14. Aging Society(2) 15. まとめと復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
杉田　由仁、R.R. Caraker, *Writing for Presentation in English* (『ライティングで学ぶ英語プレゼンテーション』**南雲堂**　￥1,785	定期試験 70%　＋ レポート 15%　＋ 出席・発表 15% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	W.ヘイ

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to build confidence in your speaking ability and oral communication for a variety of academic contexts. By the end of this course, you will be able to: 1. Talk to your teachers, classmates, and others about your university life, including club activities and classes. 2. Use key expressions for a number of situations in academic contexts. 3. Use speaking strategies to contribute to a conversation such as: (a) Ask and respond to questions and requests. (b) Ask questions to clarify things you don't understand. (c) Ask for explanations and examples. (d) Respond to good and bad news in an appropriate manner.	1. Introduction and course orientation. 2. Unit 1, Chapter 1: Meeting your classmates. 3. Unit 1, Chapter 1: Meeting your classmates. 4. Unit 1, Chapter 2: Talking to your teachers. 5. Unit 1, Chapter 2: Talking to your teachers. 6. Unit 1, Chapter 3: Personality 7. Unit 1, Chapter 3: Personality 8. Mid-term Speaking Test. 9. Unit 2, Chapter 4: Talking about school. 10. Unit 2, Chapter 4: Talking about school. 11. Unit 2, Study strategies and learning goals. 12. Unit 2, Study strategies and learning goals. 13. Unit 2, Chapter 6: Club activities. 14. Unit 2, Chapter 6: Club Activities 15. Unit 2 Final Speaking Test.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Speaking in Academic Contexts I, a publication of the Interdepartmental English Language Program, Dokkyo University.	1. Class participation: 10% 2. Homework Assignments: 10% 3. Attendance: 10% 4. Mid-term Speaking Test: 20% 5. Final Speaking Evaluation: 20% 6. Final Written Examination: 30% *原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。* ***In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.***

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	W.ヘイ

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to build confidence in your speaking ability and oral communication for a variety of academic contexts. By the end of this course, you will be able to: 1. Talk to your teachers, classmates, and others about your university life, including club activities and classes. 2. Use key expressions for a number of situations in academic contexts. 3. Use speaking strategies to contribute to a conversation such as: (a) Ask and respond to questions and requests. (b) Ask questions to clarify things you don't understand. (c) Ask for explanations and examples. (d) Respond to good and bad news in an appropriate manner.	1. Fall semester orientation 2. Unit 3, Chapter 7: Travel 3. Unit 3, Chapter 7: Travel 4. Unit 3, Chapter 8: Entertainment 5. Unit 3, Chapter 8: Entertainment 6. Unit 3, Chapter 9: Part-time jobs 7. Unit 3, Chapter 9: Part-time jobs 8.Mid-term speaking Test 9.Unit 4, Chapter 10: Choosing your career. 10. Unit 4, Chapter 10: Choosing your career. 11. Unit 4, Chapter 11: Job interviews 12. Unit 4, Chapter 11: Job interviews 13. Unit 4, Chapter 12: Studying Abroad 14. Unit 4, Chapter 12: Studying Abroad 15. Final Speaking Test
テキスト、参考文献	**評価方法**
Speaking in Academic Contexts I, a publication of the Interdepartmental English Language Program, Dokkyo University.	1. Class participation: 10% 2. Homework Assignments: 10% 3. Attendance: 10% 4. Mid-term Speaking Test: 20% 5. Final Speaking Evaluation: 20% 6. Final Written Examination: 30% *原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。* ***In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.***

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	M.H.ウィキンズ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is for students to improve their English speaking skills. We will focus on conversation and every day situations. The objective of this semester is for students to become more comfortable in English. We will have fun and learn English in an academic setting. The material will mainly come from the textbook, but other materials may be used. We will conduct all class activities in English.	Week 1: Class Introductions (Unit 0) Week 2: Meeting people (Unit 1) Week 3: Personal Information (Unit 1) Week 4: Describing People (Unit 2) Week 5: Daily Activities and Routines (Unit 3) Week 6: Finish Unit 3 Week 7: Midterm Project Week 8: Talking about locations (Unit 4) Week 9: Finish Unit 4 Week 10:Giving directions (Unit 5) Week 11:Describing past events (Unit 6), Debate Week 12: Talking about weekends (Unit 6) Week 13:Talking about weekends (Unit 6) Week 14: Practice for presentations Week 15: Final Presentation
テキスト、参考文献	**評価方法**
English Firsthand 1 (Longman)	Class Homework 10%　Class participation 20% Midterm Exam 20%　Midterm Project 25% Final Project 25% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X. ***If you are more than 15 minutes late three times, it will count as one absence*** ***If you miss a class, please contact your classmate or the instructor to learn what you missed.***

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	M.H.ウィキンズ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is for students to improve their English speaking skills. We will focus on conversation and every day situations. The objective of this semester is for students to become more comfortable in English. We will have fun and learn English in an academic setting. The material will mainly come from the textbook, but other materials may be used. We will conduct all class activities in English.	Week 1: Re-introduction Week 2: Jobs (Unit 7) Week 3: Entertainment (Unit 8) Week 4: Invitations (Unit 8) Week 5: Activities and making plans (Unit 9) Week 6: Activities and making plans (Unit 9) Week 7: Midterm Exam Week 8: Shopping (Unit 10) Week 9: More shopping (Unit 10) Week 10: Describing processes, cooking (Unit 11) Week 11: Finish processes and cooking (Unit 11) Week 12: Movie Scripts Week 13: Music (Unit 12) Week 14: More Music (Unit 12) Week 15: Final Project
テキスト、参考文献	**評価方法**
English Firsthand 1 (Longman)	Class Homework 10%　Class participation 20% Midterm Exam 20%　Midterm Project 25% Final Project 25% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X. ***If you are more than 15 minutes late three times, it will count as one absence*** ***If you miss a class, please contact your classmate or the instructor to learn what you missed.***

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(スピーキング I a)/（Speaking in Academic Contexts I a） English 131-a Basic Communicative English	担当者	D. R. ギブソン

講義目的、講義概要	授業計画
This is a speaking skills course intended to provide students with the opportunity to use the English they have already acquired in challenging and meaningful conversation activities. During the first semester, students will learn and practice conversation strategies that can contribute to their fluency and increase their confidence in their speaking abilities. Students will take part in small group discussions and have conversations in pairs in which they will practice the key language from the text and reinforce their use of core conversation patterns and strategies.	The course will focus on approximately one textbook unit every other week. Lesson 1 Orientation Lesson 2 Unit 1 Self Introductions Lesson 3 Unit 1 Strategies/Listening/Conversations Lesson 4 Unit 2 Family. Vocabulary/Key Questions Lesson 5 Unit 2 Family. Strategies/Conversations Lesson 6 Unit 3 Shopping. Vocabulary/Key Questions Lesson 7 Unit 3 Shopping. Strategies/Conversations Lesson 8 Unit 4 Food. Vocabulary/Key Questions Lesson 9 Unit 4 Food. Strategies/Conversations Lesson 10 Unit 5 Music. Vocabulary/Key Questions Lesson 11 Unit 5 Music. Strategies/Conversations Lesson 12 Unit 6 Free Time. Vocab./Key Questions Lesson 13 Unit 6 Free Time. Strategies/Conversations Lesson 14 General Review. Units 1-6 Lesson 15 Test Preparation and Practice
テキスト、参考文献	**評価方法**
Nice Talking With You: Tom Kenny and Linda Woo Cambridge University Press: 2011	Active Participation in class activities: 40%; Unit Quizzes: 20%; Homework: 20%; Final Speaking Test: 20%. ***In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.***

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(スピーキング I b) /（Speaking in Academic Contexts I b） English 131-b Basic Communicative English	担当者	D. R. ギブソン

講義目的、講義概要	授業計画
This is a speaking course intended to provide students with the opportunity to add to the conversation strategies that were introduced in the first semester and use them in a variety of speaking activities. Students will take part in small group discussions and have conversations in pairs in which they will practice the key language from the text and reinforce their use of core conversation patterns and strategies.	The course will focus on approximately one textbook unit every other week. Lesson 1 Course Overview and Strategy Review Lesson 2 Unit 7 Travel. Vocabulary/Key Questions Lesson 3 Unit 7 Travel. Strategies/Conversations Lesson 4 Unit 8 Sports. Vocabulary/Key Questions Lesson 5 Unit 8 Sports. Strategies/Conversations Lesson 6 Unit 9 Friends. Vocabulary/Key Questions Lesson 7 Unit 9 Friends. Strategies/Conversations Lesson 8 Unit 10 Work. Vocabulary/Key Questions Lesson 9 Unit 10 Work. Strategies/Conversations Lesson 10 Unit 11 Movies. Vocabulary/Key Questions Lesson 11 Unit 11 Movies. Strategies/Conversations Lesson 12 Unit 12 Personal Tech. Vocabulary/Key Questions Lesson 13 Unit 12 Personal Tech. Strategies/ Conversations Lesson 14 General Review. Units 7-12 Lesson 15 Test Preparation and Practice
テキスト、参考文献	**評価方法**
Nice Talking With You: Tom Kenny and Linda Woo Cambridge University Press: 2011	Active Participation in class activities: 40%; Unit Quizzes: 20%; Homework: 20%; Final Speaking Test: 20%. ***In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.***

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	J .ハサウェイ

講義目的、講義概要	授業計画
Learning should be fun. This is a speaking class.　Students will practice speaking, with the teacher, and with each other. Leaning a language takes practice.　To learn, you must come to class. We will use a text.　We will also use youtube, films, and other things in class.　We will have regular tests. Students are encouraged to use English every day in class. Mistakes are OK.　Sitting quietly is not OK. e-mail　sumipainting@yahoo.com If you have questions or problems please send me an e-mail	Tentative schedule: Class 1 - Course introduction, Meeting classmates Classes 2, - Meeting your classmates Classes 3, 4 - Talking to your teachers Classes 5,6 - Personality: knowing yourself Class 7 - **Unit 1 Test** Class 8,9 - Talking about school Classes 10,11 - Study strategies and learning goals Class 12,13 - Club activities Class 14 - **Unit 2 Test**; final exam review Class 15 -- **In-class speaking evaluation** (class subjects may change during the year)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Speaking in Academic Contexts 1 Dokkyo University text	**Evaluation:**　Class participation: 50% Tests and quizzes 50% **Warning!**　4 absences is an automatic F

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	J .ハサウェイ

講義目的、講義概要	授業計画
Learning should be fun. This is a speaking class.　Students will practice speaking, with the teacher, and with each other. Leaning a language takes practice.　To learn, you must come to class. We will use a text.　We will also use youtube, films, and other things in class. We will have regular tests. Students are encouraged to use English every day in class. Mistakes are OK.　Sitting quietly is not OK. e-mail　sumipainting@yahoo.com If you have questions or problems please send me an e-mail	Week 1　Orientation; Unit 3, Chapter 7: Travel Week 2　Unit 3,Chapter 7: Travel Week 3, 4　Unit 3,Chapter 8: Entertainment Week 5, 6　Unit 3: Chapter 9: Part-time Jobs Week 7　**Unit 3 In-class speaking evaluation** Week 8, 9　Unit 4, Chapter 10: Choosing Your Career Week 10, 11　Unit 4: Chapter 11: Job Interviews Week 12, 13　Unit 4: Chapter 12: Studying Abroad Week 14　**Unit 4 In-class speaking evaluation** Week15　Final exam review (class subjects may change during the year)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Speaking in Academic Contexts 1 Dokkyo University text	**Evaluation:**　Class participation: 40% In class speaking evaluations 40% Final exam 20% **Warning!**　4 absences is an automatic F

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	J. クレイグ

講義目的、講義概要	授業計画
This class will focus mostly on speaking strategies. It will include the use of new phrases and activities that are designed to increase the students' speaking fluency. While accuracy is important, this class will give students many opportunities to practice their English speaking without the stress and worry of being incorrect. This class, once completed, will hopefully put the learner in a position of greater skill and confidence, and will help them to become autonomous, independent English speakers. The student should expect to take an active part in each class.	1. Class Introduction 2. Meeting Your Classmates; listening/phrases 3. Meeting Your Classmates; speaking activities 4. Talking to your Teacher; listening/phrases 5. Talking to your Teacher; speaking activities 6. Personality; listening/phrases 7. Personality; speaking activities 8. Mid-term test; Talking about School; phrases 9. Talking about School; speaking activities 10. Study Strategies; listening/phrases 11. Study Strategies; speaking activities 12. Club Activities; listening/phrases 13. Club Activities; speaking activities 14. Speaking Test 15. Speaking Test (cont.)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Speaking in Academic Contexts I	Class Participation: 30% Mid-Term Test: 15% Speaking Test15% Final Exam: 40% **In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.**

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	J. クレイグ

講義目的、講義概要	授業計画
This class will focus mostly on speaking strategies. It will include the use of new phrases and activities that are designed to increase the students' speaking fluency. While accuracy is important, this class will give students many opportunities to practice their English speaking without the stress and worry of being incorrect. This class, once completed, will hopefully put the learner in a position of greater skill and confidence, and will help them to become autonomous, independent English speakers. The student should expect to take an active part in each class.	1. Class Introduction 2. Travel; listening/phrases 3. Travel; speaking activities 4. Entertainment; listening/phrases 5. Entertainment; speaking activities 6. Part-Time Jobs; listening/phrases 7. Part-Time Jobs; speaking activities 8. Mid-term test; Choosing a Career; phrases 9. Choosing a Career; speaking activities 10. Job Interviews ; listening/phrases 11. Job Interviews; speaking activities 12. Studying Abroad; listening/phrases 13. Studying Abroad; speaking activities 14. Speaking Test 15. Speaking Test (cont.)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Speaking in Academic Contexts I	Class Participation: 30% Mid-Term Test: 15% Speaking Test15% Final Exam: 40% **In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.**

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(スピーキング I a)/（Speaking in Academic Contexts I a） English 131-a Basic Communicative English	担当者	S.A.フルトン

講義目的、講義概要	授業計画
This English speaking course will be content based with current topics in the media; a new topic will be covered each week. Students have the opportunity to learn the language associated with current stories in the national and international news, and use it in informal discussion with the teacher and classmates. The main focus is understanding the vocabulary related to the topics and using it in an academic context. Students will also have the opportunity to practice pronunciation and listening skills.	Week 1 – Introduction Week 2 – Vocabulary in current news topics Week 3 – Using synonyms to summarize Week 4 – Explaining meanings Week 5 – Paraphrasing Week 6 – Asking good questions Week 7 – Discussion Week 8 – Role playing Week 9 – Listening points with teacher Week 10 – Listening points with peers Week 11 – Pronunciation Week 12 – Intonation, stress and meaning Week 13 – Speaking test part 1 Week 14 – Speaking test part 2 Week 15－Review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook required – handouts will be provided.	50% - Attendance & class effort 30% - Speaking test (in pairs) 20% - One short assignment 4 or more absences will result in grade F

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(スピーキング I b)/（Speaking in Academic Contexts I b） English 131-b Basic Communicative English	担当者	S.A.フルトン

講義目的、講義概要	授業計画
This English speaking course will be content based with current topics in the media; a new topic will be covered each week. Students have the opportunity to learn the language associated with current stories in the national and international news, and use it in informal discussion with the teacher and classmates. The main focus is understanding the vocabulary related to the topics and using it in an academic context. Students will also have the opportunity to practice pronunciation and listening skills.	Week 1 – Introduction Week 2 – Vocabulary in current news topics Week 3 – Using synonyms to summarize Week 4 – Explaining meanings Week 5 – Paraphrasing Week 6 – Asking good questions Week 7 – Discussion Week 8 – Role playing Week 9 – Listening points with teacher Week 10 – Listening points with peers Week 11 – Pronunciation Week 12 – Intonation, stress and meaning Week 13 – Speaking test part 1 Week 14 – Speaking test part 2 Week 15－Review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook required – handouts will be provided.	50% - Attendance & class effort 30% - Speaking test (in pairs) 20% - One short assignment 4 or more absences will result in grade F

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(スピーキングⅡa) / (Speaking in Academic Contexts Ⅱa: Presentation) English 231-a Basic Communicative English	担当者	S.フォー

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to help students plan, write and deliver in-class presentations on a variety of stimulating and timely topics. Students will be guided on how to express their opinions on important ideas and issues and would be encouraged to listen carefully to other students' presentations as well as take part in active class discussions 本科目は、原則として English（スピーキング I a,b）のいずれかの単位修得者が履修可能であるが、English（スピーキング I a,b）の単位未修得者で本科目の履修を希望する場合は、教務課各学部係窓口にて申請してください。 This course is designed for students who have already taken English (Speaking I a,b). However, students who have not taken Speaking I and wish to take Speaking II may apply at the Academic Affairs Office.	1. Introduction 2. Course Overview 3. Education: -Learning with a purpose 4. Speaking Up in Class 5. Information Everywhere 6. Travel And Culture -Preparing for a Trip 7. Living in a New Culture 8. Cultural Stereotypes 9. Health and Environment -You are what you eat 10 Living with water 11 Problems and Hope 12 Review 13-15 Presentations/Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Presenting Different Opinions, by Richard McMahon, NAN'UN-DO	Homework: 20%. In-Class Presentations: 60% Attendance/Class Participation: 20 %. ***In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.***

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(スピーキングⅡb) / (Speaking in Academic Contexts Ⅱb: Presentation) English 231-b Basic Communicative English	担当者	S.フォー

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to help students plan, write and deliver in-class presentations on a variety of stimulating and timely topics. Students will be guided on how to express their opinions on important ideas and issues and would be encouraged to listen carefully to other students' presentations as well as take part in active class discussions 本科目は、原則として English（スピーキング I a,b）のいずれかの単位修得者が履修可能であるが、English（スピーキング I a,b）の単位未修得者で本科目の履修を希望する場合は、教務課各学部係窓口にて申請してください。 This course is designed for students who have already taken English (Speaking I a,b). However, students who have not taken Speaking I and wish to take Speaking II may apply at the Academic Affairs Office.	1. Welcome back 2. Society –Women's Rights 3. Buy this, Buy that 4. On the Job 5. Relationships –No Strings Attached 6. Who is Taking Care of the Children 7. Caring About Others 8. Media and Technology -Read all about It 9. Is TV Good for You 10. Taking Access for Granted 11-12 Review 13-15 Presentations/Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Presenting Different Opinions, by Richard McMahon, NAN'UN-DO	Homework: 20 %.In-Class Presentations: 60 % Attendance/Class Participation: 20%. ***In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.***

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(スピーキングⅡa) / (Speaking in Academic Contexts Ⅱa: Presentation) English 231-a Basic Communicative English	担当者	J.ハサウェイ

講義目的、講義概要	授業計画
Learning should be fun. We will do presentations.　We will talk about presentations.　We will watch presentations.　We will use youtube etc. Students will present 3 major presentations each semester.　We will analyze 3 professional presentations each semester.　There will be new vocabulary introduced and quizzed. Students are encouraged to use English every day in class, and to work together in groups. Leaning a language takes practice. To learn, you must come to class. e-mail　sumipainting@yahoo.com If you have questions or problems please send me an e-mail 本科目は、原則として English（スピーキング I a,b）のいずれかの単位修得者が履修可能であるが、English（スピーキング I a,b）の単位未修得者で本科目の履修を希望する場合は、教務課各学部係窓口にて申請してください。 This course is designed for students who have already taken English (Speaking I a,b). However, students who have not taken Speaking I and wish to take Speaking II may apply at the Academic Affairs Office.	1. Introduction 2. create first presentation 3. practice in groups 4. present to the class 5. Analyze presentations 6. Create 2nd presentation 7. Work in groups 8. Present in groups 9. Present to the class 10 begin 3rd presentation 11. work on presentation 12. present first draft in groups 13. present to full class 14. final analysis 15. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text Please save the papers I give you in class.	Class work (Formal Presentations): 60% Homework 15% Quizzes and examinations 25% 4 absences is an automatic F

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(スピーキングⅡb) / (Speaking in Academic Contexts Ⅱb: Presentation) English 231-b Basic Communicative English	担当者	J.ハサウェイ

講義目的、講義概要	授業計画
In the second semester the presentations will use PowerPoint. Come to class.　It's fun to be involved. We will do presentations.　We will talk about presentations.　We will watch presentations. Students will present 4 major presentations each semester.　We will analyze 4 professional presentations each semester.　There will be new vocabulary introduced and quizzed. We will also practice debating skills.　Students enjoyed it last year. Leaning a language takes practice. To learn, you must come to class. e-mail　sumipainting@yahoo.com If you have questions or problems please send me an e-mail. Leaning a language takes practice. To learn, you must come to class. 本科目は、原則として English（スピーキング I a,b）のいずれかの単位修得者が履修可能であるが、English（スピーキング I a,b）の単位未修得者で本科目の履修を希望する場合は、教務課各学部係窓口にて申請してください。 This course is designed for students who have already taken English (Speaking I a,b). However, students who have not taken Speaking I and wish to take Speaking II may apply at the Academic Affairs Office.	1. Introduction 2. create first presentation 3. practice in groups 4. present to the class 5. Analyze presentations 6. Create 2nd presentation 7. Work in groups, begin debate skills 8. Present to the class 9. Analyze and review 10 begin midterm presentation 11. practice debating 12. formal debate 13. present to full class 14. present 15. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text. I will give you some papers.	Class work: 60% Homework 15% Quizzes and examinations 25% 4 absences is an automatic F

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English（e-ラーニング）/ （Computer Assisted English Learning（CAEL）） English 351 Computer-Assisted English Learning	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
ぎゅっと e というコンピュータプログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。 受講対象者：短期間で TOEIC スコアを向上させたい方。 教室内のみではなく、教室外での集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上させたい方だけ、受講してください。 受講条件： ・現在の TOEIC スコアが 250 点～500 点くらい （現在のスコアが低い方はそれを向上させるためにより大きな努力が必要となります） ・初回の授業に必ず出席。4 回欠席すると単位は出ない。 重要事項： ・教室外で、春学期中に 20 時間以上ぎゅっと e を学習 ・学習プランの作成と詳細な学習記録（ジャーナル） ・学習自己評価（2 回） ・実力診断テスト・学習プランの作成 ・期末テスト 本科目は、半期完結なので、通年受講はできません。	１．シラバスとプログラムの説明 ２．リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 ３．テキスト Days 1-2 模擬試験（リスニング） ４．テキスト Day 6 模擬試験（リスニング） ５．テキスト Days 9-10 模擬試験（リスニング） ６．テキスト Day 11 模擬試験（リスニング） ７．リスニング実力診断テスト ８．リーディング実力診断テスト ９．テキスト Days 3-4 （リーディング） １０．テキスト Day 5 （リーディング） １１．テキスト Days 7-8 （リーディング） １２．テキスト Day 9 （リーディング） １３．テキスト Day 10 （リーディング） １４．リーディング実力診断テスト １５．アンケート・自己評価レポートの説明
テキスト、参考文献	**評価方法**
1. 『新 TOEIC テスト 直前の技術：スコアが上がりやすい順に学ぶ』　（アルク） 2. ぎゅっと e プログラム　（体験版は http://gyutto-e.jp）	出席 20%、詳細な学習記録（ジャーナル）20% 学習プラン、20 時間以上の学習、自己評価レポート 30% 期末テスト 30% **原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。**

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English（e-ラーニング）/ （Computer Assisted English Learning（CAEL）） English 351 Computer-Assisted English Learning	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
ぎゅっと e というコンピュータプログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。 受講対象者：短期間で TOEIC スコアを向上させたい方。 教室内のみではなく、教室外での集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上させたい方だけ、受講してください。 受講条件： ・現在の TOEIC スコアが 250 点～500 点くらい （現在のスコアが低い方はそれを向上させるためにより大きな努力が必要となります） ・初回の授業に必ず出席。4 回欠席すると単位は出ない。 重要事項： ・教室外で、秋学期中に 20 時間以上ぎゅっと e を学習 ・学習プランの作成と詳細な学習記録（ジャーナル） ・学習自己評価（2 回） ・実力診断テスト・学習プランの作成 ・期末テスト 本科目は、半期完結なので、通年受講はできません。	１．シラバスとプログラムの説明 ２．リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 ３．テキスト Days 1-2 模擬試験（リスニング） ４．テキスト Day 6 模擬試験（リスニング） ５．テキスト Days 9-10 模擬試験（リスニング） ６．テキスト Day 11 模擬試験（リスニング） ７．リスニング実力診断テスト ８．リーディング実力診断テスト ９．テキスト Days 3-4 （リーディング） １０．テキスト Day 5 （リーディング） １１．テキスト Days 7-8 （リーディング） １２．テキスト Day 9 （リーディング） １３．テキスト Day 10 （リーディング） １４．リーディング実力診断テスト １５．アンケート・自己評価レポートの説明
テキスト、参考文献	**評価方法**
1. 『新 TOEIC テスト 直前の技術：スコアが上がりやすい順に学ぶ』　（アルク） 2. ぎゅっと e プログラム　（体験版は http://gyutto-e.jp）	出席 20%、詳細な学習記録（ジャーナル）20% 学習プラン、20 時間以上の学習、自己評価レポート 30% 期末テスト 30% **原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。**

08 年度以降（春）	English(コンテントⅲ) / (English Explorations)	担当者	飯島　優雅

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語学科・フランス語学科・経済学部・法学部 1～4 年生を対象とする全カリ英語部門の選択科目です。 この科目(English Explorations) は、言語や社会に関するひとつのテーマについて 1 学期間「英語で」学ぶことにより、テーマについての理解を深めながら、英語力と思考力を伸ばすことを目的としています。授業活動はすべて英語です。TOEIC450 点以上を受講生の英語力の目安としますが、積極的に授業に参加する努力ができる学生であればその限りではありません。 コンテントⅲクラスの主要テーマは「Critical Thinking」です。日本語では批判的思考と呼ばれ、大学での学びと研究はもちろん、毎日の生活や職業生活でも非常に必要とされる思考法です。このクラスではこの思考法についての理解を深め、実践力を身に付けます。特に近年社会問題になっている「Cyberbullying（ネットいじめ)」について、教育、法律、政治、社会、心理、メディアコミュニケーションなど複数領域の専門家や一般市民の見解を批判的に分析し、自分自身の意見を形成していきます。	第 1 回目の授業で具体的な授業内容についてクラスシラバスを配布しますので興味のある学生は出席してください。以下は授業計画の一例です。 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 What is critical thinking? 第 3 回 What is critical thinking? 第 4 回 Recognising strong or sound arguments 第 5 回 Recognising strong or sound arguments 第 6 回 Recognising poor arguments 第 7 回 Recognising poor arguments 第 8 回 Persuasion through language or pressure 第 9 回 Persuasion through language or pressure 第 10 回 Detecting bias 第 11 回 Detecting bias 第 12 回 Putting it into practice 第 13 回 Putting it into practice 第 14 回 Putting it into practice 第 15 回 Putting it into practice
テキスト、参考文献	**評価方法**
Friedman, L. S. (Ed.) (2001)*Introducing opposing viewpoints: Cyberbullying*. Gale Cengage Learning	積極的な授業活動への参加、グループプロジェクト、発表、ショートエッセイなどによる総合評価。 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降（秋）	English(コンテントⅱ) / (English Explorations)	担当者	J. ラシーン

講義目的、講義概要	授業計画
Although you will learn many new words in this class, this class is NOT about vocabulary learning. This class is an examination of English words from the perspective of applied linguistics. Through lectures, independent research, online and in-class activities, we will attempt to answer a number of questions about English words: -What is Applied Linguistics? - What is a word? - Where do English words come from? - What does it mean to *know* a word? - How many English words do you know right now? - How many English words does a Japanese university student need to know? - What is the best way to learn new words? - How is vocabulary organized in the mind? Students should have achieved a TOEIC score of around 450 or more before enrolling in this class. Evaluation will be based on a research project, vocabulary quizzes, and a final exam.	Tentative Schedule: 1. Course introduction 2. Applied Linguistics 3. What is a word? 4. Vocabulary Testing (This is not a test! This is about how to measure the number of words someone knows.) 5. Content and function words 6. Types of word knowledge 7. Counting words – Lemmas and lexemes 8. Corpus Linguistics 9. Semantic relations between words 10. Word association 11. Vocabulary learning strategies 12. Vocabulary acquisition 13. Research projects 14. Research projects 15. Final exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be provided by the instructor.	Participation: 10%　Research project: 20% Vocabulary quizzes: 40% (4 x10%)　Final exam: 30% (In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.)

08 年度以降（春）	English(資格 I) /(Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	担当者	河原　伸一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、TOEIC 関連教材を素材として、単語を増やし、文法を復習しながら、英語運用力全般を高めることを目的としています。 スコアアップにつながる効果的な学習方法として、カードを使用した単語学習、Part 5/6 を使用した文法の復習、スラッシュリーディング、スラッシュリスニング、シャドーイングなどを紹介します。 この中から、受講者各自にあった学習方法を選び、楽しい効果的な学習を継続し、英語運用力の向上を目指しましょう。 ① この科目は目安として TOEIC 400 点未満の英語力を持つ学生を対象とします。 ② 半期完結。通年履修不可。	毎回、単語(W)、リスニング(L)、文法(G)、リーディング(R)の問題に取り組みます。授業では、具体的な解法を説明します。 1. W, L, G, R 2. W, L, G, R 3. W, L, G, R 4. 確認問題 5. W, L, G, R 6. W, L, G, R 7. W, L, G, R 8. 確認問題 9. W, L, G, R 10. W, L, G, R 11. W, L, G, R 12. W, L, G, R 13. 確認問題 14. W, L, G, R 15. 模擬テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
『TOEIC テスト新公式問題集 Vol.5』（国際ビジネスコミュニケーション協会）。その他については、授業において指示します。	原則として、４回以上欠席した学生は成績評価対象となりません。毎回の授業参加度・小テスト 40%、期末テスト 60%の結果に基づき総合的に評価します。

08 年度以降（秋）	English(資格 I) / (Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	担当者	河原　伸一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、TOEIC 関連教材を素材として、単語を増やし、文法を復習しながら、英語運用力全般を高めることを目的としています。 スコアアップにつながる効果的な学習方法として、カードを使用した単語学習、Part 5/6 を使用した文法の復習、スラッシュリーディング、スラッシュリスニング、シャドーイングなどを紹介します。 この中から、受講者各自にあった学習方法を選び、楽しい効果的な学習を継続し、英語運用力の向上を目指しましょう。 ① この科目は目安として TOEIC 400 点未満の英語力を持つ学生を対象とします。 ② 半期完結。通年履修不可。	毎回、単語(W)、リスニング(L)、文法(G)、リーディング(R)の問題に取り組みます。授業では、具体的な解法を説明します。 1. W, L, G, R 2. W, L, G, R 3. W, L, G, R 4. 確認問題 5. W, L, G, R 6. W, L, G, R 7. W, L, G, R 8. 確認問題 9. W, L, G, R 10. W, L, G, R 11. W, L, G, R 12. W, L, G, R 13. 確認問題テスト 14. W, L, G, R 15. 模擬テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業において指示します。	原則として、４回以上欠席した学生は成績評価対象となりません。毎回の授業参加度・小テスト 40%、期末テスト 60%の結果に基づき総合的に評価します。

08 年度以降（春）	English(資格 II) /(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	松岡 昇

講義目的、講義概要	授業計画
社会のグローバル化に伴い、企業における英語使用の必要性はますます高まりつつある。本コースでは、こうした社会のニーズを踏まえ、国際コミュニケーションのための英語力の養成を目指す。その具体的な方法として「TOEIC テスト対策」を行うが、目標はあくまでも「仕事で使える英語力」である。音声でも文字でも、「秒速３ words で反応できる英語力」を身に付けることにある。予習と復習はもちろんのこと、1 回 1 回の授業に集中し、受講生全員が TOEIC で 730 点以上得点することを目標とする。 授業では TOEIC 総合対策教材を使い、毎回の授業で次のことを行う。教材の進め方は、原則として１回の授業で２つの章をカバーする。 1) 語彙小テスト 2) 文法の確認 3)「秒速３words の語彙力」の増強 4) Listening Section の演習（Parts 1-4）と解説 5) Reading Section の演習（Parts 5-7）と解説 予習と復習の具体的な方法については教室で指示する。 ①この科目は目安として 400 点以上の英語力を持つ学生を対象とします。 ②半期完結で、通年履修不可。	１回目：「国際コミュニケーションと TOEIC」について ２回目：Chaps 1, 2: At an Airport / At a Hotel ３回目：Chaps 3, 4: On the Street / At a Restaurant ４回目：Chap 5: Shopping /「機能表現（定型句）」（その 1） ５回目：Chaps 6, 7: At a Bank / Taking a Trip ６回目：Chaps 8, 9: Seeing the Doctor / Renting an Apartment ７回目：Review /「英語独習法」 ８回目：Chap 10: Sports /「機能表現（定型句）」（その 2） ９回目：Chaps 11, 12: Job Hunting / Talking on the Telephone 10 回目：Chaps 13, 14: Appointments / Giving a Presentation 11 回目：Chap 15: Negotiation /「機能表現（定型句）」（その 3） 12 回目：Chaps 16, 17: Meeting / Business Performance 13 回目：Chaps 18, 19: Dealing with Complaints / Market Trends 14 回目：Chap 20: Parties /「機能表現（定型句）」（その 4） 15 回目：TOEIC 模擬テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
Kick Off for the TOEIC Test（松岡昇著、金星堂） 学習方法関連のプリントを配布	小テスト（5 点 x 10 回＝50 点）、定期試験（50 点） NB: In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降（秋）	English(資格 II) /(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	松岡 昇

講義目的、講義概要	授業計画
企業のフローバル化に伴い、社会における英語使用の必要性はますます高まりつつある。本コースでは、こうした社会のニーズを踏まえ、国際コミュニケーションのための英語力の養成を目指す。その具体的な方法として「TOEIC テスト対策」を行うが、目標はあくまでも「仕事で使える英語力」である。音声でも文字でも、「秒速３ words で反応できる英語力」を身に付けることにある。予習と復習はもちろんのこと、1 回 1 回の授業に集中し、受講生全員が TOEIC で 730 点以上得点することを目標とする。 授業では TOEIC 総合対策教材を使い、毎回の授業で次のことを行う。教材の進め方は、原則として１回の授業で２つの章をカバーする。 1) 語彙小テスト 2) 文法の確認 3)「秒速３words の語彙力」の増強 4) Listening Section の演習（Parts 1-4）と解説 5) Reading Section の演習（Parts 5-7）と解説 予習と復習の具体的な方法については教室で指示する。 ①この科目は目安として 400 点以上の英語力を持つ学生を対象とします。 ②半期完結で、通年履修不可。	１回目：「国際コミュニケーションと TOEIC」について ２回目：Chaps 1, 2: At an Airport / At a Hotel ３回目：Chaps 3, 4: On the Street / At a Restaurant ４回目：Chap 5: Shopping /「機能表現（定型句）」（その 1） ５回目：Chaps 6, 7: At a Bank / Taking a Trip ６回目：Chaps 8, 9: Seeing the Doctor / Renting an Apartment ７回目：Review /「英語独習法」 ８回目：Chap 10: Sports /「機能表現（定型句）」（その 2） ９回目：Chaps 11, 12: Job Hunting / Talking on the Telephone 10 回目：Chaps 13, 14: Appointments / Giving a Presentation 11 回目：Chap 15: Negotiation / 「機能表現（定型句）」（その 3） 12 回目：Chaps 16, 17: Meeting / Business Performance 13 回目：Chaps 18, 19: Dealing with Complaints / Market Trends 14 回目：Chap 20: Parties /「機能表現（定型句）」（その 4） 15 回目：TOEIC 模擬テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
Kick Off for the TOEIC Test（松岡昇著、金星堂） 学習方法関連のプリントを配布	小テスト（5 点 x 10 回＝50 点）、定期試験（50 点） NB: In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降（春）	English(資格Ⅲ) / (Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	飯島　優雅

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語学科・フランス語学科・経済学部・法学部1~4年生を対象とする全カリ英語部門の選択科目です。 このクラスではTOEFL iBT テストの各パートに必要な基本のtest-taking strategiesを理解し、実践する練習を繰返し行います。 TOEFL iBTは、国際的な英語能力試験で、大学レベルの英語を使用・理解する能力を測定し、さらに、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの各スキルを組み合わせて、学術的な課題を遂行する能力も評価する試験です。 このクラスは、(1)英語圏大学・大学院への留学・入学に関心のある学生 (2) 留学は考えていないがアカデミックな活動で使える英語力を伸ばしたい学生、を歓迎します。目安としてTOEIC 450点以上の英語力が望ましいですが、学習意欲があればどなたでも受講可能です。	第 1 回目の授業で具体的な授業内容についてクラスシラバスを配布しますので興味のある学生は出席してください。以下は授業計画の一例です。 第 1 回 Introduction to the course and TOEFL iBT 第 2 回 Practice Test 第 3 回 Speaking 第 4 回 Speaking 第 5 回 Speaking 第 6 回 Writing 第 7 回 Writing 第 8 回 Writing 第 9 回 Reading 第 10 回 Reading 第 11 回 Reading 第 12 回 Listening 第 13 回 Listening 第 14 回 Listening 第 15 回 Final exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
第 1 回目の授業の指示に従うこと	積極的な授業活動への参加、クイズ、課題、期末試験などによる総合評価。原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならないので注意すること。

08 年度以降（秋）	English(資格Ⅳ) / (Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	M. J. クロフォード

講義目的、講義概要	授業計画
This course will help students to prepare to take the IELTS (International English Language Testing System) exam. This exam originated in the U.K., but is now widely recognized around the world, including North America. Students will first be given an introduction to the contents of the exam. Then, each week students will learn both study strategies and test-taking strategies for improving their performance on the exam. They will have an opportunity to complete a large number of practice questions for all four sections of the test (listening, reading, writing, speaking), as well as to take a practice test. Although the course is primarily designed for students who actually intend to take the IELTS, it is also open to students who want to improve their general academic English skills. This course is designed for students with TOEIC scores of 450 or higher. However, motivated students who have not yet achieved this score are also welcome.	1. Introduction to the course / IELTS exam 2. Listening Practice 1 3. Listening Practice 2 4. Listening Quiz; Reading Practice 1 5. Reading Practice 2 6. Reading Quiz; Writing Practice 1 7. Writing Practice 2 8. Writing Quiz; Speaking Practice 1 9. Speaking Practice 2 10. Speaking Quiz; Listening Practice 3 11. Reading Practice 3 12. Writing Practice 3 13. Speaking Practice 3 14. Review 15. Final exam (practice test)
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced on the first day of class.	Attendance and participation: 10%, homework: 20%, quizzes: 40%, final exam (practice test): 30% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F or X.

08 年度以降（春）	English（発音）/ (Special Topics: Pronunciation Workshop)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
下記の学生を対象とする、半期完結の選択科目です。春学期と秋学期の学習内容は同じなので、いずれかの学期にのみ履修してください。 • ドイツ語学科・フランス語学科 • 経済学部 • 法学部 大学や仕事の様々な場面で英語が使えるように、だれにでも理解されやすい、明瞭でなめらかな英語発音を目指します。主に次の項目を、リスニングとスピーキングスキルを統合したコミュニカティブな授業活動と、シャドーイングなどの自律的学習を通して練習します。 • 母音・子音の発音、音の短縮・脱落・同化・結合 • イントネーション、リズム、発声、スピード、音量 • 発音記号と辞書の使い方 • 英語と日本語の発音の違い 学生には、授業内外で自発的に自らの発音に意識を向け、改善に取り組む姿勢が求められます。	1 回目　　コースガイダンス（シラバス配布） ※履修希望者は必ず出席すること。 2～14 回目 詳細は第 1 回目に配布のクラスシラバス参照。 15 回目　　授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grant, L. (2010). *Well Said, Third Edition*. Cengage.	出席・授業参加　30%　課題　10% 発表　30%　期末試験　30% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降（秋）	English（発音）/ (Special Topics: Pronunciation Workshop)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
下記の学生を対象とする、半期完結の選択科目です。春学期と秋学期の学習内容は同じなので、いずれかの学期にのみ履修してください。 • ドイツ語学科・フランス語学科 • 経済学部 • 法学部 大学や仕事の様々な場面で英語が使えるように、だれにでも理解されやすい、明瞭でなめらかな英語発音を目指します。主に次の項目を、リスニングとスピーキングスキルを統合したコミュニカティブな授業活動と、シャドーイングなどの自律的学習を通して練習します。 • 母音・子音の発音、音の短縮・脱落・同化・結合 • イントネーション、リズム、発声、スピード、音量 • 発音記号と辞書の使い方 • 英語と日本語の発音の違い 学生には、授業内外で自発的に自らの発音に意識を向け、改善に取り組む姿勢が求められます。	1 回目　　コースガイダンス（シラバス配布） ※履修希望者は必ず出席すること。 2～14 回目 詳細は第 1 回目に配布のクラスシラバス参照。 15 回目　　授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grant, L. (2010). *Well Said, Third Edition*. Cengage.	出席・授業参加　30%　課題　10% 発表　30%　期末試験　30% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(基礎文法 a) /(Special Topics: Grammar Refresher a) English 121-a Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	垣下　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
高校までに学んだ文法事項を、実用的に使いこなせるようになることを目標とする。 文法事項のなかでも、英語力向上のために不可欠な項目と、理解が不十分な項目に焦点をあてる。 単なるドリル形式の演習ではなく、リーディングやリスニング、ライティングの形式を取り入れながら、実際に活用して、総合的な英語力の向上につなげていく。 授業では、テキストを用いての練習問題に加え、学習した文法事項が実生活でどのように用いられているかを、雑誌・ニュース・映画などで確認する活動や、グループワークやペアーワークで実際に使用する活動を行う。 更には、単元毎に、小テストを実施し、知識の定着を図る。 TOEICの得点が、３００点台後半から４００点台半ば程度の学生が受講することが望ましい。	１．オリエンテーション、現在形、現在進行形 ２．現在形・現在進行形 ３．過去形 ４．過去形 ５．過去形 ６．未来形 ７．未来形 ８．名詞・冠詞・数詞 ９．名詞・冠詞・数詞 １０．現在完了形・過去完了形 １１．現在完了形・過去完了形 １２．疑問文・熟語 １３．疑問文・熟語 １４．総復習 １５．総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grammar Form and Function 2A　(McGrawHill)	出席・授業参加(30%)小テスト(30%)期末試験(40%)とする。原則として、４回以上欠席した学生は、成績評価対象とならない。

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(基礎文法 b) /(Special Topics: Grammar Refresher b) English 121-b Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	垣下　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
高校までに学んだ文法事項を、実用的に使いこなせるようになることを目標とする。 文法事項のなかでも、英語力向上のために不可欠な項目と、理解が不十分な項目に焦点をあてる。 単なるドリル形式の演習ではなく、リーディングやリスニング、ライティングの形式を取り入れながら、実際に活用して、総合的な英語力の向上につなげていく。 授業では、テキストを用いての練習問題に加え、学習した文法事項が実生活でどのように用いられているかを、雑誌・ニュース・映画などで確認する活動や、グループワークやペアーワークで実際に使用する活動を行う。 更には、単元毎に、小テストを実施し、知識の定着を図る。 TOEICの得点が、３００点台後半から４００点台半ば程度の学生が受講することが望ましい。	１．オリエンテーション、動名詞・不定詞 ２．動名詞・不定詞 ３．動名詞・不定詞 ４．比較級・最上級 ５．比較級・最上級 ６．受動態 ７．受動態 ８．接続詞・名詞節 ９．接続詞・名詞節 １０．形容詞節・副詞節 １１．形容詞節・副詞節 １２．間接話法・仮定法 １３．間接話法・仮定法 １４．総復習 １５．総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grammar Form and Function 2B　(McGrawHill)	出席・授業参加(30%)小テスト(30%)期末試験(40%)とする。原則として、４回以上欠席した学生は、成績評価対象とならない。

08 年度以降(春) 07 年度以前(春)	English（基礎文法 a)/(Special Topics: Grammar Refresher a) English 121-a Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	長坂　達彦 (水曜日・4 時限)

講義目的、講義概要	授業計画
これまで学んできた英語文法を整理し、アカデミックレベルで運用する力を養います。 文法項目を軸として、重要事項の確認および、その練習、読解力の向上、グループワーク、ペアワーク等、様々な活動を行い、英語の運用能力を向上させていくように授業を進める予定です。 TOEIC のスコアが 400 点台半ば以上の学生の受講を歓迎します。	Week 1. オリエンテーション Week 2, 3, 4. Chapter 1: Academic Life Around the World Week 5, 6, 7. Chapter 2: Experiencing Nature Week 8, 9, 10. Chapter 3: Living to Eat or Eating to Live? Week 11, 12, 13 Chapter 4: In the Community Week 14. 復習・応用・実践 Week 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Interactions 1 Grammar　(McGraw-Hill)	出席・小テスト・課題、60%、期末テスト 40% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価の対象となりません。

08 年度以降(秋) 07 年度以前(秋)	English（基礎文法 b)/(Special Topics: Grammar Refresher b) English 121-b Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	長坂　達彦 (水曜日・4 時限)

講義目的、講義概要	授業計画
これまで学んできた英語文法を整理し、アカデミックレベルで運用する力を養います。 文法項目を軸として、重要事項の確認および、その練習、読解力の向上、グループワーク、ペアワーク等、様々な活動を行い、英語の運用能力を向上させていくように授業を進める予定です。 TOEIC のスコアが 400 点台半ば以上の学生の受講を歓迎します。	Week 1. オリエンテーション Week 2, 3, 4. Chapter 5: Home Week 5, 6, 7. Chapter 6: Cultures of the World Week 8, 9, 10. Chapter 7: Health Week 11, 12, 13. Chapter 8: Entertainment and Media Week 14. 総復習・応用・実践 Week 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Interactions 1 Grammar　(McGraw-Hill)	出席・小テスト・課題、60%、期末テスト 40% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価の対象となりません。

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(基礎文法 a)/ (Special Topics: Grammar Refresher a) English 121-a Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	菊池　武

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、高等学校までに学んだ文法事項について、その内容をあらためて確認し、その上で実際に運用できるようになることを目標とする。 文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないであろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標と考えている。 TOEIC の得点が３００点台後半程度までの学生が受講することが望ましい。	1. オリエンテーション、現在形・現在進行形 2. 過去形・過去進行形 3. 現在完了形と現在完了進行形 4. 現在完了形と過去形 5. 疑問文 6. 動名詞・so, neither の用法 7. 依頼の表現・不可算名詞 8. 使役動詞・間接話法（１） 9. 過去完了・過去完了進行形 10. 目的語を２つ取る動詞・時を表す節 11. 間接話法（２） 12. 必要・義務の表現 13. 推量の表現・so, such の用法 14. both, neither ; all, none の用法 15. 総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grammar three　(Oxford University Press)	出席、授業への参加の姿勢、課題の提出、期末テスト等の結果をふまえ、総合的に評価する。原則として４回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(基礎文法 b)/ (Special Topics: Grammar Refresher b) English 121-b Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	菊池　武

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、高等学校までに学んだ文法事項について、その内容をあらためて確認し、その上で実際に運用できるようになることを目標とする。 文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないであろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標と考えている。 TOEIC の得点が３００点台後半程度までの学生が受講することが望ましい。	1. オリエンテーション、仮定法（１） 2. 関係詞 3. need+-ing ; have/get something done の用法 4. 間接疑問文 5. 義務の表現・動詞句 6. 付加疑問・願望の表現（１）・可算名詞 7. 受動態（１） 8. 受動態（２） 9. 不定詞 10. 仮定法（２） 11. 副詞・願望の表現（２） 12. 不定詞（２）・動名詞（２） 13. 未来完了 14. 時制のまとめ 15. 総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grammar three　(Oxford University Press)	出席、授業への参加の姿勢、課題の提出、期末テスト等の結果をふまえ、総合的に評価する。原則として４回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　ドイツ語（Ia 基礎） ドイツ語　Ia（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1）目的は、ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語の基本的能力を、実際的な練習を通して身につけていきます。 　使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
清野　智昭：『ドイツ語の時間＜ビデオ教材　恋するベルリン＞DVD 付き（Meine Deutschstunde mit DVD Auf geht's nach Berlin!)』（朝日出版社）2007 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　ドイツ語（Ib 基礎） ドイツ語　Ib（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1）目的は、ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語の基本的能力を、実際的な練習を通して身につけていきます。 　使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
清野　智昭：『ドイツ語の時間＜ビデオ教材　恋するベルリン＞DVD 付き（Meine Deutschstunde mit DVD Auf geht's nach Berlin!)』（朝日出版社）2007 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　ドイツ語（Ia 基礎） ドイツ語　Ia（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1）目的は、ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語の基本的能力を、実際的な練習を通して身につけていきます。 　使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
清野　智昭：『ドイツ語の時間＜ビデオ教材　恋するベルリン＞DVD 付き（Meine Deutschstunde mit DVD Auf geht's nach Berlin!)』（朝日出版社）2007 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　ドイツ語（Ib 基礎） ドイツ語　Ib（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1）目的は、ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語の基本的能力を、実際的な練習を通して身につけていきます。 　使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
清野　智昭：『ドイツ語の時間＜ビデオ教材　恋するベルリン＞DVD 付き（Meine Deutschstunde mit DVD Auf geht's nach Berlin!)』（朝日出版社）2007 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　ドイツ語（Ia 会話） ドイツ語　Ia（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤＋下田＋Papenthin＋Oldehaver :『CD 付き　スツェーネン 1　場面で学ぶドイツ語（Szenen 1 integriert)』（三修社）2006 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　ドイツ語（Ib 会話） ドイツ語　Ib（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤＋下田＋Papenthin＋Oldehaver :『CD 付き　スツェーネン 1　場面で学ぶドイツ語（Szenen 1 integriert)』（三修社）2006 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　ドイツ語（IIa 基礎） ドイツ語 IIa（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1) 1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらにドイツ語／ドイツ文化の世界を広げていきましょう。	1. 既習事項の確認と春学期への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
清野＋須藤＋會田：『ドイツ語の時間―読解編＜読めると楽しい！＞（Meine Deutschstunde – Lesen mit Strategie)』（朝日出版社）2011 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　ドイツ語（IIb 基礎） ドイツ語　IIb（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらにドイツ語／ドイツ文化の世界を広げていきましょう。	1. 既習事項の確認と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
清野＋須藤＋會田：『ドイツ語の時間―読解編＜読めると楽しい！＞（Meine Deutschstunde – Lesen mit Strategie)』（朝日出版社）2011 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　ドイツ語（IIa 基礎） ドイツ語 IIa（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらにドイツ語／ドイツ文化の世界を広げていきましょう。	1. 既習事項の確認と春学期への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
清野＋須藤＋會田：『ドイツ語の時間―読解編＜読めると楽しい！＞（Meine Deutschstunde – Lesen mit Strategie)』（朝日出版社）2011 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　ドイツ語（IIb 基礎） ドイツ語　IIb（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらにドイツ語／ドイツ文化の世界を広げていきましょう。	1. 既習事項の確認と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
清野＋須藤＋會田：『ドイツ語の時間―読解編＜読めると楽しい！＞（Meine Deutschstunde – Lesen mit Strategie)』（朝日出版社）2011 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　ドイツ語（IIa 会話） ドイツ語　IIa（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。 　対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	1.　既習事項の復習と新学期への導入 2.　Lektion 1 (1) 3.　Lektion 1 (2) 4.　Lektion 2 (1) 5.　Lektion 2 (2) 6.　Lektion 3 (1) 7.　Lektion 3 (2) 8.　Lektion 4 (1) 9.　Lektion 4 (2) 10.　Lektion 5 (1) 11.　Lektion 5 (2) 12.　Lektion 6 (1) 13.　Lektion 6 (2) 14.　ポイントの総復習 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤＋下田＋Papenthin＋Oldehaver :『CD 付き　スツェーネン 2　場面で学ぶドイツ語（Szenen 2 integriert)』（三修社）2007 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　ドイツ語（IIb 会話） ドイツ語　IIb（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。 　対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	1.　既習事項の復習と新学期への導入 2.　Lektion 7 (1) 3.　Lektion 7 (2) 4.　Lektion 8 (1) 5.　Lektion 8 (2) 6.　Lektion 9 (1) 7.　Lektion 9 (2) 8.　Lektion 10 (1) 9.　Lektion 10 (2) 10.　Lektion 11 (1) 11.　Lektion 11 (2) 12.　Lektion 12 (1) 13.　Lektion 12 (2) 14.　ポイントの総復習 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤＋下田＋Papenthin＋Oldehaver :『CD 付き　スツェーネン 2　場面で学ぶドイツ語（Szenen 2 integriert)』（三修社）2007 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 05～07 年度	ドイツ語（IIIa 会話） ドイツ語　IIIa（会話）	担当者	H.W.ラーデケ

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 「ドイツ語 I+II」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語 III」を終えた時点で Goethe-Institut の ZD (Zertifikat Deutsch)および独検 2 級合格レベルに到達できることを目標とします。 講義概要 ドイツの若者たちの日常をテーマにした DVD 教材＜Treffpunkt Berlin＞を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実際的な練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。	1. 既習事項の復習と春学期への導入 2. Abschnitt 1 (1) 3. Abschnitt 1 (2) 4. Abschnitt 2 (1) 5. Abschnitt 2 (2) 6. Abschnitt 3 (1) 7. Abschnitt 3 (2) 8. Abschnitt 4 (1) 9. Abschnitt 4 (2) 10. Abschnitt 5 (1) 11. Abschnitt 5 (2) 12. Abschnitt 6 (1) 13. Abschnitt 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Treffpunkt Berlin 1 プリントを配布します。	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 05～07 年度	ドイツ語（IIIb 会話） ドイツ語　IIIb（会話）	担当者	H.W.ラーデケ

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 「ドイツ語 I+II」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語 III」を終えた時点で Goethe-Institut の ZD (Zertifikat Deutsch)および独検 2 級合格レベルに到達できることを目標とします。 講義概要 ドイツの若者たちの日常をテーマにした DVD 教材＜Treffpunkt Berlin＞を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実際的な練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。	1. 既習事項の復習と春学期への導入 2. Abschnitt 7 (1) 3. Abschnitt 7 (2) 4. Abschnitt 8 (1) 5. Abschnitt 8 (2) 6. Abschnitt 9 (1) 7. Abschnitt 9 (2) 8. Abschnitt 10 (1) 9. Abschnitt 10 (2) 10. Abschnitt 11 (1) 11. Abschnitt 11 (2) 12. Abschnitt 12 (1) 13. Abschnitt 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Treffpunkt Berlin 1 プリントを配布します。	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 05～07 年度	フランス語（Ia 基礎）【基礎コース】 フランス語 Ia（基礎）【基礎コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週１回の授業で、２年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。春学期には、*Tome 1* の第 5 課まで進む予定。授業では CD を使うことがある。	1. ガイダンス、発音と綴り字の読み方 2. 発音と綴り字の読み方 3. 第１課 4. 第１課 5. 第２課 6. 第２課 7. 第３課 8. 第３課 9. 第４課 10. 第４課 11. 第５課 12. 第５課 13. まとめ 14. まとめ 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Tome 1*（第三書房） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	フランス語（Ib 基礎）【基礎コース】 フランス語 Ib（基礎）【基礎コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週１回の授業で、２年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。秋学期には、*Tome 1* の第 6 課から第 10 課まで進む予定。授業では CD を使うことがある。	1. 第 6 課 2. 第 6 課 3. 第 7 課 4. 第 7 課 5. 第 8 課 6. 第 8 課 7. 第 9 課 8. 第 9 課 9. 第 10 課 10. 第 10 課 11. annexe 12. 総合問題（bilan） 13. まとめ 14. まとめ 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Tome 1*（第三書房） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	フランス語（Ia 総合Ｊ）【総合コース】 フランス語 Ia（総合Ｊ）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Conversation et Grammaire* で、（Ia 総合Ｊ）は日本人講師、（Ia 総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義は原則としてフランス語（Ia 総合Ｆ）とのペアでしか受講できない。 この（Ia 総合Ｊ）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. ガイダンス、1a 2. 1a, 1b 3. 2a, 2b 4. 2a, 2b 5. 3a, 3b 6. 3a, 3b 7. révision bilan 8. 4a, 4b 9. 4a, 4b 10. 5a, 5b 11. 5a, 5b 12. 6a, 6b 13. 6a, 6b 14. 7a 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	フランス語（Ib 総合Ｊ）【総合コース】 フランス語 Ib（総合Ｊ）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Conversation et Grammaire* で、（Ib 総合Ｊ）は日本人講師、（Ib 総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義は原則としてフランス語（Ib 総合Ｆ）とのペアでしか受講できない。 この（Ib 総合Ｊ）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 7b 3. 8a, 8b 4. 8a, 8b 5. révision bilan 6. 9a, 9b 7. 9a, 9b 8. 10a, 10b 9. 10a, 10b 10. révision bilan 11. 11a, 11b 12. 11a, 11b 13. 12a, 12b 14. 12a, 12b 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	フランス語（Ia 総合Ｆ）【総合コース】 フランス語 Ia（総合Ｆ）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語（Ia 総合Ｊ：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する（ただし再履修クラスを除く）。なお、この講義は原則としてフランス語（Ia 総合Ｊ）とのペアでしか受講できない。 この（Ia 総合Ｆ）では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. ガイダンス、1a 2. 1a, 1b 3. 2a, 2b 4. 2a, 2b 5. 3a, 3b 6. 3a, 3b 7. révision bilan 8. 4a, 4b 9. 4a, 4b 10. 5a, 5b 11. 5a, 5b 12. 6a, 6b 13. 6a, 6b 14. 7a 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	フランス語（Ib 総合Ｆ）【総合コース】 フランス語 Ib（総合Ｆ）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語（Ib 総合Ｊ：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する（ただし再履修クラスを除く）。なお、この講義は原則としてフランス語（Ib 総合Ｊ）とのペアでしか受講できない。 この（Ib 総合Ｆ）では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 7b 3. 8a, 8b 4. 8a, 8b 5. révision bilan 6. 9a, 9b 7. 9a, 9b 8. 10a, 10b 9. 10a, 10b 10. révision bilan 11. 11a, 11b 12. 11a, 11b 13. 12a, 12b 14. 12a, 12b 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	フランス語（IIa 基礎）【基礎コース】 フランス語 IIa（基礎）【基礎コース】	担当者	C. ルメタ

講義目的、講義概要	授業計画
週１回の授業で、２年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義の２年目。１年間学んだことを発展させて行く講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. ガイダンス、0 課 2. 1 課 3. 1 課 4. 2 課 5. 2 課 6. 3 課 7. 3 課 8. 4 課 9. 4 課 10. 5 課 11. 5 課 12. 6 課 13. 6 課 14. まとめ 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Salut !*（駿河台出版社） 辞書・参考書については担当者より指示がある。	担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	フランス語（IIb 基礎）【基礎コース】 フランス語 IIb（基礎）【基礎コース】	担当者	C. ルメタ

講義目的、講義概要	授業計画
週１回の授業で、２年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義の２年目。１年間学んだことを発展させて行く講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. ガイダンス 2. 7 課 3. 7 課 4. 8 課 5. 8 課 6. 9 課 7. 9 課 8. 10 課 9. 10 課 10. 11 課 11. 11 課 12. 12 課 13. 12 課 14. まとめ 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Salut !*（駿河台出版社） 辞書・参考書については担当者より指示がある。	担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	フランス語（IIa 総合Ｊ）【総合コース】 フランス語 IIa（総合Ｊ）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義で、フランス語（Ia/b 総合）に続くものである。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Conversation et Grammaire* で、（IIa 総合Ｊ）は日本人講師、（IIa 総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（IIa 総合Ｆ）とのペアで受講することが望ましい。 この（IIa 総合Ｊ）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 13a, 13b 3. 13a, 13b 4. 14a, 14b 5. 14a, 14b 6. 15a, 15b 7. 15a, 15b 8. révision bilan 9. 16a, 16b 10. 16a, 16b 11. 16a, 16b 12. 17a, 17b 13. 17a, 17b 14. 17a, 17b 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	フランス語（IIb 総合Ｊ）【総合コース】 フランス語 IIb（総合Ｊ）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義で、フランス語（Ia/b 総合）に続くものである。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Conversation et Grammaire* で、（IIb 総合Ｊ）は日本人講師、（IIb 総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（IIb 総合Ｆ）とのペアで受講することが望ましい。 この（IIb 総合Ｊ）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 18a, 18b 3. 18a, 18b 4. 18a, 18b 5. 19a, 19b 6. 19a, 19b, révision bilan 7. 20a. 20b 8. 20a, 20b 9. 20a, 20b 10. 21a, 21b 11. 21a, 21b, révision bilan 12. 22a, 22b 13. 22a, 22b 14. 22a, 22b 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	フランス語（IIa 総合Ｆ）【総合コース】 フランス語 IIa（総合Ｆ）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義で、フランス語（Ia/b 総合）に続くものである。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Conversation et Grammaire* で、（IIa 総合Ｊ）は日本人講師、（IIa 総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（IIa 総合Ｊ）とのペアで受講することが望ましい。 この（IIb 総合Ｆ）では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 13a, 13b 3. 13a, 13b 4. 14a, 14b 5. 14a, 14b 6. 15a, 15b 7. 15a, 15b 8. révision bilan 9. 16a, 16b 10. 16a, 16b 11. 16a, 16b 12. 17a, 17b 13. 17a, 17b 14. 17a, 17b 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	フランス語（IIb 総合Ｆ）【総合コース】 フランス語 IIb（総合Ｆ）【総合コース】	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義で、フランス語（Ia/b 総合）に続くものである。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Conversation et Grammaire* で、（IIb 総合Ｊ）は日本人講師、（IIb 総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（IIb 総合Ｊ）とのペアで受講することが望ましい。 この（IIb 総合Ｆ）では特に会話表現の習得が中心になる。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. révision bilan 2. 18a, 18b 3. 18a, 18b 4. 18a, 18b 5. 19a, 19b 6. 19a, 19b, révision bilan 7. 20a. 20b 8. 20a, 20b 9. 20a, 20b 10. 21a, 21b 11. 21a, 21b, révision bilan 12. 22a, 22b 13. 22a, 22b 14. 22a, 22b 15. révision bilan
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	フランス語（IIIa） フランス語 IIIa	担当者	S・ジュンタ

講義目的、講義概要	授業計画
Dans ce cours, nous travaillerons à partir des dialogues de Champion II - L. 5 - 8 (4 leçons). L'accent sera mis sur la compréhension écrite et orale, mais seront également réalisés des jeux de rôles qui permettront aux étudiant de s'exprimer et d'acquérir un plus grande maîtrise du français parlé. **Qui lit bien, parle bien.** **Bon courage !** この授業では **Champion II** の５課から８課（計４課）の会話をベースに勉強していきます。読解と聞き取りに力を入れながら、会話力アップに繋がるロールプレイも行います。	次の内容を春学期で扱います。（変更あり） 1. Introduction au cours / programme de l'année 2. Présentation du dialogue L. 5 3. Explication / exploitation / réemploi 4. Questionnaire / Conversation sur le thème 5. Présentation du dialogue L. 6 6. Explication / exploitation / réemploi 7. Questionnaire / Conversation sur le thème 8. Présentation du dialogue L. 7 9. Explication / exploitation / réemploi 10. Questionnaire / Conversation sur le thème 11. Présentation du dialogue L. 8 12. Explication / exploitation / réemploi 13. Questionnaire / Conversation sur le thème 14. Révision des L. 5 - 6 15. Révision des L. 7 - 8 - Fin du semestre
テキスト、参考文献	**評価方法**
(Champion 2 +) プリント	出席及び授業への参加態度

08 年度以降 05～07 年度	フランス語（IIIb） フランス語 IIIb	担当者	S・ジュンタ

講義目的、講義概要	授業計画
Dans ce cours, nous travaillerons à partir des dialogues de Champion II - L. 9 - 12 (4 leçons). L'accent sera mis sur la compréhension écrite et orale, mais seront également réalisés des jeux de rôles qui permettront aux étudiant de s'exprimer et d'acquérir un plus grande maîtrise du français parlé. **Qui lit bien, parle bien.** **Bon courage !** この授業では **Champion II** の９課から 12 課（計４課）の会話をベースに勉強していきます。読解と聞き取りに力を入れながら、会話力アップに繋がるロールプレイも行います。	次の内容を春学期で扱います。（変更あり） 1. Introduction au cours / programme de l'année 2. Présentation du dialogue L. 9 3. Explication / exploitation / réemploi 4. Questionnaire / Conversation sur le thème 5. Présentation du dialogue L. 10 6. Explication / exploitation / réemploi 7. Questionnaire / Conversation sur le thème 8. Présentation du dialogue L. 11 9. Explication / exploitation / réemploi 10. Questionnaire / Conversation sur le thème 11. Présentation du dialogue L. 12 12. Explication / exploitation / réemploi 13. Questionnaire / Conversation sur le thème 14. Révision des L. 9 - 10 15. Révision des L. 11 - 12 - Fin du semestre
テキスト、参考文献	**評価方法**
(Champion 2 +) プリント	出席及び授業への参加態度

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　スペイン語（Ｉａ 文法） スペイン語 Ｉａ（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
<u>基本的に週１コマのスペイン語を学習する学生を対象</u>としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目ざす。	① 発音・アクセント ② 発音・アクセント ③ 名詞の性・数、冠詞 ④ 名詞の性・数、冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ 形容詞 ⑦ ser, estar 動詞の用法 ⑧ ser, estar 動詞の用法 ⑨ 動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑩ 動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑪ 動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑫ 代名詞の用法 ⑬ gustar 型動詞の用法 ⑭ gustar 型動詞の用法 ⑮ 今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　スペイン語（Ｉｂ 文法） スペイン語 Ｉｂ（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
<u>基本的に週１コマのスペイン語を学習する学生を対象</u>としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。再帰動詞や現在完了形・現在進行形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目ざす。	① 春学期の復習 ② 代名詞の用法（復習） ③ 動詞の活用---直説法現在不規則活用 ④ 動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑤ 動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑥ 動詞の活用---再帰動詞 ⑦ 動詞の活用---再帰動詞 ⑧ 再帰動詞の用法 ⑨ 動詞の現在形のまとめ ⑩ 動詞の活用---現在完了・現在進行形 ⑪ 動詞の活用---現在完了・現在進行形 ⑫ 現在分詞と過去分詞の用法 ⑬ 受け身表現 ⑭ 今学期の復習 ⑮ 春・秋学期のまとめと未習の文法事項について 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　スペイン語（Ｉａ 文法） スペイン語 Ｉａ（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目ざす。 原則としてスペイン語（Ｉａ会話）、Ｉａ（会話）とペアで履修することとなる。	①　発音・アクセント ②　発音・アクセント ③　名詞の性・数、冠詞 ④　名詞の性・数、冠詞 ⑤　形容詞 ⑥　形容詞 ⑦　ser, estar 動詞の用法 ⑧　ser, estar 動詞の用法 ⑨　動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑩　動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑪　動詞の活用---直説法現在規則活用 ⑫　代名詞の使い方 ⑬　gustar 型動詞の用法 ⑭　gustar 型動詞の用法 ⑮　今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ ソフト版（黄色い表紙）” 朝日出版社 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　スペイン語（Ｉｂ 文法） スペイン語 Ｉｂ（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。再帰動詞や現在完了形・現在進行形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目ざす。 原則としてスペイン語（Ｉｂ会話）、Ｉｂ（会話）とペアで履修することとなる。	①　春学期の復習 ②　代名詞の用法（復習） ③　動詞の活用---直説法現在不規則活用 ④　動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑤　動詞の活用---直説法現在不規則活用 ⑥　動詞の活用---再帰動詞 ⑦　動詞の活用---再帰動詞 ⑧　動詞の活用---再帰動詞 ⑨　動詞の現在形のまとめ ⑩　動詞の活用---現在完了・現在進行形 ⑪　動詞の活用---現在完了・現在進行形 ⑫　現在分詞と過去分詞の用法 ⑬　受け身表現 ⑭　今学期の復習 ⑮　春・秋学期のまとめと未習の文法事項について 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ ソフト版（黄色い表紙）” 朝日出版社	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　スペイン語（Ｉａ 会話） スペイン語 Ｉａ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 原則としてスペイン語（Ｉａ 文法）、Ｉａ（文法）とペアで履修することとなる。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ｉａ文法）、Ｉａ（文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ｉａ会話）、Ｉａ（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ｉａ文法）、Ｉａ（文法）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ ソフト版（黄色い表紙）” 朝日出版社、およびプリント。 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　スペイン語（Ｉｂ 会話） スペイン語 Ｉｂ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 原則としてスペイン語（Ｉｂ文法）、Ｉｂ（文法）とペアで履修することとなる。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ｉｂ文法）、Ｉｂ（文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ｉｂ会話）、Ｉｂ（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ｉｂ文法）、Ｉｂ（文法）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ ソフト版（黄色い表紙）” 朝日出版社、およびプリント。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　スペイン語（Ⅱa 文法） スペイン語 Ⅱa（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
<u>基本的に週１コマのスペイン語を学習する学生を対象</u>とした、スペイン語（Ⅰb 文法）、Ⅰb（文法）の継続の授業である。現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。	① 既習事項の復習 ② 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ③ 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ④ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑥ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑨ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 点過去と線過去の違い ⑬ 比較表現 ⑭ 比較表現 ⑮ 今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　スペイン語（Ⅱb 文法） スペイン語 Ⅱb（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 文法）、Ⅱa（文法）の継続の授業である。 <u>基本的に週１コマのスペイン語を学習する学生を対象</u>としている。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。初級スペイン語文法の学習を終える。	① 春学期の復習 ② 既習の動詞の時制に関するまとめと復習 ③ 動詞の活用 --- 未来形 ④ 動詞の活用 --- 未来形 ⑤ 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑥ 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑦ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑧ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑨ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑩ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑪ 命令表現 ⑫ 命令表現 ⑬ 接続法を使った表現 ⑭ 接続法を使った表現 ⑮ 今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　スペイン語（Ⅱa 文法） スペイン語 Ⅱa（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語（Ⅰb 文法）およびⅠb（文法）の継続の授業である。現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。 原則としてスペイン語（Ⅱa 会話）、Ⅱa（会話）とペアで履修することを要望する。	① 既習事項の復習 ② 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ③ 動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞（復習） ④ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑥ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑨ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 点過去と線過去の違い ⑬ 比較表現 ⑭ 比較表現 ⑮ 今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　スペイン語（Ⅱb 文法） スペイン語 Ⅱb（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 文法）、Ⅱa（文法）の継続の授業である。 基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。初級スペイン語文法の学習を終える。 原則としてスペイン語（Ⅱｂ会話）、Ⅱｂ（会話）とペアで履修することを要望する。	① 春学期の復習 ② 既習の動詞の時制に関するまとめと復習 ③ 動詞の活用 --- 未来形 ④ 動詞の活用 --- 未来形 ⑤ 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑥ 動詞の活用 --- 過去未来形 ⑦ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑧ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑨ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑩ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑪ 命令表現 ⑫ 命令表現 ⑬ 接続法を使った表現 ⑭ 接続法を使った表現 ⑮ 今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　スペイン語（Ⅱa 会話） スペイン語 Ⅱa（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心の授業である。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 原則としてスペイン語（Ⅱa 文法）、Ⅱa（文法）とペアで履修することを要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ⅱa 文法）、Ⅱa（文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ⅱa 会話）、Ⅱa（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ⅱa 文法）、Ⅱa（文法）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）、およびプリント	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　スペイン語（Ⅱb 会話） スペイン語 Ⅱb（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 会話）、Ⅱa（会話）の継続の授業である。 基本的に週２コマのスペイン語を学習する学生を対象としている。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心の授業である。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 原則としてスペイン語（Ⅱa 文法）、Ⅱa（文法）とペアで履修することを要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ⅱb 文法）、Ⅱb（文法）の項目と同じであるが、スペイン語（Ⅱb 会話）、Ⅱb（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ⅱb 文法）、Ⅱb（文法）の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書（基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ）、およびプリント	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	スペイン語（Ⅲa 講読） スペイン語 Ⅲa（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 I, II を既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、スペイン語の講読の能力を獲得することを目標とする。具体的には、スペイン語圏の社会・歴史・文化に関する文章の一部や新聞記事などを読む。ある程度の長さのスペイン語を読むことに慣れ、スペイン語圏の文化に関する知識を深めることがこの授業の目的である。 なお、スペイン語Ⅱまでに必ずしも十分に学習できていない文法事項がある場合は、その学習にも重きをおき、中級文法を終了する。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	スペイン語（Ⅲb 講読） スペイン語 Ⅲb（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅲa 講読）スペイン語Ⅲa（講読）の継続の授業である。 スペイン語 I, II を既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、スペイン語の講読の能力を獲得することを目標とする。具体的には、スペイン語圏の社会・歴史・文化に関する文章の一部や新聞記事などを読む。ある程度の長さのスペイン語を読むことに慣れ、スペイン語圏の文化に関する知識を深めることがこの授業の目的である。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	スペイン語（Ⅲa 会話） スペイン語 Ⅲa（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 I, II を既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。スペイン語に特有のリズムや表現に慣れて、スペイン語らしい発音ができるように繰り返し練習する。また、ジェスチャーやその他の身体表現などについても学ぶ。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	スペイン語（Ⅲb 会話） スペイン語 Ⅲb（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅲa 会話）スペイン語Ⅲa（会話）の継続の授業である。 スペイン語 I, II を既に履修し、スペイン語の文法をひととおり習得した学生を対象とする。 さらに進んで、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。スペイン語に特有のリズムや表現に慣れて、スペイン語らしい発音ができるように繰り返し練習する。また、ジェスチャーやその他の身体表現などについても学ぶ。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当者が指定する教科書、または、随時プリントを配布	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　中国語（Ｉａ 会話） 中国語Ｉａ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】 この授業では、中国語を初めて学ぶ学生を対象に、発音の基礎及びその表記法、簡体字(中国で現在使われている漢字)の書き方、基本的な文法を学習しながら平易な会話ができるように学習します。 【講義概要】 語学力の４分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」（会話）に重点を置きます。 将来就職してからさらに延長できるように、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。 教科書に出てきた単語をしっかり覚えて語彙力の増強に努めてください。 注意 1）中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。	第１回　　第１課　発音（１） ○声調　○単母音　○複母音　○鼻母音　○子音 第２～３回　　第２課　発音（２） ○半３声　○声調の変化　○軽声　○儿化 ○声調の組合わせ 第４～６回　　第３課　她喝啤酒。 ○主語＋動詞＋目的語　○禁止表現　○数詞　○量詞 ○有（所有）　○在（所在）　○反復疑問文 ○場所代名詞 第７～８回　　第４課　她很漂亮! ○形容詞述語文　○数を尋ねる　○疑問詞 ○動詞の重型 第９回　中間試験・補充説明 第１０～１１回　　第５課　我是学生。 ○“是”構文　○副詞“也”“都”　○連体修飾語 ○指示代名詞　○年齢　○時刻　○年月日、曜日 第１２～１３回　第６課　我喝了五瓶啤酒。 ○完了の動態助詞　○語気助詞の“了”　○時間量 第１４～１５回　　第７課　　他正在看电视呢。 ○経験を表す文　○動作の進行を表す文 ○状態の持続を表す　○付随状況を表す文
テキスト、参考文献	**評価方法**
「中国語　基本文法と会話」　石井宏明（駿河台出版社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％）、中間・期末試験の結果(８０％)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　中国語（Ｉｂ 会話） 中国語Ｉｂ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】 春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声ををよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 ・春学期に引き続き発音・声調の矯正をしていきます。 ・会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。	第１～３回　春学期の復習　第８課　我想吃中国菜。 ○願望などの助動詞　○義務・当然の助動詞 第４～５回　第９課　她会拉小提琴。 ○可能の助動詞 第６～８回　第１０課　我去动物园看熊猫。 ○連動文　○“有”の構文　○使役の表現 ○禁止表現　○様態補語 第９回　中間試験　第８～１０課の補充説明 第１０～１１「回　第１１課　　我买回书来。 ○簡単な方向補語　○結果補語　○可能補語 第１２～１３回　第１２課　我还你钱。 ○二重目的語　○比較の表現　○介詞表現① 第１４～１５回　第１３課　我在图书馆看书。 ○介詞表現②　○存現文 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
「中国語　基本文法と会話」　石井宏明（駿河台出版社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％）、中間・期末試験の結果(８０％)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　中国語（Ｉａ会話） 中国語Ｉａ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】 この授業では、中国語を初めて学ぶ学生を対象に、発音の基礎及びその表記法、簡体字(中国で現在使われている漢字)の書き方、基本的な文法を学習しながら平易な会話ができるように学習します。 【講義概要】 語学力の４分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」（会話）に重点を置きます。 将来就職してからさらに延長できるように、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。 教科書に出てきた単語をしっかり覚えて語彙力の増強に努めてください。 注意 1）中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。	第１回　　第１課　発音（１） ○声調　○単母音　○複母音　○鼻母音　○子音 第２～３回　　第２課　発音（２） ○半３声　○声調の変化　○軽声　○儿化 ○声調の組合わせ 第４～６回　　第３課　她喝啤酒。 ○主語＋動詞＋目的語　○禁止表現　○数詞　○量詞 ○有（所有）　○在（所在）　○反復疑問文 ○場所代名詞 第７～８回　　第４課　她很漂亮! ○形容詞述語文　○数を尋ねる　○疑問詞 ○動詞の重型 第９回　中間試験・補充説明 第１０～１１回　　第５課　我是学生。 ○“是”構文　○副詞“也”“都”　○連体修飾語 ○指示代名詞　○年齢　○時刻　○年月日、曜日 第１２～１３回　第６課　我喝了五瓶啤酒。 ○完了の動態助詞　○語気助詞の“了”　○時間量 第１４～１５回　　第７課　　他正在看电视呢。 ○経験を表す文　○動作の進行を表す文 ○状態の持続を表す　○付随状況を表す文
テキスト、参考文献	**評価方法**
「中国語　基本文法と会話」　石井宏明（駿河台出版社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％)、中間・期末試験の結果(８０％)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　中国語（Ｉｂ会話） 中国語Ｉｂ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】 春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声ををよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 ・春学期に引き続き発音・声調の矯正をしていきます。 ・会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。	第１～３回　春学期の復習　第８課　我想吃中国菜。 ○願望などの助動詞　○義務・当然の助動詞 第４～５回　第９課　她会拉小提琴。 ○可能の助動詞 第６～８回　第１０課　我去动物园看熊猫。 ○連動文　○“有”の構文　○使役の表現 ○禁止表現　○様態補語 第９回　中間試験　第８～１０課の補充説明 第１０～１１「回　第１１課　　我买回书来。 ○簡単な方向補語　○結果補語　○可能補語 第１２～１３回　第１２課　我还你钱。 ○二重目的語　○比較の表現　○介詞表現① 第１４～１５回　第１３課　我在图书馆看书。 ○介詞表現②　○存現文 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
「中国語　基本文法と会話」　石井宏明（駿河台出版社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％)、中間・期末試験の結果(８０％)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08年度以降 05～07年度	総合コース　中国語（Ｉａ 講読・文法） 中国語Ｉａ（講読・文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 この授業では、中国語を初めて学ぶ学生を対象に、発音の基礎及びその表記法(ピンイン)、簡体字(中国で現在使われている漢字)の書き方、基本的な文法を学習し、平易な文章の読解ができるようにします。 【講義概要】 ①語学力の４分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「書く」、「読む」にやや重点を置きます。 ②表音文字のない中国語ではローマ字を借用して表音しています。特別な発音規則が作られていますのでそれを先ず習得してください。 ③さらに、基本文型を学習し、それを用いた作文練習、易しい文章の読解を学びます。 ④将来就職してからさらに延長できるように、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。 注意 1）中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。	第１回　中国語概論　授業の進め方、履修上の注意、 発音①、基本母音発音 第２回　第１課　我饿了　発音② ○声調　○単母音　○複母音　○子音① 第３回　第２課　真好吃!　発音③ ○子音②　○鼻母音　○主母音の省略　○声調の変化 第４回　第３課　多少钱?　発音④ ○数詞　○儿化　○声調の組合わせ　○挨拶表現 第５～６回　第４課　我们都是学生。 ○“是”構文　○副詞“也”“都”　○閲読 ○練習問題 第７～８回　第５課　你去哪儿? ○主語＋動詞＋目的語　○名乗り方　○疑問詞 ○選択疑問文 第９回　中間試験・補充説明 第１０～１１回　第６課　你今年多大了 ○“的”の用法　○年月日、曜日 第１２～１３回　第７課　这个很好吃。 ○形容詞述語文　○比較を表す文　○反復疑問文 ○指示代名詞 第１４～１５回　第８課　你家在哪儿? ○有（存在）　○在（所在）　○時刻と時間量
テキスト、参考文献	**評価方法**
「中国語への道」　内田慶市　他（金星堂）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％)、中間・期末試験の結果(８０％)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08年度以降 05～07年度	総合コース　中国語（Ｉｂ 講読・文法） 中国語Ｉｂ（講読・文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・春学期に続き中国語の基礎力増強を図ります。 ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声をよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 ①春学期に引き続き発音・声調の矯正をしていきます。 ②総合的表現力を増やすために先ず基本的文型を学び、その文型を用いた作文練習をしていきます。 注意 第１６課はシラバスでは学習範囲には入りませんが、進度によっては学ぶことができる場合もありますし、２年次にその内容を学習します。	第１～２回　春学期の復習　第９課　我们在哪儿吃饭? ○前置詞　○経験を表す構文　○数量と語順　○方位詞 第３～４回　第１０課　好一点儿了吗？ ○主述述語文　○“了”の用法　○願望の助動詞 ○「少し」の表現 第５～６回　第１１課　我在看中国地图。 ○「～している」の表現　○連動文　○結果補語 第７回　中間試験　補充説明 第８～９回　第１２課　你会开车吗？ ○「～できる」の表現　○必要・義務を表す助動詞 ○“是”～“的”の構文　○“就”と“才”の用法 第１０～１１回　第１３課　谁教你们汉语？ ○様態補語　○二重目的語を取る文　○受身表現 ○動詞の重ね型 第１２～１３回　第１４課　我把她送到车站。 ○存現文　○方向補語　○可能補語　○“把”の構文 第１４～１５回　第１５課　你一定能背得很好。 ○使役表現　○反語の言い方　○“又”と“再” 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
「中国語への道」　内田慶市　他（金星堂）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％)、中間・期末試験の結果(８０％)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08年度以降 05～07年度	基礎コース　中国語（Ⅱa 会話） 中国語Ⅱa（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】 中国語Ⅰの基礎の上に更に語彙、文法事項の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていきます。この中国語Ⅱab を習得して中国語検定３級に合格する力を付けたことになります。それを目指して毎日学習してください。 【講義概要】 語学力の４分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」、「書く」に重点を置きます。 様々な会話場面を設定してあります、できれば覚えてしまうのが上達の最上方法です。 引き続き、教科書に出てきた単語をしっかり覚えて語彙力の増強に努めてください。 注意 1）中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。	第１回　１年時の学習内容の復習、確認　　履修上の留意点の説明　　第１課　「打电话」　文法ポイント 第２回　第１課　復習読み練習とドリル 第３回　第２課　「接风」　　文法ポイント 第４回　第２課　復習読み練習とドリル 第５回　第３課　「介绍」　　文法ポイント 第６回　第３課　復習読み練習とドリル 第７回　中間試験　第４課　「交通工具」　文法ポイント 第８回　第４課　復習読み練習とドリル 第９回　第５課　「换钱」　　文法ポイント 第10回　第５課　復習読み練習とドリル 第11回　第６課　「吃饭」　　文法ポイント 第12回　第６課　復習読み練習とドリル 第13回　第７課　「生病」　　文法ポイント 第14回　第７課　復習読み練習とドリル 第15回　春学期のまとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
「表現する中国語Ⅱ」楊凱栄（白帝社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０%）、中間・期末試験の結果(８０%)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08年度以降 05～07年度	基礎コース　中国語（Ⅱb 会話） 中国語Ⅱb（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】春学期に続き以下のことを目標にして進めます。 ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声をよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 ・春学期に引き続き発音・声調の矯正もしていきます。 ・会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。 注意 第１５課はシラバスでは学習範囲には入りませんが、進度によっては学ぶことができる場合もあります。	第１回　春学期復習　第８課　「交通工具」2　　文法ポイント 第２回　第８課　復習読み練習とドリル 第３回　第９課　「网上聊天儿」　　文法ポイント 第４回　第９課　復習読み練習とドリル 第５回　第１０課　「网上聊天儿」2　文法ポイント 第６回　第１０課　復習読み練習とドリル 第７回　中間試験　第１１課　「买东西」　文法ポイント 第８回　第１１課　復習読み練習とドリル 第９回　第１２課「爱好」 第10回 第１２課　復習読み練習とドリル 第11回 第１３課　「坐火车」　文法ポイント　ドリル 第12回 第１３課　復習読み練習とドリル 第13回 第１４課　「观光」 第14回 第１４課　復習読み練習とドリル 第15回　秋学期のまとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
「表現する中国語Ⅱ」楊凱栄（白帝社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０%）、中間・期末試験の結果(８０%)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08年度以降 05～07年度	総合コース　中国語（Ⅱa 会話） 中国語Ⅱa（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】 中国語Ⅰの基礎の上に更に語彙、文法事項の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていきます。この中国語Ⅱab を習得して中国語検定３級に合格する力を付けたことになります。それを目指して毎日学習してください。 【講義概要】 語学力の４分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「聴く」、「話す」、「書く」に重点を置きます。 様々な会話場面を設定してあります、できれば覚えてしまうのが上達の最上方法です。 引き続き、教科書に出てきた単語をしっかり覚えて語彙力の増強に努めてください。 注意 1）中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。	第１回　１年時の学習内容の復習、確認　　履修上の留意点の説明　　第１課　「打电话」　文法ポイント 第２回　第１課　復習読み練習とドリル 第３回　第２課　「接风」　　文法ポイント 第４回　第２課　復習読み練習とドリル 第５回　第３課　「介绍」　　文法ポイント 第６回　第３課　復習読み練習とドリル 第７回　中間試験　第４課　「交通工具」　文法ポイント 第８回　第４課　復習読み練習とドリル 第９回　第５課　「换钱」　　文法ポイント 第10回　第５課　復習読み練習とドリル 第11回　第６課　「吃饭」　　文法ポイント 第12回　第６課　復習読み練習とドリル 第13回　第７課　「生病」　　文法ポイント 第14回　第７課　復習読み練習とドリル 第15回　春学期のまとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
「表現する中国語Ⅱ」楊凱栄（白帝社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％）、中間・期末試験の結果(８０％)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08年度以降 05～07年度	総合コース　中国語（Ⅱb 会話） 中国語Ⅱb（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・中国語の語彙を増やし会話力を増強することを目標とします。 ・発音面では教科書付きの音声をよく聞いて、中国語の自然なリズム、ストレス、イントネーションを伴った表現ができるようにしてください。 【講義概要】 ・春学期に引き続き発音・声調の矯正もしていきます。 ・会話表現力を増やすために様々な場面での会話を学習します。 注意 第１５課はシラバスでは学習範囲には入りませんが、進度によっては学ぶことができる場合もあります。	第１回　春学期復習　第８課　「交通工具」2　文法ポイント 第２回　第８課　復習読み練習とドリル 第３回　第９課　「网上聊天儿」　　文法ポイント 第４回　第９課　復習読み練習とドリル 第５回　第１０課　「网上聊天儿」2　文法ポイント 第６回　第１０課　復習読み練習とドリル 第７回　中間試験　第１１課　「买东西」　文法ポイント 第８回　第１１課　復習読み練習とドリル 第９回　第１２課　「爱好」 第10回　第１２課　復習読み練習とドリル 第11回　第１３課　「坐火车」　文法ポイント　ドリル 第12回　第１３課　復習読み練習とドリル 第13回　第１４課　「观光」 第14回　第１４課　復習読み練習とドリル 第15回　秋学期のまとめ 履修者の理解状況によっては進度を調整することもあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
「表現する中国語Ⅱ」楊凱栄（白帝社）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％）、中間・期末試験の結果(８０％)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08年度以降 05～07年度	総合コース　中国語（Ⅱa 講読・文法） 中国語Ⅱa（講読・文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 １年次で学習した語彙、文型、文法事項を復習しながらさらにややレベルアップした中国語を学び、総合的な中国語運用能力を身に付けることを目指します。 このレベルの学習を終われば中国語検定３級に合格する力を付けたことになります。 【講義概要】 ①語学力の４分野「聴く、話す、書く、読む」の内、「書く」、「読む」にやや重点を置きます。 ②１年次の教材より量的に少し長めの文章を、文法の復習と更なる文法事項を学習しながら、読解する力を付けていきます。 ③各課の練習問題をしっかり予習復習することで、キーポイントで学習した文法事項の定着を図ってください。 ④複文を作る様々な呼応を学習し、中国語の表現力を増していきます。 ⑤できれば会話の時間と共に学習し、将来就職してからさらに延長できるような、中国語の「読み、書き、聞き、話す」力の基礎をしっかりと身につけるよう心がけてください。 注意 中国語ではまだ文法用語が統一されていない部分があります。先生から説明を受けてください。	第１回　１年次中国語の復習・確認、履修上の注意 第２回　第１課 「首都北京」文法ポイント 連体修飾、呼応“又～又･･･”、二重目的語をとる動詞 第３回　第１課 復習読み、ミニ会話、練習と練習問題 第４回　第２課 「民族和气候」文法ポイント 呼応“因为～所以･･･”,“即使～也･･･” 第５回　第２課 復習読み練習，ミニ会話、練習と練習問題 第６回　第３課 「人口」 文法ポイント　呼応“因为～所以･･･”,“由于～所以･･･”,慣用句“有的～”,“把”構文 第７回　第３課 復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第８回　中間試験　説明不足個所補充 第９回　第４課　「方言」　文法ポイント 呼応“以～为･･･”,“好像～一样･･･”,“会”の用法 第10回　第４課 復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第11回　第５課 「泰山」文法ポイント　慣用句“对～来说”, 呼応“不但～而且･･･”、“除了～以外,也(还/再）･･･”、 第12回　第５課　復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第13回　第６課　「节假日」　文法ポイント 呼応“一边～一边･･･”,“一～就･･･”,“越来越･･･” 第14回　第６課　復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第15回　春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
「楽しく学ぼうやさしい中国語」講読編　王武雲他 （郁文堂）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％)、中間・期末試験の結果(８０％)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08年度以降 05～07年度	総合コース　中国語（Ⅱb 講読・文法） 中国語Ⅱb（講読・文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に続き以下のことを目標にして進めます ・春学期に続き中国語の基礎力プラス応用力増強を図ります。 ・中国語の語彙を増やし読解力を増強することを目標とします。 ・中国語の総合的な中国語運用能力を身に付けることを目指します。 【講義概要】 ①春学期に引き続き「書く」、「読む」にやや重点を置きます。 ②複文を作る様々な呼応をさらに学習し、中国語の表現力を増していきます。	第１回　春学期の復習 第２回　第７課 「饮食文化」文法ポイント 呼応“只要～就･･･”,“着”の用法,助動詞“要”の用法 第３回　第７課 復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第４回　第８課　「药膳」 文法ポイント 複合方向補語，呼応“既～又･･･”,“动词+成～” 第５回　第８課　復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第６回　第９課　「体育健身运动」　文法ポイント 呼応“无论～都･･･”，慣用：動詞の後の“于” 第７回　第９課　復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第８回　中間試験　説明不足個所補充 第９回　第１０課　「动物」 文法ポイント 呼応“要是～就･･･”,“也许～也许･･･”,“好”の用法 第10回　第１０課　復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第11回　第１１課　「旗袍」 文法ポイント 連用修飾語，　呼応“连～也･･･”,“虽然～但是･･･” 第12回　第１１課　復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第13回　第１２課　「大学」 文法ポイント “为了～”,“一直～”,“就”の用法 第14回　第１２課　復習読み練習、ミニ会話、練習と練習問題 第15回　補充説明　秋学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
「楽しく学ぼうやさしい中国語」講読編　王武雲他 （郁文堂）	平常の授業への取り組み（予習・復習含む）（２０％)、中間・期末試験の結果(８０％)等に基づき、大学の成績評価基準に基づいて評価する。

08年度以降 05～07年度	中国語（Ⅲa 会話） 中国語Ⅲa（会話）	担当者	頼　明

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ⅲの授業では、中国語Ⅰ、Ⅱで学習した内容の定着を図るとともに、発音の矯正を行い、日常会話レベルの中国語運用能力を目指します。 授業では、 1、中国語のリスニングの練習を行います。 2、書き取った中国語の暗記・暗唱・会話練習を行います。 3、必要に応じて、文法事項などの補足説明、応用練習を行います。 4、中国語検定試験2級、3級レベルの作文練習を行います。 5、毎回小テストを行います。	第1回：概説・復習 第2回：リスニング、答え合わせ・作文練習 第3回：暗記・暗唱・作文練習 第4回：リスニング、答え合わせ・作文練習 第5回：暗記・暗唱・作文練習 第6回：リスニング、答え合わせ・作文練習 第7回：暗記・暗唱・作文練習 第8回：総合練習・作文練習 第9回：リスニング、答え合わせ・作文練習 第10回：暗記・暗唱・作文練習 第11回：リスニング、答え合わせ・作文練習 第12回：暗記・暗唱・作文練習 第13回：リスニング、答え合わせ・作文練習 第14回：暗記・暗唱・作文練習 第15回：総合練習
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし(毎回資料を用意します)	出席点10%、小テスト20%、期末テスト70%

08年度以降 05～07年度	中国語（Ⅲb 会話） 中国語Ⅲb（会話）	担当者	頼　明

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ⅲの授業では、中国語Ⅰ、Ⅱで学習した内容の定着を図るとともに、発音の矯正を行い、日常会話レベルの中国語運用能力を目指します。 授業では、 1、中国語のリスニングの練習を行います。 2、書き取った中国語の暗記・暗唱・会話練習を行います。 3、必要に応じて、文法事項などの補足説明、応用練習を行います。 4、中国語検定試験2級、3級レベルの作文練習を行います。 5、毎回小テストを行います。	第1回：概説・復習 第2回：リスニング、答え合わせ・作文練習 第3回：暗記・暗唱・作文練習 第4回：リスニング、答え合わせ・作文練習 第5回：暗記・暗唱・作文練習 第6回：リスニング、答え合わせ・作文練習 第7回：暗記・暗唱・作文練習 第8回：総合練習・作文練習 第9回：リスニング、答え合わせ・作文練習 第10回：暗記・暗唱・作文練習 第11回：リスニング、答え合わせ・作文練習 第12回：暗記・暗唱・作文練習 第13回：リスニング、答え合わせ・作文練習 第14回：暗記・暗唱・作文練習 第15回：総合練習
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし(毎回資料を用意します)	出席点10%、小テスト20%、期末テスト70%

08年度以降 05～07年度	中国語（Ⅲa 講読・文法） 中国語Ⅲa（講読・文法）	担当者	平野　佐和

講義目的、講義概要	授業計画
読解・応用練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに、中国語の文章を読むのに慣れ、教科書以外の文章も自力で読むのに必要な豊かな読解力の養成を目指します。 読解では、変貌を遂げつつある中国社会を理解する一助として新しい社会を反映する新語、流行語を含む時事文を対象とし、中国語の文の構造に注意をはらい正確に読み取る力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）も並行して行います。	１．第１課　読解 ２．第１課　解読の手がかり ３．第２課　読解 ４．第２課　解読の手がかり ５．第３課　読解 ６．第３課　解読の手がかり ７．第４課　読解 ８．第４課　解読の手がかり ９．第５課　読解 １０．第５課　解読の手がかり １１．第６課　読解 １２．第６課　解読の手がかり １３．第７課　読解 １４．第７課　解読の手がかり １５．総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『2013年度版　時事中国語の教科書』 朝日出版社	期末試験60%・平常点（出席・発表・課題・参加姿勢）40%によって評価します。

08年度以降 05～07年度	中国語（Ⅲb 講読・文法） 中国語Ⅲb（講読・文法）	担当者	平野　佐和

講義目的、講義概要	授業計画
読解・応用練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに、中国語の文章を読むのに慣れ、教科書以外の文章も自力で読むのに必要な豊かな読解力の養成を目指します。 読解では、変貌を遂げつつある中国社会を理解する一助として新しい社会を反映する新語、流行語を含む時事文を対象とし、中国語の文の構造に注意をはらい正確に読み取る力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）も並行して行います。	１．第８課　読解 ２．第８課　解読の手がかり ３．第９課　読解 ４．第９課　解読の手がかり ５．第１０課　読解 ６．第１０課　解読の手がかり ７．第１１課　読解 ８．第１１課　解読の手がかり ９．第１２課　読解 １０．第１２課　解読の手がかり １１．第１３課　読解 １２．第１３課　解読の手がかり １３．第１４課　読解 １４．第１４課　解読の手がかり １５．第１５課　読解・解読の手がかり
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『2013年度版　時事中国語の教科書』 朝日出版社	期末試験60%・平常点（出席・発表・課題・参加姿勢）40%によって評価します。

08 年度以降 05～07 年度	韓国語（Ia 基礎） 朝鮮語Ｉａ（基礎）	担当者	金 泰植

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、韓国語の基本的な会話表現を学びながら、文字（ハングル）の学習と発音の変化の規則を学ぶ。また課題と小テストを課すことにより、しっかりとした韓国語能力を育てることを目的とする。授業中には、朝鮮半島の文化や生活について随時紹介する。	１．ガイダンス ２．母音１ ３．子音１ ４．子音２ ５．母音２ ６．終声 ７．発音の変化 ８．復習１ ９．大学生ですか？ １０.会社員ではありません １１.何処で習いますか？ １２.暑くありませんか？ １３.誕生日はいつですか？ １４.復習２ １５.まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『韓国語の初歩　改訂版』白水社 ※韓国語の辞書を必ず持参すること。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテスト、課題および平常点（50%）と定期試験の成績（50%）を総合して評価する

08 年度以降 05～07 年度	韓国語（Ib 基礎） 朝鮮語Ｉｂ（基礎）	担当者	金 泰植

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、前期に引き続き韓国語の基本的な会話表現を学びながら、文字（ハングル）の学習と発音の変化の規則を学ぶ。また課題と小テストを課すことにより、しっかりとした韓国語能力を育てることを目的とする。授業中には、朝鮮半島の文化や生活について随時紹介する。	１．前期の復習 ２．何処に住みますか？ ３．先生はいらっしゃいますか？ ４．何をお探しですか？ ５．何をしましたか？ ６．何を召し上がられますか？ ７．復習１ ８．何時に会いましょうか？ ９．水泳をしています。 １０.家に一度遊びに来てください。 １１.市庁から近いですか？ １２.復習２ １３.長文読解 １４.会話の練習 １５.まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『韓国語の初歩　改訂版』白水社 ※韓国語の辞書を必ず持参すること。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテスト、課題および平常点（50%）と定期試験の成績（50%）を総合して評価する

08 年度以降 05～07 年度	韓国語（Ｉａ 基礎） 朝鮮語Ｉａ（基礎）	担当者	金 鉉洙

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、初めて韓国語を学ぶ学生を対象に、韓国語の文字や発音、基礎的な文法事項の修得を目標とする。 ・ネイティブの発音に慣れ、正確な発音を身につけるようにする。 ・基本的な文法事項を学び、簡単な挨拶、自己紹介などの初級の会話ができるようにする。 ・辞書の引き方を習得し、常に活用できるようにする。 ・韓国/朝鮮の歴史、文化、社会などについても学び、異文化への理解を深める。 ※受講に際して予備知識は必要ないが、授業に欠席せず、予習や復習を徹底的にする心構えを持ってほしい。	1. 授業ガイダンス、韓国/朝鮮の歴史、文化、社会 2. 韓国語と文字(系統と特徴、文字の仕組み) 3. 基本母音 4. 基本子音① 5. 基本子音② 6. 基本子音③(激音) 7. 合成子音字(濃音) 8. 合成母音字 9. パッチム 10. 発音の変化①(有声音化/連音化/舌側音化/濃音化) 11. 発音の変化②(音の変化/口蓋音化/鼻音化) 12. 日本語のハングル表記法、辞書の引き方 13. 私は日本人です。(自己紹介) 14. これは何ですか。(指示代名詞①/体言の否定表現) 15. 前期授業の総まとめ(文字、発音など)
テキスト、参考文献	**評価方法**
李昌圭『書いて身につくテキスト　韓国語をはじめよう(初級)』(朝日出版社、2400 円＋税) この他に辞書、参考書などについては必要に応じて授業中に紹介する。	授業への参加度、出席、テストなどを総合して評価する。【平常点 20%、提出物 20%、テスト 60%　なお、韓国語関連の語学資格取得者は成績に大いに反映する。】

08 年度以降 05～07 年度	韓国語（Ｉｂ基礎） 朝鮮語Ｉｂ（基礎）	担当者	金 鉉洙

講義目的、講義概要	授業計画
前期授業に引き続き、韓国語の文字や発音、基礎的な文法事項を修得しつつ、様々な表現にチャレンジする。 ・ネイティブの発音に慣れ、正確な発音を身につけるようにする。 ・新たな文法事項や表現を学び、日常生活における簡単な会話(買い物など)ができるようにする。 ・辞書の引き方を習得し、常に活用できるようにする。 ・韓国/朝鮮の歴史、文化、社会などについても学び、異文化への理解を深める。 ※受講に際して予備知識は必要ないが、授業に欠席せず、予習や復習を徹底的にする心構えを持ってほしい。	1. 前期授業の復習と学生による自己紹介(簡単な会話) 2. 誰の本ですか。(指示代名詞②) 3. 学校はどこにありますか。(場所/位置関係の言葉) 4. 何をしますか。(丁寧な表現①) 5. どこに行きますか。(用言の否定表現/～しに) 6. 天気はどうですか。(疑問詞) 7. 今日は何日ですか。(漢数詞) 8. 一つにいくらですか。(固有数詞) 9. 何時に起きますか。(時間/～から～まで) 10. どこにお住まいですか。(敬語①) 11. 週末に何をしますか。(丁寧な表現②) 12. 昨日何をしましたか。(過去形) 13. 今何をしていらっしゃいますか。(敬語②) 14. 何を食べましょうか。(勧誘/提案/意思/命令の表現) 15. 後期授業の総まとめ(簡単な会話)
テキスト、参考文献	**評価方法**
李昌圭『書いて身につくテキスト　韓国語をはじめよう(初級)』(朝日出版社、2400 円＋税) この他に辞書、参考書などについては必要に応じて授業中に紹介する。	授業への参加度、出席、テストなどを総合して評価する。【平常点 20%、提出物 20%、テスト 60%　なお、韓国語関連の語学資格取得者は成績に大いに反映する。】

08年度以降 05～07年度	韓国語（Ⅰa 基礎） 朝鮮語Ⅰa（基礎）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は、韓国語を体系的に勉強したことのない初心者向けの初級韓国語講座です。文字や発音の習得からはじめ、動詞・形容詞の簡単な運用能力の習得を目標としています。日常生活でよく使われている実用語彙や文章を段階的に学習できるように難易度も調節しました。本文及びドリルの内容を著者や声優が録音したCDもついていて、皆さんが反復的に自習することもできます。時々童謡や民謡も合唱！みんなで楽しく勉強しましょう。	第1週：オリエンテーション 第2週：文字と発音1―母音 第3週：文字と発音2―子音 第4週：文字と発音3－複合母音、半切表 第5週：終声、総合練習 第6週：連音化、激音化、鼻音化、濃音化など 第7週：接続助詞とあいさつ 第8週：中間点検 第9週：私の家族1；体言の疑問形と否定形 第10週：私の家族2；体言の疑問形と否定形 第11週：動詞の肯定形と疑問形1 第12週：動詞の肯定形と疑問形2 第13週：形容詞・存在詞の肯定形と疑問形1 第14週：　形容詞・存在詞の肯定形と疑問形2 第15週：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
布袋敏博・沈元燮・李美江 『学ぼう韓国・朝鮮語―入門・初級編』（アルク、2012）	出席、小テスト、期末定期試験

08年度以降 05～07年度	韓国語（Ⅰb基礎） 朝鮮語Ⅰb（基礎）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
＜韓国語Ⅰa基礎＞で学んだ内容の復習をふまえ、本講座では初級韓国語学習の完成に必要な文法知識及び運用能力を身につけることを目標として勉強を続けます。	第1週：オリエンテーション 第2週：　＜韓国語Ⅰa基礎＞の総復習 第3週：動詞・形容詞の否定形1 第4週：動詞・形容詞の否定形2 第5週：漢数詞・固有語数詞1 第6週：漢数詞・固有語数詞2 第7週：連用形1 第8週：連用形2 第9週：中間点検 第10週：語尾ヨ体1 第11週：語尾ヨ体2 第12週：過去形1 第13週：過去形2 第14週：連体形1 第15週：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
布袋敏博・沈元燮・李美江 『学ぼう韓国・朝鮮語―入門・初級編』（アルク、2012）	出席、小テスト、期末定期試験

08年度以降 05～07年度	韓国語（Ⅰa 基礎） 朝鮮語Ⅰa（基礎）	担当者	呉 吉煥（ｵｰ･ｷﾙﾊﾝ）

講義目的、講義概要	授業計画
前期の授業では、韓国語文字（ハングル）の正確な発音と書き方の習得、韓国語文章の構造や作り方の理解、日常会話でよく使う決まり文句などを覚えることを目指す。 前半は、主にハングルの読み方や書き方について学ぶ。具体的には、子音と母音の発音や文字を書く練習を繰り返して行い、ハングルの正確な読み方と書き方を身につけるとともに基本的な語彙を覚える。後半は、基本文型を中心に、文章の構造や作り方などを学習し、自己紹介文などを作成してみる。	１回　ガイダンス ２回　基本母音 ３回　基本子音 ４回　激音 ５回　濃音 ６回　複合母音 ７回　パッチム ８回　発音のルール ９回　辞書の引き方、発音の復習 １０回　「AはBです」「AはBですか？」の表現 １１回　「～ではありません」の表現 １２回　自己紹介、家族の呼称など １３回　漢数詞 １４回　「～しています」の表現 １５回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：金京子・喜多恵美子『パランセ韓国語-改訂版-』初級（朝日出版社、2013年）	出席・授業への参加度：３０％、期末試験：７０％

08年度以降 05～07年度	韓国語（Ⅰb基礎） 朝鮮語Ⅰb（基礎）	担当者	呉 吉煥（ｵｰ･ｷﾙﾊﾝ）

講義目的、講義概要	授業計画
後期の授業では、前期に学んだことを復習しつつ、日常生活で使う基礎的な会話の表現、読解や作文に欠かせない用言の活用法、助詞、数詞などの文法事項などの習得を目指す。 授業は、韓国語の丁寧な表現を中心に文章の意味を正しく理解するために必要なことについて学ぶ。具体的には、用言の概念をはじめ、丁寧・否定・尊敬・過去形などの活用形の作り方、助詞や数詞の使い方を学習する。	１回　補助教材 ２回　「ハムニダ体」の活用法 ３回　年月日の言い方 ４回　固有数詞 ５回　時間の言い方、「～しましょうか」の表現 ６回　用言の否定形、意志や推量の表現 ７回　尊敬形の作り方 ８回　「ヘヨ体」の活用法 ９回　「ハダ」用言の活用法、「～したい」の表現 １０回　指定詞の活用法、「～して下さい」の表現 １１回　用言の過去形の作り方 １２回　指定詞の過去形、勧誘の表現 １３回　助数詞と助詞の整理 １４回　「ヘヨ体」の尊敬形、確認・勧誘の表現 １５回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：金京子・喜多恵美子『パランセ韓国語-改訂版-』初級（朝日出版社、2013年）	出席・授業への参加度：３０％、期末試験：７０％

08 年度以降 05～07 年度	韓国語（Ｉａ 基礎） 朝鮮語Ｉａ（基礎）	担当者	沈 民珪

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語をはじめて学ぶ人を対象にし、ハングル文字の発音、読み書きと挨拶や自己紹介など単文中心の簡単な表現を学んでいく。さらに、韓国語を学んでいく上に必要な基礎文法や基本文型を学習し、日常会話の基本フレーズを身につけて簡単なコミュニケーションができるように練習していく。そのため、授業中には積極的な参加が求められる。	1　韓国語とハングル文字、基本母音 2　基本子音 3　合成母音 4　バッチム 5　発音規則 6　文字と発音のおさらい、韓国語の文法的な仕組み 7　Review 8　私は日本人です 9　これは何ですか 10　誰の本ですか 11　学校はどこにありますか 12　何をしますか 13　どこに行きますか 14　会話練習（簡単な自己紹介等） 15　Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
李昌圭『韓国語をはじめよう』朝日出版社、2009 年	出席、中間テスト、期末テスト、課題

08 年度以降 05～07 年度	韓国語（Ｉｂ基礎） 朝鮮語Ｉｂ（基礎）	担当者	沈 民珪

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語をはじめて学ぶ人を対象にし、ハングル文字の発音、読み書きと挨拶や自己紹介など単文中心の簡単な表現を学んでいく。さらに、韓国語を学んでいく上に必要な基礎文法や基本文型を学習し、日常会話の基本フレーズを身につけて簡単なコミュニケーションができるように練習していく。そのため、授業中には積極的な参加が求められる。	1　前期のおさらい 2　天気はどうですか 3　今日は何日ですか 4　数詞１ 5　数詞２ 6　数詞３ 7　Review 8　どこに住んでいますか 9　週末に何をしますか 10　昨日は何をしましたか 11　Review 12　今何をしていらっしゃいますか 13　何を食べましょうか 14　会話練習 15　Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
李昌圭『韓国語をはじめよう』朝日出版社、2009 年	出席、中間テスト、期末テスト、課題

08年度以降 05～07年度	韓国語（Ⅰa総合1） 朝鮮語Ⅰa（総合1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎的知識を習得することを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめて簡単な挨拶、自己紹介、道をたずねるなど、旅行や日常生活に必要な基本文と共に、基礎的かつ重要な文法をしっかりと身に付けていく。 よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨ててほしい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	１ハングルのしくみ① ２ハングルのしくみ② ３ハングルのしくみ③ ４あいさつ① ５あいさつ② ６名詞文 ７存在文 ８用言文 ９数詞① １０数詞② １１否定形 １２尊敬形 １３連用形 １４해요体 １５해요体の尊敬形
テキスト、参考文献	**評価方法**
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋　改訂版』白帝社	出席、中間テスト、期末テスト

08年度以降 05～07年度	韓国語（Ⅰb総合1） 朝鮮語Ⅰb（総合1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。	１基本事項の確認① ２基本事項の確認② ３過去形 ４連体形① ５連体形② ６未来意思形 ７ㄹ語幹 ８ㄷ変則用言 ９ㅅ変則用言 １０ㅂ変則用言 １１ㅎ変則用言 １２ㄹ変則用言 １３変則用言のまとめ １４まとめと復習① １５まとめと復習②
テキスト、参考文献	**評価方法**
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋　改訂版』白帝社	出席、中間テスト、期末テスト

08年度以降 05～07年度	韓国語（Ⅰa総合2） 朝鮮語Ⅰa（総合2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は「韓国語Ⅰ（文法・読解１）」で学んだ文法や単語を教室内で実際に使用してみることにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。 主に「読み・書き」に力を入れていく。	１ハングルのしくみ① ２ハングルのしくみ② ３ハングルのしくみ③ ４あいさつ① ５あいさつ② ６名詞文 ７存在文 ８用言文 ９数詞① １０数詞② １１否定形 １２尊敬形 １３連用形 １４해요体 １５해요体の尊敬形
テキスト、参考文献	**評価方法**
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋　改訂版』白帝社	出席、中間テスト、期末テスト

08年度以降 05～07年度	韓国語（Ⅰb総合2） 朝鮮語Ⅰb（総合2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法を教室内で使用してみることにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。	１基本事項の確認① ２基本事項の確認② ３過去形 ４連体形① ５連体形② ６未来意思形 ７ㄹ語幹 ８ㄷ変則用言 ９ㅅ変則用言 １０ㅂ変則用言 １１ㅎ変則用言 １２ㄹ変則用言 １３変則用言のまとめ １４まとめと復習① １５まとめと復習②
テキスト、参考文献	**評価方法**
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋　改訂版』白帝社	出席、中間テスト、期末テスト

08年度以降 05～07年度	韓国語（Ⅱa 講読・会話） 朝鮮語Ⅱa（講読・会話）	担当者	沈 民珪

講義目的、講義概	授業計画
韓国語の基礎文法・文型の学習を終えた人を対象とする。様々な接続形を学習し、短文から複文へと表現力を広げていく。さらに、話せるための種々の重要文型を学び、日常会話力や自己表現力の向上を目指す。	1　基礎文法のおさらい１ 2　基礎文法のおさらい２ 3　第１課　サッカーがお好きですか１ 4　第１課　サッカーがお好きですか２ 5　第２課　明日は何をなさいますか１ 6　第２課　明日は何をなさいますか２ 7　第３課　郵便局に行く１ 8　第３課　郵便局に行く２ 9　第４課　喫茶店にて１ 10　第４課　喫茶店にて２ 11　第５課　韓国レストランにて１ 12　第５課　韓国レストランにて２ 13　第６課　道を尋ねる１ 14　第６課　道を尋ねる２ 15　Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
李昌圭『韓国語中級』白帝社、2010 年	出席、中間テスト、期末テスト、課題

08年度以降 05～07年度	韓国語（Ⅱb 講読・会話） 朝鮮語Ⅱb(講読・会話)	担当者	沈 民珪

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の基礎文法・文型の学習を終えた人を対象とする。様々な接続形を学習し、短文から複文へと表現力を広げていく。さらに、話せるための種々の重要文型を学び、日常会話力や自己表現力の向上を目指す。	1　第７課　地下鉄駅で１ 2　第７課　地下鉄駅で２ 3　第８課　タクシーに乗る１ 4　第８課　タクシーに乗る２ 5　Review 6　第９課　約束をする１ 7　第９課　約束をする２ 8　第１０課　天気１ 9　第１０課　天気２ 10　Review 11　第１１課　電話をかける１ 12　第１１課　電話をかける２ 13　第１２課　ショッピングをする１ 14　第１２課　ショッピングをする２ 15　Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
李昌圭『韓国語中級』白帝社、2010 年	出席、中間テスト、期末テスト、課題

08 年度以降 07 年度以前	外国語(イタリア語 Ia 基礎) イタリア語 I a	担当者	園田 みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。	1　ガイダンスと導入（イタリア語のアルファベット） 2　イタリア語の発音について 3　名詞と冠詞（1） 4　名詞と冠詞（2） 5　挨拶の表現、形容詞 6　イタリア語の be 動詞と have 動詞：essere と avere 7　規則動詞の現在形（1） 8　規則動詞の現在形（2） 9　規則動詞の現在形（3） 10　会話表現：自分の名前を言う、相手の名前を尋ねる 11　前置詞 12　不規則で重要な動詞（1） 13　不規則で重要な動詞（2） 14　不規則で重要な動詞（3） 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：ナンニーニ　アルダ、藤谷道夫『入門イタリア語の最初歩』（三修社）／推薦する辞書：『伊和中辞典』（小学館）／その他に適宜プリントを配布する。	平素の学習態度と、授業内に随時行う小テストの成績による。特別な事情がない限り、あまりにも欠席回数の多い者には単位を認めない。

08 年度以降 07 年度以前	外国語(イタリア語 Ib 基礎) イタリア語 I b	担当者	園田 みどり

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。	1　会話表現：家族構成を話す 2　様態動詞（～できる、～しなくてはならない、～したい） 3　所有形容詞（1） 4　所有形容詞（2） 5　会話表現：住んでいる場所、出身地を話す 6　代名動詞（1） 7　代名動詞（2） 8　会話表現：あるものが存在するかしないかを聞く 9　比較級と最上級 10　近過去（1） 11　近過去（2） 12　直接・間接目的語代名詞 13　半過去（1） 14　半過去（2） 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：ナンニーニ　アルダ、藤谷道夫『入門イタリア語の最初歩』（三修社）／推薦する辞書：『伊和中辞典』（小学館）／その他に適宜プリントを配布する。	平素の学習態度と、授業内に随時行う小テストの成績による。特別な事情がない限り、あまりにも欠席回数の多い者には単位を認めない。

08 年度以降 07 年度以前	外国語（イタリア語Ｉａ 基礎） イタリア語Ｉａ	担当者	島津 寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） 伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となります. （受講上の注意点） 教科書、辞書は必ず購入して下さい.	1) ガイダンス 2) 簡単な自己紹介・挨拶の練習(1) 3) 簡単な自己紹介・挨拶の練習(2) 4) 規則動詞の練習(1) 5) 規則動詞の練習(2) 6) 規則動詞の練習(3) 7) 規則動詞の練習(4) 8) 基本不規則動詞の練習(1) 9) 基本不規則動詞の練習(2) 10) 基本不規則動詞の練習(3) 11) 冠詞･形容詞・所有形容詞のまとめ(1) 12) 冠詞･形容詞・所有形容詞のまとめ(2) 13) 頻出不規則動詞の練習(1) 14) 頻出不規則動詞の練習(2) 15) 頻出不規則動詞の練習(3)
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書 東京大学イタリア語教材編集委員会『イタリア語のスタート　文法と練習(ＣＤ付)』白水社、2009 年.	平常点（宿題を含む）、小テスト、期末試験の成績をもとに総合的に判断します.

08 年度以降 07 年度以前	外国語（イタリア語Ｉｂ 基礎） イタリア語Ｉｂ	担当者	島津 寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） 伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となります.	1) 人称代名詞の練習(1) 2) 人称代名詞の練習(2) 3) 近過去形の練習(1) 4) 近過去形の練習(2) 5) 近過去形の練習(3) 6) 近過去形の練習(4) 7) 近過去形の練習(5) 8) 再帰動詞の練習(1) 9) 再帰動詞の練習(2) 10) 再帰動詞の練習(3) 11) 半過去形の練習(1) 12) 半過去形の練習(2) 13) 半過去形の練習(3) 14) 半過去形の練習(4) 15) 半過去形の練習(5)
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書 東京大学イタリア語教材編集委員会『イタリア語のスタート　文法と練習(ＣＤ付)』白水社、2009 年.	平常点（宿題を含む）、小テスト、課題提出をもとに総合的に判断します.

08年度以降 05～07年度	外国語（イタリア語Ⅱa 基礎） イタリア語Ⅱa	担当者	島津 寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） 伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となりますが、単文を中心とする文法問題演習の単調さをおぎなうため、ストーリー性を備えた長めの会話テクストの使用も並行します．また 60 年代のカンツォーネを鑑賞し、その歌詞を解釈する作業もとりいれます.	1）過去形・再帰動詞の復習(1) 2）過去形・再帰動詞の復習(2) 3）過去形・再帰動詞の復習(3) 4）過去形・再帰動詞の復習(4) 5）過去形・再帰動詞の復習(5) 6）大過去形の練習(1) 7）大過去形の練習(2) 8）未来形の練習(1) 9）未来形の練習(2) 10）条件法の練習(1) 11）条件法の練習(2) 12）条件法の練習(3) 13）遠過去形の練習(1) 14）遠過去形の練習(2) 15）遠過去形の練習(3)
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考書 入江たまよ『しっかり身につくイタリア語トレーニングブック』ベレ出版、2005 年.	平常点（宿題を含む）、小テスト、課題提出をもとに総合的に判断します.

08年度以降 05～07年度	外国語（イタリア語Ⅱb 基礎） イタリア語Ⅱb	担当者	島津 寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化、更にはヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） 前半は伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習が中心となります．後半では受講者のレヴェルに応じて、時事的な文章、小説を中心とした文学作品、映画のシナリオなどの実践的テクストを講読し、読解力養成を図ります．最終授業ではしめくくりとしてイタリア映画の鑑賞を行います.	1）接続法の練習(1) 2）接続法の練習(2) 3）接続法の練習(3) 4）接続法の練習(4) 5）接続法の練習(5) 6）接続法の練習(6) 7）接続法の練習(7) 8）講読(1) 9）講読(2) 10）講読(3) 11）講読(4) 12）講読(5) 13）講読(6) 14）講読(7) 15）映画鑑賞
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考書 入江たまよ『しっかり身につくイタリア語トレーニングブック』ベレ出版、2005 年.	平常点（宿題を含む）、小テスト、課題提出をもとに総合的に判断します.

08 年度以降 07 年度以前	外国語（ポルトガル語Ｉａ 文法） ポルトガル語Ｉａ（文法）	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義はポルトガル語を初めて学習する人を対象としており、後期のポルトガル語Ｉｂ に続く形でポルトガル語の初級文法を学びます。 授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ、必要に応じて英語などと対照させながら説明していく予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。 質問等は itakanro@hotmail.com まで。	01. ガイダンス、教科書用プリント配布、文字と発音 02. 主格人称代名詞、不規則動詞 ser、否定文、真偽疑問文 03. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞、形容詞の性数変化 04. 規則動詞の直説法現在形(1)、基本前置詞 de, em, com 05. 不規則動詞 estar、所有詞、基数詞(1) 06. 規則動詞の直説法現在形(2)、疑問詞、指示詞、曜日名 07. 不規則動詞の直説法現在形(1)、基本前置詞 a, para, por 08. 規則動詞の直説法過去形、不規則動詞の直説法過去形(1) 09. 不規則動詞の直説法現在形(2)と直説法過去形(2) 10. 対格・与格人称代名詞、序数詞(1) 11. 再帰人称代名詞、再帰動詞、基数詞(2)、序数詞(2) 12. 感嘆文、強調構文(1)、時間表現(1) 13. 直説法半過去形、月日表現、名詞・形容詞の不規則な複数形 14. 関係代名詞 que と quem(1)、接尾辞-inho、命令形 15. 過去分詞、直説法大過去形、接尾辞-mente、絶対最上級
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：講師がプリント形式で用意します 辞書：上記を参照のこと	出席点 5 割 ＋ 定期試験点 5 割とし、60 点以上の者を合格とします。

08 年度以降 07 年度以前	外国語（ポルトガル語Ｉｂ 文法） ポルトガル語Ｉｂ（文法）	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では前期のポルトガル語Ｉａ に引き続いてポルトガル語の初級文法を学びます。 授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ、必要に応じて英語などと対照させながら説明していく予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。 質問等は itakanro@hotmail.com まで。	01. 優等比較級、劣等比較級 02. 同等比較級、相対最上級 03. 法動詞 poder と dever、完了不定詞、人称不定詞 04. 受動文、結果構文 05. 斜格人称代名詞、不規則動詞の直説法現在形(3) 06. 直説法複合過去形、二重過去分詞 07. 直説法未来形、直説法前未来形、気象表現 08. 直説法過去未来形、直説法過去前未来形、時間表現(2) 09. 現在分詞句、補文標識 se 10. 過去分詞句、関係代名詞 o que と quem(2)、指示詞 o 11. 関係代名詞 o qual、関係形容詞 cujo 12. 接続法現在形(1)、強調構文(2) 13. 接続法半過去形、時間表現(3) 14. 接続法過去形、接続法大過去形 15. 接続法未来形、接続法前未来形、仮定文
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：講師がプリント形式で用意します 辞書：上記を参照のこと	出席点 5 割 ＋ 定期試験点 5 割とし、60 点以上の者を合格とします。

08 年度以降 07 年度以前	外国語（ポルトガル語Ⅱa 応用） ポルトガル語Ⅱa	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
ポルトガル語Ⅰではａとｂを通じて基礎的な文法を学びますが、Ⅱでは、それに対応した文法項目の補足的な説明と応用練習を行います。 現時点で授業内容としては、以下のものを考えています。 ・文法の補足的説明 ・単語の補強 ・筆記問題練習 ・作文練習 ・口頭練習 その他、機会があればポルトガル語圏の文化なども随時紹介する予定です辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。 質問等は itakanro@hotmail.com まで。	01. ガイダンス、教科書用プリント配布、文字と発音 02. 主格人称代名詞、不規則動詞 ser、否定文、真偽疑問文 03. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞、形容詞の性数変化 04. 規則動詞の直説法現在形(1)、基本前置詞 de, em, com 05. 不規則動詞 estar、所有詞、基数詞(1) 06. 規則動詞の直説法現在形(2)、疑問詞、指示詞、曜日名 07. 不規則動詞の直説法現在形(1)、基本前置詞 a, para, por 08. 規則動詞の直説法過去形、不規則動詞の直説法過去形(1) 09. 不規則動詞の直説法現在形(2)と直説法過去形(2) 10. 対格・与格人称代名詞、序数詞(1) 11. 再帰人称代名詞、再帰動詞、基数詞(2)、序数詞(2) 12. 感嘆文、強調構文(1)、時間表現(1) 13. 直説法半過去形、月日表現、名詞・形容詞の不規則な複数形 14. 関係代名詞 que と quem(1)、接尾辞-inho、命令形 15. 過去分詞、直説法大過去形、接尾辞-mente、絶対最上級
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：講師がプリント形式で用意します 辞書：上記を参照のこと	出席点 5 割 ＋ 定期試験点 5 割とし、60 点以上の者を合格とします。

08 年度以降 07 年度以前	外国語（ポルトガル語Ⅱb 応用） ポルトガル語Ⅱb	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
ポルトガル語Ⅰではａとｂを通じて基礎的な文法を学びますが、Ⅱでは、それに対応した文法項目の補足的な説明と応用練習を行います。 現時点で授業内容としては、以下のものを考えています。 ・文法の補足的説明 ・単語の補強 ・筆記問題練習 ・作文練習 ・口頭練習 その他、機会があればポルトガル語圏の文化なども随時紹介する予定です辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです。 質問等は itakanro@hotmail.com まで。	01. 優等比較級、劣等比較級 02. 同等比較級、相対最上級 03. 法動詞 poder と dever、完了不定詞、人称不定詞 04. 受動文、結果構文 05. 斜格人称代名詞、不規則動詞の直説法現在形(3) 06. 直説法複合過去形、二重過去分詞 07. 直説法未来形、直説法前未来形、気象表現 08. 直説法過去未来形、直説法過去前未来形、時間表現(2) 09. 現在分詞句、補文標識 se 10. 過去分詞句、関係代名詞 o que と quem(2)、指示詞 o 11. 関係代名詞 o qual、関係形容詞 cujo 12. 接続法現在形(1)、強調構文(2) 13. 接続法半過去形、時間表現(3) 14. 接続法過去形、接続法大過去形 15. 接続法未来形、接続法前未来形、仮定文
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：講師がプリント形式で用意します 辞書：上記を参照のこと	出席点 5 割 ＋ 定期試験点 5 割とし、60 点以上の者を合格とします。

08年度以降 05～07年度	外国語（ロシア語Ｉａ総合） ロシア語Ｉａ（総合）	担当者	齊藤 毅

講義目的、講義概要	授業計画
初心者を対象としたロシア語クラスです。 アルファベット（キリル文字）の読み書きから始め、秋学期を含めた一年間でロシア語文法の初歩をマスターすることを目指します。 ロシア語を身につけることが皆さんにとって豊かな糧となる時代が、すでに訪れています。この機会にぜひロシア語の世界を体験してみてください。 会話を中心とした「ロシア語Ｉ会話」とあわせて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。	教科書の第10課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。 1-8 アルファベット（キリル文字）の発音・書き方、 　基本的な文型（平叙文、疑問文、否定文） 9-10 名詞の性、形容詞類の変化 11-12 動詞の現在変化（1） 13-14 場所の表現（(前置詞、名詞の格変化の導入） 15 予備日 授業では受講者の皆さん一人一人の練習を中心とします。春学期はとくに発音の練習に力を入れます。 ロシアの地理・歴史・文化についても話してゆくつもりです。
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林） 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席・小テスト・授業態度などの平常点。

08年度以降 05～07年度	外国語（ロシア語Ｉｂ総合） ロシア語Ｉｂ（総合）	担当者	齊藤 毅

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ia総合」の続きの授業です。「Ia」と同じ教科書をもちいて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。	教科書の第18課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。 1-2 動詞の現在変化（2） 3 不規則動詞の現在変化 4-5 形容詞の変化 6-7 名詞の複数形 8-9 名詞の格変化（1）生格 10-11 名詞の格変化（2）対格 12 動詞の過去変化 13-14 運動の動詞、方向の表現 15 予備日
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林） 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席・小テスト・授業態度などの平常点。

08年度以降 05～07年度	外国語（ロシア語Ｉａ　会話） ロシア語Ｉａ（会話）	担当者	小西　昌隆

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスははじめてロシア語を学ぶ人を対象としています。 　キリル文字といわれるロシア語アルファベットの文字と発音に慣れるところから始めて、会話を中心にしながらロシア語の基礎を学習していきます。自己紹介や挨拶、買い物、道の訊ね方等、日常に必要な表現を習得します。 　ロシアは政治的にはもちろん、近年経済的なプレゼンスを高めつつあり、日本もそうした面で深く関わりをもつようになってきています。その意味でロシア語はますます重要性を増してゆく言語だといえるでしょう。しかしロシアはそれだけでなく実に多様で奥深い文化的足跡を残してきた国です。ロシア語学習に奥行きをもたせるためにも、授業のなかでおもに映像によりながらロシアの現在や文化の一端を紹介していきたいと思います。	1. ガイダンス 2. 文字と発音（1） 3. 文字と発音（2） 4. 文字と発音（3） 5. 名詞の性、代名詞 6. 形容詞の変化 7. 名詞の複数形 8. 所有代名詞 9. 人称代名詞 10. 動詞の現在形（1） 11. 名詞の対格（1） 12. 願望の表現 13. 命令形の表現 14. まとめ 15. 映画鑑賞 ※　その他、授業のなかで随時ロシアの文化を紹介する時間をもちたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。	期末試験および出席率、授業態度をもとに評価します。

08年度以降 05～07年度	外国語（ロシア語Ｉｂ　会話） ロシア語Ｉｂ（会話）	担当者	小西　昌隆

講義目的、講義概要	授業計画
ロシア語Iaの続きの授業になります。 　春学期の復習を行い、習熟度を深めた上で、ロシア語の基礎学習を進め、またあらたに具体的な状況に即した口語表現を身につけていきます。	1. 春学期の復習 2. 方向と場所の表現 3. 時間の表現 4. 年齢の表現 5. 運動の動詞 6. 名詞の生格、所有の表現 7. 曜日の表現 8. 未来の表現 9. 形容詞の変化 10. 名詞の前置格と場所の表現 11. 動詞の過去 12. 名詞の対格（2） 13. 人称代名詞の対格 14. まとめ 15. 映画鑑賞 ※　その他、授業のなかで随時ロシアの文化を紹介する時間をもちたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。	期末試験および出席率、授業態度をもとに評価します。

08年度以降 05～07年度	外国語（ロシア語Ⅱa 総合） ロシア語Ⅱa（総合）	担当者	齊藤 毅

講義目的、講義概要	授業計画
昨年度の「ロシア語Ⅰ 総合」の続編の授業です。昨年度と同じ教科書を用いて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。春学期、および秋学期の最初のうちにこの教科書を終え、ロシア語文法の基礎（検定試験4級程度）をしっかりとマスターすることを目標にします。 会話を中心とした「ロシア語Ⅱ 会話」とあわせて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。 昨年度「ロシア語Ⅰ 総合」を履修していなくても、ロシア語の初歩を勉強したことがある人ならば受講可能です。	教科書の第19課から始めます。学習事項としては、ロシア語文法のかなめである「格変化」（日本語の助詞に相当）が中心になります。 1-2 格変化・生格 3-4 格変化・前置格 5 まとめと応用（数詞） 6-7 格変化・与格 8-9 状態の表現（無人称文） 10 未来の表現 11-12 数詞と名詞 13-14 格変化・造格 15 予備日 さらに、ロシア語学習には不可欠なアルファベット筆記体の書き方、および辞書の引き方を練習し、プリント教材を用いて簡単な文章の読解練習も始めます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林） 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席・小テスト・授業態度などの平常点。

08年度以降 05～07年度	外国語（ロシア語Ⅱb 総合） ロシア語Ⅱb（総合）	担当者	齊藤 毅

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ⅱa 総合」の続きの授業です。最終的に、辞書を引きながら自力で簡単なロシア語の文章を読めるだけの力（検定試験3級程度）を身につけることを目標にします。	教科書の残りの課を終えたうえで、プリント教材を用いて、新たな文法事項の習得を行なってゆきます。これまでの復習や、基本単語の習得にも多く時間を割きます。春学期に引き続き、簡単な文章の読解練習も行ないます。 1-2 まとめと応用（前置詞と格変化） 3-5 動詞の体（不完了体と完了体） 6-8 格変化の総まとめ 9 形容詞短語尾 10 比較級・最上級 11-12 関係代名詞、不定人称文 13 仮定法 14 形動詞、副動詞 15 予備日
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林） 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席・小テスト・授業態度などの平常点。

08年度以降 05～07年度	外国語（ロシア語Ⅱa　会話） ロシア語Ⅱa（会話）	担当者	小西　昌隆

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ⅰ　会話」の続きの授業ですが、「ロシア語Ⅰ」の既習者、およびロシア語の初歩を学んだことのある人を対象とします。 この授業では学んだことを生かして自分なりに文章を作り上げられるようになることを目標にします。 教科書は「ロシア語Ⅰ　会話」で前年度に使用したものを引き続き使っていきます。	1. ガイダンス 2. 名詞の前置格と場所の表現 3. 「ーの中に」と「ーの上に」 4. 過去の表現 5. 名詞の対格 6. 人称代名詞の対格 7. まとめ 8. 名詞の与格 9. 名詞の造格 10. 不完了体動詞と完了体動詞（1） 11. 不完了体動詞と完了体動詞（2） 12. 未来の表現（2） 13. 形容詞の格変化 14. まとめ 15. 映画鑑賞 ※　その他、授業のなかで随時ロシアの文化を紹介する時間をもちたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。	期末試験および出席率、授業態度をもとに評価します。

08年度以降 05～07年度	外国語（ロシア語Ⅱb 会話） ロシア語Ⅱb（会話）	担当者	小西　昌隆

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語IIa　会話」の続きの授業です。 春学期の復習を行い、習熟度を深めた上で学習を進め、またあらたに具体的な状況に即した口語表現を身につけていきます。	1. 春学期の復習 2. 運動の動詞 3. 前置詞のまとめ 4. 仮定の表現 5. 関係代名詞(1) 6. 関係代名詞(2) 7. 順序数詞（1） 8. 順序数詞（2） 9. 自己紹介文を作る（1） 10. 自己紹介文を作る（2） 11. 自己紹介文を作る（3） 12. 会話文を作る（1） 13. 会話文を作る（2） 14. まとめ 15. 映画鑑賞 ※　その他、授業のなかで随時ロシアの文化を紹介する時間をもちたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。	期末試験および出席率、授業態度をもとに評価します。

08年度以降 05～07年度	外国語（タイ語Ｉａ　会話） タイ語Ｉａ（会話）	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
入門レベルの標準タイ語会話を発音記号で学ぶ。声調、子音や母音の発音、発音記号の表記の仕方などの特徴を理解したうえで、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を学ぶ。また、その背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。 さらに、ディクテーションによって発音記号による表記の能力を高め、作文練習によって表現能力をつける。 映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。 なお、文字の読み書きはタイ語Ⅱａ で学ぶ。Ⅱａ の方が難易度が高いので、Ia を先に履修することが望ましい。復習時間に余裕のある人は、両方同時に履修してもよい。また、昨年度も同様の科目を履修した人がもう一度この科目を申請する場合、昨年度とは異なる教科書を用いる場合もあるのでぜひとも講師に相談されたい。	1　導入：現代タイの状況、タイ語を学ぶ意義について 発音練習（声調・数字・子音・母音） 2　会話１（挨拶、所在に関する表現） 3　会話２（ものの性質などに関して） 4　会話３（家族）、タイ語を聞いて書く 5　会話４（所有、存在）、タイ語を聞いて書く 6　会話５（職業、国名）タイ語を聞いて書く 7　会話６（可能、不可能）、タイ語を聞いて書く 8　会話７（名前、所在、手段などに関する表現） 9　会話８（動詞を用いた表現）、タイ語を聞いて書く 10　会話９（類別詞の用法１）、タイ語を聞いて書く 11　会話 10　（お金の計算）タイ語を聞いて書く 12　会話 11　（形容詞の使い方）タイ語を聞いて書く 13　タイ事情（映画などのビジュアル教材の鑑賞） 14　タイ事情（映画などのビジュアル教材の鑑賞） 15　全体の復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント	定期試験の成績および出席状況

08年度以降 05～07年度	外国語（タイ語Ｉｂ　会話） タイ語Ｉｂ（会話）	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
Ｉａ に引き続き、標準タイ語会話を中心に学ぶ。声調、子音や母音の発音などの理解を深め、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を身につけ、文法事項についても整理する。また、言葉の背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。 ディクテーションによる表記練習や、作文練習によって運用能力や表現能力を高める。 映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。	1　会話１（類別詞の用法２）、タイ語を聞いて書く 2　会話２（日付に関する表現）、タイ語を聞いて書く 3　会話３（時刻の表し方）、タイ語を聞いて書く 4　会話４（年月などの表し方）、タイ語を聞いて書く 5　会話５（レストランで）、タイ語を聞いて書く 6　会話６（自己紹介など）、タイ語を聞いて書く 7　会話７（類別詞の用法 3）、タイ語を聞いて書く 8　会話８（比較を含む表現）、タイ語を聞いて書く 9　会話９（電話をかける）、タイ語を聞いて書く 10　会話 10　（受身の表現）、タイ語を聞いて書く 11　会話 11　（依頼の表現）、タイ語を聞いて書く 12　会話 12　（病気のとき）、タイ語を聞いて書く 13　タイ事情（映画鑑賞または特定のトピックを取り上げた解説） 14　タイ事情（映画鑑賞または特定のトピックを取り上げた解説） 15　全体の復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント	定期試験の成績および出席状況

08年度以降 05～07年度	外国語（タイ語Ⅱa　文字の読み書き） タイ語Ⅱa（文字の読み書き）	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
文字の表記と発音を中心に学習し、初級レベルのタイ語を習得するための基礎固めを行う。初級レベルとは、タイ語を母語とする人々との間にある程度の意志疎通ができることである。そのためには文字が判読でき、正しく発音できることが大前提となる。また、タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢も求められる。そこで本講義では、文字の読み方、発音方法、書き方、表現手法の習熟にとどまらず、言葉の背景にある文化的・社会的特徴ないしタイ的な世界観にも触れることをめざす。 具体的には、タイ文字の表記と発音方法についてテキストを用いた講義を行い、タイ文字の子音、母音、数字および各種記号の表記方法、発音方法についてマスターする。できれば、随時、タイ映画などのビジュアル教材を通じて生きたタイ語に触れる機会をもち理解を深める。 初めてタイ語を学ぶ人は、タイ語会話Ⅰa を先に履修する方が望ましいが、復習時間に余裕があれば同時に履修してもかまわない。Ⅱa のみを履修したい人は前もって講師に相談されたい。	1　導入；今タイ語を学ぶ意義は？ 2　タイ文字の成立と種類、タイ語の特徴についての概説、ローマ字表記の方法、数字の発音 3　文字の読み書き１（中子音・高子音） 4　文字の読み書き２（低子音と長母音） 5　文字の読み書き３（真正二重子音・平音節・促音節） 6　文字の読み書き４（声調符号、短母音） 7　文字の読み書き５（低子音の高子音化と中子音化、擬似二重子音） 8　文字の読み書き６（一字再読字） 9　文字の読み書き７（タイ数字など） 10　文字の読み書き８（特殊な表記） 11　タイ事情（映画などのビジュアル教材を使う予定） 12　タイ事情（映画などのビジュアル教材） 13　講読１（読み方、文章のつながり方など） 14　講読２（読み方、タイ語らしい言い回し） 15　全体の復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
「やさしいタイ語　文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント	定期試験の成績および出席状況

08年度以降 05～07年度	外国語（タイ語Ⅱb　文字の読み書き） タイ語Ⅱb（文字の読み書き）	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
Ⅱa で学んだタイ文字の読み書き能力をさらに高め、簡単な文章を講読しながら背景にあるタイの文化、社会、人の行動様式や考え方などについても理解する。また、基礎文法を身につけ、簡単な作文能力や、辞書を用いて公文書レベルのタイ文を自力で読めるような力をつける。 なお、受講者の関心や進度に応じて講義の内容が変わる場合もある。タイの政治、宗教、農村開発、ジェンダーなど、今日的な話題を取りあげて議論を行うこともありえる。	1　講読１　（読み方、文章のつながり方など） 2　講読２　（平易な物語など） 3　文法１　（指示詞の用法） 4　文法２　（一般動詞の用法） 5　文法３　（形容詞の用法） 6　講読３　（平易な物語など） 7　文法４　（類別詞の用法・比較） 8　講読４　（タイの文化・祭り） 9　講読５　（首都バンコクについて） 10　文法５　（否定の表現） 11　講読６　（子どもの夢） 12　講読７　（書店） 13　タイ事情（現代映画の鑑賞） 14　タイ事情（現代映画の鑑賞） 15　全体の復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
「やさしいタイ語　文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント	定期試験の成績および出席状況

08 年度以降 05～07 年度	外国語（アラビア語Ｉa　会話と文化） アラビア語Ｉa（会話と文化）	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラビア語は総人口が 2 億 8 千万に達するアラブ 21 カ国の国語であり、国連公用語の一つでもあります。 またイスラームの啓典『クルアーン（コーラン）』の言葉であることから、アラブ以外のイスラーム圏でも広く学習されています。近年にわかに日本人の関心が高まったイスラームは、13 億を超える人々に信仰されているにもかかわらず、「世界でもっとも誤解された宗教」と言われています。アラブ世界もまた、世界でもっとも誤解された文化圏の一つだと言えるでしょう。 本講義では、会話と文化に焦点を絞り、「言いたいことを言う」自己表現のためのアラビア語を学びます。毎回一つのテーマを決め、ディスカッションを通して「言いたいこと」を募り、それをアラビア語で言う練習をします。 またアラブの歴史や現代を生きるアラブ人の社会や日常についても広く取り上げていく計画です。 この講義は、「アラビア語 IIa　読み書きと文法の基礎」と同時に履修することができます。	1. Introduction 2. 文字と発音の基礎 3. 「あなたに平和を」挨拶に対するアラブ人のこだわり 4. 「ありがとう」「どういたしまして」「すみません」 5. 「ご機嫌いかがですか？」「元気です。おかげさまで」 6. 「あなたの名前は？」「私の名前は～」 7. 「私は東京出身の日本人です」国籍を述べる 8. 「私は学生です」職業の色々 9. 「これは何ですか」よく使う名詞 10. 「私は音楽が好きです」 11. 「私は映画が好きではありません」 12. 「トイレはどこですか？」 13. 「アレッポ石鹸ありますか？」 14. 「どうしたんですか？」「お腹が痛いんです」 15. 復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『恋するアラブ人』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）『アラビア語単語帳』（師岡カリーマ・エルサムニー、NHK 出版）	常時会話の小テストを行うほか、期末にレポートを提出してもらいます。積極的にディスカッションに参加してもらうことを期待します。

08 年度以降 05～07 年度	外国語（アラビア語Ｉb　会話と文化） アラビア語Ｉb（会話と文化）	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、会話と文化に焦点を絞って、アラビア語を使ったコミュニケーション・スキルと異文化理解を深めていきます。 この講義は、「アラビア語 IIb　読み書きと文法の基礎」と同時に履修することができます。	1. 前期の復習 2. 数と数字 3. 「私はアラビア語を勉強しました」 4. 「私は昨日～しました」 5. 「私はアラビア語を勉強しています」 6. 「水を下さい」「コーヒーがほしいです」 7. 「アスワンに行きたいです」 8. 「アラビア語を話すことができますか？」 9. 「いくらですか？」「高いですね」 10. 「～さんはいますか？」「銀行ありますか？」 11. 「銀行は病院の隣にあります」 12. 「なぜ？」「なぜなら」 13. 「早く！」便利なとっさの一言 14. 復習 15. 復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『恋するアラブ人』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）『アラビア語単語帳』（師岡カリーマ・エルサムニー、NHK 出版）	常時会話の小テストを行います。積極的に質問・発言し、ディスカッションに参加してもらうことを期待します。

08年度以降 05～07年度	外国語（アラビア語Ⅱa　読み書きと文法の基礎） アラビア語Ⅱa（読み書きと文法の基礎）	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラビア語は総人口が2億8千万に達するアラブ21カ国の国語であり、国連公用語の一つでもあります。 また近年は、世界的金融危機を背景に「イスラーム金融」が注目され、ドバイをはじめとして湾岸地域が世界有数のビジネスの中心地として世界の関心を集めています。こうした世界の動向から見ても、アラビア語やアラブ文化の知識は、将来において大いに有益であると言えます。 本講義では、アラビア文字、アラビア語の読み書きの基本と基礎的な文法を学習しますが、文法の規則を知るだけでなく、すぐに使える文章を通して、楽しみながらアラビア語の論理を吸収してもらうことを目的としています。 この講義は「アラビア語Ia　会話と文化」と同時に履修することができます。	1. Introduction 2. アラビア文字を覚える（1）　挨拶の言葉 3. アラビア文字を覚える（2）　挨拶の言葉 4. アラビア文字を覚える（3）　自己紹介 5. アラビア文字に覚える（4）　「私は日本人です」 6. アラビア文字を覚える（5）　アラブの国名 7. 自分の名前を書く！ 8. 自己紹介の文章を書く！ 9. 自己紹介の文章を書く！ 10. アラビア語を読む 11. 定冠詞の使い方「そのバスに乗りたいんです」 12. 男性形と女性形「私は学生です」 13. 疑問詞「それは何ですか？」「それは誰ですか？」 14. 復習・テストなど 15. テスト・アラビア語によるビデオ鑑賞
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『アラビア語のかたち』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）『アラビア語単語帳』（師岡カリーマ・エルサムニー、NHK出版）	授業の中で常時小テストを行うほか、期末に筆記試験を行います。

08年度以降 05～07年度	外国語（アラビア語Ⅱb　読み書きと文法の基礎） アラビア語Ⅱb（読み書きと文法の基礎）	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラビア文字や言葉の響きに触れることによって、異文化に対する理解を深めてもらうことを目指しています。 本講義では、前期に引き続き、アラビア語の読み書きと文法の基礎を学習します。歌謡曲やビデオなど、様々なメディアを通じて自然にアラビア語を吸収してほしいと考えています。 この講義は、「アラビア語 Ib　会話と文化」と同時に履修することができます。	1. 前期の復習 2. 前置詞を使う「私はいつも○○にいます」 3. 前置詞を使う「私はいつも○○にいます」（続き） 4. 所有の表現「あなたは車を持っていますか？」 5. 形容詞の使い方「それはいい考えだ！」 6. イダーファ構文「これはナイルの水ですか？」 7. アラビア語の動詞は過去形から「彼は飲んだ」 8. アラビア語の動詞は過去形から「誰が言ったの？」 9. 現在形動詞「あなたは知っていますか？」 10. 現在形動詞の否定「知りません」 11. 現在形動詞と未来形「どうするつもりですか」 12. 複数と双数「エジプトのアーティストたち」 13. 辞書の引き方の基礎 14. 辞書の引き方の基礎・復習 15. テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『アラビア語のかたち』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）『アラビア語単語帳』（師岡カリーマ・エルサムニー、NHK出版）	授業の中で常時小テストを行うほか、期末に筆記試験を行います。

08 年度以降 07 年度以前	外国語（現代ヘブライ語Ｉａ 基礎） 現代ヘブライ語Ｉａ	担当者	阿部　望

講義目的、講義概要	授業計画
イスラエル国の公式言語であり、旧約聖書、タルムード、カバラー・ユダヤ神秘主義などの言語であるヘブライ語の基礎を学びます。 　現代ヘブライ語は、三千年以上のユダヤ人の歴史や思想を語彙や概念として現代に伝えています。現代ヘブライ語を学ぶことは、コミュニケーションの手段としてだけではなく、ユダヤ学全体への入口となります。 　フェニキア文字から発展したアルファベットの歴史を学び、ヘブライ文字がどのように生まれたのか、ギリシア文字、ローマ字がどう発展したかの歴史をたどります。 　ヘブライ文字の書き方、発音練習を通して、欧米諸語で使われる人名、地名のオリジナル発音を探ります。 　さらに、クラシック音楽の表題、シャガールの絵画、小中学校で踊るフォークダンス「マイム・マイム」など幅広く使われるヘブライ語を正しく理解します。 　授業は随時配布されるプリントにそって進められます。 　皆さんは説明を聞きながら練習問題を解き、それを毎回授業の最後に提出します。 　次回までに添削をして、返却および補足解説をおこない文法知識を身に付けていきます。	1.　アルファベットの歴史・発音練習 2.　発音練習 3.　ヘブライ文字の書き方・ユダヤ人の祭 4.　ヘブライ語発音練習・発音練習 5.　ヘブライ語会話練習 　ヘブライ語起源の人名・地名 6.　名詞と形容詞、日本に進出するイスラエル企業 7.　名詞と形容詞の複数形 8.　動詞の現在形（１） 　神名について「エホバ、ヤハウェ、アドナイ」 9.　動詞の現在形（２） 10.　動詞の現在形（３） 　フォークダンス「マイム・マイム」 11.　動詞の現在形（４） 12.　所有・所在・所持の表現 13.　不定詞の用法（１） 　会話練習「私はヘブライ語を話すことができます」 14.　総復習 15.　総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業テキストはプリントで配布。 『ヘブライ語入門』改版　日本ヘブライ文化協会	授業毎のプリント提出（40%） 筆記試験（60%）

08 年度以降 07 年度以前	外国語（現代ヘブライ語Ｉｂ 基礎） 現代ヘブライ語Ｉｂ	担当者	阿部　望

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に続き、ヘブライ語文法を学びながら、基礎フレーズを盛り込んだ会話練習をします。 　セム語におけるヘブライ語の正しい位置を把握し、ヘブライ語史の問題点を学びます。 　１．アラビア語とヘブライ語の違い。 　２．イエス・キリスト時代の言語はアラム語か、ヘブライ語か。 　３．ヘブライ語が死語になったとはどういう意味か。 　４．現代ヘブライ語はどのように“復活”したのか。 　さらに、ユダヤ人の祭りや習慣を学び、ユダヤ人とお付き合いする際の注意点やエチケットを学びます。 　「ユダヤ教」、「キリスト教」、「イスラム教」の違いを正しく認識し、それぞれの特徴を学びます。 　ヘブライ語やユダヤにまつわる珍説・奇説などもを紹介し、“俗本”がヘブライ語起源だと主張する日本語をヘブライ語学の観点から解説を加え、正しい知識を身に付けます。 　日本で食べられるイスラエル料理についても学びます。	1.　復習・会話練習 2.　会話練習、ユダヤ人の祭り 3.　動詞の不定詞、ユダヤ人の祭り 4.　動詞の不定詞（２）ユダヤ人の祭り 5.　動詞の不定詞（３） 　カバラー神秘主義に応用されたヘブライ数字 6.　ユダヤ人のファミリーネーム（１） 7.　ユダヤ人のファミリーネーム（２） 8.　名詞の用法（連結語） 9.　名詞の不規則な複数形 10. 動詞の過去形（１） 11. 動詞の過去形（２） 12. 動詞の過去形（３） 13. 使役動詞の用法 　日・ユ同祖論について（本当か、嘘か） 14. イスラエル料理について 15. 総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業テキストはプリントで配布。	授業毎のプリント提出（40%） 筆記試験（60%）

08 年度以降	外国語（トルコ語 Ia 総合）	担当者	未定（掲示で確認）

講義目的、講義概要	授業計画
トルコ語は、日本語と同じアルタイ語族に属する言語で、基本的な文法構造が日本語と似ています。また、文字は英語のアルファベットに近く、発音もローマ字読みに近いため、日本人にとっては比較的習得しやすい言語の一つと考えられています。 トルコ語話者は、トルコだけでなく、バルカン諸国や東欧、中央アジア、西アジアにもまたがり、同系言語を含めると 2 億 2 千万人の話者がいるとされています。 このクラスでは、初めてトルコ語を学ぶ人を対象に、トルコ語の文法や読み書きを中心に学んでいきます。また、トルコの文化や歴史などについて知る時間も設け、トルコについて総合的に学んでいきます。 単独での履修も可能ですが、会話を中心に学ぶ「トルコ語 Ia 会話」とあわせて受講することを勧めます。	1）アルファベット、数字の読み方 2）複数形 3）指示代名詞 4）疑問形の基本 5）否定形の基本 6）人称 7）現在形の基本 8）現在形の人称変化（肯定文） 9）現在形の人称変化（疑問文） 10）現在形の人称変化（否定文） 11）助詞 12）時間表現 13）所有格 14）単語の連結 15）まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『HİTİT 1（初級）』（アンカラ大学付属トルコ語教育センター編）をもとに、適宜補助教材を使用します。	期末試験、授業への参加や態度を総合的に評価します。

08 年度以降	外国語（トルコ語 Ib 総合）	担当者	未定（掲示で確認）

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスは、「トルコ語 Ia 総合」の続きになります。 授業はトルコ語の入門を、文法や読み書きを中心にしながら進んでいきますが、トルコの観光地、建築、芸術、食文化などについても説明し、トルコについて総合的に学んでいきます。 テキストは、トルコにおいてトルコ語を教える機関「アンカラ大学付属トルコ語教育センター」が発行するものを使い、トルコに留学して勉強するのと同様の内容を学んでいきます。 なお、単独での履修も可能ですが、会話を中心に学ぶ「トルコ語 Ib 会話」とあわせて受講することを勧めます。	1）前期の復習 2）過去形の基本 3）過去形の人称変化（肯定文） 4）過去形の人称変化（疑問文） 5）過去形の人称変化（否定文） 6）前置詞 7）命令形・禁止形 8）使役形 9）比較表現 10）単位 11）助詞 12）未来形の基本と肯定文 13）未来形の人称変化（疑問文） 14）未来形の人称変化（否定文） 15）まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『HİTİT 1（初級）』（アンカラ大学付属トルコ語教育センター編）をもとに、適宜補助教材を使用します。	期末試験、授業への参加や態度を総合的に評価します。

08 年度以降	外国語（トルコ語 Ia 会話）	担当者	未定（掲示で確認）

講義目的、講義概要	授業計画
トルコはアジアとヨーロッパの接点として、古くからさまざまな文明が交錯しました。そのため、世界有数の観光地として、日本からの訪問者も急増しています。一方で、近年は経済的な発展をとげ、ヨーロッパだけでなく、中近東、中央アジア諸国へのゲートウェイとして、さまざまな企業の進出が続いており、トルコ語の注目度も増してきています。 このクラスでは、初めてトルコ語を学ぶ人を対象に、リスニングや会話の勉強を中心に授業を進めていきます。特に、前期では、あいさつなどの基本表現のほか、実際にトルコを訪れた際に役に立つ各種の表現を練習します。 単独での履修も可能ですが、リーディングやライティングを学ぶ「トルコ語 Ia 総合」とあわせて受講することを勧めます。	1）あいさつ 2）基本単語の発音練習 3）自己紹介 4）出身をたずねる 5）「はい」と「いいえ」 6）有無を聞く 7）数の数え方 8）買い物をする 9）食事をする 10）依頼する 11）予約をする 12）乗り物に乗る 13）時間を聞く 14）道をたずねる 15）まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『HİTİT 1（初級）』（アンカラ大学付属トルコ語教育センター編）をもとに、適宜補助教材を使用します。	期末試験、授業への参加や態度を総合的に評価します。

08 年度以降	外国語（トルコ語 Ib 会話）	担当者	未定（掲示で確認）

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスは、「トルコ語 Ia 会話」の続きになります。 授業はリスニングや会話の勉強を中心に行い、トルコを訪れた際、必要な日常会話ができるようになることを目指します。 後期では、定型表現だけでなく、簡単な文章を使いながら、自分の状態や考えを相手に伝える練習も行います。テキストは、トルコにおいてトルコ語を教える機関「アンカラ大学付属トルコ語教育センター」が発行するものを使い、トルコで勉強するのと同様の内容を学んでいきます。 なお、単独での履修も可能ですが、リーディングやライティングを学ぶ「トルコ語 Ib 総合」とあわせて受講することを勧めます。	1）前期の復習 2）さまざまなあいさつ表現 3）気持ちを伝える 4）理由を述べる 5）自分の状態を伝える 6）友人と会う 7）詳細な自己紹介 8）説明する 9）考えを述べる 10）謝る 11）許可を求める 12）確認する 13）病院に行く 14）電話をする 15）まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『HİTİT 1（初級）』（アンカラ大学付属トルコ語教育センター編）をもとに、適宜補助教材を使用します。	期末試験、授業への参加や態度を総合的に評価します。

08 年度以降 07 年度以前	日本語(総合ＩAa) /日本語（総合ＩBa）/日本語（総合ＩCa） 日本語Ｉa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本コースは、日本語を総合的に学び、大学における専門科目の履修に当たって、必要とされる日本語力を養成することを目的とする。教材は、日本社会の現状について理解を深める内容が中心となり、専門性の高いものになっている。４技能の高い能力（Ｎ１級レベル以上）を身につけることが求められるので、予習・復習を十分にして授業に臨むことが求められる。また、日本語だけでなく、様々な社会問題にも意識を向け、日常から新聞などに目を通しておくこと。 授業内容 １．プレゼンテーション：具体的な方法を学んだ後、学期中、少なくとも２回のプレゼンテーションをする。 ２．読解：トピックに関連した内容の記事を様々な本、雑誌、新聞、インターネットなどより収集し、精読、速読、スキミング、スキャニングなど異なる読解法を学ぶ。 ３．作文：基本的には授業内で作文をする。要約、引用、レポート作成など、豊かな表現力を身に付ける。 ４．討論・意見交換：読解内容について互いに自分の意見や感想を述べ、理解を確認する。 ５．聴解：読解のトピックに関連するテレビレポート、ニュースなどを見ながら、聴解力を養うとともに、理解を深める。	読解教材：　クラス内で配布、但し変更の可能性もある。 単位数：　３単位 月曜日、水曜日、金曜日にそれぞれ１コマ、計３コマをセットで履修する 内容にもよるが、１トピックを大体６～８コマで終了し各トピック終了時にテストを行う。 １．異文化コミュニケーション ２．少子高齢化 ３．起業 ４．ポップカルチャー ５．国際社会
テキスト、参考文献	**評価方法**
１．プリント（クラスで配布） ２．参考文献はクラスで紹介する。	１．テスト結果　　２．作文（宿題） ３．プレゼンテーション ４．出席　　５．クラスへの参加度

08 年度以降 07 年度以前	日本語(総合ＩAb) /日本語（総合ＩBb）/日本語（総合ＩCb） 日本語Ｉb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本コースは、日本語を総合的に学び、大学における専門科目の履修に当たって、必要とされる日本語力を養成することを目的とする。教材は、日本社会の現状について理解を深める内容が中心となり、専門性の高いものになっている。４技能の高い能力（Ｎ１級レベル以上）を身につけることが求められるので、予習・復習を十分にして授業に臨むことが求められる。また、日本語だけでなく、様々な社会問題にも意識を向け、日常から新聞などに目を通しておくこと。 授業内容 １．プレゼンテーション：具体的な方法を学んだ後、学期中、少なくとも２回のプレゼンテーションをする。 ２．読解：トピックに関連した内容の記事を様々な本、雑誌、新聞、インターネットなどより収集し、精読、速読、スキミング、スキャニングなど異なる読解法を学ぶ。 ３．作文：基本的には授業内で作文をする。要約、引用、レポート作成など、豊かな表現力を身に付ける。 ４．討論・意見交換：読解内容について互いに自分の意見や感想を述べ、理解を確認する。 ５．聴解：読解のトピックに関連するテレビレポート、ニュースなどを見ながら、聴解力を養うとともに、理解を深める。	読解教材：　クラス内で配布、但し変更の可能性もある。 単位数：　３単位 月曜日、水曜日、金曜日にそれぞれ１コマ、計３コマをセットで履修する 内容にもよるが、１トピックを大体６～８コマで終了し各トピック終了時にテストを行う。 １．若者のライフスタイル ２．医療と健康 ３．情報社会 ４．就職・企業・人材 ５．科学技術
テキスト、参考文献	**評価方法**
１．プリント（クラスで配布） ２．参考文献はクラスで紹介する。	１．テスト結果　　２．作文（宿題） ３．プレゼンテーション ４．出席　　５．クラスへの参加度

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合Ⅱa） 日本語Ⅱa	担当者	江添 真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
【　目的　】 これから皆さんは専門のゼミに入り、発表したり日本人教官や学生とディスカッションしたりする機会が増えると思います。この授業では、それらの機会に対応できる力を養うことを目標とします。 【　概要　】 事前に発表資料の作り方・発表のしかたについて学んだ後で、自分の興味ある新聞記事について発表してもらいます。発表と質疑応答が終わった後は、全員でディスカッションをします。発表・質疑応答の様子はビデオにとって、よりよい発表ができるように指導します。 はじめに練習のための発表（１回目―発表・質疑応答）を行い、ビデオでの指導を受けたあと、もう一度同じ発表（２回目―発表・質疑応答・ディスカッション）をしてもらいます。そのときにもビデオ録画し、改善されているかどうか確かめます。	1.　発表までのプロセス・新聞記事の要約のしかた 2.　自分たちの記事の要約を作る 3.　新聞記事の発表の構成・ハンドアウトの作り方 4.　自分たちの記事のハンドアウトを作る 5.　発表のしかた 6.　質疑応答のしかた・発表メモ作り 7.　発表の練習 8.　１回目の発表・質疑応答（１人１５分） 9.　１回目の発表・質疑応答（１人１５分） 10.　２回目の発表のための個別指導 11.　２回目の発表のための個別指導 12.　２回目の発表・質疑応答・ディスカッション（１人３０分） 13.　２回目の発表・質疑応答・ディスカッション（１人３０分） 14.　２回目の発表・質疑応答・ディスカッション（１人３０分） 15.　２回目の発表・質疑応答・ディスカッション（１人３０分）
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教官配布のプリント	出席 15%、提出物 20%、発表 50%、授業への参加等 15%

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合Ⅱb） 日本語Ⅱb	担当者	石塚 京子

講義目的、講義概要	授業計画
大学の講義などで使用されるテキストを、一字一句の意味を確認しながら読んでいては膨大な時間がかかる上に、ことばの意味は理解できても１冊の本の内容を把握することはできません。また、レポートなどを書く際には数冊の文献の中から自分に必要な情報だけを抜き出す作業が必要です。そこで、この授業では“日本語を速く正確に読む能力”を向上させることを目的とします。しかし、これまでの個人作業としての「読み」ではなく、「読み」を仲間との協働作業に変えることによって、一人では気づかないような情報や内容があることを知り、知識の幅を広げていってもらいたいと考えています。 一般の社会人や大学生がよく読む新聞や雑誌、新書を使って実践的な練習を行います。読み取った内容や情報から日本社会の現状や問題点を認識し、それについてのディスカッション、問題を調査したプレゼンテーション、レポートといった課題も出します。 さらには、履修者が主体的かつ積極的に授業に参加できるように、履修者自身から話題を提供してもらいます。持ち寄った記事をクラスで、あるいはグループに分かれて読んで話し合うことによって、総合的な日本語力の向上を目指します。	１．講義の概要 ２．スキャニング（情報取り）の技術を身につける－新聞編－ ３．スキャニング（情報取り）の技術を身につける－雑誌編－ ４．スキミング（大意取り）の技術を身につける－新聞編－ ５．スキミング（大意取り）の技術を身につける－雑誌編－ ６．事実文と意見文を区別する能力を身につける ７．雑誌「AERA」、「NEWSWEEK」などを読む ８．雑誌のテーマに関するディスカッションを行う ９．現代日本で話題になっている新書を読む－1－ 10．新書のテーマに関するディスカッションを行う－1－ 11．現代日本で話題になっている新書を読む－2－ 12．新書のテーマに関するディスカッションを行う－2－ 13．履修者が持ち寄った記事を読んで話し合う－1－ 14．履修者が持ち寄った記事を読んで話し合う－2－ 15．履修者が持ち寄った記事を読んで話し合う－3－／まとめ ＊進捗状況によって内容が変更になる場合もあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布します。	評価方法：期末試験の結果（40%）に、出席率や授業態度などの平常点（30%）、レポートやプレゼンテーションなどの課題の実績（30%）を加味して総合的に評価します。

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合Ⅱa） 日本語Ⅱa	担当者	北村　淳子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、日本語を様々な角度からとらえ、今まで気づかなかったことや問題点を発見し、さらに調査・考察を加え、レポートとしてまとめる力を養います。 いくつかのテーマについては、講師が課題を出し、何人かの学生を指名し、レポートを書かせます。指名された学生の一人は、レポートの内容をクラスに報告します。 問題点を発見しようという積極的な姿勢で授業に臨み、課題に取り組んでほしいと思っています。	１．日本語学習者(1) ２．日本語学習者(2) ３．日本語と歴史(1) ４．日本語と歴史(2) ５．日本語と国語(1) ６・日本語と国語(2) ７．日本語の特性(1) ８．日本語の特性(2) ９．音声(1) １０．音声(2) １１．語彙(1) １２．語彙(2) １３．文字・表記(1) １４．文字・表記(2) １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
金田一春彦『日本語（上)』岩波書店（岩波新書） 金田一春彦『日本語（下)』岩波書店（岩波新書）	授業内レポート及び期末レポートによって評価する。 基本的に３分の２以上の出席を必要とする。

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合Ⅱb） 日本語Ⅱb	担当者	北村　淳子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ	春学期と同じ
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ	春学期と同じ

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱa） 日本語Ⅱa	担当者	桂 千佳子

講義目的、講義概要	授業計画
自分自身が考えていることを自力で掘り起こし、意見文に仕上げることを目標とします。 文を書くには、自分の深いところにある価値観をしっかりと把握する必要があります。 特に、出来事を抽象化し一般化していく手順をしっかりと身につけられるようにします。 その上で、何をどう文章にしたらいいのかじっくり考えた上で、文章の形式を意識して書くことを学びます。 毎回課題に取り組み、発展させていくので、欠席すると次の作業に移れません。欠席しないようにすること。	1. 自己紹介。一人一人の世界 2. 要約文を書く 3. 「パターン」を学ぶ① ストーリーから一般的なルールをみつける 4. 「パターン」を学ぶ② パターンを裏返す 5. 「パターン」を学ぶ③ パターンの一般化レベルをかえる 6. 型を意識して書く　①書き出し 7. 型を意識して書く　②展開 8. 型を意識して書く　③結論 9. 意見文を完成しコメントする 10. 新聞記事を読む①　文の型について考える 11. 新聞記事を読む②　要約文を書く 12. 新聞記事を読む③　自分の意見をパターンにする 13. 新聞記事を読む④　パターンから文章にする 14. 意見交換する 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布プリント	出席点　20% 提出物点　10% 授業中に指示する課題　70%

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱb） 日本語Ⅱb	担当者	桂 千佳子

講義目的、講義概要	授業計画
何をどう表現するかによって、自分自身の印象は全く変わってしまいます。 まず、自分で自分が何を知りたいと思っているのか、どんなことを考えているのかを知るために、自分の中の疑問を洗い出していきます。 次に、その自分の価値観を文章化することによって、より前向きな自己表現ができるようにしていきます。 毎回課題に取り組み、発展させていくので、欠席すると次の作業に移れません。欠席しないようにすること。	1. 理解の様相 2. 「パターン」とは何か。 3. 今までの自分を振り返って、自分だけの「パターン」を書きだす 4. パターンを発展させる 5. パターンを文章にする。 6. 自己PRを書く 7. プレゼンテーション　① 8. プレゼンテーション　② 9. 文学的な文章を読む　① 10. 文学的な文章を読む　② 選んで発表する 11. 感想を書く 12. 感覚的な文章を書く　①　フェルトセンス 13. 感覚的な文章を書く　②　共同詩を書く 14. 感覚的な文章を書く　③　詩を書く 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布プリント	出席点　20% 提出物点　10% 授業中に指示する課題　70%

08 年度以降 07 年度以前	日本語(総合 IIa) 日本語Ⅱa	担当者	石田 ゆり子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 外国語としての日本語学習を終え、今度は学習した日本語をいかに実生活へ応用していくかを課題とする。 前期は大学の講義を受けるにあたって、「日本語を通じて各自の専門性をより深められること」、「自分の意見をまとめ、発表できること」を目標とする。 講義内容 この講義では新聞、雑誌などから選んだテーマを教材とする。内容の読解、要約、ディスカッション・作文などを行う。テーマは各自興味あるテーマを持ち寄って行う。 学生の授業への積極的参加を望む。	1　講義の進め方・自己紹介 2　文章構成・展開について 3　記事の要約 4　問題提起と結論 5　日本の課題① 6　日本の課題② 7　日本の課題③ 8　日本の課題④ 9　日本の課題⑤ 10　発表について 11　自国(留学生の出身国)の課題① 12　自国(留学生の出身国)の課題② 13　自国(留学生の出身国)の課題③ 14　自国(留学生の出身国)の課題④ 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。	主に出席を重視するが、授業における課題の取り組みや、授業への参加度を総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	日本語(総合 IIb) 日本語Ⅱb	担当者	石田 ゆり子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 外国語としての日本語学習を終え、今度は学習した日本語をいかに実生活へ応用していくかを課題とする。 後期は、今後社会に出て行くにあたって、社会生活の中でいかに自分自身を表現できるかをテーマとし、「自分自身を振り返って、自己を表現できること」を目標とする。 講義概要 基本的には作文、ディスカッションを中心とする活動を行う。必要に応じて前期同様記事の読解や要約も行う。 就職活動に必要な自己分析の方法や、社会に出てから必要とされるビジネススキルなどを学ぶ。 学生の授業への積極的参加を望む。	1　講義の概要 2　自己の内省 3　印象に残った出来事①（個人的経験から） 4　印象に残った出来事②（時事問題から） 5　自分の長所 6　自分の短所 7　他己分析・他己紹介 8　履歴書 9　自己 PR 文の構想 10　自己 PR 文の書き方 11　ビジネス会話の基本 12　相手に伝わる話し方① 13　相手に伝わる話し方② 14　プレゼンテーションの方法 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。	主に出席を重視するが、授業における課題の取り組みや、授業への参加度を総合的に評価する。

シラバス 全学共通授業科目

2013年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042　埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048-946-1655

DOKKYO UNIVERSITY

学　　科	学年	氏　　名
学科	年	